

法務総合研究所研究部報告

19

—児童虐待に関する研究—
(第2報告)

2002

法務総合研究所

は し が き

法務総合研究所研究部が、最近実施した調査研究の結果をとりまとめ、ここに研究部報告第19号を刊行する。

法務総合研究所研究部は、平成12年に全国の少年院を対象に、家族及び家族以外の者からの身体的暴力、性的暴力等の被害経験を尋ねた調査を実施した。その結果のうち、先に法務総合研究所研究部報告第11号として刊行した「児童虐待に関する研究（第1報告）」においては、家族からの被害を取り上げ、主として父母等による虐待の被害経験に着目し、少年院在院者における虐待問題の広がりや、虐待がその当時の少年に与えた影響等について分析した。

今回の第2報告においては、まず、家族以外の者からの被害を取り上げ、加害者、時期等の被害態様を分析するとともに、被害を受けた回数や期間による、被害時の行動や被害経験の受け止め方の差異等についても考察を加えた。次に、家族及び家族以外の者からの被害経験全体を取り上げ、家庭の内外における少年院在院者の被害経験を全体的に把握するとともに、被害経験を類型化し、それぞれに該当する少年の特徴を分析するなどし、被害経験の視点から少年院在院者を概観することを試みた。

先の第1報告とともに、本報告書が少年院在院者をはじめとする非行少年に対する、有効かつ適切な処遇の検討にいささかでも寄与することができれば幸いである。

最後に、少年院在院者に対する被害経験に関する調査の実施に当たり、御理解と御協力を賜った法務省矯正局及び少年院の関係各位に対し、心から謝意を表する次第である。

平成14年3月

法務総合研究所長

坂 井 一 郎

要 旨 紹 介

1 家族以外の者からの加害行為の状況

家族以外の者からの恐喝，身体的暴力①（軽度），②（重度），性的暴力①（接触）及び②（性交）について，それぞれの被害の状況や被害を受けた時に少年がとった行動等を見た。なお，分析に際しては，家族以外の者から加害行為を受けた経験のある者を，「一般単回群」（一度だけ被害を受けたとする者及び被害回数について「覚えていない」とする者）と「一般反復群」（繰り返し被害を受けたとする者）に分け，群間の対比を含め，被害経験の特徴を把握することに努めた。

その結果の概要は以下のとおりである。

- (1) 恐喝，身体的暴力①（軽度）及び②（重度）（以下，「身体的暴力等」という。）並びに2種類の性的暴力のいずれか一つでも受けた経験のある者は，全体の約90％である。また，これら五つの加害行為について少なくとも一つ以上の反復被害経験のある者は全体の約80％で，男女に有意差は見られない。
- (2) 被害類型を見ると，男子では「身体的暴力等の反復被害経験があり，性的暴力の被害経験のない者」が約60％，女子では「身体的暴力等及び性的暴力双方の反復被害経験がある者」が約40％と，それぞれ最も多くなっている。
- (3) 身体的暴力等の被害状況については，次のとおりである。
 - ① 身体的暴力等の三つの加害行為のうちいずれか一つでも受けた経験のある者は，男子で約90％，女子で約80％を占め，それら加害行為のうち一つ以上について反復被害経験のある者は，男女とも約70％である。
 - ② 最も多くの者が身体的暴力等を受けた時期は，一般単回群の場合，男女とも，恐喝及び身体的暴力①が中学生の時で，②が中学卒業後であるが，一般反復群の場合，女子の身体的暴力②が中学卒業後であることを除き，いずれも中学生の時である。
 - ③ 身体的暴力等の最もひどい加害者について最も多いものは，一般単回群では，恐喝の場合，男女とも全く知らない人，身体的暴力①及び②の場合，男子が先輩で女子が友達・恋人である。一般反復群では，恐喝の場合，男女とも先輩，身体的暴力①及び②の場合，男子が先輩で女子が友達・恋人である。
- (4) 身体的暴力等を受けた時の行動等については，次のとおりである。
 - ① 身体的暴力等を受けた経験を誰かに言ったことがあるとする者は，男子で60から70％，女子で70から90％である。群別に見ると，男子で，いずれの加害行為についても，「言ったことがある」とする者が一般反復群で有意に多い。また，その相手は，男女とも，いずれの加害行為についても，友達・恋人・先輩が最も多い。
 - ② 身体的暴力等を受けた経験を言わなかった理由として，男子では，いずれの加害行為においても，一般単回群は「たいした被害ではなかった」が，一般反復群は「言ってもむだだと思った」，「言うとかえってひどい目にあうと思った」が有意に多くなっている。
 - ③ 身体的暴力等の被害を受けたときの行動について，男女とも，いずれの加害行為についても，どちらの群も「じっとがまんした」とする者が最も多い。これに次いで，男子では，いずれの加害行為も，一般単回群では「気にしたり，考えたりしないようにした」，「自分も他の人に同じようなことをした」，「相手にやり返した／仕返しをした」が，一般反復群では「自分も他の人に同じようなことをした」，「相手にやり返した／仕返しをした」が高い比率となっている。また，女子でも，一

般単回群ではいずれの加害行為も、「気にしたり、考えたりしないようにした」が高くなっている。一般反復群では「やめるよう言った／言ってもらった」（恐喝）、「酒を飲んだ／薬物を使用した」（恐喝，②）、「相手にやり返した／仕返しをした」（①）、「やめるよう言った／言ってもらった」（①）、「相手にやり返した／仕返しをした」（②）がそれぞれ高くなっている。

- ④ 身体的暴力等を受けた経験のある者のうち、その加害行為が「終わった」とする者は、女子の恐喝の一般反復群で約60%とやや低くなっている他は、すべて70から80%台である。終了した理由として、男女ともいずれの加害行為も、「相手に会わなくなった」とする者の比率が最も高い。
 - ⑤ 身体的暴力等の被害経験と非行との関連についての認識を尋ねると、被害経験が非行の原因であると「思う」とする者は、女子の恐喝で約20%（一般単回群）ないし約30%（一般反復群）であるほかは、一般単回群が10%台、一般反復群が20%台である。また、いずれの加害行為についても、男子で群間に有意差が見られ、「思わない」は一般単回群で、「思う」及び「分からない」は一般反復群で、それぞれ有意に多い。
- (5) 性的暴力の被害状況は、次のとおりである。
- ① 性的暴力①及び②のどちらか一つでも受けた経験のある者は、男子で約20%、女子で約80%であり、それら加害行為のうち一つ以上について反復被害経験のある者は、男子で約10%、女子で約60%である。
 - ② 最も多くの者が性的暴力を受けた時期は、性的暴力①で、男子は中学卒業後、女子は中学生の時（一般単回群）あるいは中学生の時及び中学卒業後（一般反復群）である。②では、男女とも中学卒業後である。
 - ③ 性的暴力の最もひどい加害者について最も多いのは、男子は、①、②とも、一般単回群が友達等、一般反復群が友達等及び先輩であり、女子は②の一般単回群が先輩である以外、すべて全く知らない人である。
- (6) 性的暴力を受けた時の行動等については、次のとおりである。
- ① 性的暴力を受けた経験を誰かに言ったことがあるかどうかについては、①、②とも、男子ではどちらの群も「言ったことはない」が、女子は、「言ったことがある」とする者の比率が高い。また、その相手は、①、②ともまた男女とも、友達・恋人・先輩が最も多い。
 - ② 性的暴力を受けた経験を言わなかった理由として、①の男子の一般単回群を除き、いずれの場合も「言うのがはずかしかった」とする比率が最も高い。
 - ③ 性的暴力の被害を受けたときの行動について、男子は、①、②ともどちらの群も、「やめるよう言った／言ってもらった」、「じっとがまんした」、「気にしたり、考えたりしないようにした」とする者の比率が、他の項目に比べて高い。女子は、①の一般単回群の場合、男子と同様である。①の一般反復群と②のどちらの群も、先の三つに加えて、「何もしたくなくなった」、「酒を飲んだ／薬物を使用した」が高いほか、②の一般反復群では、「自殺しようとした」、「自分の体を傷つけた」も高い。
 - ④ 性的暴力を受けた経験のある者のうち、その加害行為が「終わった」とする者は、①、②とも、男子がどちらの群でも70%台、女子が一般単回群で80%台、一般反復群で60%台である。終了した理由として、①、②ともまた男女とも、「相手に会わなくなった」が最も高い。
 - ⑤ 性的暴力の被害経験と非行との関連についての認識を尋ねると、男子では①、②とも、「思わない」とする者が一般単回群で90%台、一般反復群で80%台と最も高い比率を占めている。女子でも同様に、「思わない」とする者が最も高い比率を占めているが、「思う」とする者も、10ないし20%台を占めている。

2 家族以外の者からの被害及び家族からの被害から見た少年院在院者の特徴

家族以外の者からの被害の有無と家族からの被害の有無の関連について分析するとともに、家族以外の者からの被害の有無と家族からの被害の有無を組み合わせることができる4群の特徴を検討した。その上で、少年院在院者の被害経験全体の中での被虐待経験の位置付けを試みた。

その結果の概要は以下のとおりである。

- ① 家族以外の者からの被害の有無と家族からの被害の有無に、一方を経験している者は、他方を経験している場合が有意に多く、一方を経験していない者は、他方も経験していない場合が有意に多いという関連が認められた。身体的暴力と性的暴力の間にも、同様の関連が認められた。このことから推測されるように、少年院在院者は、複数の種類の被害を受ける傾向がある。特に女子は、性的暴力の被害を含んだ被害を受けている者が多い。
- ② 家族以外の者からの被害を受け始めたのは、初発非行の時期と同じである者が最も多く、家族からの被害を受け始めたのは、初発非行の時期より前である者が最も多かった。また、家族からの被害を、家族以外の者からの被害より先に受けている者が多い。
- ③ 家族以外の者からの被害の有無及び家族からの被害の有無と非行性との関連を、長期処遇・短期処遇の区分及び入院回数という指標で検討した結果、男子において、家族からの被害の有無と非行性との関連が認められた。家族からの被害経験がある者は、ない者と比べ、非行性が進んでいる。
- ④ 家族以外の者からの被害の有無及び家族からの被害の有無と性格特性との関連を、法務省式人格目録の得点を指標として検討した結果、家族からの被害がある群は、ない群よりも、神経質で被害感が強く、自信がなくて抑うつ的である一方、怒りっぽかったり、支配欲求が強く自己顕示的な性格特性を示す傾向が認められたが、家族以外の者からの被害がある群は、ない群よりも、明るく社交的で、他人から嫌われまいとして自分を良く見せようとする性格特性を示す傾向が認められた。また、家族以外の者からの被害と家族からの被害の有無を組み合わせで作った4群で比較した場合、最も多く差が見られたのは、両方の被害経験がある群と家族以外の者からの被害のみ経験している群との間であり、両方の被害経験がある群は、家族以外の者からの被害のみ経験している群よりも、神経質で被害感が強く、抑うつ的である一方、怒りっぽかったり、支配欲求が強く自己顕示的な性格特性を示す傾向が認められた。このことにより、家族以外の者からの被害と家族からの被害とでは、性格特性との関連の仕方が異なることがうかがわれた。
- ⑤ ④の結果の背景を探るために、上記④の4群と、対象者の属性にかかわる多くの変数との関連について分析を行い、各群で有意に多かった変数または少なかった変数を特徴として列挙した。その結果を端的にまとめると以下のようになった。
 - ・両方の被害経験がない者は、家族の問題は目立たないが、知的能力の低さや非社会性など、本人の資質の問題が大きい。
 - ・家族からの被害のみ経験している者は、家族の問題も本人の問題も大きいですが、中学校を卒業するまでは非行が目立たなかった。
 - ・家族以外の者からの被害のみ経験している者は、家庭の問題は目立たず、思春期以降に問題を起こし始めたが、非行性の程度は、少年院在院者の中では比較的軽い。
 - ・両方の被害経験がある者は、親の態度に拒否的傾向がうかがえ、問題行動が小学生時など早い時期に見られ始めていて非行が進んでいる。

以上から、両方の被害経験がある群と家族以外の者からの被害のみ経験している群とは、前者で親に拒否的な態度がうかがわれる一方、後者ではそうした傾向はなかったり、前者では少年院に2度目

の入院の者が多かったり小学生以前に非行が見られ始める者が多かったりする一方、後者では2度目の入院が少なく初回入院の者が多かったり、小学生以前の早期の非行が少なかったりと非行にかかわる問題の大きさが対照的であり、④の結果はこの分析を反映していることが分かった。

- ⑥ 家族からの被害経験全体と被虐待経験との関係を見ると、家族からの被害を受けた経験がある者の約70%が被虐待経験者である。この被虐待経験者のうち95%以上が、家族以外の者からの被害も受けている。被虐待経験者は、虐待以外の家族からの被害を受けた者に比べ、家族からの被害を家族以外の者からの被害や初発非行より先に受け始めている場合が多い。
- ⑦ 非行にかかわる問題が大きいという結果が出た、両方の被害を受けている者の中でも、家族からの被害が虐待であった者は家族からの被害が虐待でなかった者よりも、性格形成や問題行動の開始に虐待の影響がうかがわれる。

－児童虐待に関する研究－

(第2報告)

研究部研究官 松 田 美智子 (Ⅲ執筆)

研究部研究官補 吉 田 里 日 (Ⅳ執筆)

研究部研究官 小 柳 浩 子 (共同研究者)

研究部研究官 古 田 薫

研究部研究官補 栗 栖 素 子

研究部研究官補 岡 田 和 也

目 次

III 家族以外の者からの加害行為の状況	7
第9 加害行為の全体的な被害状況	7
1 加害行為を受けた経験の有無	7
2 被害回数別の状況	8
第10 家族以外の者からの身体的暴力等	13
1 全体的な被害状況	13
2 身体的暴力等を受けた時期及び加害者	14
(1) 身体的暴力等を受けた時期	14
(2) 身体的暴力等の加害者	20
3 身体的暴力等を受けた経験の表出	33
(1) 身体的暴力等を受けた経験の表出の有無	33
(2) 身体的暴力等を受けた経験を表出した者	37
(3) 身体的暴力等を受けた経験を表出しなかった者	43
4 身体的暴力等の被害にあった時の行動	47
(1) 被害の状況別	47
(2) 被害期間別	49
5 身体的暴力等の終了	56
(1) 終了の有無	56
(2) 終了の理由	56
6 非行との関連についての認識	60
(1) 被害の状況別	60
(2) 被害経験の表出時の状況別	67
(3) 被害を受けた時の行動との関連	69
第11 家族以外の者からの性的暴力	73
1 全体的な被害状況	73
2 性的暴力を受けた時期及び加害者	75
(1) 性的暴力を受けた時期	75
(2) 性的暴力の加害者	81
3 性的暴力を受けた経験の表出	88
(1) 性的暴力を受けた経験の表出の有無	88
(2) 性的暴力を受けた経験を表出した者	88
(3) 性的暴力を受けた経験を表出しなかった者	89
4 性的暴力の被害にあった時の行動	91
5 性的暴力の終了	96
(1) 終了の有無	96
(2) 終了の理由	96
6 非行との関連についての認識	99

第12	家族以外の者からの加害行為の状況のまとめと考察	100
1	まとめ	100
2	考察	103
資料	集計表	105
IV	被害経験から見た少年院在院者の特徴	123
第13	家族以外の者からの被害と家族からの被害の関係	123
1	分析の視点	123
2	分析結果	123
	(1) 家族以外の者からの被害の有無と家族からの被害の有無の関連	123
	(2) それぞれの被害を受け始めた時期と初発非行の時期との関連	126
	(3) それぞれの被害の有無と非行性との関連	130
	(4) それぞれの被害の有無と性格特性との関連	131
3	「両方なし群」,「家族からの被害のみあり群」,「一般被害のみあり群」,「両方あり群」, 各群の特徴	136
	(1) 4群の比較結果	136
	(2) 各群のイメージ	141
	(3) 被虐待経験との関係	142
4	まとめ	151
5	考察	152
資料		155

(参考)

本稿においては、第1報告の内容を適宜引用する場合があります、その際は第1報告の該当頁を示すこととする。また、参考のため、以下に「調査の実施概要」(第1報告p 8・9)を掲載する。

第1 調査の実施概要

1 調査の目的

少年院在院者に対する「被害の経験に関する調査」(以下、「本調査」という。)は、非行少年における被虐待経験の状況を把握し、被虐待経験のある少年の特性等を分析することを通して、少年院等の処遇及び児童虐待の防止全般に資する資料を得ることを目的とした。

2 調査の方法

(1) 調査対象者

調査対象者は、平成12年7月17日現在、全国少年院の中間期教育過程に在籍する全少年である。調査実施当日の在院者の合計は4,418名で、その約57%に当たる2,530名(男子2,266名、女子264名)が調査対象者となった。

全国の少年院53庁のうち、52庁から回収した調査票について、記入の不備等を除き、最終的な分析対象となったものは2,354名(男子2,125名、女子229名)で、調査実施当日の在院者の合計の約53%に当たる。

表1は、調査対象者の男女別の年齢層別人員である(回答者のその他の属性については、第1報告資料3の1参照)。

表1 対象者の年齢層別人員

	男子	女子	合計
年少少年	235 (11.1)	39 (17.0)	274 (11.6)
中間少年	777 (36.6)	85 (37.1)	862 (36.6)
年長少年	1,113 (52.4)	105 (45.9)	1,218 (51.7)
合計	2,125 (100.0)	229 (100.0)	2,354 (100.0)

注1 法務総合研究所の調査による。

2 年齢層は、次による。

年少少年:調査時年齢が、14歳及び15歳の者

中間少年:調査時年齢が、16歳及び17歳の者

年長少年:調査時年齢が、18歳以上の者

3 ()内は、構成比である。

(2) 調査方法

調査方法は、少年が自ら記載する質問紙（身体的な暴力等の被害の有無、被害を受けた時の少年の行動、被害の経験と非行の関連についての認識等に関するもの）と、施設職員が少年調査記録及び少年簿等の公的資料によって作成する客観的事実に関する調査票（少年の資質、家庭環境、問題行動・非行歴等に関するもの）の2種類によった。

このうち、少年に対する質問紙は、ほぼ同一の質問事項について、まず始めに家族以外の者による被害の場合を尋ね、次に家族による被害の場合について尋ねる2部構成とした。

Ⅲ 家族以外の者からの加害行為の状況

第9 加害行為の全体的な被害状況

1 加害行為を受けた経験の有無

本調査では、次の五つの加害行為を挙げ、家族以外の者から受けた経験の有無等を尋ねた。

- ・「暴力で脅かされて、お金や物を取られた（取られそうになった）こと」（以下、「恐喝」という。）
- ・「たたかれる、つねられる、物を投げつけられるなどの暴力」（「身体的暴力①（軽度）」）
- ・「殴られる、蹴られる、刃物で刺される、首を絞められる、やけどを負わされるなど、血が出たり、あざができたり、息ができなくなるような暴力」（「身体的暴力②（重度）」）
- ・「自分の意志に反して、性的な接触を無理強いされたこと」（「性的暴力①（接触）」）
- ・「自分の意志に反して、性交された（されそうになった）こと」（「性的暴力②（性交）」）

なお、以下の分析では、恐喝、身体的暴力①及び②を併せて「身体的暴力等」、性的暴力①及び②を併せて「性的暴力」とする。

表1は、これら5種類の加害行為を受けた経験の有無を、男女別に見たものである。男女とも、身体的暴力②（重度）の比率が約70ないし80％と最も高く、次いで、男子は身体的暴力①（軽度）、恐喝、性的暴力①（接触）、同②（性交）の順、女子は性的暴力①、同②、身体的暴力①、恐喝の順となっている。また、身体的暴力①を除き、いずれにおいても男女に有意差が見られ、経験があるとする者は、恐喝及び身体的暴力②は男子で、性的暴力①及び②は女子で有意に多くなっている。

表1 加害行為を受けた経験の有無

	恐喝	身体的暴力 ①(軽度)	身体的暴力 ②(重度)	性的暴力 ①(接触)	性的暴力 ②(性交)	総数
男子	1,308 (61.9)	1,315 (62.3)	1,730 (81.9)	362 (17.1)	155 (7.3)	2,112
女子	50 (21.8)	134 (58.5)	163 (71.2)	158 (69.0)	157 (68.6)	229
合計	1,358 (58.0)	1,449 (61.9)	1,893 (80.9)	520 (22.2)	312 (13.3)	2,341
検定 結果	$\chi^2(1)=136.370$ p=0.000**	$\chi^2(1)=1.231$ p=0.267	$\chi^2(1)=15.382$ p=0.000**	$\chi^2(1)=321.519$ p=0.000**	$\chi^2(1)=670.317$ p=0.000**	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 重複選択による。
4 表は、各加害行為を受けた経験の有無の集計結果について、経験ありの数値のみを挙げている。
5 ()内は、総数に対する比率である。
6 「検定結果」欄の「**」は、有意水準1%以下で有意差が見られることを示す。

2 被害回数別の状況

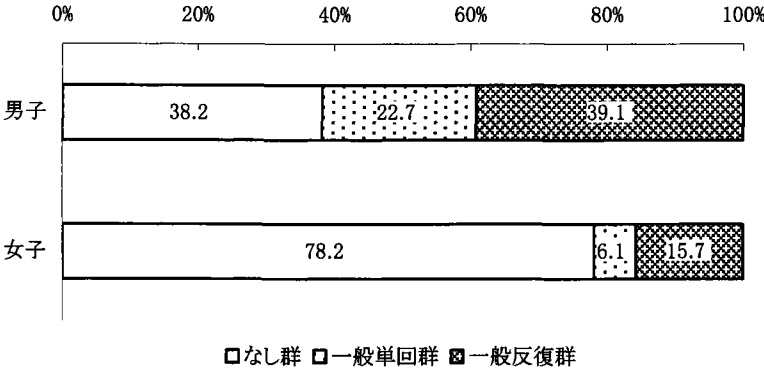
以下においては、家族以外の者から加害行為を受けた経験について、その被害回数が「一度だけだった」場合には「単回被害経験」、「繰り返しだった」場合には「反復被害経験」と呼ぶこととし、それぞれの加害行為について、回答者を「なし群」（全く被害経験のないもの）、「一般単回群」（単回被害経験のあるもの）及び「一般反復群」（反復被害経験のあるもの）の3群に分けることとする。なお、被害回数について「覚えていない」とするものは、「単回被害経験」に含めて分析した。

図1は、各加害行為について、このようにして分けた被害回数別の状況を見たものである。

身体的暴力①（軽度）を除く全ての加害行為で、3群間に男女で有意差が見られ、なし群は、恐喝及び身体的暴力②（重度）において女子で、性的暴力①（接触）及び②（性交）において男子で、それぞれ有意に多くなっている。

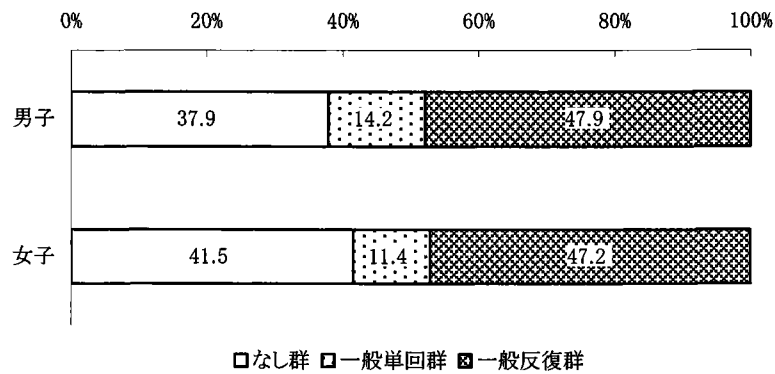
図1 家族以外の者からの加害行為別の被害状況

図1-1 恐喝



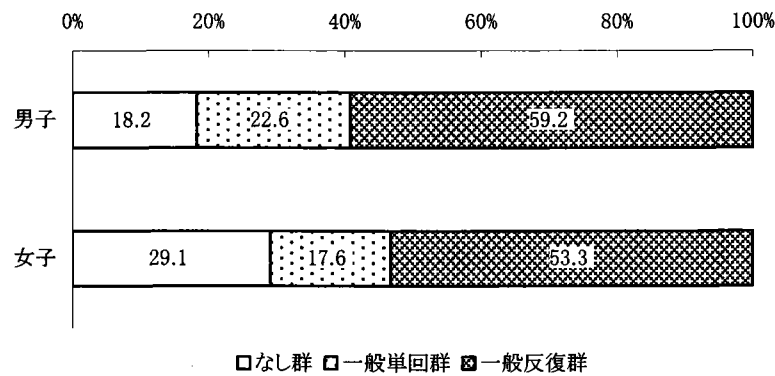
	なし群	一般単回群	一般反復群	合計	検定結果
男子	804 (38.2) ▼[-11.6]	477 (22.7) △[5.8]	824 (39.1) △[7.0]	2,105 (100.0)	$\chi^2(2)=135.984$ p=0.000**
女子	179 (78.2) △[11.6]	14 (6.1) ▼[-5.8]	36 (15.7) ▼[-7.0]	229 (100.0)	
合計	983 (42.1)	491 (21.0)	860 (36.8)	2,334 (100.0)	

図 1-2 身体的暴力①（軽度）



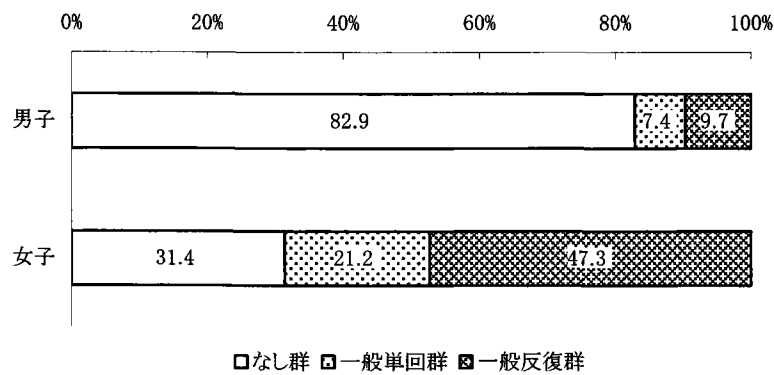
	なし群	一般単回群	一般反復群	合計	検定結果
男子	797 (37.9)	299 (14.2)	1,009 (47.9)	2,105 (100.0)	$\chi^2(2)=1.940$ $p=0.379$
女子	95 (41.5)	26 (11.4)	108 (47.2)	229 (100.0)	
合計	892 (38.2)	325 (13.9)	1,117 (47.9)	2,334 (100.0)	

図 1-3 身体的暴力②（重度）



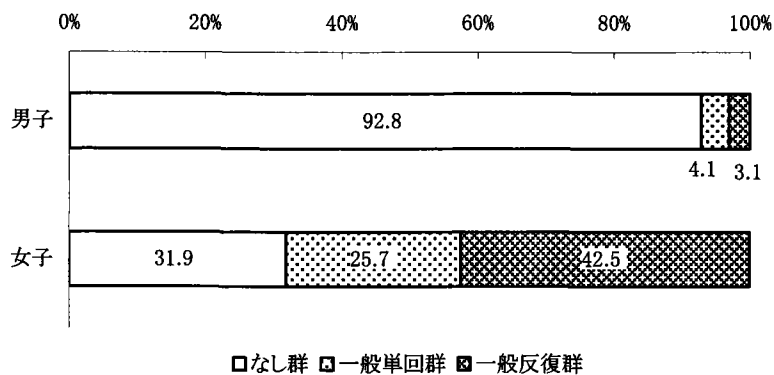
	なし群	一般単回群	一般反復群	合計	検定結果
男子	382 (18.2) ▼[-3.9]	474 (22.6) [1.7]	1,242 (59.2) [1.7]	2,098 (100.0)	$\chi^2(2)=16.059$ $p=0.000^{**}$
女子	66 (29.1) △[3.9]	40 (17.6) [-1.7]	121 (53.3) [-1.7]	227 (100.0)	
合計	448 (19.3)	514 (22.1)	1,363 (58.6)	2,325 (100.0)	

図1-4 性的暴力①（接触）



	なし群	一般単回群	一般反復群	合計	検定結果
男子	1,750 (82.9) △[17.7]	157 (7.4) ▼[-7.0]	205 (9.7) ▼[-15.8]	2,112 (100.0)	$\chi^2(2)=330.472$ $p=0.000^{**}$
女子	71 (31.4) ▼[-17.7]	48 (21.2) △[7.0]	107 (47.3) △[15.8]	226 (100.0)	
合計	1,821 (77.9)	205 (8.8)	312 (13.3)	2,338 (100.0)	

図1-5 性的暴力①（性交）



	なし群	一般単回群	一般反復群	合計	検定結果
男子	1,957 (92.8) △[25.8]	87 (4.1) ▼[-12.8]	65 (3.1) ▼[-22.2]	2,109 (100.0)	$\chi^2(2)=699.188$ $p=0.000^{**}$
女子	72 (31.9) ▼[-25.8]	58 (25.7) △[12.8]	96 (42.5) △[22.2]	226 (100.0)	
合計	2,029 (86.9)	145 (6.2)	161 (6.9)	2,335 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 []内は、調整済残差であり、△は期待値より有意に多いことを、▼は期待値より有意に少ないことを示す。

4 ()内は、構成比である。

5 表1の注6に同じ。

次に、家族以外の者からのこれら5種類の加害行為をまとめた全体的な被害状況を見るために、対象者を次の三つに分けた。

- ・ 家族以外の者から加害行為を受けた経験の全くない者（「経験なし群」），
- ・ 少なくとも1つ以上の単回被害経験はあるが反復被害経験は全くない者（「単回被害経験のみ群」），
- ・ 少なくとも1つ以上の反復被害経験のある者（「反復被害経験あり群」）

表2は、男女別に群別構成比を見たもので、男女とも、反復被害経験あり群が約80%を占めている。

表 2

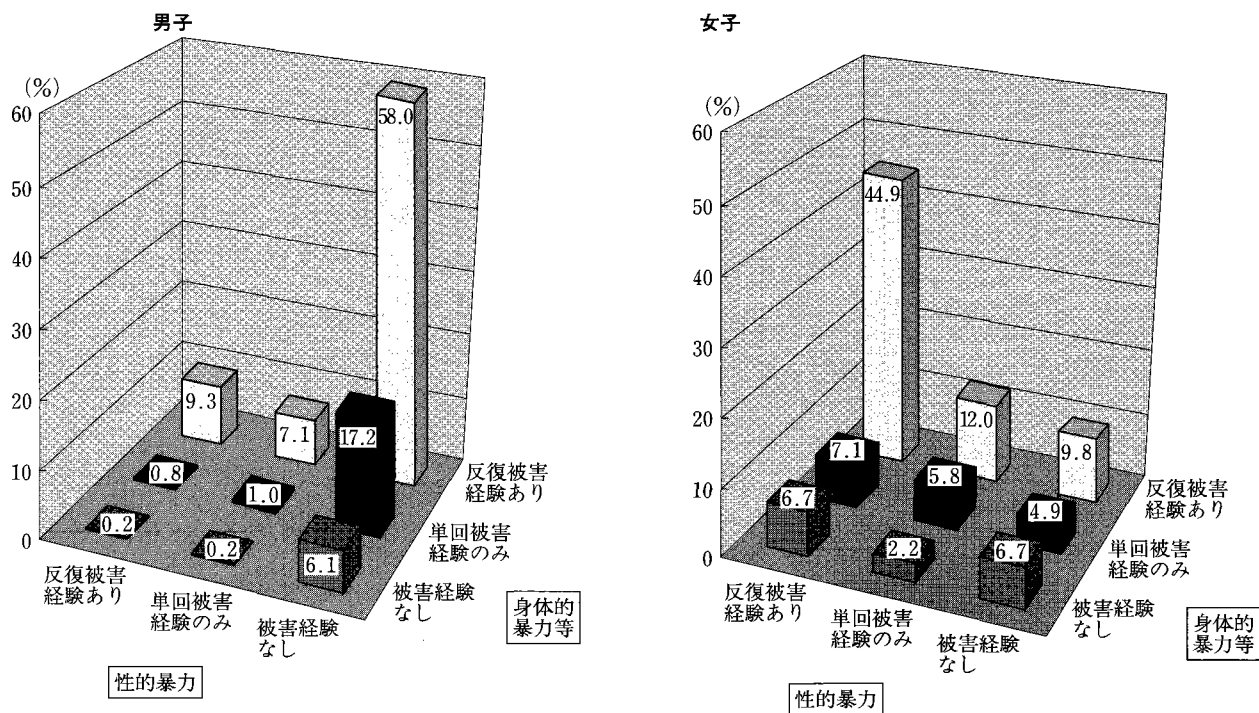
	経験なし群	単回被害経験のみ群	反復被害経験あり群	合計	検定結果
男子	129 (6.1)	386 (18.4)	1,586 (75.5)	2,101 (100.0)	$\chi^2(2)=4.382$ p=0.112
女子	15 (6.6)	29 (12.8)	183 (80.6)	227 (100.0)	
合計	144 (6.2)	415 (17.8)	1,769 (76.0)	2,328 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。

図2は、受けた被害の類型別構成比を見たものである。男子では、「身体的暴力等の反復被害経験があり、性的暴力の被害経験のない者」が最も多く、次いで、「身体的暴力等の単回被害経験のみがあり、性的暴力の被害経験のない者」が多くなっているのに対し、女子では、「身体的暴力及び性的暴力双方の反復被害経験のある者」が最も多く、次いで、「身体的暴力の反復被害経験があり、性的暴力の単回被害経験のみある者」が多くなっている。

また、男女ともに、身体的暴力等と性的暴力の被害状況に有意な関連が見られる。残差分析の結果、男子は身体的暴力等の経験なし群及び単回被害経験のみ群で性的暴力の経験なし群が有意に多いが、身体的暴力等の反復被害経験あり群では、性的暴力の単回被害経験のみ群及び反復被害経験あり群が有意に多くなっている。これに対し、女子は身体的暴力等と性的暴力の被害状況が同じである者（例えば一方が経験なしであれば、他方も経験なしである者）が有意に多くなっている。

図2 類型別被害経験者の比率



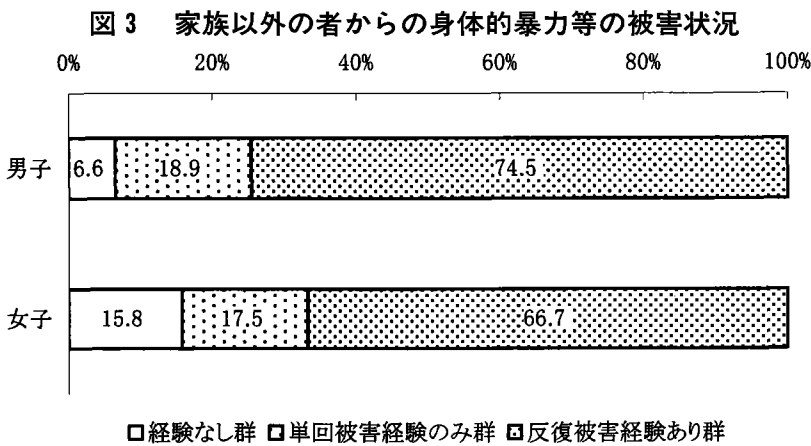
		男子				女子			
		性的暴力				性的暴力			
		経験なし	単回被害 経験のみ	反復被害 経験あり	合計	経験なし	単回被害 経験のみ	反復被害 経験あり	合計
身体的 暴力等	経験なし	129 (6.1) △[3.8]	4 (0.2) ▼[-2.4]	5 (0.2) ▼[-2.7]	138 (6.6)	15 (6.7) △[3.4]	5 (2.2) [-0.9]	15 (6.7) ▼[-2.1]	35 (15.6)
	単回被害 経験のみ	360 (17.2) △[5.2]	22 (1.0) ▼[-2.3]	16 (0.8) ▼[-4.6]	398 (19.0)	11 (4.9) [1.0]	13 (5.8) △[2.2]	16 (7.1) ▼[-2.6]	40 (17.8)
	反復被害 経験あり	1,218 (58.0) ▼[-6.8]	149 (7.1) △[3.4]	196 (9.3) △[5.7]	1,563 (74.5)	22 (9.8) ▼[-3.5]	27 (12.0) [-1.1]	101 (44.9) △[3.7]	150 (66.7)
	合計	1,707 (81.3)	175 (8.3)	217 (10.3)	2,099 (100.0)	48 (21.3)	45 (20.0)	132 (58.7)	225 (100.0)
検定結果		$\chi^2(4)=48.863$ p=0.000**				$\chi^2(4)=21.222$ p=0.000**			

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 表1の注6に同じ。
5 図1の注3に同じ。

第10 家族以外の者からの身体的暴力等

1 全体的な被害状況

図3は、家族以外の者からの身体的暴力等の被害状況を、男女別に見たものである。男女とも約70％に身体的暴力等の反復被害経験があり、男女を比べると、男子で反復被害経験あり群が、女子で経験なし群が、それぞれ有意に多くなっている。



	経験なし群	単回被害経験のみ群	反復被害経験あり群	合計	検定結果
男子	138 (6.6) ▼[-5.0]	398 (18.9) [0.5]	1,565 (74.5) △[2.5]	2,101 (100.0)	$\chi^2(4)=25.330$ p=0.000**
女子	36 (15.8) △[5.0]	40 (17.5) [-0.5]	152 (66.7) ▼[-2.5]	228 (100.0)	
合計	174 (7.5)	438 (18.8)	1,717 (73.7)	2,329 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 「経験なし群」とは、家族以外の者から身体的暴力等を受けた経験の全くないものをいう。
4 「単回被害経験のみ群」とは、家族以外の者からの恐喝、身体的暴力①、②について、少なくとも一つの一般単回被害経験があり、一般反復被害経験は全くないものをいう。
5 「反復被害経験あり群」とは、家族以外の者からの恐喝、身体的暴力①、②について、少なくとも一つの一般反復被害経験のあるものをいう。
6 ()内は、構成比である。
7 表1の注6に同じ。
8 図1の注3に同じ。

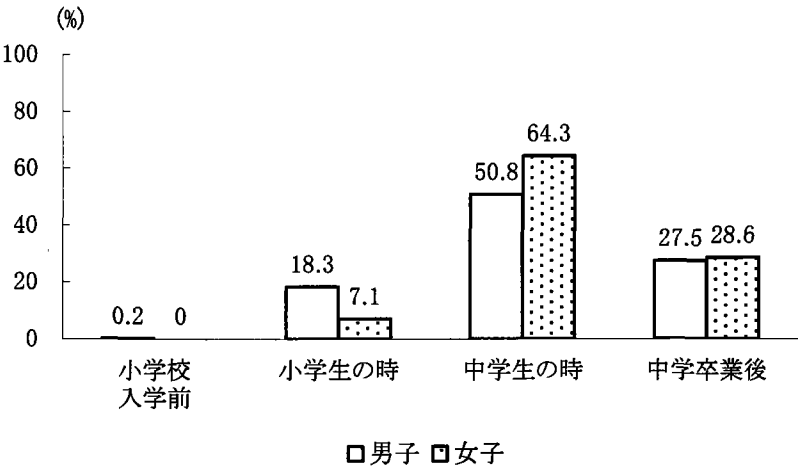
2 身体的暴力等を受けた時期及び加害者

(1) 身体的暴力等を受けた時期

図4は、恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の一般単回群について、被害を経験した時期を男女別に見たものである。最も多くの者が被害を経験した時期は、男女とも、恐喝及び身体的暴力①が中学生の時、身体的暴力②が中学卒業後である。

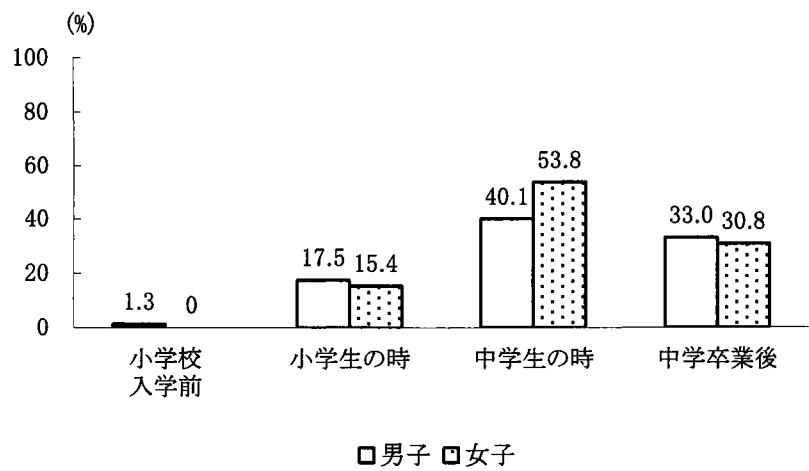
図4 身体的暴力等を受けた時期（一般単回群）

図4-1 恐喝



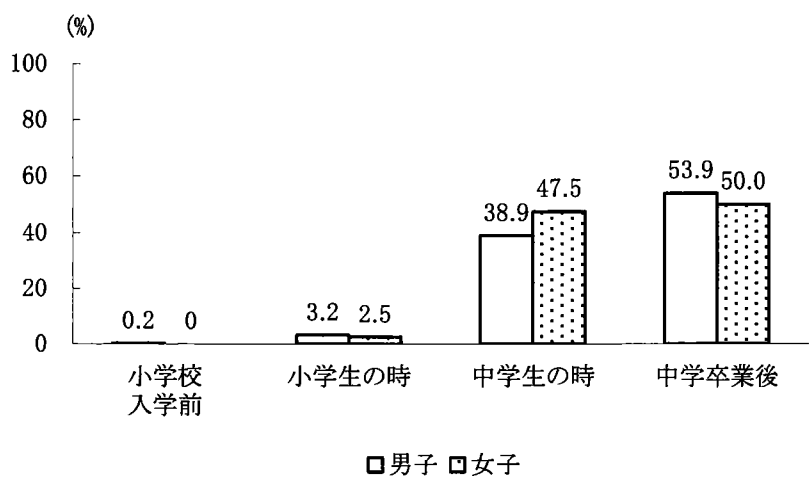
	小学校 入学前	小学生の時	中学生の時	中学卒業後	総数
男子	1 (0.2)	87 (18.3)	242 (50.8)	131 (27.5)	476
女子	0 —	1 (7.1)	9 (64.3)	4 (28.6)	14
合計	1 (0.2)	88 (18.0)	251 (51.2)	135 (27.6)	490
検定結果	(f) p=1.000	(f) p=1.000	$\chi^2(1)=0.984$ p=0.321	(f) p=1.000	

図 4-2 身体的暴力①（軽度）



	小学校入学前	小学生の時	中学生の時	中学卒業後	総数
男子	4 (1.3)	52 (17.5)	119 (40.1)	98 (33.0)	297
女子	0 —	4 (15.4)	14 (53.8)	8 (30.8)	26
合計	4 (1.2)	56 (17.3)	133 (41.2)	106 (32.8)	323
検定結果	(f) p=1.000	(f) p=1.000	$\chi^2(1)=1.874$ p=0.171	$\chi^2(1)=0.054$ p=0.817	

図 4-3 身体的暴力②（重度）



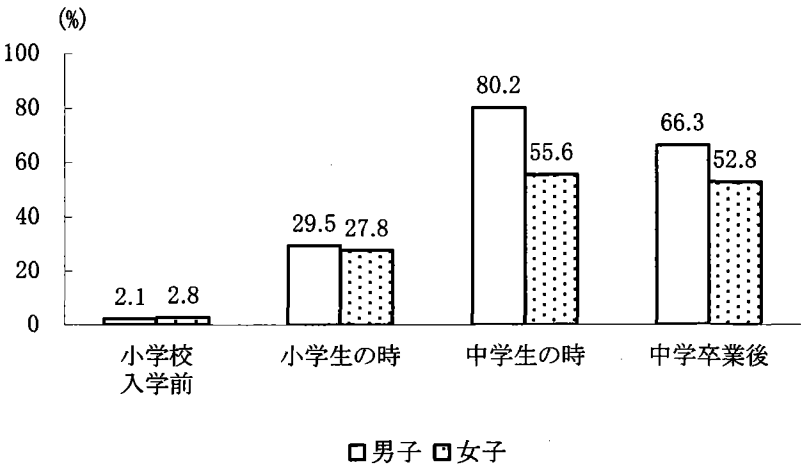
	小学校 入学前	小学生の時	中学生の時	中学卒業後	総数
男子	1 (0.2)	15 (3.2)	183 (38.9)	254 (53.9)	471
女子	0 —	1 (2.5)	19 (47.5)	20 (50.0)	40
合計	1 (0.2)	16 (3.1)	202 (39.5)	274 (53.6)	511
検定結果	(f) p=1.000	(f) p=1.000	$\chi^2(1)=1.153$ p=0.283	$\chi^2(1)=0.229$ p=0.632	

- 注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 重複選択による。
4 「いつだったか覚えていない」を除く。
5 グラフ及び表は、各時期について集計した結果のうち、該当したものについて表示している。
6 「検定結果」欄の(f)は、フィッシャーの直接確率法によるものであることを示す。
7 ()内は、総数に対する比率である。

図5は、一般反復群について同様に見たものである。最も多くの者が身体的暴力等を受けた時期は、女子の身体的暴力②（重度）を除き、男女ともいずれについても中学生の時である。

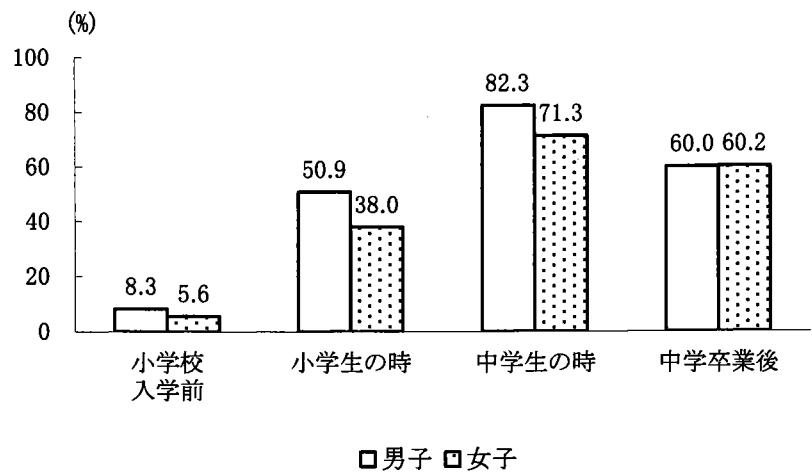
図5 身体的暴力等を受けた時期（一般反復群）

図5-1 恐喝



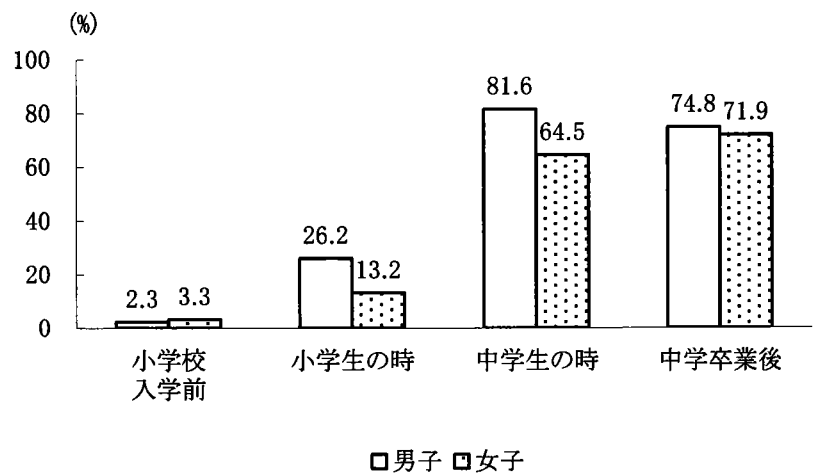
	小学校 入学前	小学生の時	中学生の時	中学卒業後	総数
男子	17 (2.1)	243 (29.5)	660 (80.2)	546 (66.3)	823
女子	1 (2.8)	10 (27.8)	20 (55.6)	19 (52.8)	36
合計	18 (2.1)	253 (29.5)	680 (79.2)	565 (65.8)	859
検定結果	(f) p=0.541	$\chi^2(1)=0.051$ p=0.822	$\chi^2(1)=12.693$ p=0.000**	$\chi^2(1)=2.819$ p=0.093	

図 5-2 身体的暴力①（軽度）



	小学校入学前	小学生の時	中学生の時	中学卒業後	総数
男子	84 (8.3)	513 (50.9)	829 (82.3)	604 (60.0)	1,007
女子	6 (5.6)	41 (38.0)	77 (71.3)	65 (60.2)	108
合計	90 (8.1)	554 (49.7)	906 (81.3)	669 (60.0)	1,115
検定結果	$\chi^2(1)=1.020$ $p=0.312$	$\chi^2(1)=6.574$ $p=0.010^*$	$\chi^2(1)=7.788$ $p=0.005^{**}$	$\chi^2(1)=0.002$ $p=0.967$	

図 5-3 身体的暴力②（重度）



	小学校 入学前	小学生の時	中学生の時	中学卒業後	総数
男子	29 (2.3)	325 (26.2)	1,012 (81.6)	928 (74.8)	1,240
女子	4 (3.3)	16 (13.2)	78 (64.5)	87 (71.9)	121
合計	33 (2.4)	341 (25.1)	1,090 (80.1)	1,015 (74.6)	1,361
検定結果	(f) p=0.528	$\chi^2(1)=9.901$ p=0.002**	$\chi^2(1)=20.333$ p=0.000**	$\chi^2(1)=0.502$ p=0.479	

- 注1 法務総合研究所の調査による。
- 2 無回答を除く。
- 3 重複選択による。
- 4 「いつだったか覚えていない」を除く。
- 5 グラフ及び表は、各時期について集計した結果のうち、該当したものについて表示している。
- 6 ()内は、総数に対する比率である。
- 7 「検定結果」欄の「**」は有意水準1%以下で、「*」は同5%以下で、それぞれ有意差が見られることを示す。
- 8 図4の注6に同じ。

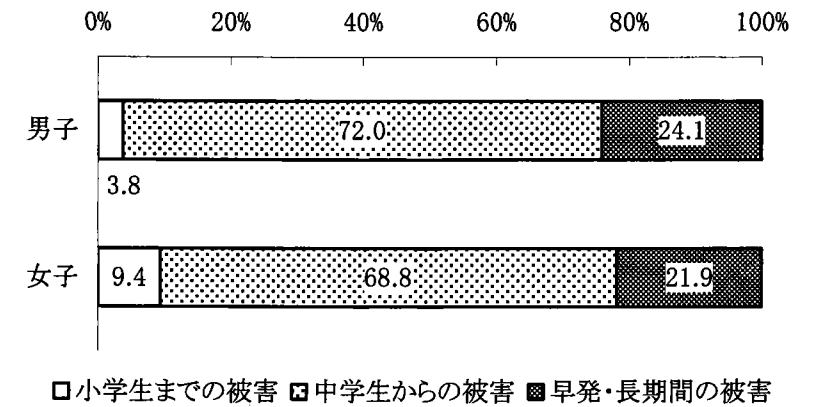
ここで、一般反復群について被害を受けた期間を見るために、問1において「いつだったか覚えていない」としたものを除き、次により、「小学生までの被害」、「中学生からの被害」及び「早発・長期間の被害」の三つの被害期間を設定した。

- ・被害を受けた時期（問1，重複選択）について、「小学校入学前」、「小学生の時」のどちらか一つ又は両方を選択した者（「小学校までの被害」）
- ・同じく、「中学生の時」、「中学卒業後」のどちらか一つ又は両方を選択した者（「中学校からの被害」）
- ・被害を受けた時期のうち、最も早い時期が「小学校入学以前」又は「小学校の時」で、最も遅い時期が「中学校の時」又は「中学卒業後」である者（「早発・長期間の被害」）

図6は、恐喝、身体的被害①（軽度）及び②（重度）の被害期間を男女別に見たものである。男女とも、いずれの被害についても、中学生からの被害が多くなっている。また、身体的暴力①及び②では、被害期間に男女で有意差が見られ、残差分析の結果、早発・長期間の被害で男子が、中学生からの被害で女子が、それぞれ有意に多くなっている。

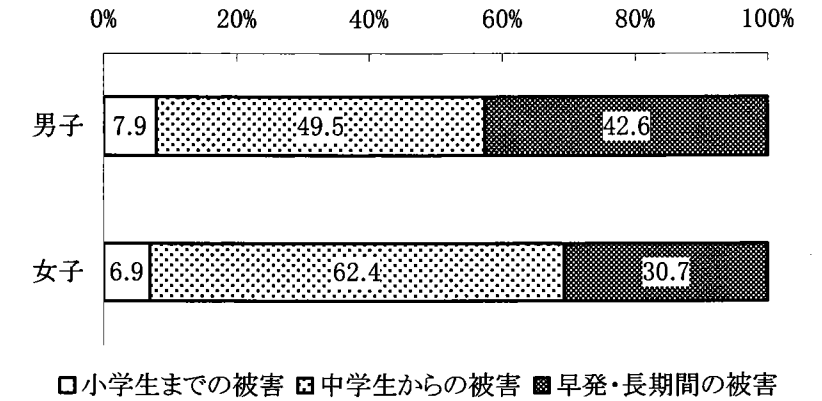
図 6 身体的暴力等を受けた期間（一般反復群）

図 6-1 恐喝



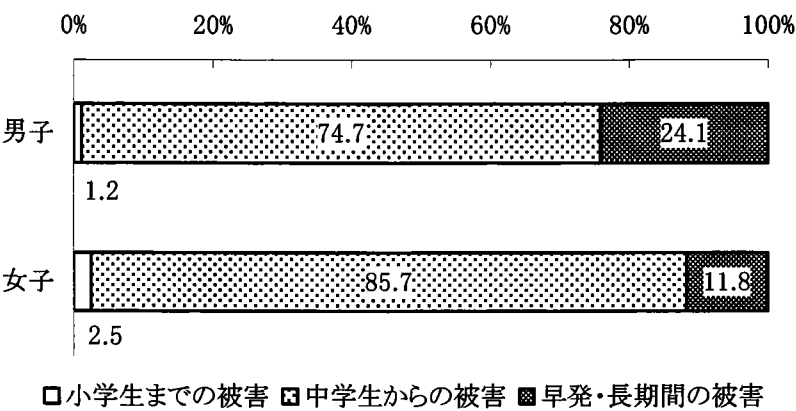
	小学生までの被害	中学生からの被害	早発・長期間の被害	合計	検定結果
男子	30 (3.8)	567 (72.0)	190 (24.1)	787 (100.0)	$\chi^2(2)=2.474$ $p=0.290$
女子	3 (9.4)	22 (68.8)	7 (21.9)	32 (100.0)	
合計	33 (4.0)	589 (71.9)	197 (24.1)	819 (100.0)	

図 6-2 身体的暴力①（軽度）



	小学生までの被害	中学生からの被害	早発・長期間の被害	合計	検定結果
男子	77 (7.9) [0.3]	483 (49.5) ▼[-2.5]	415 (42.6) △[2.3]	975 (100.0)	$\chi^2(2)=6.193$ $p=0.045^*$
女子	7 (6.9) [-0.3]	63 (62.4) △[2.5]	31 (30.7) ▼[-2.3]	101 (100.0)	
合計	84 (7.8)	546 (50.7)	446 (41.4)	1,076 (100.0)	

図 6-3 身体的暴力②（重度）



	小学生までの被害	中学生からの被害	早発・長期間の被害	合計	検定結果
男子	14 (1.2) [-1.3]	900 (74.7) ▼[-2.7]	291 (24.1) △[3.1]	1,205 (100.0)	$\chi^2(2)=10.509$ $p=0.005^{**}$
女子	3 (2.5) [1.3]	102 (85.7) △[2.7]	14 (11.8) ▼[-3.1]	119 (100.0)	
合計	17 (1.3)	1,002 (75.7)	305 (23.0)	1,324 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 図1の注3に同じ。
5 図5の注7に同じ。

(2) 身体的暴力等の加害者

図 7 は、恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の加害者（問 3 の a，重複選択）を尋ねた結果を、男女について群別に見たものである。男子では、恐喝及び身体的暴力②で、どちらの群も先輩及び全く知らない人の比率が高く、女子では、恐喝の一般単回群を除き、いずれの加害行為についても、どちらの群も友達・恋人（以下、「友達等」という。）及び先輩の比率が高くなっている。

図 7 身体的暴力等の加害者

図 7-1 恐喝

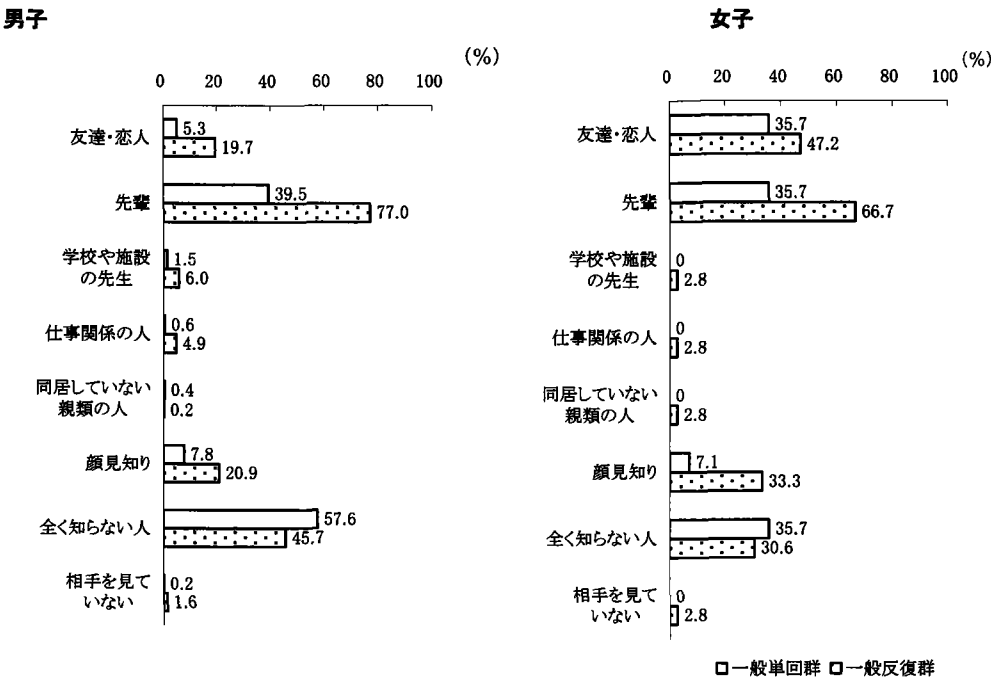


図 7-2 身体的暴力①（軽度）

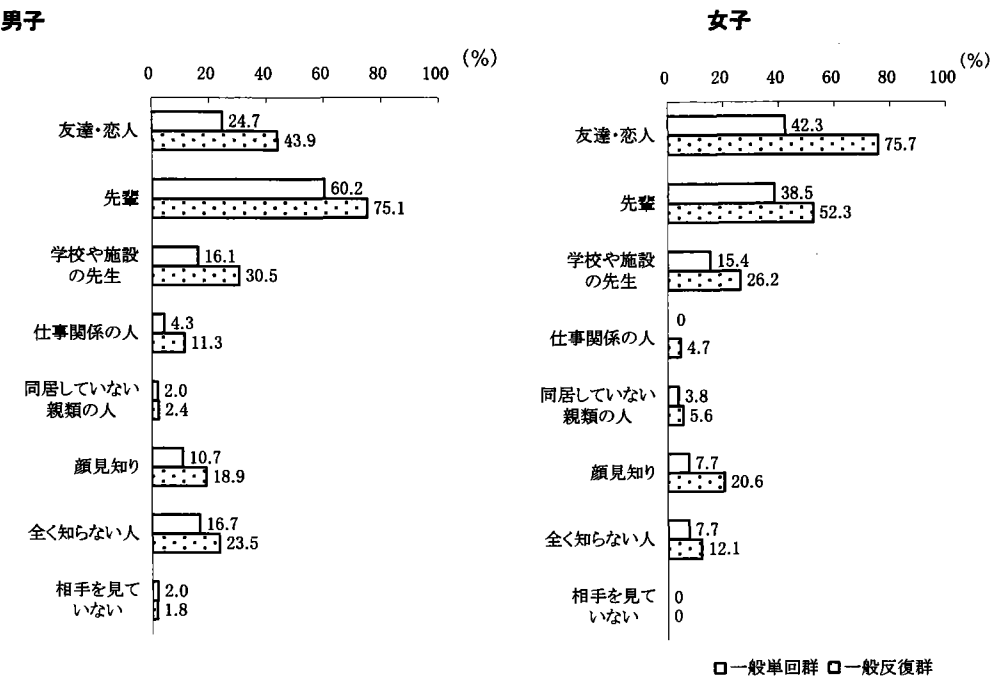
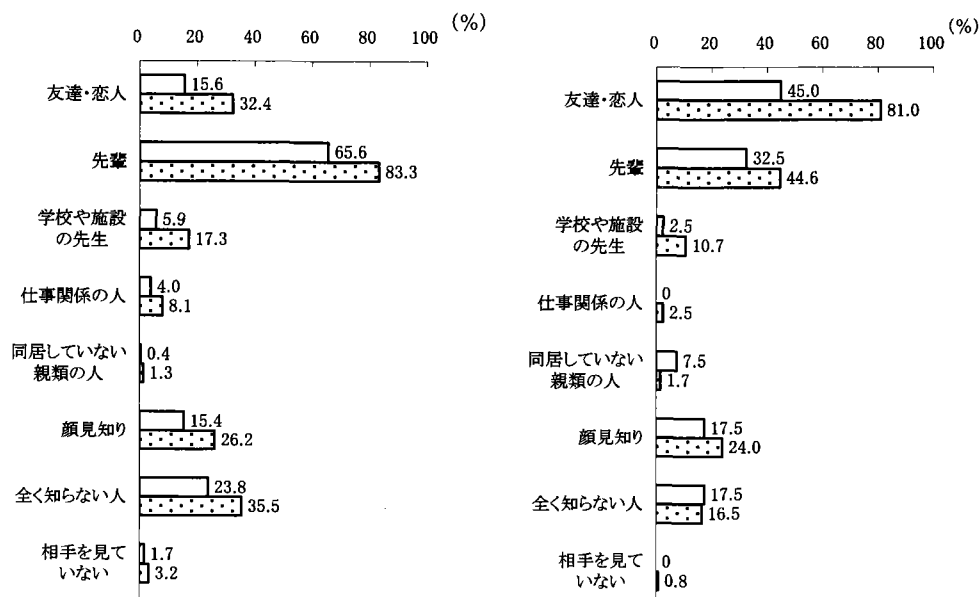


図 7-3 身体的暴力②（重度）

男子

女子



□一般単回群 □一般反復群

		加害者の種類									総数
			友達 恋人	先輩	学校や施設 の先生	仕事関係 の人	同居して いない 親類の人	顔見知り	全く知 らない人	相手を見 ていない	
恐 喝	男子	一般単回群	25 (5.3)	188 (39.5)	7 (1.5)	3 (0.6)	2 (0.4)	37 (7.8)	274 (57.6)	1 (0.2)	476
		一般反復群	162 (19.7)	634 (77.0)	49 (6.0)	40 (4.9)	2 (0.2)	172 (20.9)	376 (45.7)	13 (1.6)	823
		合計	187 (14.4)	822 (63.3)	56 (4.3)	43 (3.3)	4 (0.3)	209 (16.1)	650 (50.0)	14 (1.1)	1,299
	女子	一般単回群	5 (35.7)	5 (35.7)	0 -	0 -	0 -	1 (7.1)	5 (35.7)	0 -	14
		一般反復群	17 (47.2)	24 (66.7)	1 (2.8)	1 (2.8)	1 (2.8)	12 (33.3)	11 (30.6)	1 (2.8)	36
		合計	22 (44.0)	29 (58.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	13 (26.0)	16 (32.0)	1 (2.0)	50
身体的 暴力① (軽度)	男子	一般単回群	74 (24.7)	180 (60.2)	48 (16.1)	13 (4.3)	6 (2.0)	32 (10.7)	50 (16.7)	6 (2.0)	299
		一般反復群	443 (43.9)	757 (75.1)	307 (30.5)	114 (11.3)	24 (2.4)	191 (18.9)	237 (23.5)	18 (1.8)	1,008
		合計	517 (39.6)	937 (71.7)	355 (27.2)	127 (9.7)	30 (2.3)	223 (17.1)	287 (22.0)	24 (1.8)	1,307
	女子	一般単回群	11 (42.3)	10 (38.5)	4 (15.4)	0 -	1 (3.8)	2 (7.7)	2 (7.7)	0 -	26
		一般反復群	81 (75.7)	56 (52.3)	28 (26.2)	5 (4.7)	6 (5.6)	22 (20.6)	13 (12.1)	0 -	107
		合計	92 (69.2)	66 (49.6)	32 (24.1)	5 (3.8)	7 (5.3)	24 (18.0)	15 (11.3)	0 -	133
身体的 暴力② (重度)	男子	一般単回群	74 (15.6)	311 (65.6)	28 (5.9)	19 (4.0)	2 (0.4)	73 (15.4)	113 (23.8)	8 (1.7)	474
		一般反復群	402 (32.4)	1,033 (83.3)	214 (17.3)	101 (8.1)	16 (1.3)	325 (26.2)	440 (35.5)	40 (3.2)	1,240
		合計	476 (27.8)	1,344 (78.4)	242 (14.1)	120 (7.0)	18 (1.1)	398 (23.2)	553 (32.3)	48 (2.8)	1,714
	女子	一般単回群	18 (45.0)	13 (32.5)	1 (2.5)	0 -	3 (7.5)	7 (17.5)	7 (17.5)	0 -	40
		一般反復群	98 (81.0)	54 (44.6)	13 (10.7)	3 (2.5)	2 (1.7)	29 (24.0)	20 (16.5)	1 (0.8)	121
		合計	116 (72.0)	67 (41.6)	14 (8.7)	3 (1.9)	5 (3.1)	36 (22.4)	27 (16.8)	1 (0.6)	161

注1 法務総合研究所の調査による。

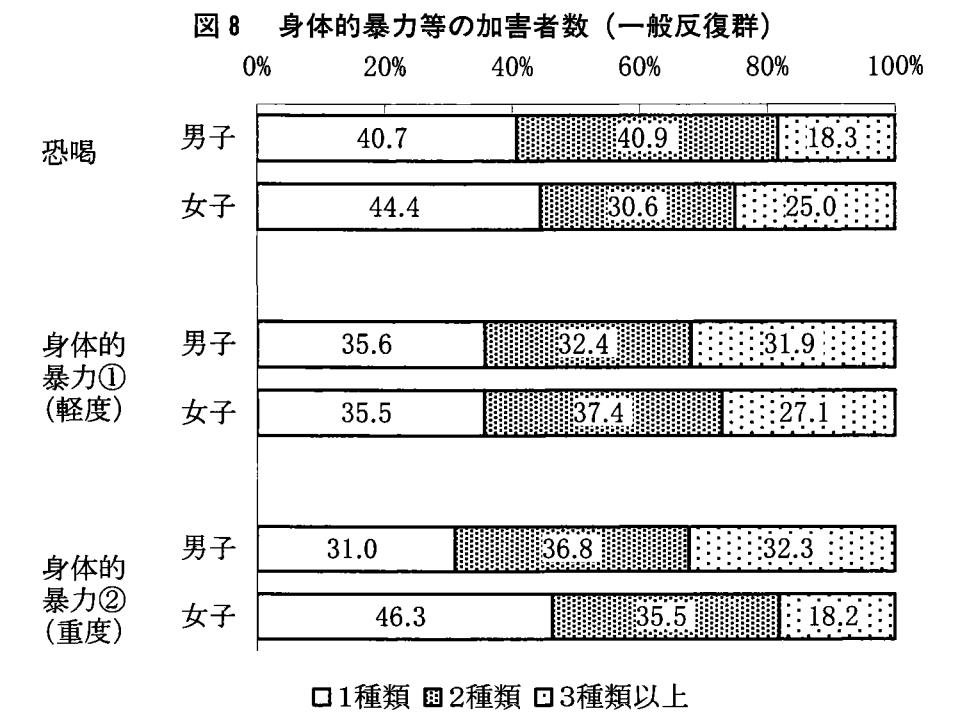
2 無回答を除く。

3 重複選択による。

4 グラフ及び表は、各項目に該当するもののみを挙げている。

5 ()内は、総数に対する比率である。

図8は、恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の反復被害経験のある者が、問3のa（重複選択）で選択した加害者の種類数を男女別に見たものである。いずれの加害行為についても、半数以上の者が複数の種類の加害者を挙げている。



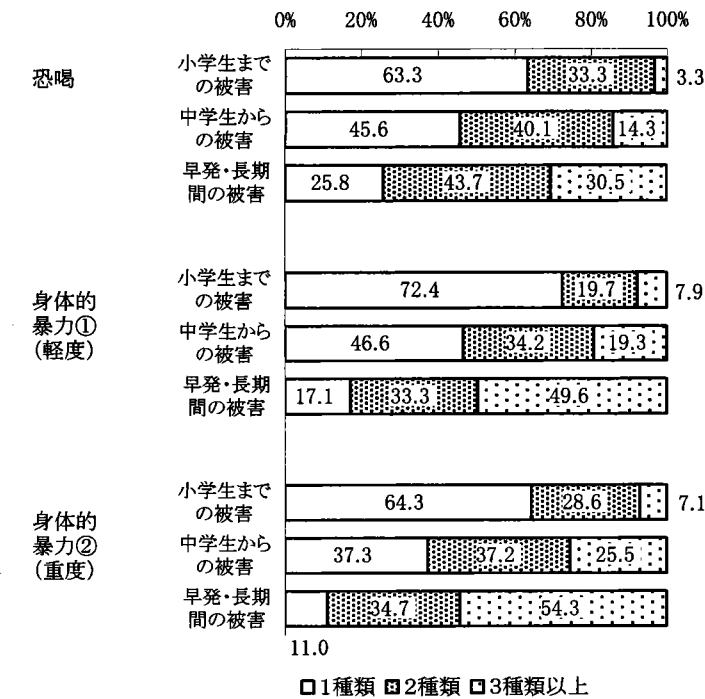
		1種類	2種類	3種類以上	合計	検定結果
恐喝	男子	335 (40.7)	337 (40.9)	151 (18.3)	823 (100.0)	$\chi^2(2)=1.857$ $p=0.395$
	女子	16 (44.4)	11 (30.6)	9 (25.0)	36 (100.0)	
	合計	351 (40.9)	348 (40.5)	160 (18.6)	859 (100.0)	
身体的暴力①(軽度)	男子	359 (35.6)	327 (32.4)	322 (31.9)	1,008 (100.0)	$\chi^2(2)=1.439$ $p=0.487$
	女子	38 (35.5)	40 (37.4)	29 (27.1)	107 (100.0)	
	合計	397 (35.6)	367 (32.9)	351 (31.5)	1,115 (100.0)	
身体的暴力②(重度)	男子	384 (31.0) ▼[-3.4]	456 (36.8) [0.3]	400 (32.3) △[3.2]	1,240 (100.0)	$\chi^2(2)=15.087$ $p=0.001^{**}$
	女子	56 (46.3) △[3.4]	43 (35.5) [-0.3]	22 (18.2) ▼[-3.2]	121 (100.0)	
	合計	440 (32.3)	499 (36.7)	422 (31.0)	1,361 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 表1の注6に同じ。
5 図1の注3に同じ。

図9は、恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の一般反復群（女子の恐喝については、該当者が少ないのでグラフは省略した。）について、加害者の種類数を被害期間別に見たものである。

図9 身体的暴力等の加害者の種類数（一般反復群・被害期間別）

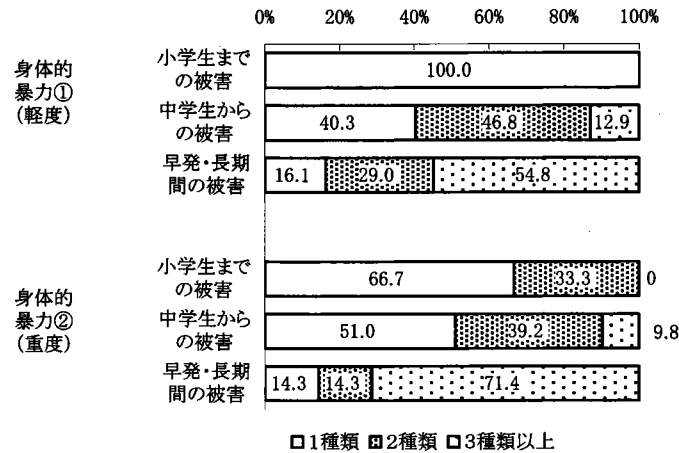
男子



		1種類	2種類	3種類以上	合計	検定結果
恐喝	小学生までの被害	19 (63.3)	10 (33.3)	1 (3.3)	30 (100.0)	$\chi^2(2)=42.564$ $p=0.000^{**}$
		$\Delta[2.5]$	$[-0.8]$	$\nabla[-2.1]$		
	中学生からの被害	258 (45.6)	227 (40.1)	81 (14.3)	566 (100.0)	
		$\Delta[3.7]$	$[-0.6]$	$\nabla[-4.1]$		
身体的暴力①（軽度）	早発・長期間の被害	49 (25.8)	83 (43.7)	58 (30.5)	190 (100.0)	$\chi^2(2)=168.517$ $p=0.000^{**}$
		$\nabla[-5.0]$	$[1.0]$	$\Delta[5.3]$		
	合計	326 (41.5)	320 (40.7)	140 (17.8)	786 (100.0)	
身体的暴力②（重度）	小学生までの被害	55 (72.4)	15 (19.7)	6 (7.9)	76 (100.0)	$\chi^2(2)=113.498$ $p=0.000^{**}$
		$\Delta[6.9]$	$\nabla[-2.5]$	$\nabla[-4.6]$		
	中学生からの被害	225 (46.6)	165 (34.2)	93 (19.3)	483 (100.0)	
		$\Delta[6.8]$	$[1.0]$	$\nabla[-8.0]$		
身体的暴力②（重度）	早発・長期間の被害	71 (17.1)	138 (33.3)	206 (49.6)	415 (100.0)	$\chi^2(2)=113.498$ $p=0.000^{**}$
		$\nabla[-10.6]$	$[0.3]$	$\Delta[10.6]$		
	合計	351 (36.0)	318 (32.6)	305 (31.3)	974 (100.0)	
身体的暴力②（重度）	小学生までの被害	9 (64.3)	4 (28.6)	1 (7.1)	14 (100.0)	$\chi^2(2)=113.498$ $p=0.000^{**}$
		$\Delta[2.7]$	$[-0.6]$	$\nabla[-2.0]$		
	中学生からの被害	335 (37.3)	334 (37.2)	229 (25.5)	898 (100.0)	
		$\Delta[7.8]$	$[0.9]$	$\nabla[-8.6]$		
身体的暴力②（重度）	早発・長期間の被害	32 (11.0)	101 (34.7)	158 (54.3)	291 (100.0)	$\chi^2(2)=113.498$ $p=0.000^{**}$
		$\nabla[-8.6]$	$[-0.7]$	$\Delta[9.2]$		
	合計	376 (31.3)	439 (36.5)	388 (32.3)	1,203 (100.0)	

女子の恐喝を除き、被害期間と被害者の種類数には有意な関連が見られ、残差分析の結果、男子はいずれの加害行為も、小学生までの被害及び中学生からの被害で加害者が1種類のものが、早発・長期間の被害で3種類以上の者が、それぞれ有意に多くなっている。女子でも、早発・長期間の被害で3種類以上の者が有意に多くなっている。

女子



		1種類	2種類	3種類以上	合計	検定結果
恐喝	小学生までの被害	3 (100.0)	0 -	0 -	3 (100.0)	(m) p=0.144
	中学生からの被害	11 (50.0)	7 (31.8)	4 (18.2)	22 (100.0)	
	早発・長期間の被害	1 (14.3)	3 (42.9)	3 (42.9)	7 (100.0)	
	合計	15 (46.9)	10 (31.3)	7 (21.9)	32 (100.0)	
身体的暴力①(軽度)	小学生までの被害	7 (100.0) △[3.6]	0 - ▼[-2.1]	0 - [-1.6]	7 (100.0)	(m) p=0.000**
	中学生からの被害	25 (40.3) [0.9]	29 (46.8) △[2.3]	8 (12.9) ▼[-3.6]	62 (100.0)	
	早発・長期間の被害	5 (16.1) ▼[-2.9]	9 (29.0) [-1.2]	17 (54.8) △[4.6]	31 (100.0)	
	合計	37 (37.0)	38 (38.0)	25 (25.0)	100 (100.0)	
身体的暴力②(重度)	小学生までの被害	2 (66.7) [0.7]	1 (33.3) [-0.1]	0 - [-0.8]	3 (100.0)	(m) p=0.000**
	中学生からの被害	52 (51.0) △[2.1]	40 (39.2) [1.7]	10 (9.8) ▼[-5.0]	102 (100.0)	
	早発・長期間の被害	2 (14.3) ▼[-2.6]	2 (14.3) [-1.8]	10 (71.4) △[5.8]	14 (100.0)	
	合計	56 (47.1)	43 (36.1)	20 (16.8)	119 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 「検定結果」欄の(m)は、有意確率がモンテカルロ法によるものであることを示す。
4 ()内は、構成比である。
5 表1の注6に同じ。
6 図1の注3に同じ。

図10は、恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の一般単回群について、最もひどい加害者を男女別に見たものである。恐喝では、男女とも全く知らない人の比率が、身体的暴力①及び②では、男子は先輩の比率が、女子は友達等の比率が、それぞれ最も高くなっている。また、統計的には、身体的暴力①を除き、男女に有意差が見られ、残差分析の結果、どちらの加害行為も、最もひどい加害者が友達等である者が女子で有意に多くなっているほか、身体的暴力②では、先輩とする者が男子で有意に多く

図10 身体的暴力等の最もひどい加害者（一般単回群）

図10-1 恐喝

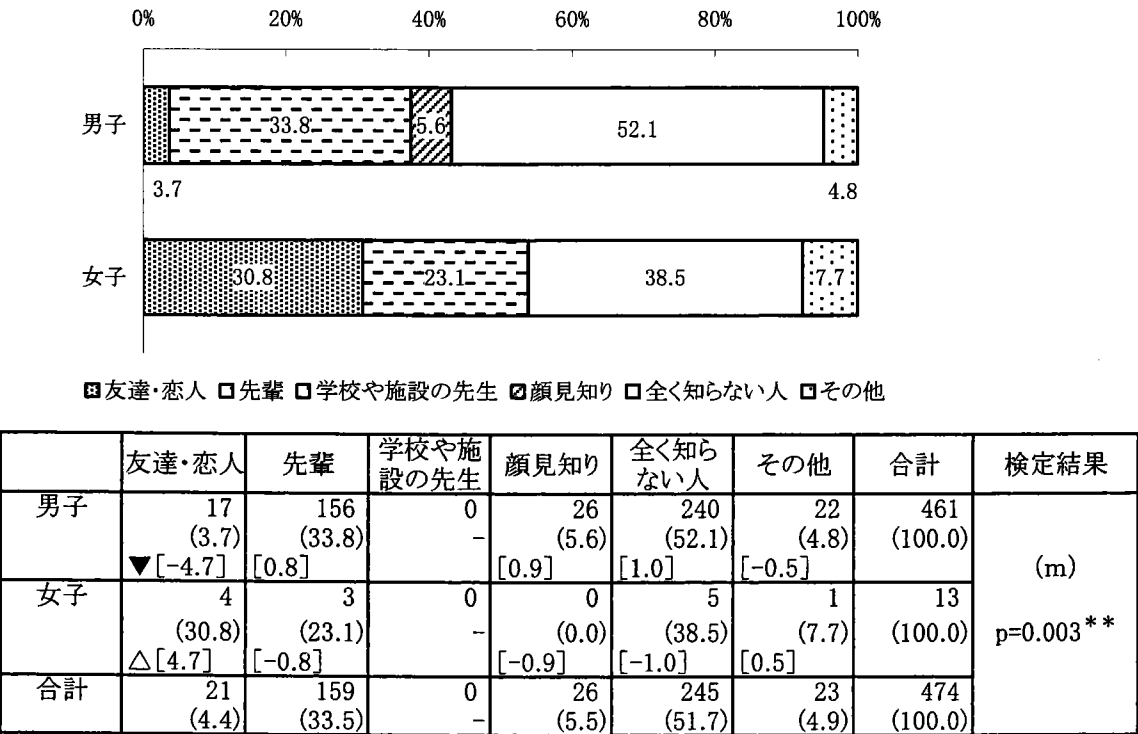
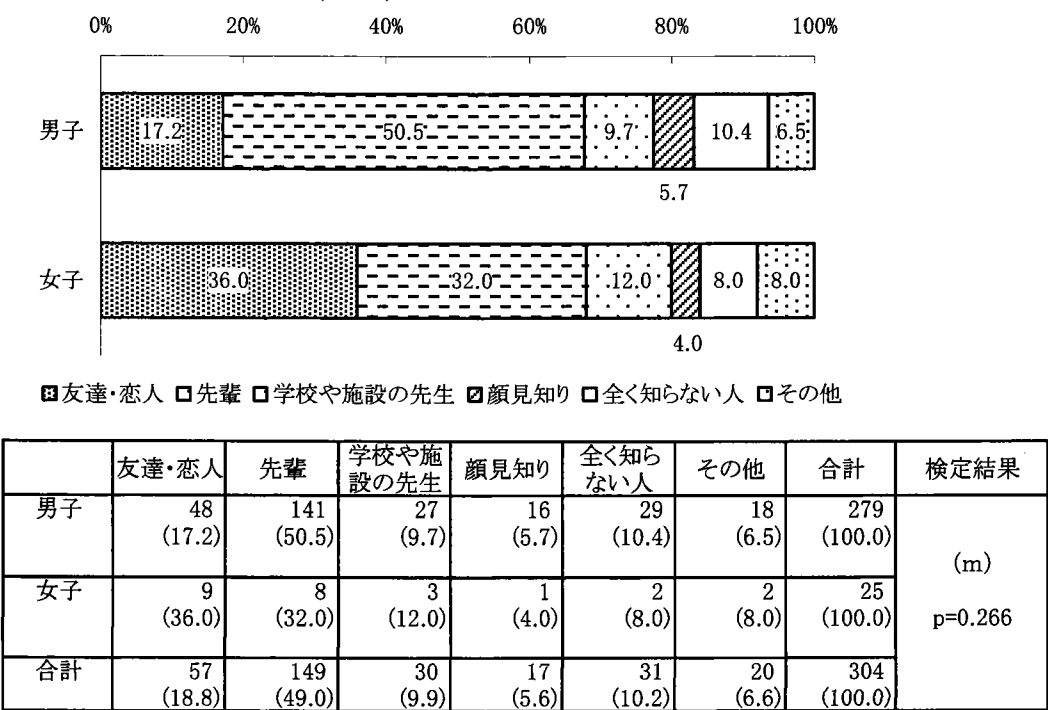
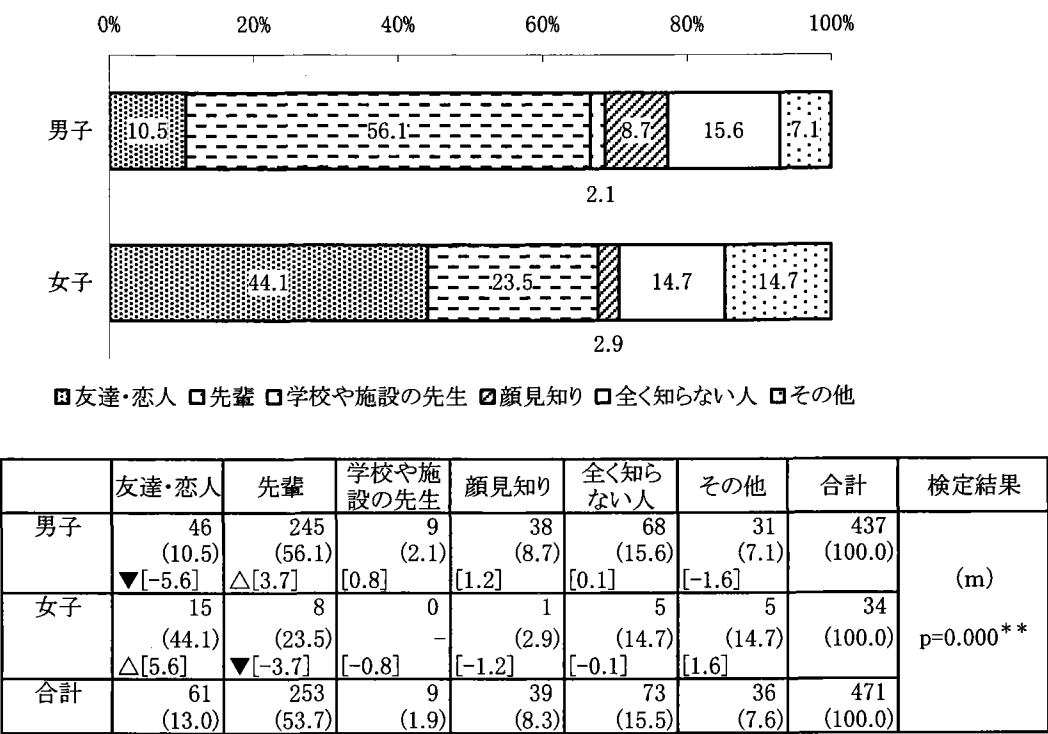


図10-2 身体的暴力①（軽度）



なっている。

図10-3 身体的暴力②（重度）

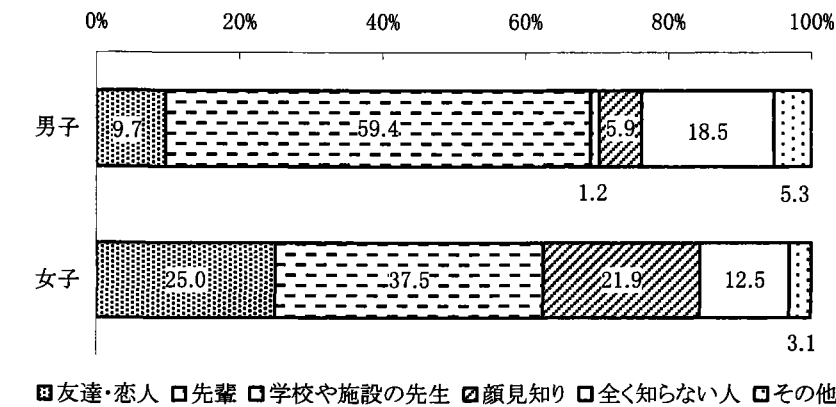


注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 「その他」は、「仕事関係の人」、「同居していない親類の人」及び「相手を見ていない」を含む。
5 表1の注6に同じ。
6 図1の注3に同じ。
7 図9の注3に同じ。

図11は、一般反復群について、同様に見たものである。最もひどい加害者としては、恐喝では男女とも先輩の比率が最も高いが、身体的暴力①及び②では、男子は先輩、女子は友達等の比率が最も高い。

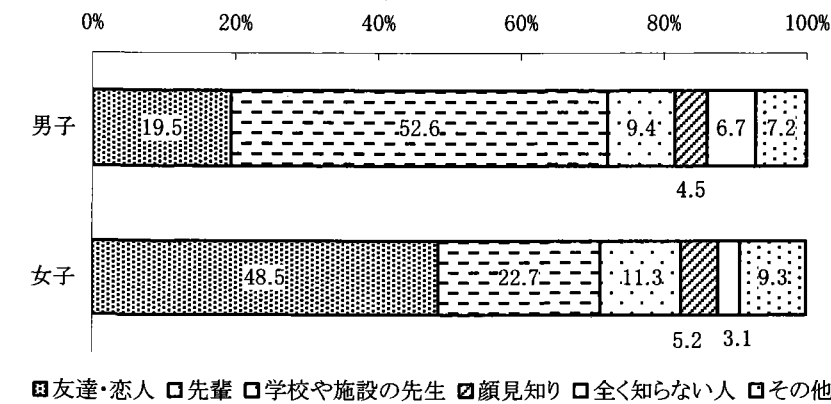
図11 身体的暴力等の最もひどい加害者（一般反復群）

図11-1 恐喝



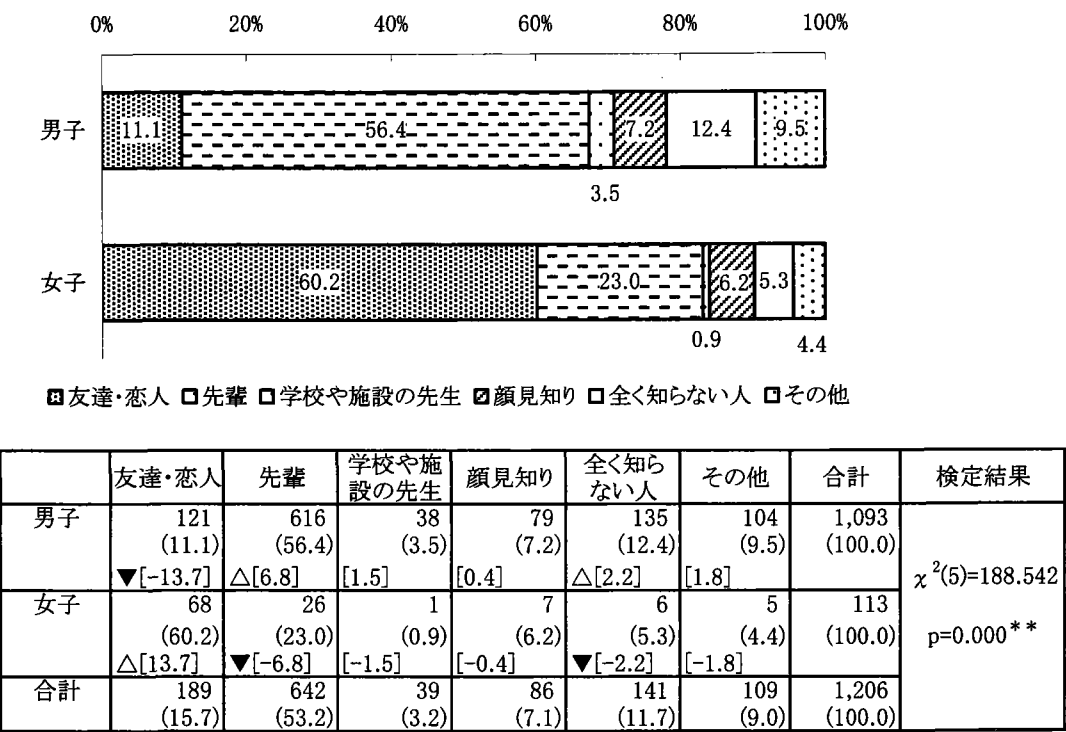
	友達・恋人	先輩	学校や施設の先生	顔見知り	全く知らない人	その他	合計	検定結果
男子	74 (9.7) ▼[-2.8]	452 (59.4) △[2.5]	9 (1.2) [0.6]	45 (5.9) ▼[-3.6]	141 (18.5) [0.9]	40 (5.3) [0.5]	761 (100.0)	(m) p=0.004**
女子	8 (25.0) △[2.8]	12 (37.5) ▼[-2.5]	0 - [-0.6]	7 (21.9) △[3.6]	4 (12.5) [-0.9]	1 (3.1) [-0.5]	32 (100.0)	
合計	82 (10.3)	464 (58.5)	9 (1.1)	52 (6.6)	145 (18.3)	41 (5.2)	793 (100.0)	

図11-2 身体的暴力①（軽度）



	友達・恋人	先輩	学校や施設の先生	顔見知り	全く知らない人	その他	合計	検定結果
男子	173 (19.5) ▼[-6.5]	468 (52.6) △[5.6]	84 (9.4) [-0.6]	40 (4.5) [-0.3]	60 (6.7) [1.4]	64 (7.2) [-0.7]	889 (100.0)	$\chi^2(5)=51.497$ p=0.000**
女子	47 (48.5) △[6.5]	22 (22.7) ▼[-5.6]	11 (11.3) [0.6]	5 (5.2) [0.3]	3 (3.1) [-1.4]	9 (9.3) [0.7]	97 (100.0)	
合計	220 (22.3)	490 (49.7)	95 (9.6)	45 (4.6)	63 (6.4)	73 (7.4)	986 (100.0)	

図11-3 身体的暴力②（重度）



注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 「その他」は、「仕事関係の人」、「同居していない親類の人」及び「相手を見ていない」を含む。
5 表1の注6に同じ。
6 図1の注3に同じ。
7 図9の注3に同じ。

また、統計的にはすべての加害行為で男女に有意差が見られ、残差分析の結果、恐喝では、最もひどい加害者が先輩であるとする者が男子で、友達等及び顔見知りとする者が女子で、それぞれ有意に多くなっている。身体的暴力①及び②では、先輩とする者が男子で、友達等とする者が女子で、それぞれ有意に多くなっているほか、身体的暴力②では、全く知らない人とする者が男子で有意に多くなっている。

表 3 は、恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の一般反復群について、最もひどい加害者を、男女について被害期間別に見たものである。女子の身体的暴力①を除き、最もひどい被害者と被害期間には有意な関連が見られ、男子の場合、中学生からの被害は、いずれの加害行為についても先輩が有意に多く、早発・長期間の被害の場合は、全く知らない人（恐喝）、学校や施設の先生（以下、「先生」という。）①、②）が有意に多くなっている。

表 3 身体的暴力等の最もひどい加害者と被害期間（一般反復群）

表 3-1 恐喝

	最もひどい加害者	被害期間				検定結果
		小学生までの被害	中学生からの被害	早発・長期間の被害	合計	
男子	友達・恋人	7 (10.1) △[3.0]	49 (71.0) [-0.2]	13 (18.8) [-1.1]	69 (100.0)	(m) p=0.010*
	先輩	12 (2.7) [-1.7]	333 (75.3) △[2.5]	97 (21.9) [-1.8]	442 (100.0)	
	学校や施設の先生	0 - [-0.6]	6 (66.7) [-0.4]	3 (33.3) [0.6]	9 (100.0)	
	顔見知り	2 (5.3) [0.5]	30 (78.9) ▼[-3.5]	6 (15.8) [-1.2]	38 (100.0)	
	全く知らない人	6 (4.4) [0.5]	81 (60.0) ▼[-3.5]	48 (35.6) △[3.4]	135 (100.0)	
	その他	0 - [-1.2]	27 (73.0) [0.1]	10 (27.0) [0.4]	37 (100.0)	
	合計	27 (3.7)	526 (72.1)	177 (24.2)	730 (100.0)	
女子	友達・恋人	1 (12.5) [0.2]	7 (87.5) [1.5]	0 - [-1.9]	8 (100.0)	(m) p=0.040*
	先輩	2 (16.7) [0.9]	3 (25.0) ▼[-3.9]	7 (58.3) △[3.6]	12 (100.0)	
	顔見知り	0 - [-0.9]	6 (100.0) △[2.0]	0 - [-1.6]	6 (100.0)	
	全く知らない人	0 - [0.5]	2 (100.0) [1.1]	0 - [-0.8]	2 (100.0)	
	その他	0 - [-0.3]	1 (100.0) [0.7]	0 - [-0.6]	1 (100.0)	
	合計	3 (10.3)	19 (65.5)	7 (24.1)	29 (100.0)	

表 3-2 身体的暴力①（軽度）

	最もひどい加害者	被害期間				検定結果
		小学生までの被害	中学生からの被害	早発・長期間の被害	合計	
男子	友達・恋人	30 (17.9) △[5.3]	76 (45.2) [-1.5]	62 (36.9) [-1.4]	168 (100.0)	$\chi^2(10)=71.386$ p=0.000**
	先輩	14 (3.1) ▼[-5.6]	261 (57.4) △[4.2]	180 (39.6) [-1.3]	455 (100.0)	
	学校や施設の先生	15 (17.9) △[3.6]	23 (27.4) ▼[-4.5]	46 (54.8) △[2.6]	84 (100.0)	
	顔見知り	2 (5.6) [-0.5]	16 (44.4) [-0.7]	18 (50.0) [1.0]	36 (100.0)	
	全く知らない人	1 (1.7) [-1.8]	26 (44.8) [-0.9]	31 (53.4) [1.9]	58 (100.0)	
	その他	6 (10.0) [0.6]	33 (55.0) [0.7]	21 (35.0) [-1.1]	60 (100.0)	
	合計	68 (7.9)	435 (50.5)	358 (41.6)	861 (100.0)	
女子	友達・恋人	1 (2.3)	32 (74.4)	10 (23.3)	43 (100.0)	(m) p=0.115
	先輩	2 (9.1)	10 (45.5)	10 (45.5)	22 (100.0)	
	学校や施設の先生	2 (20.0)	4 (40.0)	4 (40.0)	10 (100.0)	
	顔見知り	0 -	4 (80.0)	1 (20.0)	5 (100.0)	
	全く知らない人	0 -	2 (100.0)	0 -	2 (100.0)	
	その他	2 (22.2)	3 (33.3)	4 (44.4)	9 (100.0)	
	合計	7 (7.7)	55 (60.4)	29 (31.9)	91 (100.0)	

表 3-3 身体的暴力②（重度）

	最もひどい加害者	被害期間				検定結果
		小学生までの被害	中学生からの被害	早発・長期間の被害	合計	
男子	友達・恋人	2 (1.8) [0.6]	75 (67.0) ▼[-2.5]	35 (31.3) △[2.4]	112 (100.0)	(m) p=0.000**
	先輩	4 (0.7) [-1.9]	490 (81.0) △[4.1]	111 (18.3) ▼[-3.7]	605 (100.0)	
	学校や施設の先生	3 (8.1) △[3.9]	16 (43.2) ▼[-4.8]	18 (48.6) △[3.9]	37 (100.0)	
	顔見知り	2 (2.6) [1.1]	56 (71.8) [-1.0]	20 (25.6) [0.7]	78 (100.0)	
	全く知らない人	1 (0.8) [-0.5]	98 (74.8) [-0.4]	32 (24.4) [0.6]	131 (100.0)	
	その他	1 (1.0) [-0.2]	76 (76.8) [0.1]	22 (22.2) [0.0]	99 (100.0)	
	合計	13 (1.2)	811 (76.4)	238 (22.4)	1,062 (100.0)	
女子	友達・恋人	1 (1.5) [-0.3]	65 (95.6) △[3.5]	2 (2.9) ▼[-3.6]	68 (100.0)	(m) p=0.025*
	先輩	0 - [-0.8]	20 (80.0) [-1.1]	5 (20.0) [1.5]	25 (100.0)	
	学校や施設の先生	0 - [-0.1]	0 - ▼[-2.6]	1 (100.0) △[2.8]	1 (100.0)	
	顔見知り	0 - [-0.4]	6 (85.7) [-0.1]	1 (14.3) [0.2]	7 (100.0)	
	全く知らない人	0 - [-0.3]	4 (66.7) [-1.5]	2 (33.3) [1.7]	6 (100.0)	
	その他	1 (20.0) △[3.1]	2 (40.0) ▼[-3.1]	2 (40.0) △[2.0]	5 (100.0)	
	合計	2 (1.8)	97 (86.6)	13 (11.6)	112 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 「その他」は、「仕事関係の人」、「同居していない親類の人」及び「相手を見ていない」を含む。
5 図1の注3に同じ。
6 図5の注7に同じ。
7 図9の注3に同じ。

3 身体的暴力等を受けた経験の表出

(1) 身体的暴力等を受けた経験の表出の有無

表4は、恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の被害経験のある者に対し、「被害について、誰かに言ったことがありますか」（問4）と尋ねた結果を、男女について群別に示したものである。

「言ったことがある」とする者の比率は、男子で50から70％台、女子で70から80％台である。また、男子についてすべての加害行為で群間に有意差が見られ、「言ったことがある」とする者はいずれも一般反復群で有意に多い。

表4 身体的暴力等の被害経験の表出の有無

		恐喝					
		言ったことがある	言ったことはない	合計	検定結果		
男子	一般単回群	306 (64.6)	168 (35.4)	474 (100.0)	$\chi^2(1)=7.664$ $p=0.006^{**}$		
	一般反復群	587 (71.9)	229 (28.1)	816 (100.0)			
	合計	893 (69.2)	397 (30.8)	1,290 (100.0)			
女子	一般単回群	12 (85.7)	2 (14.3)	14 (100.0)	(f) $p=1.000$		
	一般反復群	31 (86.1)	5 (13.9)	36 (100.0)			
	合計	43 (86.0)	7 (14.0)	50 (100.0)			

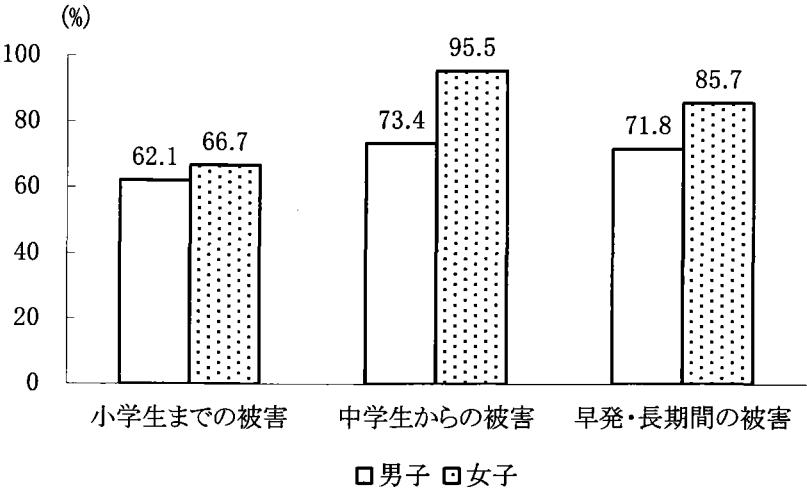
		身体的暴力①(軽度)			身体的暴力②(重度)			
		言ったことがある	言ったことはない	合計	言ったことがある	言ったことはない	合計	
男子	一般単回群	150 (50.2)	149 (49.8)	299 (100.0)	302 (63.7)	172 (36.3)	474 (100.0)	$\chi^2(1)=9.444$ $p=0.002^{**}$
	一般反復群	607 (60.2)	402 (39.8)	1,009 (100.0)	895 (72.1)	347 (27.9)	1,242 (100.0)	
	合計	757 (57.9)	551 (42.1)	1,308 (100.0)	1,197 (69.8)	519 (30.2)	1,716 (100.0)	
女子	一般単回群	19 (73.1)	7 (26.9)	26 (100.0)	34 (85.0)	6 (15.0)	40 (100.0)	$\chi^2(1)=0.011$ $p=0.917$
	一般反復群	80 (74.1)	28 (25.9)	108 (100.0)	97 (80.2)	24 (19.8)	121 (100.0)	
	合計	99 (73.9)	35 (26.1)	134 (100.0)	131 (81.4)	30 (18.6)	161 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 「言ったことはない」は、「わからない」を含む。
5 表1の注6に同じ。
6 図4の注6に同じ。

図12は、身体的暴力等の一般反復群について、被害経験を誰かに話したとする者の比率を男女について被害期間別に見たものである。男女とも、いずれの加害行為についても、小学生までの被害については、被害経験を誰かに話したとする者の比率が、他の二つに比べて低くなっている。

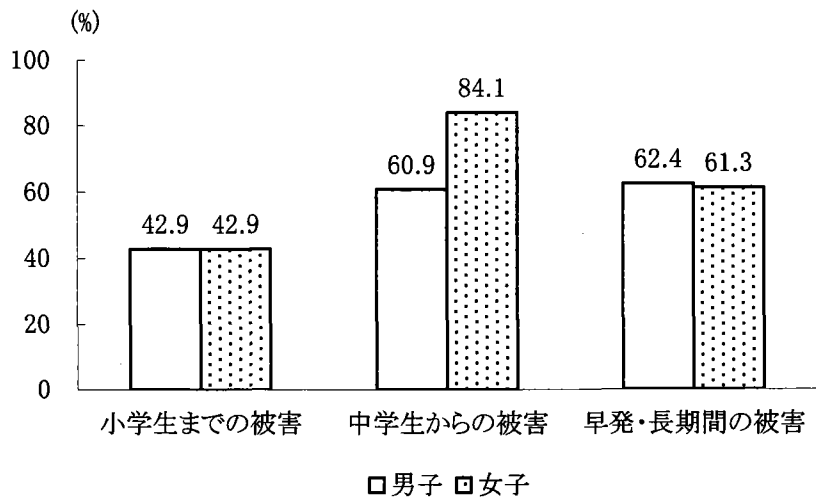
図12 身体的暴力等を受けた経験の表出の有無（一般反復群・被害期間別）

図12-1 恐喝



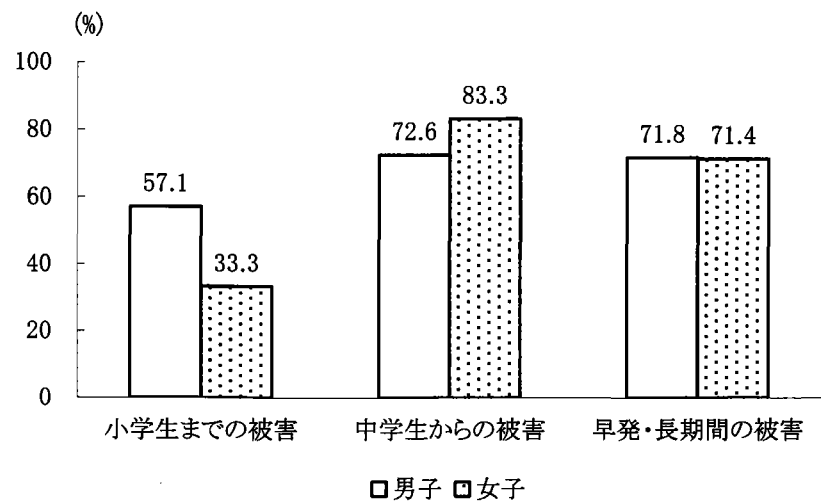
		恐喝			検定結果
		言ったことがある	言ったことはない	合計	
男子	小学生までの被害	18 (62.1)	11 (37.9)	29 (100.0)	$\chi^2(1)=1.836$ p=0.399
	中学生からの被害	413 (73.4)	150 (26.6)	563 (100.0)	
	早発・長期間の被害	135 (71.8)	53 (28.2)	188 (100.0)	
	合計	566 (72.6)	214 (27.4)	780 (100.0)	
女子	小学生までの被害	2 (66.7)	1 (33.3)	3 (100.0)	(m) p=0.229
	中学生からの被害	21 (95.5)	1 (4.5)	22 (100.0)	
	早発・長期間の被害	6 (85.7)	1 (14.3)	7 (100.0)	
	合計	29 (90.6)	3 (9.4)	32 (100.0)	

図12-2 身体的被害①（軽度）



		身体的暴力①(軽度)			
		言ったことがある	言ったことはない	合計	
男子	小学生までの被害	33 (42.9) ▼[-3.2]	44 (57.1) △[-3.2]	77 (100.0)	$\chi^2(1)=10.590$ p=0.005**
	中学生からの被害	294 (60.9) [0.5]	189 (39.1) [-0.5]	483 (100.0)	
	早発・長期間の被害	259 (62.4) [1.3]	156 (37.6) [-1.3]	415 (100.0)	
	合計	586 (60.1)	389 (39.9)	975 (100.0)	
女子	小学生までの被害	3 (42.9) ▼[-2.0]	4 (57.1) △[2.0]	7 (100.0)	$\chi^2(1)=9.548$ p=0.008**
	中学生からの被害	53 (84.1) △[2.9]	10 (15.9) ▼[-2.9]	63 (100.0)	
	早発・長期間の被害	19 (61.3) ▼[-2.0]	12 (38.7) △[2.0]	31 (100.0)	
	合計	75 (74.3)	26 (25.7)	101 (100.0)	

図12-3 身体的暴力②（重度）



		身体的暴力②(重度)			
		言ったことがある	言ったことはない	合計	
男子	小学生までの被害	8 (57.1)	6 (42.9)	14 (100.0)	$\chi^2(1)=1.659$ p=0.436
	中学生からの被害	653 (72.6)	247 (27.4)	900 (100.0)	
	早発・長期間の被害	209 (71.8)	82 (28.2)	291 (100.0)	
	合計	870 (72.2)	335 (27.8)	1,205 (100.0)	
女子	小学生までの被害	1 (33.3)	2 (66.7)	3 (100.0)	(m) p=0.076
	中学生からの被害	85 (83.3)	17 (16.7)	102 (100.0)	
	早発・長期間の被害	10 (71.4)	4 (28.6)	14 (100.0)	
	合計	96 (80.7)	23 (19.3)	119 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 「言ったことはない」は、「覚えていない」を含む。
5 表1の注6に同じ。
6 図1の注3に同じ。
7 図9の注3に同じ。

(2) 身体的暴力等を受けた経験を表出した者

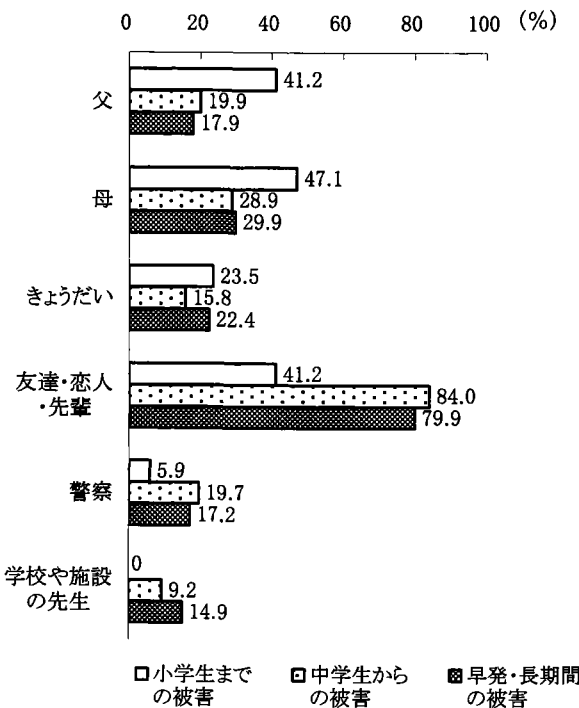
ア 相手

少年が恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の被害を受けたことを話した相手（問4のa，重複選択）を見ると，いずれの加害行為についても，男女ともどちらの群においても，友達・恋人・先輩の比率が最も高く，次いで，母となっている（資料 p110参照）。

図13は，少年が身体的暴力等の被害を受けたことを話した相手（問4のa，重複選択）を，被害期間別に見たものである（女子については，グラフを省略した。）。いずれの加害行為についても，男女とも，小学生までの被害では，父，母及びきょうだいの比率が高いのに対し，中学生からの被害と早発・長期間の被害では，友達・恋人・先輩の比率が高くなっている。また，「被害経験を話した相手」のいくつかについて，群間に有意差が見られる。男子の場合，恐喝では友達・恋人・先輩とする者が，小学生までの被害で有意に少なく，中学生からの被害で有意に多くなっている。身体的暴力①と②はほぼ同様の傾向で，小学生までの被害では友達・恋人・先輩が有意に少なく，中学生からの被害では母，きょうだい及び先生が有意に少なく，早発・長期間の被害では母及びきょうだいが有意に多くなっている。この他，先生（①の小学生までの被害，②の早発・長期間の被害），友達・恋人・先輩（②の中学生からの被害）も有意に多くなっている。

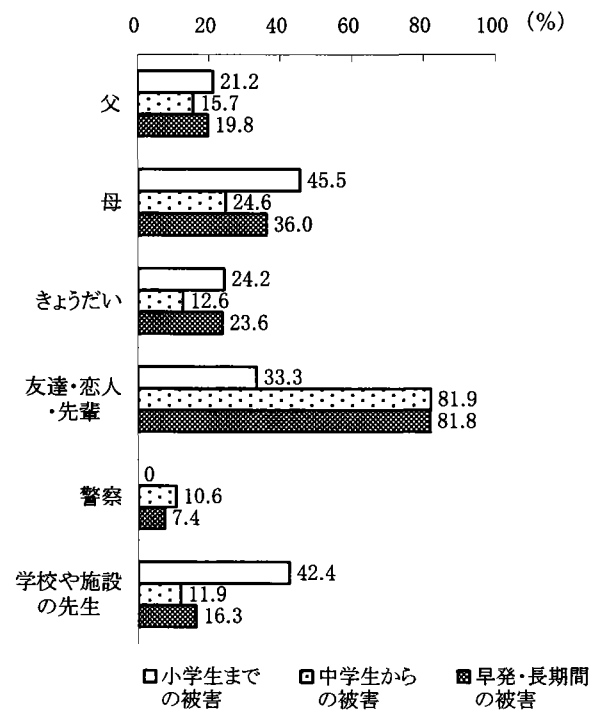
図13 身体的暴力等の被害経験を話した相手（一般反復群男子・被害期間別）

図13-1 恐喝



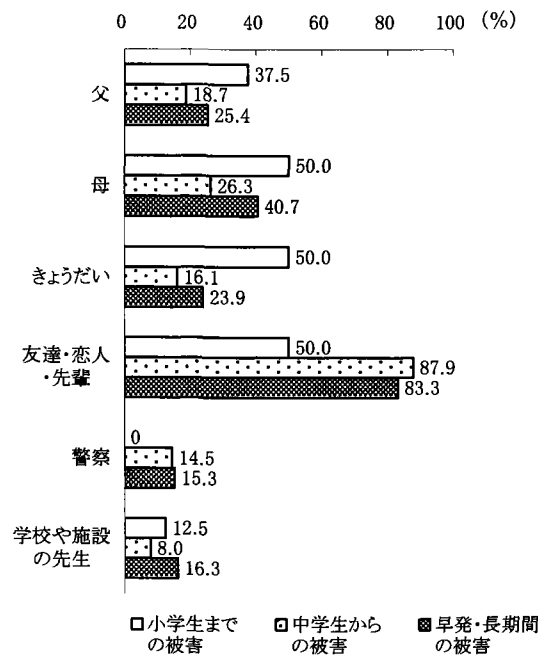
	被害期間	被害経験を話した相手						
		父	母	きょうだい	友達・恋人・先輩	警察	学校や施設の先生	総数
男子	小学生までの被害	7 (41.2)	8 (47.1)	4 (23.5)	7 (41.2) ▼[-4.4]	1 (5.9)	0 -	17
	中学生からの被害	82 (19.9)	119 (28.9)	65 (15.8)	346 (84.0) △[2.3]	81 (19.7)	38 (9.2)	412
	早発・長期間の被害	24 (17.9)	40 (29.9)	30 (22.4)	107 (79.9) [-0.6]	23 (17.2)	20 (14.9)	134
	総数	113 (20.1)	167 (29.7)	99 (17.6)	460 (81.7)	105 (18.7)	58 (10.3)	563
	検定結果	$\chi^2(2)=5.117$ p=0.077	$\chi^2(2)=2.588$ p=0.274	$\chi^2(2)=3.477$ p=0.176	$\chi^2(2)=20.416$ p=0.000**	$\chi^2(2)=2.299$ p=0.317	$\chi^2(2)=5.571$ p=0.062	
女子	小学生までの被害	1	1	1	2	0	0	2
	中学生からの被害	5 (23.8)	8 (38.1)	4 (19.0)	13 (61.9)	8 (38.1)	4 (19.0)	21
	早発・長期間の被害	2	4	2	6	1	2	6
	総数	8 (27.6)	13 (44.8)	7 (24.1)	21 (72.4)	9 (31.0)	6 (20.7)	29
	検定結果	(m) p=1.000	(m) p=0.671	(m) p=0.438	(m) p=0.143	(m) p=0.435	(m) p=0.742	

図13-2 身体的暴力①（軽度）



	被害期間	被害経験を話した相手						
		父	母	きょうだい	友達・恋人・先輩	警察	学校や施設の先生	総数
男子	小学生までの被害	7 (21.2)	15 (45.5)	8 (24.2)	11 (33.3)	0 -	14 (42.4)	33
			[1.9]	[0.9]	▼[-6.7]		△[4.4]	
	中学生からの被害	46 (15.7)	72 (24.6)	37 (12.6)	240 (81.9)	31 (10.6)	35 (11.9)	293
			▼[-3.3]	▼[-3.5]	[1.7]		▼[-2.4]	
	早発・長期間の被害	51 (19.8)	93 (36.0)	61 (23.6)	211 (81.8)	19 (7.4)	42 (16.3)	258
			△[2.4]	△[3.1]	[1.4]		[0.4]	
	総数	104 (17.8)	180 (30.8)	106 (18.2)	462 (79.1)	50 (8.6)	91 (15.6)	584
	検定結果	$\chi^2(2)=1.828$ p=0.401	$\chi^2(2)=11.982$ p=0.003**	$\chi^2(2)=12.079$ p=0.002**	$\chi^2(2)=44.350$ p=0.000**	$\chi^2(2)=5.087$ p=0.079	$\chi^2(2)=21.117$ p=0.000**	
女子	小学生までの被害	1	2	0	1	0	1	3
					▼[-2.0]			
	中学生からの被害	11 (20.8)	22 (41.5)	18 (34.0)	39 (73.6)	7 (13.2)	4 (7.5)	53
					[-1.7]			
	早発・長期間の被害	1 (5.3)	8 (42.1)	3 (15.8)	19 (100.0)	2 (10.5)	5 (26.3)	19
					△[2.6]			
	総数	13 (17.3)	32 (42.7)	21 (28.0)	59 (78.7)	9 (12.0)	10 (13.3)	75
	検定結果	(m) p=0.222	(m) p=0.751	(m) p=0.169	(m) p=0.011*	(m) p=1.000	(m) p=0.071	

図13-3 身体的暴力②（重度）



	被害期間	被害経験を話した相手						
		父	母	きょうだい	友達・恋人・先輩	警察	学校や施設の先生	総数
男子	小学生までの被害	3 (37.5)	4	4	4	0	1	8
			[1.2]	△[2.3]	▼[-3.0]		[0.2]	
	中学生からの被害	122 (18.7)	172 (26.3)	105 (16.1)	574 (87.9)	95 (14.5)	52 (8.0)	653
			▼[-4.1]	▼[-2.9]	△[2.2]		▼[-3.5]	
	早発・長期間の被害	53 (25.4)	85 (40.7)	50 (23.9)	174 (83.3)	32 (15.3)	34 (16.3)	209
			△[3.9]	△[2.4]	[-1.5]		△[3.5]	
女子	総数	178 (20.5)	261 (30.0)	159 (18.3)	752 (86.4)	127 (14.6)	87 (10.0)	870
	検定結果	$\chi^2(2)=5.777$ $p=0.050$	$\chi^2(2)=17.020$ $p=0.000^{**}$	$\chi^2(2)=11.963$ $p=0.003^{**}$	$\chi^2(2)=12.062$ $p=0.002^{**}$	$\chi^2(2)=1.545$ $p=0.483$	$\chi^2(2)=12.189$ $p=0.002^{**}$	
	小学生までの被害	1	1	0	0	0	1	1
							△[2.9]	
	中学生からの被害	15 (17.6)	34 (40.0)	21 (24.7)	69 (81.2)	21 (24.7)	6 (7.1)	85
女子							▼[-3.0]	
	早発・長期間の被害	1	2	0	9	1	3	10
							△[2.1]	
	総数	17 (17.7)	37 (38.5)	21 (21.9)	78 (81.3)	22 (22.9)	10 (10.4)	96
	検定結果	(m) $p=0.130$	(m) $p=0.169$	(m) $p=0.309$	(m) $p=0.139$	(m) $p=0.574$	(m) $p=0.007^{**}$	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 「被害経験を話した相手」については、重複選択である。
4 ()内は、総数に対する比率である。
5 図1の注3に同じ。
6 図5の注7に同じ。
7 図9の注3に同じ。

イ 相手の反応

恐喝，身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の被害を受けた経験を話した者に対し，「あなたの話を信じてくれた人はいましたか」（問４のb）と尋ねた結果を見ると，いずれの加害行為についても，男女ともどちらの群も，信じてくれた人がいたとする者の比率は70%以上である（資料p111参照）。

表５は，これを被害期間別に見たものである。男子の恐喝及び身体的暴力①について，小学生までの被害で信じてくれた人がいなかったとするものが有意に多い。

表 5 身体的暴力等の被害経験を信じてくれた人の有無（被害期間別）

	被害期間	恐喝			検定結果
		いた	いなかった	合計	
男子	小学生までの被害	12 (75.0) ▼[-2.6]	4 (25.0) △[2.6]	16 (100.0)	$\chi^2(1)=6.764$ $p=0.034^*$
	中学生からの被害	341 (92.9) [1.1]	26 (7.1) [-1.1]	367 (100.0)	
	早発・長期間の被害	112 (91.8) [-0.1]	10 (8.2) [0.1]	122 (100.0)	
	合計	465 (92.1)	40 (7.9)	505 (100.0)	
女子	小学生までの被害	1	1	2	(m) $p=0.096$
	中学生からの被害	19 (90.5)	2 (9.5)	21 (100.0)	
	早発・長期間の被害	3	2	5	
	合計	23 (82.1)	5 (17.9)	28 (100.0)	

	被害期間	身体的暴力①(軽度)				身体的暴力②(重度)			
		いた	いなかった	合計		いた	いなかった	合計	
男子	小学生までの被害	19 (57.6) ▼[-2.5]	14 (42.4) △[2.5]	33 (100.0)	$\chi^2(1)=9.379$ $p=0.009^{**}$	6	2	8	$\chi^2(1)=2.761$ $p=0.251$
	中学生からの被害	235 (79.7) △[2.4]	60 (20.3) ▼[-2.4]	295 (100.0)		476 (72.9)	177 (27.1)	653 (100.0)	
	早発・長期間の被害	189 (73.0) [-1.2]	70 (27.0) [1.2]	259 (100.0)		140 (67.0)	69 (33.0)	209 (100.0)	
	合計	443 (75.5)	144 (24.5)	587 (100.0)		622 (71.5)	248 (28.5)	870 (100.0)	
女子	小学生までの被害	3	0	3	(m) $p=0.303$	1	0	1	(m) $p=1.000$
	中学生からの被害	43 (81.1)	10 (18.9)	53 (100.0)		68 (80.0)	17 (20.0)	85 (100.0)	
	早発・長期間の被害	12 (66.7)	6 (33.3)	18 (100.0)		8 (80.0)	2 (20.0)	10 (100.0)	
	合計	58 (78.4)	16 (21.6)	74 (100.0)		77 (80.2)	19 (19.8)	96 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 「いなかった」は、「わからない」を含む。
5 図1の注3に同じ。
6 図5の注7に同じ。
7 図9の注3に同じ。

表6は、恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の被害経験を話した相手が1人である者について、話を信じてくれたかどうかを、男女について相手別に見たものである。いずれの加害行為も男子で有意差が見られ、信じてくれた人は、友達・恋人・先輩で有意に多く、父（②）、母（恐喝、②）、警察（恐喝）及び先生（①）で有意に少なくなっている。

表6 身体的暴力等の被害経験を信じてくれた人の比率（言った相手別）

	言った相手	恐喝			身体的暴力①(軽度)			身体的暴力②(重度)		
		信じてくれた 人がいた	合計	検定結果	信じてくれた 人がいた	合計	検定結果	信じてくれた 人がいた	合計	検定結果
男子	合計	440 (91.3)	482 (100.0)	(m) p=0.000**	347 (75.6)	459 (100.0)	(m) p=0.001**	492 (70.7)	696 (100.0)	(m) p=0.043*
	父	7 (77.8) [-1.5]	9 (100.0)		3 (100.0) [1.0]	3 (100.0)		2 (33.3) ▼[-2.0]	6 (100.0)	
	母	23 (79.3) ▼[-2.4]	29 (100.0)		20 (66.7) [-1.2]	30 (100.0)		12 (50.0) ▼[-2.3]	24 (100.0)	
	きょうだい	10 (90.9) [0.0]	11 (100.0)		8 (100.0) [1.6]	8 (100.0)		8 (66.7) [-0.3]	12 (100.0)	
	友達・先輩 ・恋人	374 (94.4) △[5.3]	396 (100.0)		296 (78.1) △[2.7]	379 (100.0)		447 (72.3) △[2.7]	618 (100.0)	
	警察	11 (55.0) ▼[-5.9]	20 (100.0)		2 (100.0) [0.8]	2 (100.0)		7 (50.0) [-1.7]	14 (100.0)	
	学校や施設 の先生	9 (81.8) [-1.1]	11 (100.0)		13 (48.1) ▼[-3.4]	27 (100.0)		8 (72.7) [0.1]	11 (100.0)	
	その他	6 (100.0) [0.8]	6 (100.0)		5 (50.0) [-1.9]	10 (100.0)		8 (72.7) [0.1]	11 (100.0)	
女子	合計	18 (81.8)	22 (100.0)	(m) p=0.819	39 (78.0)	50 (100.0)	(m) p=0.409	55 (79.7)	69 (100.0)	(m) p=0.835
	父	1 (100.0)	1 (100.0)		0 -	1 (100.0)		0 -	0 -	
	母	1 (100.0)	1 (100.0)		3 (75.0)	4 (100.0)		6 (75.0)	8 (100.0)	
	きょうだい	1 (100.0)	1 (100.0)		3 (75.0)	4 (100.0)		3 (100.0)	3 (100.0)	
	友達・先輩 ・恋人	12 (80.0)	15 (100.0)		29 (82.9)	35 (100.0)		44 (78.6)	56 (100.0)	
	警察	1 (100.0)	1 (100.0)		1 (100.0)	1 (100.0)		0 -	0 -	
	学校や施設 の先生	1 (50.0)	2 (100.0)		3 (60.0)	5 (100.0)		1 (100.0)	1 (100.0)	
	その他	1 (100.0)	1 (100.0)		0 -	0 -		1 (100.0)	1 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 表は、「信じてくれた人がいた」とするもののみ挙げている。

4 ()内は、構成比である。

5 図1の注3に同じ。

6 図5の注7に同じ。

7 図9の注3に同じ。

(3) 身体的暴力等を受けた経験を表出しなかった者**ア 表出しなかった理由**

図14は、恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の被害を受けた経験を誰にも話さなかったとする者に対し、その理由（問4のc、重複選択）を尋ねた結果を、3群について見たものである（女子は、グラフを省略した。）。男子のいくつかの項目で群間に有意差が見られ、いずれの加害行為においても、「たいした被害ではなかった」は一般単回群で、「言ってもむだだと思った」、「言うと、かえってひどい目にあうと思った」は一般反復群で、それぞれ有意に多くなっている。

図14 身体的暴力等の被害経験を話さなかった理由（男子）

図14-1 恐喝

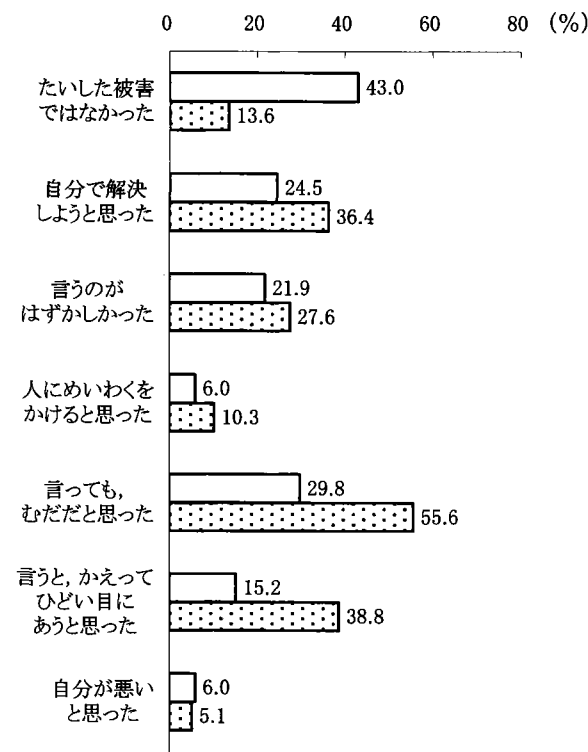


図14-2 身体的暴力①（軽度）

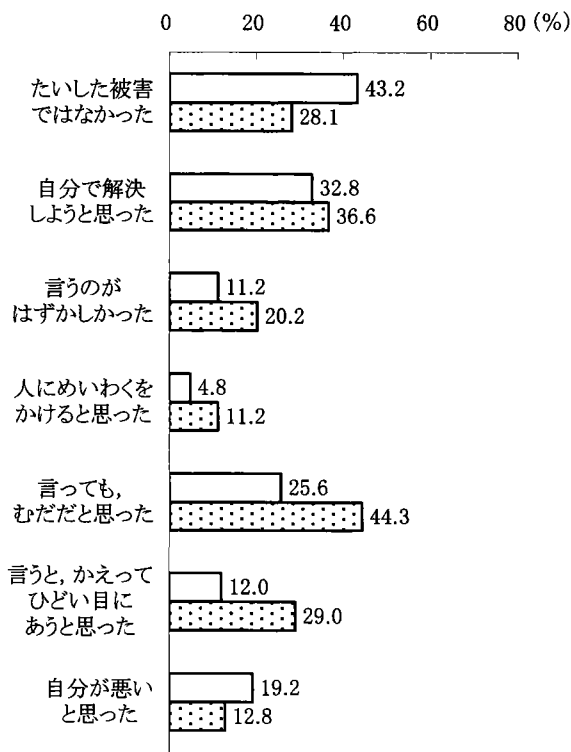
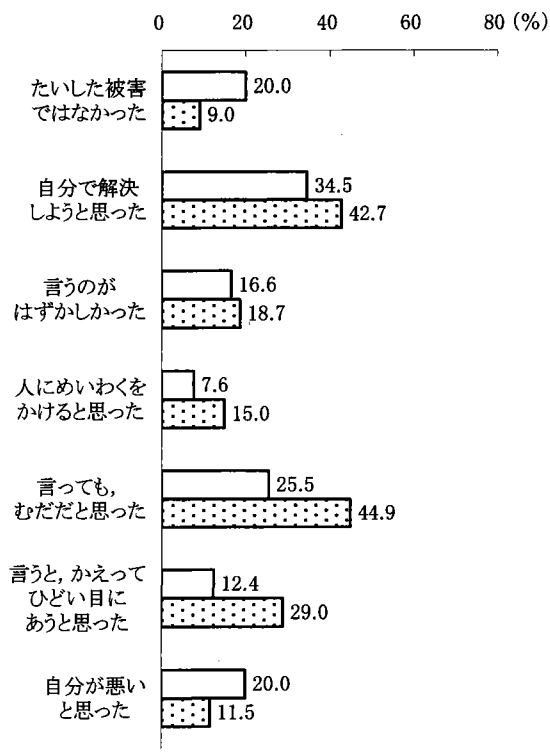


図14-3 身体的暴力②（重度）



□一般単回群 ■一般反復群

			たいした被害 ではなかった	自分で解決 しようと思った	言うのがはず かしかった	人にめいわく をかけたと思っ た	言っても、む だだと思った	言うとかえっ てひどい目に あうと思った	自分が悪いと 思った	総数
恐 喝	男子	一般単回群	65 (43.0)	37 (24.5)	33 (21.9)	9 (6.0)	45 (29.8)	23 (15.2)	9 (6.0)	151
		一般反復群	29 (13.6)	78 (36.4)	59 (27.6)	22 (10.3)	119 (55.6)	83 (38.8)	11 (5.1)	214
		合計	94 (25.8)	115 (31.5)	92 (25.2)	31 (8.5)	164 (44.9)	106 (29.0)	20 (5.5)	365
		検定結果	$\chi^2(2)=40.279$ $p=0.000^{**}$	$\chi^2(2)=5.854$ $p=0.016^*$	$\chi^2(2)=1.534$ $p=0.215$	$\chi^2(2)=2.126$ $p=0.145$	$\chi^2(2)=23.828$ $p=0.000^{**}$	$\chi^2(2)=23.833$ $p=0.000^{**}$	$\chi^2(2)=0.115$ $p=0.735$	
	女子	一般単回群	0	1	0	0	1	1	1	2
		一般反復群	0	1	1	4	3	4	0	5
		合計	0	2	1	4	4	5	1	7
		検定結果	—	(f) $p=1.000$	(f) $p=1.000$	(f) $p=0.143$	(f) $p=1.000$	(f) $p=1.000$	(f) $p=0.286$	
身体的 暴力① (軽度)	男子	一般単回群	54 (43.2)	41 (32.8)	14 (11.2)	6 (4.8)	32 (25.6)	15 (12.0)	24 (19.2)	125
		一般反復群	103 (28.1)	134 (36.6)	74 (20.2)	41 (11.2)	162 (44.3)	106 (29.0)	47 (12.8)	366
		合計	157 (32.0)	175 (35.6)	88 (17.9)	47 (9.6)	194 (39.5)	121 (24.6)	71 (14.5)	491
		検定結果	$\chi^2(2)=9.713$ $p=0.002^{**}$	$\chi^2(2)=0.590$ $p=0.442$	$\chi^2(2)=5.152$ $p=0.023^*$	$\chi^2(2)=4.412$ $p=0.036^*$	$\chi^2(2)=13.578$ $p=0.000^{**}$	$\chi^2(2)=14.435$ $p=0.000^{**}$	$\chi^2(2)=3.046$ $p=0.081$	
	女子	一般単回群	2	0	1	0	2	2	1	7
		一般反復群	5 (19.2)	5 (19.2)	11 (42.3)	3 (11.5)	16 (61.5)	16 (61.5)	4 (15.4)	26
		合計	7 (21.2)	5 (15.2)	12 (36.4)	3 (9.1)	18 (54.5)	18 (54.5)	5 (15.2)	33
		検定結果	(f) $p=0.623$	(f) $p=0.559$	(f) $p=0.223$	(f) $p=1.000$	(f) $p=0.203$	(f) $p=0.203$	(f) $p=1.000$	
身体的 暴力② (重度)	男子	一般単回群	29 (20.0)	50 (34.5)	24 (16.6)	11 (7.6)	37 (25.5)	18 (12.4)	29 (20.0)	145
		一般反復群	29 (9.0)	137 (42.7)	60 (18.7)	48 (15.0)	144 (44.9)	93 (29.0)	37 (11.5)	321
		合計	58 (12.4)	187 (40.1)	84 (18.0)	59 (12.7)	181 (38.8)	111 (23.8)	66 (14.2)	466
		検定結果	$\chi^2(2)=11.022$ $p=0.001^{**}$	$\chi^2(2)=2.793$ $p=0.095$	$\chi^2(2)=0.310$ $p=0.578$	$\chi^2(2)=4.902$ $p=0.027^*$	$\chi^2(2)=15.731$ $p=0.000^{**}$	$\chi^2(2)=15.091$ $p=0.000^{**}$	$\chi^2(2)=5.899$ $p=0.015^*$	
	女子	一般単回群	2	0	1	0	1	0	1	4
		一般反復群	1 (4.8)	5 (23.8)	5 (23.8)	5 (23.8)	9 (42.9)	11 (52.4)	5 (23.8)	21
		合計	3 (12.0)	5 (20.0)	6 (24.0)	5 (20.0)	10 (40.0)	11 (44.0)	6 (24.0)	25
		検定結果	(f) $p=0.057$	(f) $p=0.549$	(f) $p=1.000$	(f) $p=0.549$	(f) $p=0.626$	(f) $p=0.105$	(f) $p=1.000$	

注1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 重複選択による。

4 グラフ及び表は、各理由に該当するもののみを挙げている。

5 ()内は、総数に対する比率である。

6 「検定結果」欄の「-」は、検定ができなかったことを示す。

7 図4の注6に同じ。

8 図5の注7に同じ。

イ 希望する相手

恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）を受けた経験を誰にも話さなかったとする者に対し、「もし、言うとしたら、誰に言いたかったですか」（問4のd、重複選択）と尋ねた結果を見ると、男女とも、いずれの加害行為についても、相談したかった相手として友達・恋人・先輩とする者の比率が最も高く、次いで、父、母、きょうだいといった家族の比率が高くなっている場合が多く（資料 p114参照）、群間に有意差は見られない。

一方、「誰にも言いたいと思わなかった」とする者は、男子が40%前後、女子は該当者が少なく数値にばらつきがあるが、おおむね30から60%となっており（資料 p115参照）、群間に有意差は見られない。

4 身体的暴力等の被害にあった時の行動

(1) 被害の状況別

表7は、恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の被害を受けた経験のある者に対し、「その被害にあって、あなたはどうしましたか」（問5、重複選択）と尋ねた結果について、各選択肢を選んだ者の総数に対する比率の高い順に五つを並べたものである（資料 p116, 117参照）。

男子では、いずれの加害行為も、またどちらの群についても、「じっとがまんした」とする者の比率が約40から50%と最も高くなっている。これに次いで、一般単回群では「気にしたり、考えたりしないようにした」（恐喝）、「相手にやり返した／仕返しをした」（①，②）が、一般反復群では「自分も他の人に同じようなことをした」（恐喝）、「相手にやり返した／仕返しをした」（①，②）が高い比率となっている。

女子でも、いずれの加害行為も、一般単回群では「じっとがまんした」とする者の比率が約40から60%と最も高く、次いで、「気にしたり、考えたりしないようにした」が高くなっている。一般反復群でも「じっとがまんした」とする者の比率が50%台と最も高く、次いで、恐喝では「やめるよう言った／言ってもなかった」及び「酒を飲んだ／薬物を使用した」、身体的暴力①では「相手にやり返した／仕返しをした」、同②では「酒を飲んだ／薬物を使用した」がそれぞれ高くなっている。

表7 身体的暴力等の被害にあった時の行動

		一般単回群	一般反復群
男子	恐喝	じつとがまんした (36.0)	じつとがまんした (53.5)
		気にしたり、考えたりしないようにした (29.2)	自分も他の人に同じようなことをした (32.7)
		自分も他の人に同じようなことをした (21.1)	相手にやり返した／仕返しをした (24.4)
		相手にやり返した／仕返しをした (15.8)	やめるよう言った／言ってもらった (23.1)
		やめるよう言った／言ってもらった (12.4)	気にしたり、考えたりしないようにした (22.8)
	身体的暴力①(軽度)	じつとがまんした (43.7)	じつとがまんした (53.7)
		相手にやり返した／仕返しをした (27.3)	相手にやり返した／仕返しをした (37.6)
		気にしたり、考えたりしないようにした (23.2)	自分も他の人に同じようなことをした (25.3)
		自分も他の人に同じようなことをした (13.3)	やつあたりや、いやがらせをした (23.6)
		やめるよう言った／言ってもらった (12.6)	気にしたり、考えたりしないようにした (21.0)
	身体的暴力②(重度)	じつとがまんした (46.1)	じつとがまんした (53.7)
		相手にやり返した／仕返しをした (24.2)	相手にやり返した／仕返しをした (37.0)
		気にしたり、考えたりしないようにした (21.9)	自分も他の人に同じようなことをした (26.3)
		自分も他の人に同じようなことをした (12.1)	酒を飲んだ／薬物を使用した (24.5)
		酒を飲んだ／薬物を使用した (11.5)	やつあたりや、いやがらせをした (21.5)
女子	恐喝	じつとがまんした (64.3)	じつとがまんした (57.1)
		気にしたり、考えたりしないようにした (21.4)	やめるよう言った／言ってもらった (37.1)
		何もしたくなかった (21.4)	酒を飲んだ／薬物を使用した (37.1)
		やめるよう言った／言ってもらった (14.3)	気にしたり、考えたりしないようにした (28.6)
		自分の体を傷つけた (14.3)	自殺しようとした (25.7) 自分の体を傷つけた (25.7)
	身体的暴力①(軽度)	じつとがまんした (53.8)	じつとがまんした (54.7)
		気にしたり、考えたりしないようにした (38.5)	相手にやり返した／仕返しをした (41.5)
		やめるよう言った／言ってもらった (19.2)	やめるよう言った／言ってもらった (37.7)
		何もしたくなかった (15.4)	酒を飲んだ／薬物を使用した (36.8)
		酒を飲んだ／薬物を使用した (15.4)	自分の体を傷つけた (23.6)
	身体的暴力②(重度)	じつとがまんした (40.0)	じつとがまんした (57.0)
		気にしたり、考えたりしないようにした (35.0)	酒を飲んだ／薬物を使用した (45.5)
		酒を飲んだ／薬物を使用した (30.0)	相手にやり返した／仕返しをした (38.8)
		相手にやり返した／仕返しをした (25.0)	やめるよう言った／言ってもらった (38.0)
		やめるよう言った／言ってもらった (22.5)	何もしたくなかった (22.3)

注1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 重複選択による。

4 ()内は、総数(資料p116参照)に対する比率である。

(2) 被害期間別

図15は、恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の一般反復群について、被害を受けた時の行動を、男女について被害期間別に見たもの（恐喝の女子は、グラフを省略した。）であるが、いくつかの項目について3群間で有意差が見られた。残差分析の結果、恐喝の男子では、「自分の体を傷つけた」及び「相手にやり返した／仕返しをした」が、中学生からの被害で有意に少なく、早発・長期間の被害で有意に多くなっている。

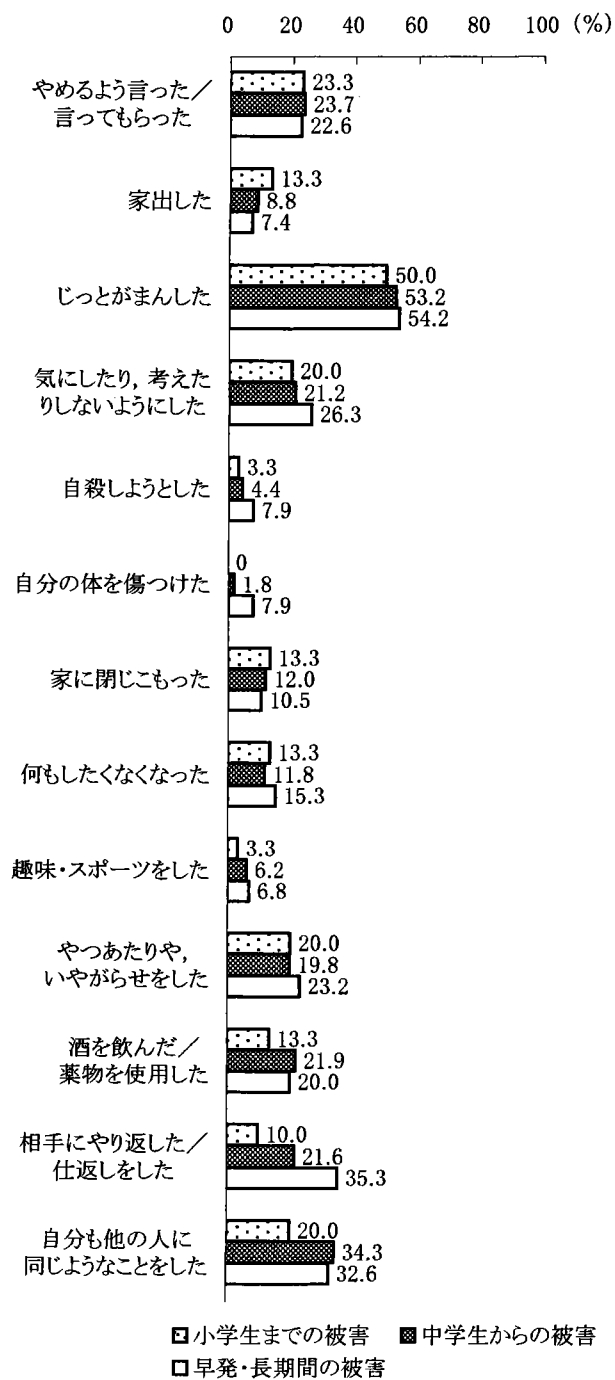
身体的暴力①では、男女とも、「やつあたりや、いやがらせをした」、「相手にやり返した／仕返しをした」及び「自分も他の人に同じようなことをした」が、中学生からの被害で有意に少なく、早発・長期間の被害で有意に多くなっている他、男子では「やめるよう言った／言ってもらった」が、女子では「酒を飲んだ／薬物を使用した」が、それぞれ早発・長期間の被害で有意に多くなっている。

身体的暴力②では、「家出した」、「やつあたりや、いやがらせをした」及び「自分も他の人に同じようなことをした」が、男女とも中学生からの被害で有意に少なく、早発・長期間の被害で有意に多くなっている。この他、男子では、「自殺しようとした」、「自分の体を傷つけた」、「趣味・スポーツをした」及び「相手にやり返した／仕返しをした」が同様の傾向にあり、女子では、「やめるよう言った／言ってもらった」が中学生からの被害で、「酒を飲んだ／薬物を使用した」が早発・長期間の被害で、それぞれ有意に多くなっている。

図15 身体的暴力等の被害にあった時の行動（一般反復群・被害期間別）

図15-1 恐喝

男子

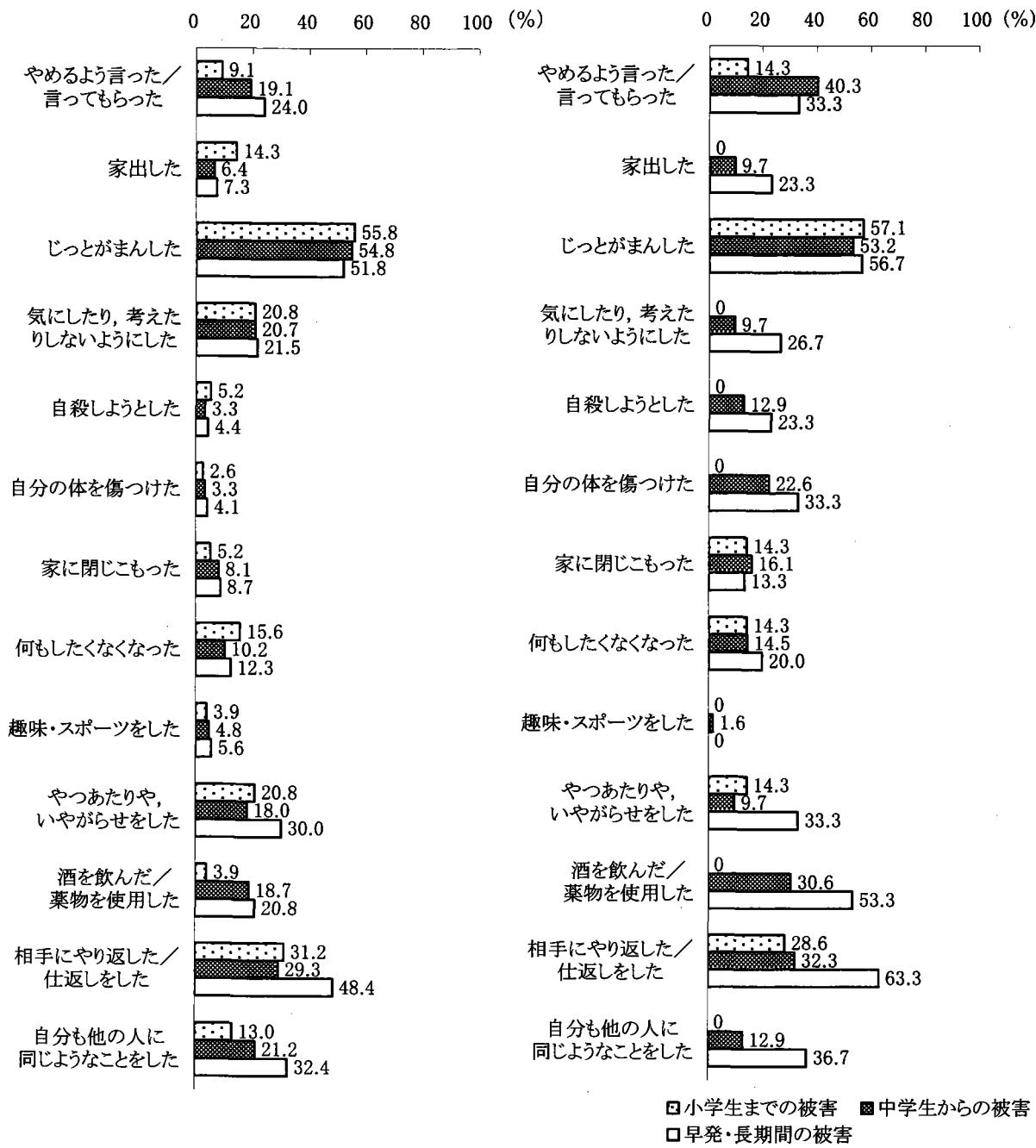


	男子					女子				
	小学生までの被害	中学生からの被害	早発・長期間の被害	合計	検定結果	小学生までの被害	中学生からの被害	早発・長期間の被害	合計	検定結果
やめるよう言った／言ってもらった	7 (23.3)	134 (23.7)	43 (22.6)	184 (23.4)	$\chi^2(2)=0.086$ $p=0.958$	1 (50.0)	7 (31.8)	4 (57.1)	12 (38.7)	(m) $p=0.571$
家出した	4 (13.3)	50 (8.8)	14 (7.4)	68 (8.7)	$\chi^2(2)=1.252$ $p=0.535$	0 -	2 (9.1)	3 (42.9)	5 (16.1)	(m) $p=0.079$
じっとがまんした	15 (50.0)	301 (53.2)	103 (54.2)	419 (53.3)	$\chi^2(2)=0.198$ $p=0.906$	1 (50.0)	12 (54.5)	4 (57.1)	17 (54.8)	(m) $p=1.000$
気にしたり、考えた りしないようにした	6 (20.0)	120 (21.2)	50 (26.3)	176 (22.4)	$\chi^2(2)=2.244$ $p=0.326$	1 (50.0)	6 (27.3)	1 (14.3)	8 (25.8)	(m) $p=0.660$
自殺しようとした	1 (3.3)	25 (4.4)	15 (7.9)	41 (5.2)	$\chi^2(2)=3.703$ $p=0.157$	0 -	5 (22.7)	3 (42.9)	8 (25.8)	(m) $p=0.371$
自分の体を傷つけた	0 - [-1.0]	10 (1.8) ▼[-3.6]	15 (7.9) △[4.3]	25 (3.2)	$\chi^2(2)=18.371$ $p=0.000^{**}$	0 -	7 (31.8)	1 (14.3)	8 (25.8)	(m) $p=0.531$
家に閉じこもった	4 (13.3)	68 (12.0)	20 (10.5)	92 (11.7)	$\chi^2(2)=0.385$ $p=0.825$	0 -	4 (18.2)	2 (28.6)	6 (19.4)	(m) $p=0.752$
何もしたくなかった	4 (13.3)	67 (11.8)	29 (15.3)	100 (12.7)	$\chi^2(2)=1.514$ $p=0.469$	0 -	6 (27.3)	1 (14.3)	7 (22.6)	(m) $p=0.790$
趣味・スポーツをした	1 (3.3)	35 (6.2)	13 (6.8)	49 (6.2)	$\chi^2(2)=0.554$ $p=0.758$	0 -	0 -	0 -	0 -	-
やつあたりや、 いやがらせをした	6 (20.0)	112 (19.8)	44 (23.2)	162 (20.6)	$\chi^2(2)=0.994$ $p=0.608$	0 - [-0.6]	0 - ▼[-3.4]	4 (57.1) △[4.0]	4 (12.9)	(m) $p=0.002^{**}$
酒を飲んだ／ 薬物を使用した	4 (13.3)	124 (21.9)	38 (20.0)	166 (21.1)	$\chi^2(2)=1.446$ $p=0.485$	0 -	8 (36.4)	4 (57.1)	12 (38.7)	(m) $p=0.321$
相手にやり返した／ 仕返しをした	3 (10.0) [-1.9]	122 (21.6) ▼[-3.0]	67 (35.3) △[4.0]	192 (24.4)	$\chi^2(2)=17.997$ $p=0.000^{**}$	0 -	3 (13.6)	2 (28.6)	5 (16.1)	(m) $p=0.698$
自分も他の人に 同じようなことをした	6 (20.0)	194 (34.3)	62 (32.6)	262 (33.3)	$\chi^2(2)=2.668$ $p=0.263$	0 -	3 (13.6)	3 (42.9)	6 (19.4)	(m) $p=0.138$
総数	30	566	190	786		2	22	7	31	

図15-2 身体的暴力①（軽度）

男子

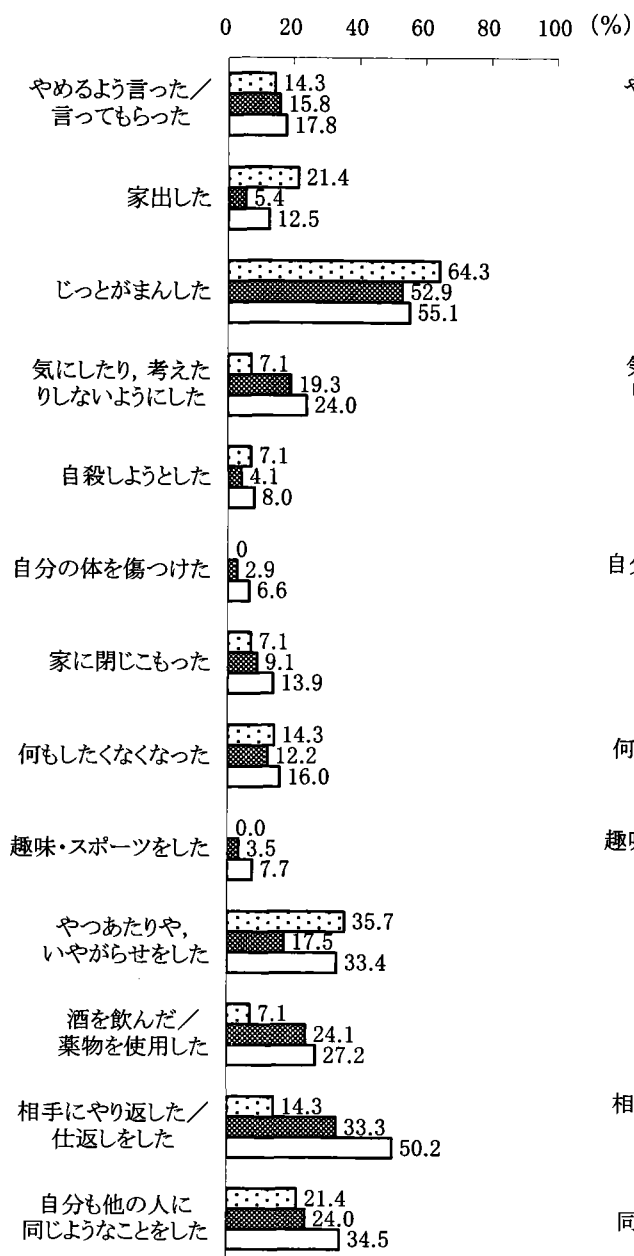
女子



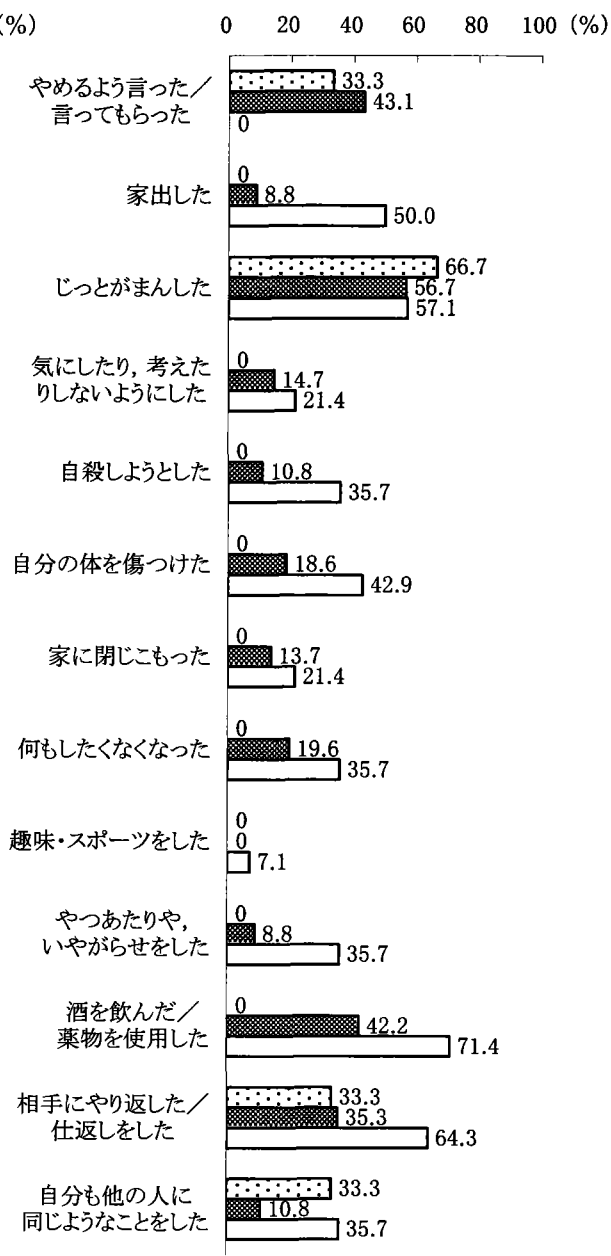
	男子					女子				
	小学生までの被害	中学生からの被害	早発・長期間の被害	合計	検定結果	小学生までの被害	中学生からの被害	早発・長期間の被害	合計	検定結果
やめるよう言った／言ってもらった	7 (9.1) ▼[-2.6]	92 (19.1) [-1.0]	99 (24.0) △[2.4]	198 (20.4)	$\chi^2(2)=9.830$ $p=0.007^{**}$	1 (14.3)	25 (40.3)	10 (33.3)	36 (36.4)	(m) $p=0.355$
家出した	11 (14.3) △[2.4]	31 (6.4) [-1.2]	30 (7.3) [-0.1]	72 (7.4)	$\chi^2(2)=5.993$ $p=0.0499^*$	0 -	6 (9.7)	7 (23.3)	13 (13.1)	(m) $p=0.112$
じつとがまんした	43 (55.8)	264 (54.8)	214 (51.8)	521 (53.6)	$\chi^2(2)=0.951$ $p=0.622$	4 (57.1)	33 (53.2)	17 (56.7)	54 (54.5)	(m) $p=0.945$
気にしたり、考えたりしないようにした	16 (20.8)	100 (20.7)	89 (21.5)	205 (21.1)	$\chi^2(2)=0.091$ $p=0.956$	0 -	6 (9.7)	8 (26.7)	14 (14.1)	(m) $p=0.052$
自殺しようとした	4 (5.2)	16 (3.3)	18 (4.4)	38 (3.9)	$\chi^2(2)=1.007$ $p=0.604$	0 -	8 (12.9)	7 (23.3)	15 (15.2)	(m) $p=0.194$
自分の体を傷つけた	2 (2.6)	16 (3.3)	17 (4.1)	35 (3.6)	$\chi^2(2)=0.649$ $p=0.723$	0 -	14 (22.6)	10 (33.3)	24 (24.2)	(m) $p=0.181$
家に閉じこもった	4 (5.2)	39 (8.1)	36 (8.7)	79 (8.1)	$\chi^2(2)=1.080$ $p=0.583$	1 (14.3)	10 (16.1)	4 (13.3)	15 (15.2)	(m) $p=0.901$
何もしたくなかった	12 (15.6)	49 (10.2)	51 (12.3)	112 (11.5)	$\chi^2(2)=2.393$ $p=0.302$	1 (14.3)	9 (14.5)	6 (20.0)	16 (16.2)	(m) $p=0.815$
趣味・スポーツをした	3 (3.9)	23 (4.8)	23 (5.6)	49 (5.0)	$\chi^2(2)=0.536$ $p=0.765$	0 -	1 (1.6)	0 -	1 (1.0)	(m) $p=1.000$
やつあたりや、いやがらせをした	16 (20.8) [-0.6]	87 (18.0) ▼[-3.9]	124 (30.0) △[4.2]	227 (23.4)	$\chi^2(2)=18.127$ $p=0.000^{**}$	1 (14.3) [-0.2]	6 (9.7) ▼[-2.6]	10 (33.3) △[2.8]	17 (17.2)	$\chi^2(2)=7.999$ $p=0.018^*$
酒を飲んだ／薬物を使用した	3 (3.9) ▼[-3.4]	90 (18.7) [0.2]	86 (20.8) [1.7]	179 (18.4)	$\chi^2(2)=12.419$ $p=0.002^{**}$	0 - ▼[-2.0]	19 (30.6) [-1.3]	16 (53.3) △[2.5]	35 (35.4)	(m) $p=0.012^*$
相手にやり返した／仕返しをした	24 (31.2) [-1.2]	141 (29.3) ▼[-5.3]	200 (48.4) △[6.0]	365 (37.6)	$\chi^2(2)=36.319$ $p=0.000^{**}$	2 (28.6) [-0.7]	20 (32.3) ▼[-2.4]	19 (63.3) △[2.9]	41 (41.4)	(m) $p=0.011^*$
自分も他の人に同じようなことをした	10 (13.0) ▼[-2.6]	102 (21.2) ▼[-2.9]	134 (32.4) △[4.4]	246 (25.3)	$\chi^2(2)=21.581$ $p=0.000^{**}$	0 - [-1.3]	8 (12.9) ▼[-2.1]	11 (36.7) △[2.9]	19 (19.2)	$\chi^2(2)=9.151$ $p=0.011^*$
総数	77	482	413	972		7	62	30	99	

図15-3 身体的暴力②（重度）

男子



女子



■ 小学生までの被害 ■ 中学生からの被害
 □ 早発・長期間の被害

	男子					女子				
	小学生までの被害	中学生からの被害	早発・長期間の被害	合計	検定結果	小学生までの被害	中学生からの被害	早発・長期間の被害	合計	検定結果
やめるよう言った／言ってもらった	2 (14.3)	141 (15.8)	51 (17.8)	194 (16.3)	$\chi^2(2)=0.655$ $p=0.721$	1 (33.3) [-0.2]	44 (43.1) △[2.9]	0 - ▼[-3.1]	45 (37.8)	(m) $p=0.003^{**}$
家出した	3 (21.4) △[2.0]	48 (5.4) ▼[-4.4]	36 (12.5) △[3.9]	87 (7.3)	$\chi^2(2)=20.663$ $p=0.000^{**}$	0 - [-0.7]	9 (8.8) ▼[-3.6]	7 (50.0) △[4.3]	16 (13.4)	(m) $p=0.003^{**}$
じつとがまんした	9 (64.3)	472 (52.9)	158 (55.1)	639 (53.6)	$\chi^2(2)=1.054$ $p=0.590$	2 (66.7)	58 (56.9)	8 (57.1)	68 (57.1)	(m) $p=1.000$
気にしたり、考えたりしないようにした	1 (7.1)	172 (19.3)	69 (24.0)	242 (20.3)	$\chi^2(2)=4.555$ $p=0.103$	0 -	15 (14.7)	3 (21.4)	18 (15.1)	(m) $p=0.704$
自殺しようとした	1 (7.1) [0.3]	37 (4.1) ▼[-2.6]	23 (8.0) △[2.6]	61 (5.1)	$\chi^2(2)=6.809$ $p=0.033^*$	0 -	11 (10.8)	5 (35.7)	16 (13.4)	(m) $p=0.070$
自分の体を傷つけた	0 - [-0.7]	26 (2.9) ▼[-2.7]	19 (6.6) △[2.9]	45 (3.8)	$\chi^2(2)=8.769$ $p=0.012^*$	0 -	19 (18.6)	6 (42.9)	25 (21.0)	(m) $p=0.083$
家に閉じこもった	1 (7.1)	81 (9.1)	40 (13.9)	122 (10.2)	$\chi^2(2)=5.725$ $p=0.057$	0 -	14 (13.7)	3 (21.4)	17 (14.3)	(m) $p=0.702$
何もしたくなかった	2 (14.3)	109 (12.2)	46 (16.0)	157 (13.2)	$\chi^2(2)=2.771$ $p=0.250$	0 -	20 (19.6)	5 (35.7)	25 (21.0)	(m) $p=0.286$
趣味・スポーツをした	0 - [-0.8]	31 (3.5) ▼[-2.8]	22 (7.7) △[3.0]	53 (4.4)	$\chi^2(2)=9.639$ $p=0.008^{**}$	0 -	0 -	1 (7.1)	1 (0.8)	(m) $p=0.149$
やつあたりや、いやがらせをした	5 (35.7) [1.3]	156 (17.5) ▼[-5.9]	96 (33.4) △[5.6]	257 (21.5)	$\chi^2(2)=34.411$ $p=0.000^{**}$	0 - [-0.6]	9 (8.8) ▼[-2.4]	5 (35.7) △[3.0]	14 (11.8)	(m) $p=0.049^*$
酒を飲んだ／薬物を使用した	1 (7.1)	215 (24.1)	78 (27.2)	294 (24.6)	$\chi^2(2)=3.442$ $p=0.179$	0 - [-1.6]	43 (42.2) [-1.3]	10 (71.4) △[2.2]	53 (44.5)	(m) $p=0.024^*$
相手にやり返した／仕返しをした	2 (14.3) [-1.8]	297 (33.3) ▼[-4.7]	144 (50.2) △[5.2]	443 (37.1)	$\chi^2(2)=29.665$ $p=0.000^{**}$	1 (33.3)	36 (35.3)	9 (64.3)	46 (38.7)	(m) $p=0.117$
自分も他の人に同じようなことをした	3 (21.4) [-0.4]	214 (24.0) ▼[-3.4]	99 (34.5) △[3.5]	316 (26.5)	$\chi^2(2)=12.489$ $p=0.002^{**}$	1 (33.3) [1.0]	11 (10.8) ▼[-2.7]	5 (35.7) △[2.4]	17 (14.3)	(m) $p=0.028^*$
総数	14	892	287	1,193		3	102	14	119	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 重複選択による。
4 ()内は、総数に対する比率である。
5 図1の注3に同じ。
6 図5の注7に同じ。
7 図9の注3に同じ。

5 身体的暴力等の終了

(1) 終了の有無

表8は、恐喝、身体的暴力①(軽度)及び②(重度)の被害経験のある者に対し、「その被害は、終わったと思いますか」(問6)と尋ねた結果を、男女について群別に見たものである。「終わった」とする者の比率を見ると、女子の恐喝の一般反復群で約60%とやや低くなっている他は、すべて70から80%台となっている。また、男子のすべての加害行為について群間に有為差が見られ、いずれの場合も、「終わっていない」とする者は一般反復群で有為に多くなっている。

表8 身体的暴力等の終了

		恐喝			身体的暴力①(軽度)			身体的暴力②(重度)		
		終わった	終わっていない	合計	終わった	終わっていない	合計	終わった	終わっていない	合計
男子	一般単回群	382 (80.8)	91 (19.2)	473 (100.0)	245 (83.6)	48 (16.4)	293 (100.0)	389 (83.1)	79 (16.9)	468 (100.0)
	一般反復群	622 (75.6)	201 (24.4)	823 (100.0)	785 (77.9)	223 (22.1)	1,008 (100.0)	887 (72.3)	340 (27.7)	1,227 (100.0)
	合計	1004 (77.5)	292 (22.5)	1,296 (100.0)	1030 (79.2)	271 (20.8)	1,301 (100.0)	1276 (75.3)	419 (24.7)	1,695 (100.0)
	検定結果	$\chi^2(2)=4.625$ $p=0.032^*$			$\chi^2(2)=4.537$ $p=0.033^*$			$\chi^2(2)=21.351$ $p=0.000^{**}$		
女子	一般単回群	10 (76.9)	3 (23.1)	13 (100.0)	23 (88.5)	3 (11.5)	26 (100.0)	32 (82.1)	7 (17.9)	39 (100.0)
	一般反復群	23 (63.9)	13 (36.1)	36 (100.0)	83 (78.3)	23 (21.7)	106 (100.0)	89 (73.6)	32 (26.4)	121 (100.0)
	合計	33 (67.3)	16 (32.7)	49 (100.0)	106 (80.3)	26 (19.7)	132 (100.0)	121 (75.6)	39 (24.4)	160 (100.0)
	検定結果	(f) $p=0.502$			$\chi^2(2)=1.362$ $p=0.243$			$\chi^2(2)=1.155$ $p=0.282$		

注1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 「終わっていない」は、「わからない」を含む。

4 ()内は、構成比である。

5 図4の注6に同じ。

6 図5の注7に同じ。

(2) 終了の理由

恐喝、身体的暴力①(軽度)及び②(重度)が「終わった」とする者に対し、「被害は、なぜ終わったと思いますか」(問6のa、重複選択)と尋ねた結果を見ると、いずれの加害行為も、男女ともまたどちらの群でも、「相手に会わなくなった」とする者の比率が最も高くなっている。次に高いものとしては、順位が多少前後するが、いずれの加害行為においても、男子では「自分の力が強くなった」、「自分がやり返した／自分が仕返しをした」であるのに対し、女子では「相手が反省した」、「自分が施設に入った」(ただし、恐喝のみ)、「自分が成長した／自分が反省した」となっている(資料p114, 120参照)。

男子について、いくつかの項目で群間で有意差が見られ、いずれの加害行為についても、「自分の力が強くなった」、「自分がやり返した／自分が仕返しをした」、「自分が施設に入った」で、一般反復群が有意に多くなっている。また、「自分が成長した／自分が反省した」(恐喝、②)及び「相手に会わなくなった」(②)も、それぞれ一般反復群が有為に多くなっている。

図16は、被害の終了の理由を一般反復群の男子について被害期間別に見たものである。「自分がやり返した／自分が仕返しをした」は、いずれの加害行為でも群間に有意差が見られ、残差分析の結果、早発・

長期間の被害で有意に多く、中学生からの被害で有意に少なくなっている。また、「自分の力が強くなった」は、身体的暴力①及び②で群別に有意差が見られ、残差分析の結果、早発・長期間の被害で有意に多く、中学生からの被害で有意に少なくなっているほか、身体的暴力①では、小学生までの被害でも有意に多くなっている。

図16 身体的暴力等の終了の理由（一般反復群男子・被害期間別）

図16-1 恐喝

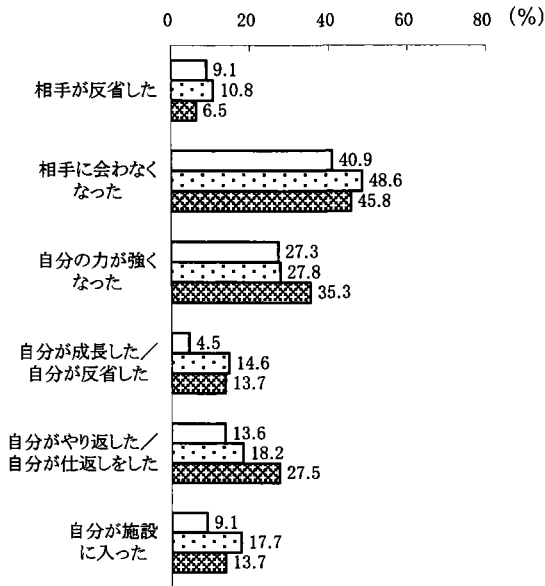


図16-2 身体的暴力①（軽度）

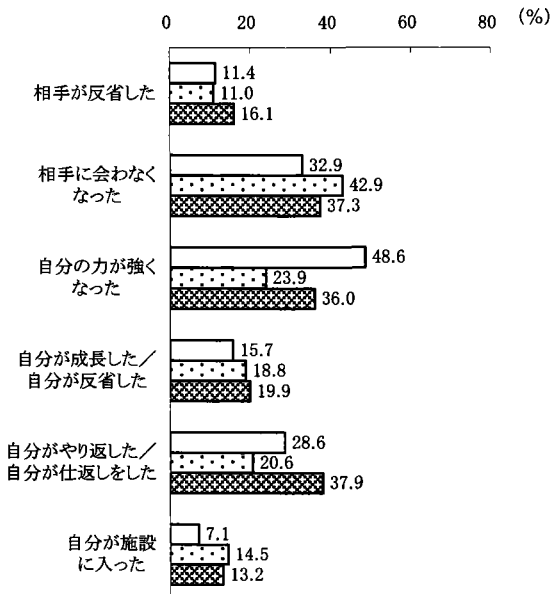
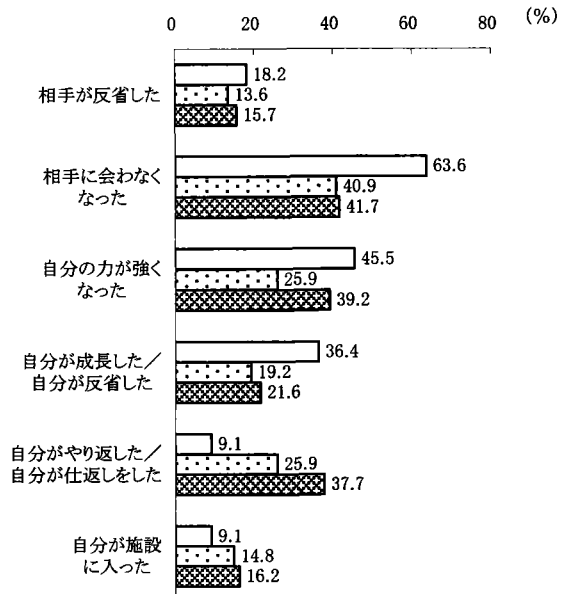


図16-3 身体的暴力②（重度）



□小学生までの被害 □中学生からの被害 ■早発・長期間の被害

		被害期間	相手が反省した	相手に会わなくなった	自分の力が強くなった	自分が成長した／自分が反省した	自分がやり返した／自分が仕返しをした	自分が施設に入った	総数
恐 喝	男子	小学生までの被害	2 (9.1)	9 (40.9)	6 (27.3)	1 (4.5)	3 (13.6) [-0.8]	2 (9.1)	22
		中学生からの被害	45 (10.8)	203 (48.6)	116 (27.8)	61 (14.6)	76 (18.2) ▼[-2.1]	74 (17.7)	418
		早発・長期間の被害	10 (6.5)	70 (45.8)	54 (35.3)	21 (13.7)	42 (27.5) △[2.5]	21 (13.7)	153
		合計	57 (9.6)	282 (47.6)	176 (29.7)	83 (14.0)	121 (20.4)	97 (16.4)	593
		検定結果	$\chi^2(2)=2.313$ p=0.315	$\chi^2(2)=0.760$ p=0.684	$\chi^2(2)=3.117$ p=0.210	$\chi^2(2)=1.765$ p=0.414	$\chi^2(2)=6.570$ p=0.037*	$\chi^2(2)=2.177$ p=0.337	
	女子	小学生までの被害	1	1	0	0	0	0	2
		中学生からの被害	2 (14.3)	9 (64.3)	1 (7.1)	1 (7.1)	1 (7.1)	3 (21.4)	14
		早発・長期間の被害	1	3	3	1	1	2	5
		合計	4 (19.0)	13 (61.9)	4 (19.0)	2 (9.5)	2 (9.5)	5 (23.8)	21
		検定結果	(m) p=0.699	(m) p=1.000	(m) p=0.057	(m) p=1.000	(m) p=1.000	(m) p=0.576	

		被害期間	相手が反省した	相手に会わなくなった	自分の力が強くなった	自分が成長した／自分が反省した	自分がやり返した／自分が仕返しをした	自分が施設に入った	総数
身体的暴力① (軽度)	男子	小学生までの被害	8 (11.4)	23 (32.9)	34 (48.6) △[3.3]	11 (15.7)	20 (28.6) [0.0]	5 (7.1)	70
		中学生からの被害	41 (11.0)	160 (42.9)	89 (23.9) ▼[-4.3]	70 (18.8)	77 (20.6) ▼[-4.7]	54 (14.5)	373
		早発・長期間の被害	50 (16.1)	116 (37.3)	112 (36.0) △[2.4]	62 (19.9)	118 (37.9) △[4.8]	41 (13.2)	311
		合計	99 (13.1)	299 (39.7)	235 (31.2)	143 (19.0)	215 (28.5)	100 (13.3)	754
		検定結果	$\chi^2(2)=4.041$ p=0.133	$\chi^2(2)=3.710$ p=0.156	$\chi^2(2)=22.570$ p=0.000**	$\chi^2(2)=0.676$ p=0.713	$\chi^2(2)=24.898$ p=0.000**	$\chi^2(2)=2.759$ p=0.252	
	女子	小学生までの被害	1	3 [0.2]	1	1	1	0	6
		中学生からの被害	10 (20.8)	32 (66.7) ▼[-3.1]	2 (4.2)	12 (25.0)	6 (12.5)	11 (22.9)	48
		早発・長期間の被害	7 (28.0)	17 (68.0) △[3.2]	8 (32.0)	5 (20.0)	9 (36.0)	5 (20.0)	25
		合計	18 (22.8)	52 (65.8)	11 (13.9)	18 (22.8)	16 (20.3)	16 (20.3)	79
		検定結果	(m) p=0.706	(m) p=0.758	(m) p=0.007**	(m) p=0.912	(m) p=0.064	(m) p=0.523	
身体的暴力② (重度)	男子	小学生までの被害	2 (18.2)	7 (63.6) [1.2]	5 (45.5)	4 (36.4)	1 (9.1) [-1.4]	1 (9.1)	11
		中学生からの被害	87 (13.6)	262 (40.9) ▼[-3.8]	166 (25.9) ▼[-3.8]	123 (19.2)	166 (25.9) ▼[-2.9]	95 (14.8)	641
		早発・長期間の被害	32 (15.7)	85 (41.7) △[3.6]	80 (39.2)	44 (21.6) △[3.3]	77 (37.7)	33 (16.2)	204
		合計	121 (14.1)	354 (41.4)	251 (29.3)	171 (20.0)	244 (28.5)	129 (15.1)	856
		検定結果	$\chi^2(2)=0.720$ p=0.698	$\chi^2(2)=2.321$ p=0.313	$\chi^2(2)=14.645$ p=0.001**	$\chi^2(2)=2.420$ p=0.298	$\chi^2(2)=12.720$ p=0.002**	$\chi^2(2)=0.534$ p=0.766	
	女子	小学生までの被害	1	0 △[2.8]	1	0	1	0	1
		中学生からの被害	21 (27.3)	54 (70.1) ▼[-2.8]	6 (7.8)	14 (18.2)	12 (15.6)	16 (20.8)	77
		早発・長期間の被害	3 (30.0)	5 (50.0) △[2.0]	3 (30.0)	1 (10.0)	3 (30.0)	4 (40.0)	10
		合計	25 (28.4)	59 (67.0)	10 (11.4)	15 (17.0)	16 (18.2)	20 (22.7)	88
		検定結果	(m) p=0.380	(m) p=0.143	(m) p=0.008**	(m) p=0.739	(m) p=0.079	(m) p=0.400	

注1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 重複選択による。

4 グラフ及び表は、各項目を選択したもののみを挙げている。

5 ()内は、総数に対する比率である。

6 図1の注3に同じ。

7 図5の注7に同じ。

8 図9の注3に同じ。

6 非行との関連についての認識

(1) 被害の状況別

恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）について、被害を受けた経験と非行との関連の有無についての認識（以下、「非行関連認識」という。）を見るために、「あなたは、その被害を受けたために非行に走るようになったと思いますか」（問7）と尋ねた。「思わない」（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせたもの。以下同じ。）とする者は、男子では、いずれの加害行為についても約60%（一般反復群）ないし約80%（一般単回群）となっており、女子では恐喝でどちらの群も約50%，身体的暴力①及び②で約60%（一般反復群）ないし約80%（一般単回群）となっている。一方、「思う」（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの。以下同じ）とする者は、女子の恐喝で約20%（一般単回群）ないし約30%（一般反復群）であるほかは、いずれの加害行為も、一般単回群が10%台、一般反復群が20%台である（資料 p121参照）。

また、いずれの加害行為についても、男子で群間に有意差が見られ、「思わない」は一般単回群で、「思う」及び「分からない」は一般反復群で、それぞれ有意に多くなっている。

図17は、恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の一般反復群の男子について、被害期間別に非行関連認識を見たものである。「思う」とする者の比率は、恐喝及び身体的暴力②で、小学生までの被害が最も低く、早発・長期間の被害で最も高くなっているのに対し、身体的暴力①で、中学生からの被害が最も低く、小学生までの被害で最も高くなっている。

図17 身体的暴力等の被害経験と非行の関連認識（一般反復群男子・被害期間別）

図17-1 恐喝

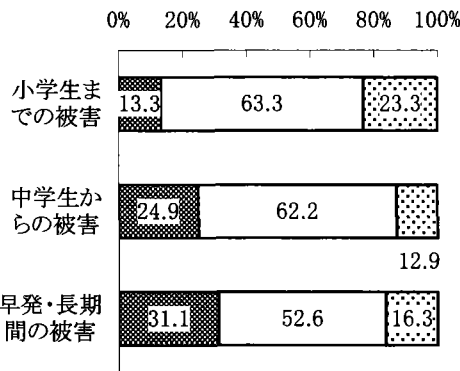


図17-2 身体的暴力①（軽度）

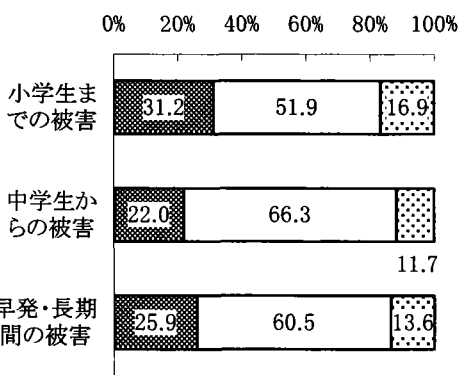
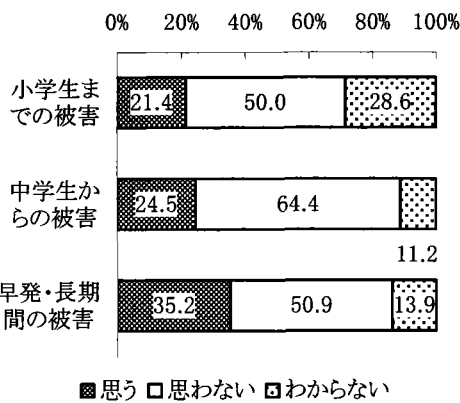


図17-3 身体的暴力②（重度）



		恐喝				検定結果
		思う	思わない	わからない	合計	
男子	小学生までの被害	4 (13.3)	19 (63.3)	7 (23.3)	30 (100.0)	$\chi^2(4)=9.262$ p=0.055
	中学生からの被害	141 (24.9)	352 (62.2)	73 (12.9)	566 (100.0)	
	早発・長期間の被害	59 (31.1)	100 (52.6)	31 (16.3)	190 (100.0)	
	合計	204 (26.0)	471 (59.9)	111 (14.1)	786 (100.0)	
女子	小学生までの被害	0	3	0	3	(m) p=0.273
	中学生からの被害	6 (27.3)	13 (59.1)	3 (13.6)	22 (100.0)	
	早発・長期間の被害	4	2	1	7	
	合計	10 (31.3)	18 (56.3)	4 (12.5)	32 (100.0)	

		身体的暴力①(軽度)				検定結果	身体的暴力②(重度)				検定結果
		思う	思わない	わからない	合計		思う	思わない	わからない	合計	
男子	小学生までの被害	24 (31.2)	40 (51.9)	13 (16.9)	77 (100.0)	$\chi^2(4)=7.324$ p=0.120	3 (21.4) [-0.5]	7 (50.0) [-0.8]	4 (28.6) [1.9]	14 (100.0)	$\chi^2(4)=20.652$ p=0.000**
	中学生からの被害	105 (22.0)	317 (66.3)	56 (11.7)	478 (100.0)		215 (24.5) ▼[-3.4]	565 (64.4) △[4.1]	98 (11.2) [-1.6]	878 (100.0)	
	早発・長期間の被害	107 (25.9)	250 (60.5)	56 (13.6)	413 (100.0)		101 (35.2) △[3.6]	146 (50.9) ▼[-4.0]	40 (13.9) [1.1]	287 (100.0)	
	合計	236 (24.4)	607 (62.7)	125 (12.9)	968 (100.0)		319 (27.1)	718 (60.9)	142 (12.0)	1,179 (100.0)	
女子	小学生までの被害	2	4	1	7	(m) p=0.285	0	2	1	3	(m) p=0.244
	中学生からの被害	11 (17.7)	45 (72.6)	6 (9.7)	62 (100.0)		23 (22.5)	67 (65.7)	12 (11.8)	102 (100.0)	
	早発・長期間の被害	11 (36.7)	15 (50.0)	4 (13.3)	30 (100.0)		6 (42.9)	6 (42.9)	2 (14.3)	14 (100.0)	
	合計	24 (24.2)	64 (64.6)	11 (11.1)	99 (100.0)		29 (24.4)	75 (63.0)	15 (12.6)	119 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 表1の注6に同じ。
5 図1の注3に同じ。
6 図9の注3に同じ。

図18は、恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の一般反復群の非行関連認識を、男女について最もひどい加害者別に見たものである（恐喝の女子は、グラフを省略した。）。いずれの加害行為についても男子で有意差が見られ、恐喝では、友達等で「思う」が、全く知らない人で「思わない」が、それぞれ有意に多くなっている。身体的暴力①では、先生で「思う」が、先輩及び全く知らない人で「思わない」が、それぞれ有意に多くなっている。身体的暴力②では、友達等及び先生で「思う」が、全く知らない人で「思わない」が、それぞれ有意に多くなっている。

図18 身体的暴力等の被害経験と非行の関連認識（一般反復群・最もひどい加害者別）

図18-1 恐喝

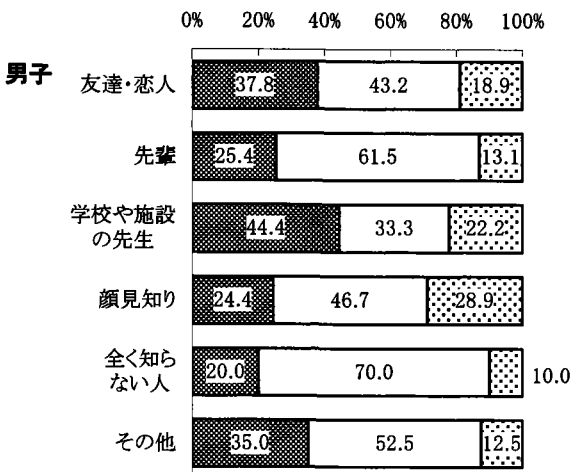


図18-2 身体的暴力①（軽度）

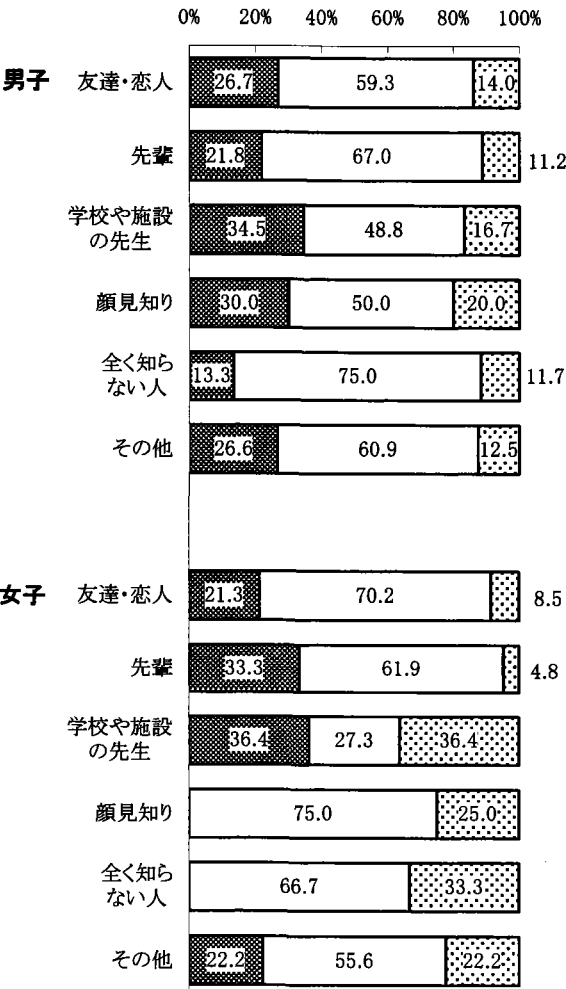
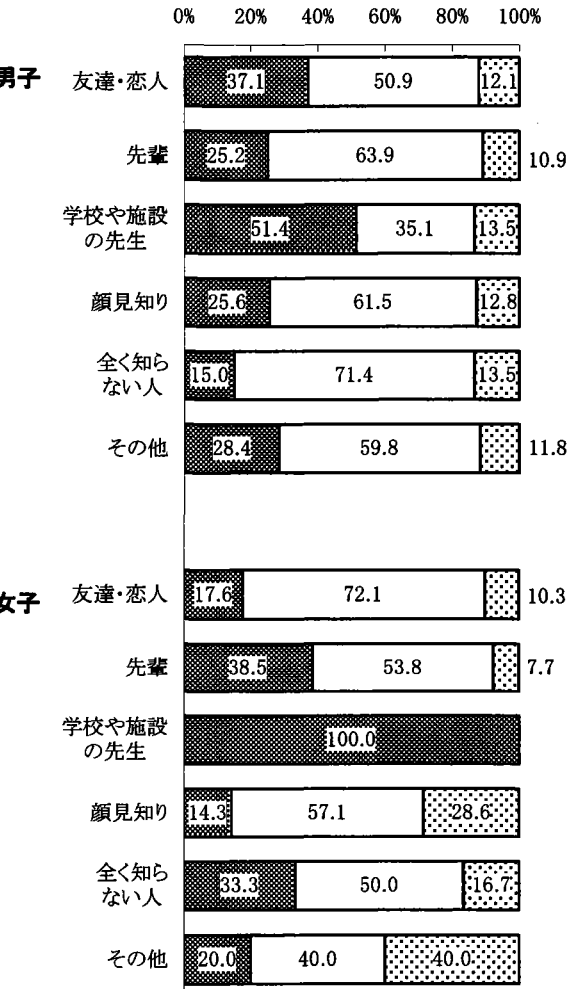


図18-3 身体的暴力②（重度）



■思う □思わない □わからない

		恐喝				検定結果
		思う	思わない	わからない	合計	
男子	友達 恋人	28 (37.8) △[2.4]	32 (43.2) ▼[-3.0]	14 (18.9) [1.3]	74 (100.0)	$\chi^2(10)=27.825$ p=0.002**
	先輩	115 (25.4) [-0.7]	278 (61.5) [1.3]	59 (13.1) [-1.0]	452 (100.0)	
	学校や施 設の先生	4 [1.2]	3 [-1.6]	2 [0.7]	9	
	顔見知り	11 (24.4) [-0.3]	21 (46.7) [-1.8]	13 (28.9) △[2.9]	45 (100.0)	
	全く知ら ない人	28 (20.0) [-1.9]	98 (70.0) △[2.8]	14 (10.0) [-1.5]	140 (100.0)	
	その他	14 (35.0) [1.3]	21 (52.5) [-0.9]	5 (12.5) [-0.3]	40 (100.0)	
	合計	200 (26.3)	453 (59.6)	107 (14.1)	760 (100.0)	
女子	友達 恋人	3	4	1	8	(m) p=0.931
	先輩	5 (41.7)	5 (41.7)	2 (16.7)	12 (100.0)	
	学校や施 設の先生	0	0	0	0	
	顔見知り	2	4	1	7	
	全く知ら ない人	0	3	1	4	
	その他	0	1	0	1	
	合計	10 (31.3)	17 (53.1)	5 (15.6)	32 (100.0)	

		身体的暴力①(軽度)				検定結果	身体的暴力②(重度)				検定結果
		思う	思わない	わからない	合計		思う	思わない	わからない	合計	
男子	友達 恋人	46 (26.7) [0.9]	102 (59.3) [-1.1]	24 (14.0) [0.5]	172 (100.0)	$\chi^2(10)=19.328$ p=0.036*	43 (37.1) △[2.7]	59 (50.9) ▼[-2.6]	14 (12.1) [0.1]	116 (100.0)	$\chi^2(10)=30.598$ p=0.001**
	先輩	101 (21.8) [-1.7]	310 (67.0) △[2.5]	52 (11.2) [-1.5]	463 (100.0)		152 (25.2) [-1.1]	386 (63.9) [1.6]	66 (10.9) [-0.9]	604 (100.0)	
	学校や施 設の先生	29 (34.5) △[2.3]	41 (48.8) ▼[-2.8]	14 (16.7) [1.1]	84 (100.0)		19 (51.4) △[3.5]	13 (35.1) ▼[-3.4]	5 (13.5) [0.4]	37 (100.0)	
	顔見知り	12 (30.0) [0.9]	20 (50.0) [-1.8]	8 (20.0) [1.4]	40 (100.0)		20 (25.6) [-0.2]	48 (61.5) [-0.1]	10 (12.8) [0.3]	78 (100.0)	
	全く知ら ない人	8 (13.3) ▼[-2.0]	45 (75.0) △[2.0]	7 (11.7) [-0.3]	60 (100.0)		20 (15.0) ▼[-3.2]	95 (71.4) △[2.4]	18 (13.5) [0.7]	133 (100.0)	
	その他	17 (26.6) [0.5]	39 (60.9) [-0.4]	8 (12.5) [-0.1]	64 (100.0)		29 (28.4) [0.5]	61 (59.8) [-0.5]	12 (11.8) [0.0]	102 (100.0)	
	合計	213 (24.1)	557 (63.1)	113 (12.8)	883 (100.0)		283 (26.4)	662 (61.9)	125 (11.7)	1,070 (100.0)	
女子	友達 恋人	10 (21.3)	33 (70.2)	4 (8.5)	47 (100.0)	(m) p=0.157	12 (17.6)	49 (72.1)	7 (10.3)	68 (100.0)	(m) p=0.155
	先輩	7 (33.3)	13 (61.9)	1 (4.8)	21 (100.0)		10 (38.5)	14 (53.8)	2 (7.7)	26 (100.0)	
	学校や施 設の先生	4 (36.4)	3 (27.3)	4 (36.4)	11 (100.0)		1	0	0	1	
	顔見知り	0	3	1	4		1	4	2	7	
	全く知ら ない人	0	2	1	3		2	3	1	6	
	その他	2	5	2	9		1	2	2	5	
	合計	23 (24.2)	59 (62.1)	13 (13.7)	95 (100.0)		27 (23.9)	72 (63.7)	14 (12.4)	113 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 「その他」は、「仕事関係の人」、「同居していない親類の人」及び「相手を見ていない」を含む。
5 図1の注3に同じ。
6 図5の注7に同じ。
7 図9の注3に同じ。

(2) 被害経験の表出時の状況別

図19は、恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の被害経験者の非行関連認識を、被害経験の話をして信じてくれた他者の有無別（女子の恐喝は、グラフを省略した。）に見たものである。いずれの加害行為についても、被害経験を信じてくれた人がいたとする者の方が、「思わない」とする比率が高いが、恐喝を除き、統計的な有意差は見られない。

図19 身体的暴力等の被害経験と非行の関連認識（信じてくれた人の有無別）

図19-1 恐喝

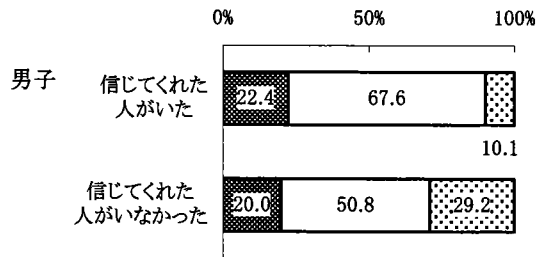


図19-2 身体的暴力①（軽度）

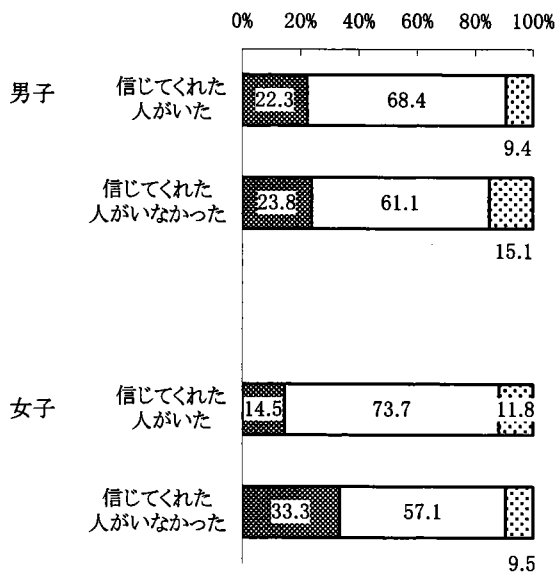
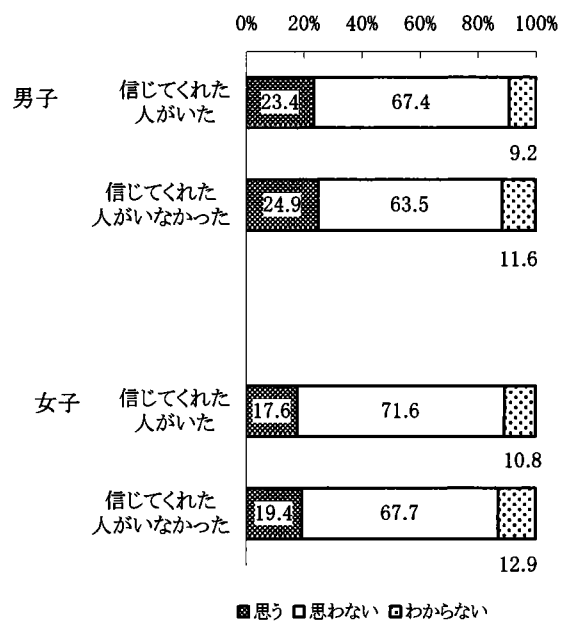


図19-3 身体的暴力②（重度）



		恐喝				検定結果
		思う	思わない	わからない	合計	
男子	信じてくれた人がいた	160 (22.4) [0.4]	483 (67.6) △[2.7]	72 (10.1) ▼[-4.6]	715 (100.0)	$\chi^2(2)=21.439$ $p=0.000^{**}$
	信じてくれた人がいなかった	13 (20.0) [-0.4]	33 (50.8) ▼[-2.7]	19 (29.2) △[4.6]	65 (100.0)	
	合計	173 (22.2)	516 (66.2)	91 (11.7)	780 (100.0)	
女子	信じてくれた人がいた	9 (27.3)	18 (54.5)	6 (18.2)	33 (100.0)	(m) $p=0.849$
	信じてくれた人がいなかった	1	5	1	7	
	合計	10 (25.0)	23 (57.5)	7 (17.5)	40 (100.0)	

		身体的暴力①(軽度)					身体的暴力②(重度)				
		思う	思わない	わからない	合計	検定結果	思う	思わない	わからない	合計	検定結果
男子	信じてくれた人がいた	126 (22.3)	387 (68.4)	53 (9.4)	566 (100.0)	$\chi^2(2)=5.562$ $p=0.062$	195 (23.4)	563 (67.4)	77 (9.2)	835 (100.0)	$\chi^2(2)=2.214$ $p=0.331$
	信じてくれた人がいなかった	44 (23.8)	113 (61.1)	28 (15.1)	185 (100.0)		86 (24.9)	219 (63.5)	40 (11.6)	345 (100.0)	
	合計	170 (22.6)	500 (66.6)	81 (10.8)	751 (100.0)		281 (23.8)	782 (66.3)	117 (9.9)	1,180 (100.0)	
女子	信じてくれた人がいた	11 (14.5)	56 (73.7)	9 (11.8)	76 (100.0)	(m) $p=0.168$	18 (17.6)	73 (71.6)	11 (10.8)	102 (100.0)	(m) $p=0.897$
	信じてくれた人がいなかった	7 (33.3)	12 (57.1)	2 (9.5)	21 (100.0)		6 (19.4)	21 (67.7)	4 (12.9)	31 (100.0)	
	合計	18 (18.6)	68 (70.1)	11 (11.3)	97 (100.0)		24 (18.0)	94 (70.7)	15 (11.3)	133 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 「信じてくれた人がいなかった」は、「わからない」を含む。
5 表1の注6に同じ。
6 図1の注3に同じ。
7 図9の注3に同じ。

(3) 被害を受けた時の行動との関連

恐喝、身体的暴力①（軽度）及び②（重度）の一般反復群の男子について、非行関連認識と被害時の行動の関係をコレスポネンス分析^(注1)で見たものが図20である。

恐喝を見ると、「思わない」とする者は、被害時に「じっとがまんした」、「気にしたり、考えたりしないようにした」、「相手にやり返した／仕返しをした」が多く、「思う」とする者は、「家出した」、「家に閉じこもった」が多く、「わからない」とする者は、「何もしたくなくなった」、「趣味・スポーツをした」が多くなっている。

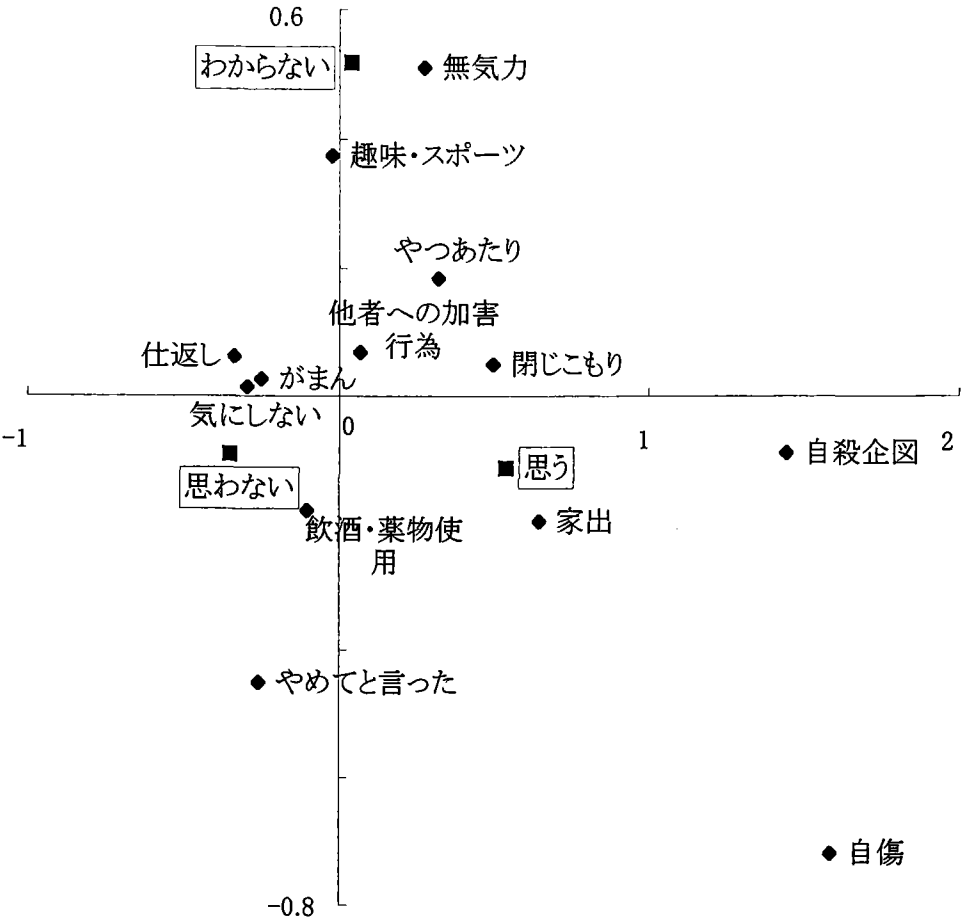
身体的暴力①を見ると、「思わない」とする者は、被害時に「やめるよう言った／言ってもらった」、「じっとがまんした」、「気にしたり、考えたりしないようにした」、「相手にやり返した／仕返しをした」が多く、「思う」とする者は、「家に閉じこもった」、「やつあたりや、いやがらせをした」、「酒を飲んだ／薬物を使用した」、「自分も他の人に同じようなことをした」が多く、「わからない」とする者は、「趣味・スポーツをした」が多くなっている。

身体的暴力②を見ると、「思わない」とする者は、被害時に「じっとがまんした」、「気にしたり、考えたりしないようにした」、「相手にやり返した／仕返しをした」が多く、「思う」とする者は、「家に閉じこもった」、「趣味・スポーツをした」、「やつあたりや、いやがらせをした」、「酒を飲んだ／薬物を使用した」、「自分も他の人に同じようなことをした」が多く、「わからない」とする者は、「何もしたくなくなった」が多くなっている。

(注1) コレスポネンス分析とは、数量化Ⅲ類と同等の手法で、カテゴリー同士の関連性や位置づけを明らかにするものである。

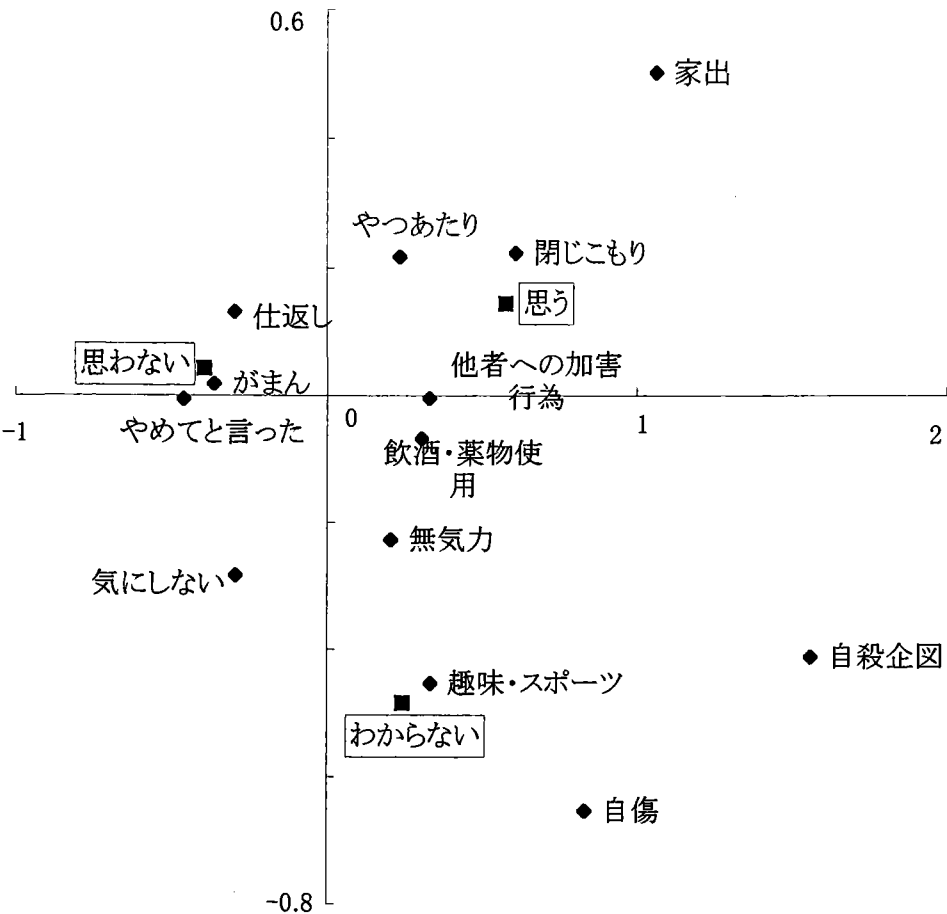
図20 身体的暴力等を受けた時の行動（一般反復群男子・身体的暴力等の被害経験と非行の関連認識別）

図20-1 恐喝



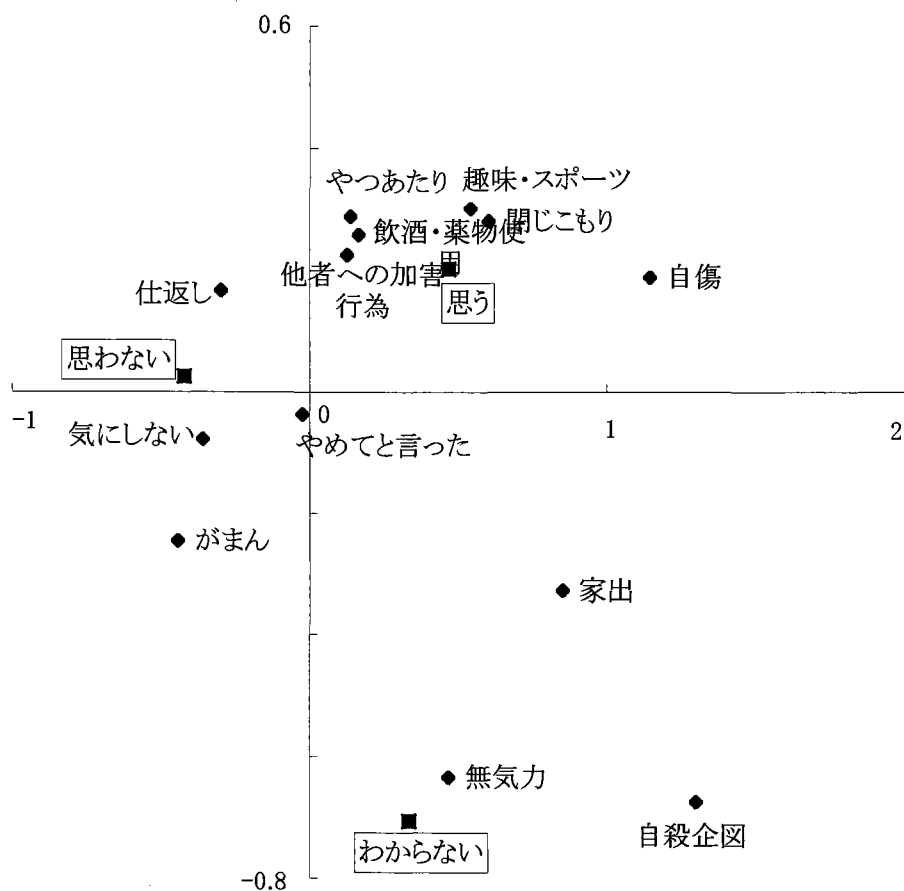
	グラフのラベル	対応する選択肢	次元の得点	
			1	2
非行との 関連認識	思う		0.54	-0.11
	思わない		-0.35	-0.09
	わからない		0.04	0.52
被害を受 けた時の 行動	やめてと言った	やめるよう言った／言ってもらった	-0.26	-0.45
	家出	家出した	0.65	-0.20
	がまん	じっとがまんした	-0.25	0.03
	気にしない	気にしたり、考えたりしないようにした	-0.30	0.01
	自殺企図	自殺しようとした	1.44	-0.09
	自傷	自分の体を傷つけた	1.59	-0.72
	閉じこもり	家に閉じこもった	0.50	0.05
	無気力	何もしたくなかった	0.28	0.51
	趣味・スポーツ	趣味・スポーツをした	-0.02	0.37
	やっあたり	やっあたりや、いやがらせをした	0.32	0.18
	飲酒・薬物使用	酒を飲んだ／薬物を使用した	-0.10	-0.18
	仕返し	相手にやり返した／仕返しをした	-0.34	0.06
	他者への加害行為	自分も他の人に同じようなことをした	0.07	0.07

図20-2 身体的暴力①（軽度）



	グラフのラベル	対応する選択肢	次元の得点	
			1	2
非行との 関連認識	思う		0.58	0.14
	思わない		-0.39	0.04
	わからない		0.24	-0.48
被害を受けた時の 行動	やめてと言った	やめるよう言った／言ってもらった	-0.46	-0.01
	家出	家出した	1.06	0.50
	がまん	じっとがまんした	-0.36	0.02
	気にしない	気にしたり, 考えたりしないようにした	-0.29	-0.28
	自殺企図	自殺しようとした	1.56	-0.41
	自傷	自分の体を傷つけた	0.83	-0.65
	閉じこもり	家に閉じこもった	0.61	0.22
	無気力	何もしたくなくなった	0.21	-0.23
	趣味・スポーツ	趣味・スポーツをした	0.33	-0.45
	やつあたり	やつあたりや, いやがらせをした	0.24	0.22
	飲酒・薬物使用	酒を飲んだ／薬物を使用した	0.31	-0.07
	仕返し	相手にやり返した／仕返しをした	-0.30	0.13
	他者への加害行為	自分も他の人に同じようなことをした	0.33	-0.00

図20-3 身体的暴力②（重度）



	グラフのラベル	対応する選択肢	次元の得点	
			1	2
非行との関連認識	思う		0.47	0.20
	思わない		-0.42	0.03
	わからない		0.33	-0.71
被害を受けた時の行動	やめてと言った	やめるよう言った／言ってもらった	-0.02	-0.04
	家出	家出した	0.85	-0.33
	がまん	じっとがまんした	-0.44	-0.25
	気にしない	気にしたり, 考えたりしないようにした	-0.36	-0.08
	自殺企図	自殺しようとした	1.30	-0.68
	自傷	自分の体を傷つけた	1.14	0.19
	閉じこもり	家に閉じこもった	0.60	0.28
	無気力	何もしたくなくなった	0.47	-0.64
	趣味・スポーツ	趣味・スポーツをした	0.54	0.30
	やっあたり	やっあたりや, いやがらせをした	0.14	0.29
	飲酒・薬物使用	酒を飲んだ／薬物を使用した	0.17	0.26
	仕返し	相手にやり返した／仕返しをした	-0.30	0.17
	他者への加害行為	自分も他の人に同じようなことをした	0.13	0.23

注1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 「被害を受けた時の行動」については, 重複選択による。

第11 家族以外の者からの性的暴力

1 全体的な被害状況

表 9 は、家族以外の者からの性的暴力の被害状況を、男女別に見たものである。男子で約19％、女子で約78％が、家族以外の者から性的暴力を受けたことがあり、男女を比べると、女子で一般単回被害のみ群及び一般反復被害あり群が有意に多くなっている。

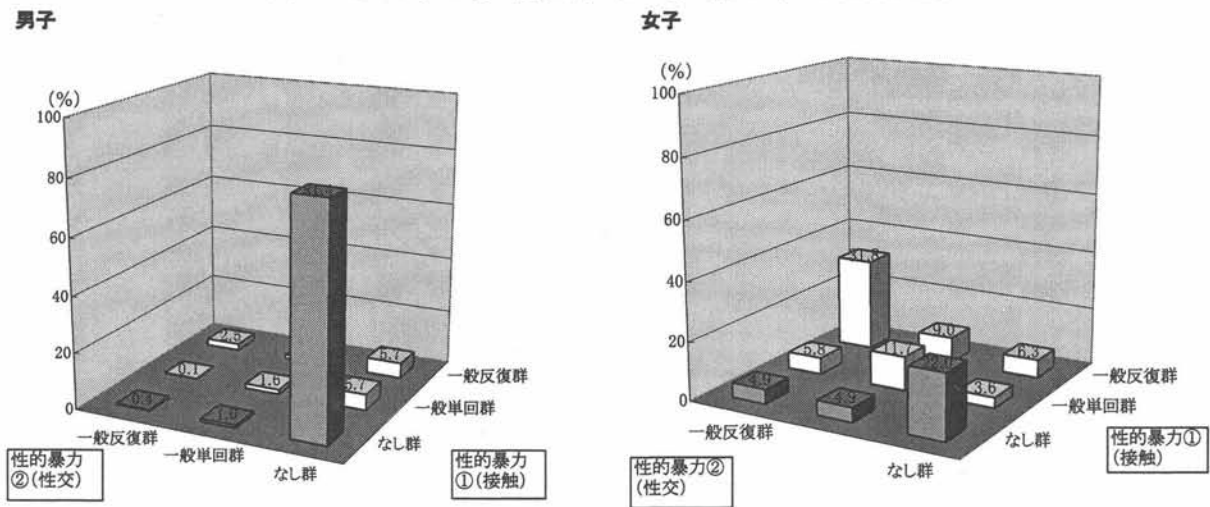
表 9 家族以外の者からの性的暴力の被害状況

	経験なし群	単回被害 経験のみ群	反復被害 経験あり群	合計	検定結果
男子	1,717 (81.4) △[19.9]	176 (8.3) ▼[-5.6]	217 (10.3) ▼[-19.3]	2,110 (100.0)	$\chi^2(2)=441.523$ p=0.000**
女子	49 (21.7) ▼[-19.9]	45 (19.9) △[5.6]	132 (58.4) △[19.3]	226 (100.0)	
合計	1,766 (75.6)	221 (9.5)	349 (14.9)	2,336 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 「経験なし群」とは、家族以外の者から性的暴力を受けた経験の全くないものをいう。
4 「単回被害経験のみ群」とは、家族以外の者からの性的暴力①、②について、少なくとも一つの一般単回被害経験があり、一般反復被害経験は全くないものをいう。
5 「反復被害経験あり群」とは、家族以外の者からの性的暴力①、②について、少なくとも一つの一般反復被害経験のあるものをいう。
6 ()内は、構成比である。
7 表1の注6に同じ。
8 図1の注3に同じ。

図21は、性的暴力①（接触）及び同②（性交）の被害状況を男女別に見たものである。男子では、どちらの被害経験もなしとする者が約80％を占め、次いで、いずれも性的暴力②の被害経験はないが、性的暴力①について一度だけ被害経験がある者及び繰り返し被害経験がある者が、それぞれ約6％である。女子では、性的暴力①及び②双方の反復被害経験がある者が約30％、次いで、どちらの被害経験もなしとする者が約20％となっている。

図21 性的暴力①（接触）及び②（性交）の被害状況



		男子				女子			
		性的暴力②(性交)				性的暴力②(性交)			
		なし群	一般単回群	一般反復群	合計	なし群	一般単回群	一般反復群	合計
性的暴力① (接触)	なし群	1,717 (81.4) △[21.2]	22 (1.0) ▼[-14.6]	9 (0.4) ▼[-15.0]	1,748 (82.9)	49 (22.0) △[8.1]	11 (4.9) ▼[-2.4]	11 (4.9) ▼[-5.6]	71 (31.8)
	一般単回群	120 (5.7) ▼[-8.2]	34 (1.6) △[11.5]	3 (0.1) [-0.9]	157 (7.4)	8 (3.6) ▼[-2.5]	26 (11.7) △[5.3]	13 (5.8) ▼[-2.3]	47 (21.1)
	一般反復群	120 (5.7) ▼[-19.7]	31 (1.5) △[8.4]	53 (2.5) △[19.9]	204 (9.7)	14 (6.3) ▼[-5.6]	20 (9.0) ▼[-2.1]	71 (31.8) △[7.1]	105 (47.1)
	合計	1,957 (92.8)	87 (4.1)	65 (3.1)	2,109 (100.0)	71 (31.8)	57 (25.6)	95 (42.6)	223 (100.0)
検定結果		$\chi^2(4)=632.991$ p=0.000**				$\chi^2(4)=96.332$ p=0.000**			

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 表1の注6に同じ。
5 図1の注3に同じ。

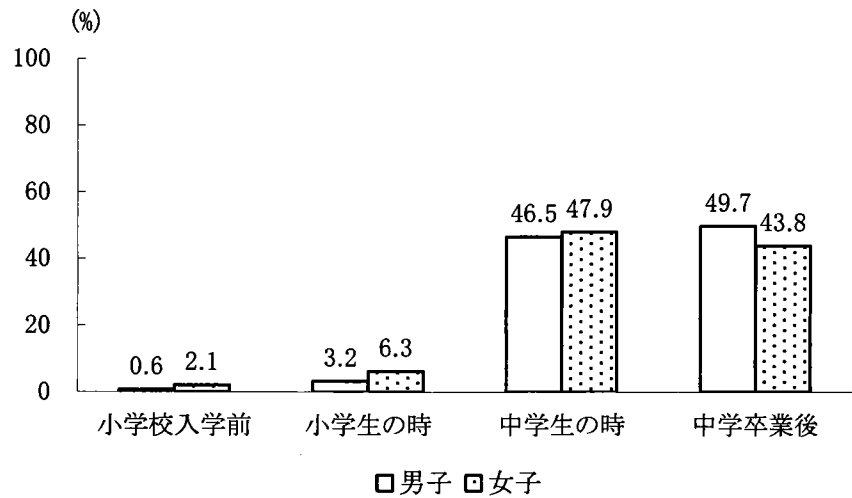
2 性的暴力を受けた時期及び加害者

(1) 性的暴力を受けた時期

図22は、性的暴力①（接触）及び②（性交）の一般単回群について、被害を経験した時期を男女別に見たものである。最も多くの者が被害を経験した時期は、性的暴力①で、男子は中学卒業後、女子は中学生の時である。性的暴力②で、男女とも中学卒業後である。

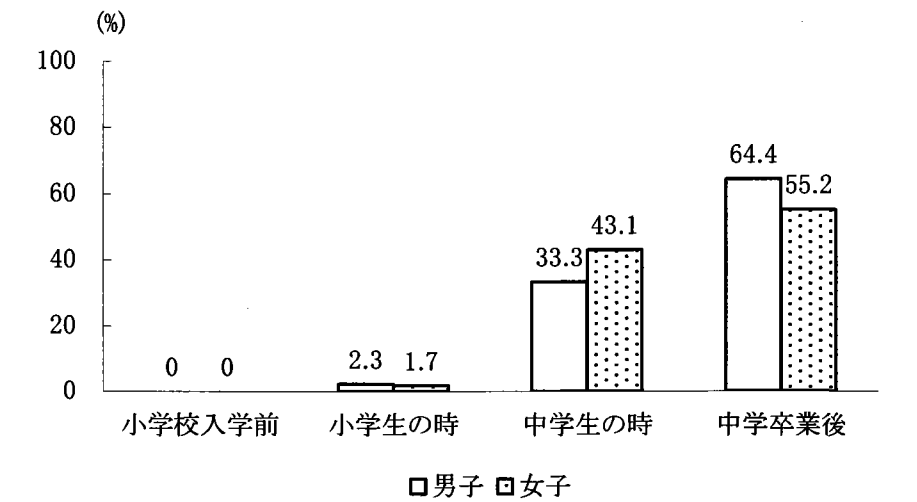
図22 性的暴力を受けた時期（一般単回群）

図22- 1 性的暴力①（接触）



	小学校入学前	小学生の時	中学生の時	中学卒業後	総数
男子	1 (0.6)	5 (3.2)	73 (46.5)	78 (49.7)	157
女子	1 (2.1)	3 (6.3)	23 (47.9)	21 (43.8)	48
合計	2 (1.0)	8 (3.9)	96 (46.8)	99 (48.3)	205
検定結果	(f) p=0.414	(f) p=0.394	$\chi^2(1)=0.030$ p=0.863	$\chi^2(1)=0.518$ p=0.472	

図22- 2 性的暴力②（性交）



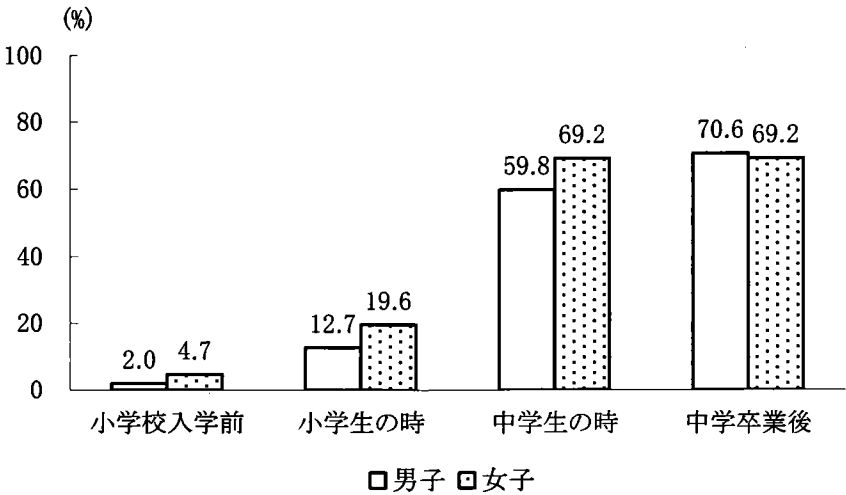
	小学校 入学前	小学生の時	中学生の時	中学卒業後	総数
男子	0 -	2 (2.3)	29 (33.3)	56 (64.4)	87
女子	0 -	1 (1.7)	25 (43.1)	32 (55.2)	58
合計	0 -	3 (2.1)	54 (37.2)	88 (60.7)	145
検定 結果	-	(f) p=1.000	$\chi^2(1)=1.421$ p=0.233	$\chi^2(1)=1.233$ p=0.267	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 重複選択による。
4 「いつだったか覚えていない」を除く。
5 ()内は、総数に対する比率である。
6 図4の注6に同じ。
7 図14の注6に同じ。

図23は、一般反復群について同様に見たものである。最も多くの者が性的暴力①（接触）を受けた時期は、男子が中学卒業後、女子が中学生の時及び中学卒業後である。性的暴力②（性交）については、男女とも中学卒業後である。

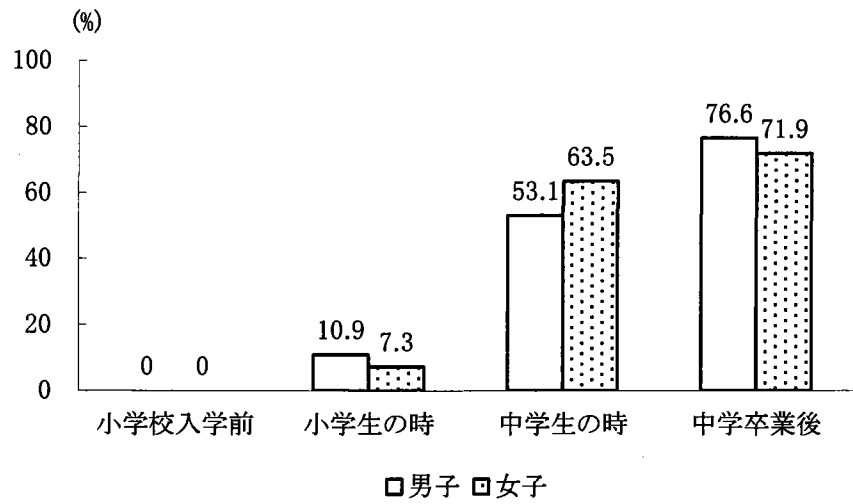
図23 性的暴力を受けた時期（一般反復群）

図23- 1 性的暴力①（接触）



	小学校入学前	小学生の時	中学生の時	中学卒業後	総数
男子	4 (2.0)	26 (12.7)	122 (59.8)	144 (70.6)	204
女子	5 (4.7)	21 (19.6)	74 (69.2)	74 (69.2)	107
合計	9 (2.9)	47 (15.1)	196 (63.0)	218 (70.1)	311
検定結果	(f) p=0.283	$\chi^2(1)=2.591$ p=0.108	$\chi^2(1)=2.636$ p=0.104	$\chi^2(1)=0.068$ p=0.794	

図23-2 性的暴力②（性交）

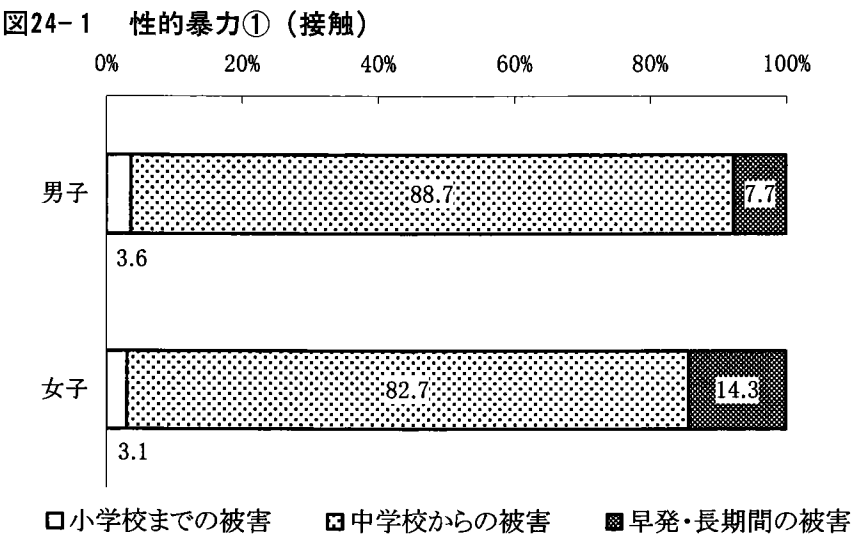


	小学校 入学前	小学生の時	中学生の時	中学卒業後	総数
男子	0 -	7 (10.9)	34 (53.1)	49 (76.6)	64
女子	0 -	7 (7.3)	61 (63.5)	69 (71.9)	96
合計	0 -	14 (8.8)	95 (59.4)	118 (73.8)	160
検定 結果	-	$\chi^2(1)=0.639$ p=0.424	$\chi^2(1)=1.727$ p=0.189	$\chi^2(1)=0.436$ p=0.509	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 重複選択による。
4 「いつだったか覚えていない」を除く。
5 ()内は、総数に対する比率である。
6 図4の注6に同じ。
7 図14の注6に同じ。

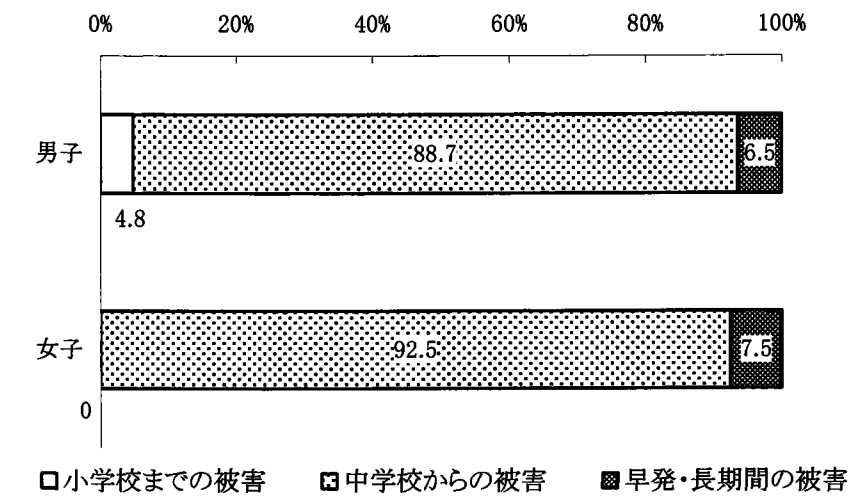
図24は、性的暴力①（接触）及び②（性交）の被害期間を、男女別に見たものである。男女とも、性的暴力①は80％台、②は約90％が中学生からの被害である。

図24 性的暴力を受けた期間（一般反復群）



	小学生までの被害	中学生からの被害	早発・長期間の被害	合計	検定結果
男子	7 (3.6)	172 (88.7)	15 (7.7)	194 (100.0)	$\chi^2(2)=3.144$ p=0.208
女子	3 (3.1)	81 (82.7)	14 (14.3)	98 (100.0)	
合計	10 (3.4)	253 (86.6)	29 (9.9)	292 (100.0)	

図24-2 性的暴力②（性交）



	小学生までの被害	中学生からの被害	早発・長期間の被害	合計	検定結果
男子	3 (4.8)	55 (88.7)	4 (6.5)	62 (100.0)	(m) p=0.123
女子	0 -	86 (92.5)	7 (7.5)	93 (100.0)	
合計	3 (1.9)	141 (91.0)	11 (7.1)	155 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 図9の注3に同じ。

(2) 性的暴力の加害者

図25は、性的暴力①（接触）及び②（性交）の加害者（問3のa、重複選択）を尋ねた結果を、男女について群別に見たものである。

図25 性的暴力の加害者

図25-1 性的暴力①（接触）

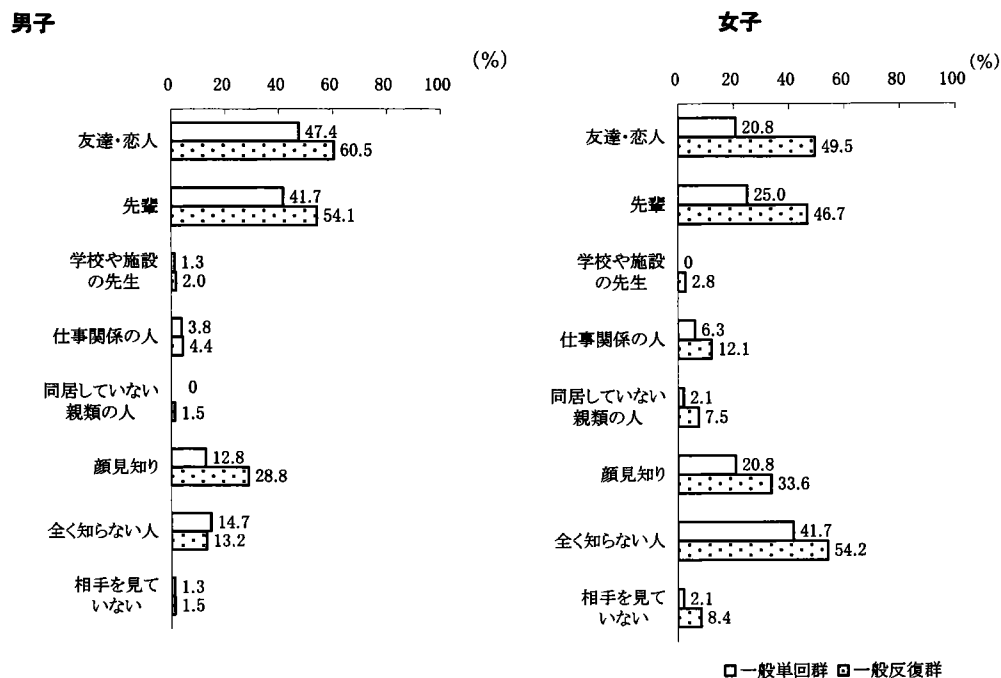
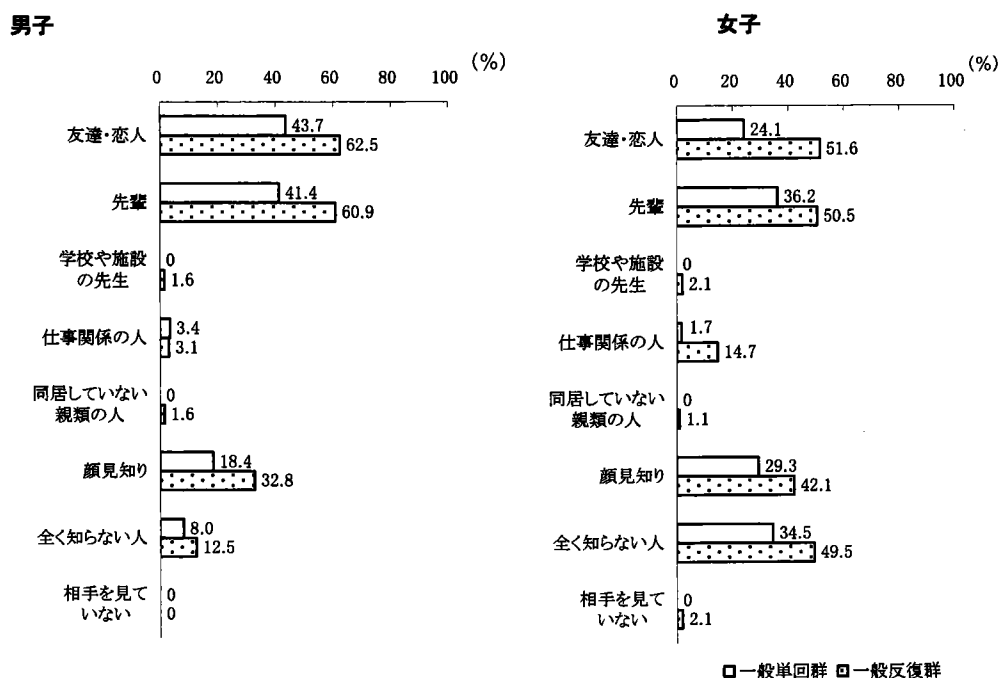


図25-2 性的暴力②（性交）



			加害者の種類								総数
			友達 恋人	先輩	学校や施 設の先生	仕事関係 の人	同居して いない 親類の人	顔見知り	全く知ら ない人	相手を見 ていない	
性的 暴力① (接触)	男子	一般単回群	74 (47.4)	65 (41.7)	2 (1.3)	6 (3.8)	0 -	20 (12.8)	23 (14.7)	2 (1.3)	156
		一般反復群	124 (60.5)	111 (54.1)	4 (2.0)	9 (4.4)	3 (1.5)	59 (28.8)	27 (13.2)	3 (1.5)	205
		合計	198 (54.8)	176 (48.8)	6 (1.7)	15 (4.2)	3 (0.8)	79 (21.9)	50 (13.9)	5 (1.4)	361
	女子	一般単回群	10 (20.8)	12 (25.0)	0 -	3 (6.3)	1 (2.1)	10 (20.8)	20 (41.7)	1 (2.1)	48
		一般反復群	53 (49.5)	50 (46.7)	3 (2.8)	13 (12.1)	8 (7.5)	36 (33.6)	58 (54.2)	9 (8.4)	107
		合計	63 (40.6)	62 (40.0)	3 (1.9)	16 (10.3)	9 (5.8)	46 (29.7)	78 (50.3)	10 (6.5)	155
性的 暴力② (性交)	男子	一般単回群	38 (43.7)	36 (41.4)	0 -	3 (3.4)	0 -	16 (18.4)	7 (8.0)	0 -	87
		一般反復群	40 (62.5)	39 (60.9)	1 (1.6)	2 (3.1)	1 (1.6)	21 (32.8)	8 (12.5)	0 -	64
		合計	78 (51.7)	75 (49.7)	1 (0.7)	5 (3.3)	1 (0.7)	37 (24.5)	15 (9.9)	0 -	151
	女子	一般単回群	14 (24.1)	21 (36.2)	0 -	1 (1.7)	0 -	17 (29.3)	20 (34.5)	0 -	58
		一般反復群	49 (51.6)	48 (50.5)	2 (2.1)	14 (14.7)	1 (1.1)	40 (42.1)	47 (49.5)	2 (2.1)	95
		合計	63 (41.2)	69 (45.1)	2 (1.3)	15 (9.8)	1 (0.7)	57 (37.3)	67 (43.8)	2 (1.3)	153

注1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 重複選択による。

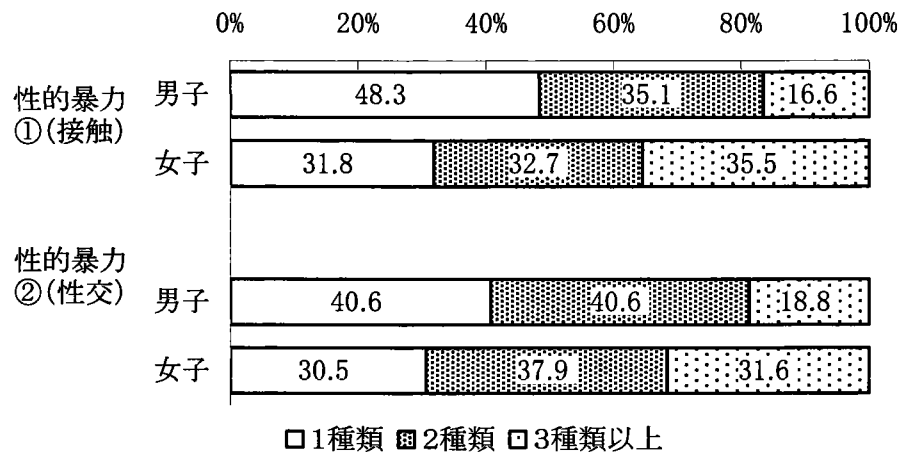
4 グラフ及び表は、各項目に該当するもののみを挙げている。

5 ()内は、総数に対する比率である。

男子は、性的暴力①及び②とも、どちらの群でも友達等とする者の比率が最も高く、次いで先輩である。女子は、性的暴力①の場合、どちらの群でも全く知らない人とする者が最も高く、次いで、一般単回群では先輩、一般反復群では友達等の比率が高くなっている。性的暴力②の場合、一般単回群では先輩、全く知らない人の順であり、一般反復群では友達等、先輩、全く知らない人が、いずれもほぼ50%となっている。

図26は、性的暴力①（接触）及び②（性交）の反復被害経験のある者が、問3のa（重複選択）で選択した加害者の種類数を男女別に見たものである。複数種類の加害者を挙げた者の比率は、男子で約50％（①）ないし60％（②），女子で約70％である。また、性的暴力①で加害者の種類数に男女で有意差が見られ、残差分析の結果、男子の1種類、女子の3種類以上が有意に多くなっている。

図26 性的暴力の加害者の種類数（一般反復群）



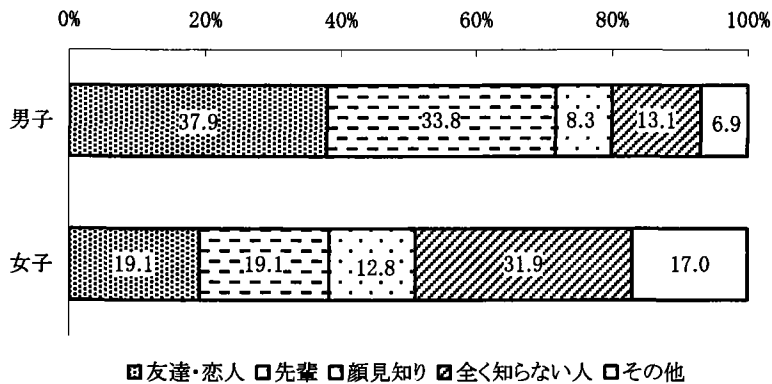
		1種類	2種類	3種類以上	合計	検定結果
性的暴力①(接触)	男子	99 (48.3) △[2.8]	72 (35.1) [0.4]	34 (16.6) ▼[-3.8]	205 (100.0)	$\chi^2(2)=15.534$ p=0.000**
	女子	34 (31.8) ▼[-2.8]	35 (32.7) [-0.4]	38 (35.5) △[3.8]	107 (100.0)	
	合計	133 (42.6)	107 (34.3)	72 (23.1)	312 (100.0)	
性的暴力②(性交)	男子	26 (40.6)	26 (40.6)	12 (18.8)	64 (100.0)	$\chi^2(2)=3.583$ p=0.169
	女子	29 (30.5)	36 (37.9)	30 (31.6)	95 (100.0)	
	合計	55 (34.6)	62 (39.0)	42 (26.4)	159 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 表1の注6に同じ。
5 図1の注3に同じ。

図27は、性的暴力①（接触）及び②（性交）の一般単回群について、最もひどい加害者を男女別に見たものである。男子では、性的暴力①、②とも、最もひどい加害者が友達等及び先輩であるとする者が30％台を占め、それ以外の加害者は、10％台ないしそれ以下の比率になっている。女子は、性的暴力①で全く知らない人が最も高くなっているが、友達等、先輩及びその他也約20％を占め、性的暴力②で先輩が最も高くなっているが、友達等、顔見知り及び全く知らない人も約20％を占めている。また、統計的には、性的暴力①及び②とも、男女で有意差が見られ、男子は友達等が、女子は全く知らない人が有意に多くなっている。

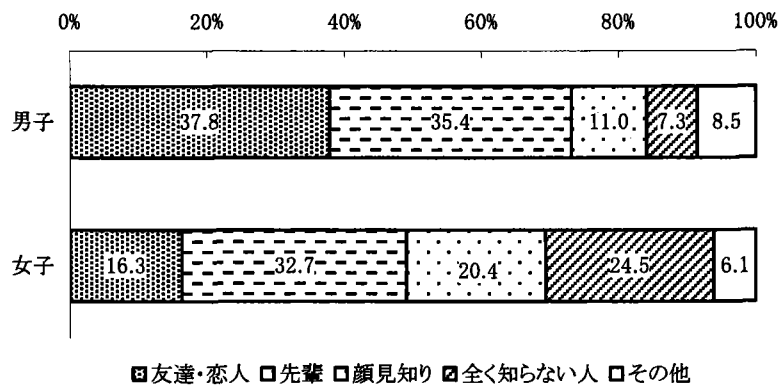
図27 性的暴力の最もひどい加害者（一般単回群）

図27-1 性的暴力①（接触）



	友達・恋人	先輩	顔見知り	全く知らない人	その他	合計	検定結果
男子	55 (37.9) △[2.4]	49 (33.8) [1.9]	12 (8.3) [-0.9]	19 (13.1) ▼[-2.9]	10 (6.9) ▼[-2.1]	145 (100.0)	$\chi^2(4)=18.014$ p=0.001**
女子	9 (19.1) ▼[-2.4]	9 (19.1) [-1.9]	6 (12.8) [0.9]	15 (31.9) △[2.9]	8 (17.0) △[2.1]	47 (100.0)	
合計	64 (33.3)	58 (30.2)	18 (9.4)	34 (17.7)	18 (9.4)	192 (100.0)	

図27-2 性的暴力②（性交）



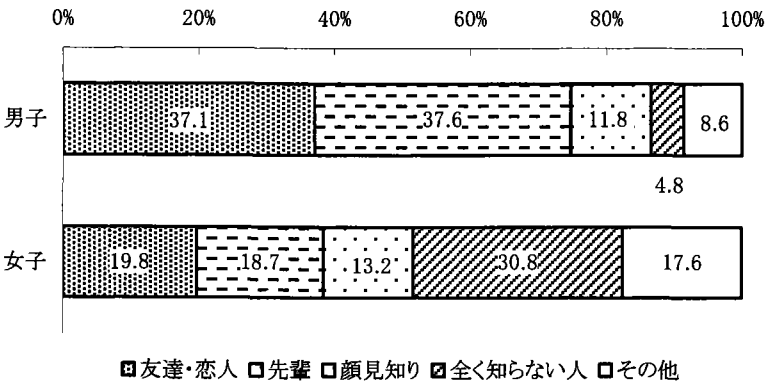
	友達・恋人	先輩	顔見知り	全く知らない人	その他	合計	検定結果
男子	31 (37.8) △[2.6]	29 (35.4) [0.3]	9 (11.0) [-1.5]	6 (7.3) ▼[-2.8]	7 (8.5) [0.5]	82 (100.0)	χ ² (4)=13.517 p=0.009**
女子	8 (16.3) ▼[-2.6]	16 (32.7) [-0.3]	10 (20.4) [1.5]	12 (24.5) △[2.8]	3 (6.1) [-0.5]	49 (100.0)	
合計	39 (29.8)	45 (34.4)	19 (14.5)	18 (13.7)	10 (7.6)	131 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 「その他」は、「学校や施設の先生」、「仕事関係の人」、「同居していない親類の人」及び「相手を見ていない」を含む。
5 表1の注6に同じ。
6 図1の注3に同じ。

図28は、同様に、一般反復群について見たものである。男子では、一般単回群と同様の傾向にあり、性的暴力①、②とも、最もひどい加害者が友達等及び先輩であるとする者が30%台を占め、それ以外の加害者は、10%台ないしそれ以下の比率になっている。女子の性的暴力①も、一般単回群と同様、全く知らない人が最も高くなっているが、それ以外の加害者も約10から20%を占めている。性的暴力②では先輩及び全く知らない人が最も高くなっているが、友達等及び顔見知りも約10から20%を占めている。また、統計的には、性的暴力①及び②とも、男女で有意差が見られ、男子は友達等が、女子は全く知らない人が有意に多くなっている。

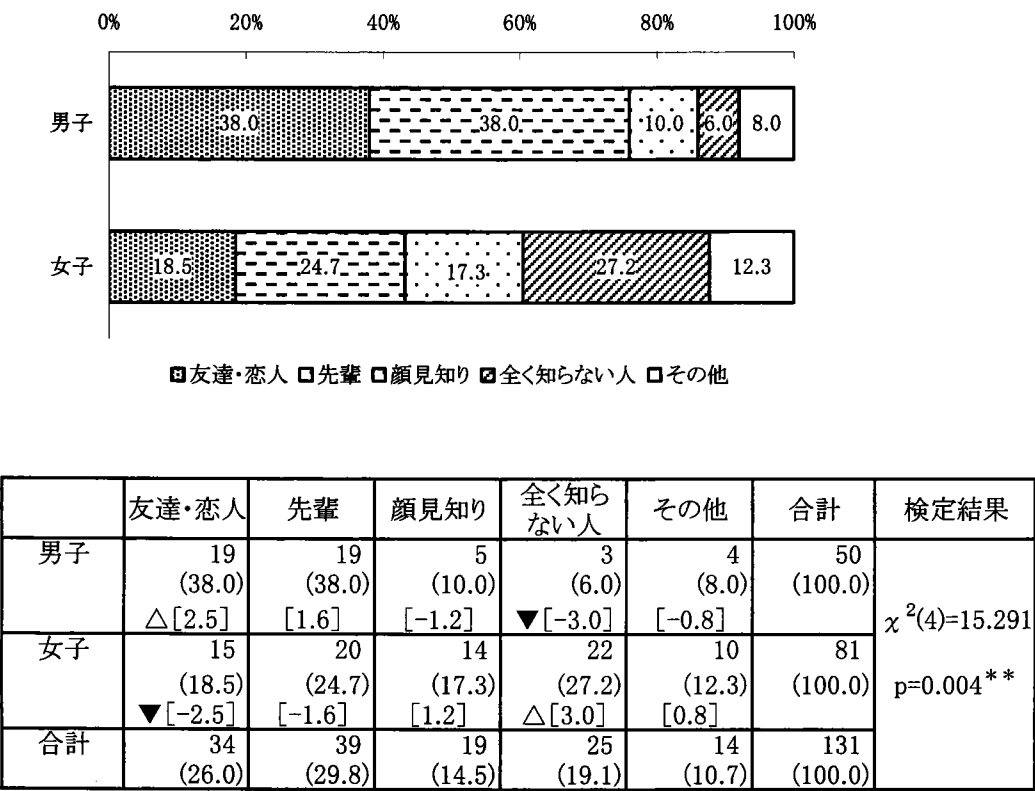
図28 性的暴力の最もひどい加害者（一般反復群）

図28-1 性的暴力①（接触）



	友達・恋人	先輩	顔見知り	全く知らない人	その他	合計	検定結果
男子	69 (37.1) △[2.9]	70 (37.6) △[3.2]	22 (11.8) [-0.3]	9 (4.8) ▼[-6.0]	16 (8.6) ▼[-2.2]	186 (100.0)	$\chi^2(4)=47.939$ p=0.000**
女子	18 (19.8) ▼[-2.9]	17 (18.7) ▼[-3.2]	12 (13.2) [0.3]	28 (30.8) △[6.0]	16 (17.6) △[2.2]	91 (100.0)	
合計	87 (31.4)	87 (31.4)	34 (12.3)	37 (13.4)	32 (11.6)	277 (100.0)	

図28-2 性的暴力②（性交）



注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は,構成比である。
4 「その他」は,「学校や施設の先生」,「仕事関係の人」,「同居していない親類の人」及び「相手を見ていない」を含む。
5 表1の注6に同じ。
6 図1の注3に同じ。

3 性的暴力を受けた経験の表出

(1) 性的暴力を受けた経験の表出の有無

表10は、性的暴力①（接触）及び②（性交）の被害経験のある者に対し「被害について、誰かに言ったことがありますか」（問4）と尋ねた結果を、男女について群別に見たものである。性的暴力①、②とも、男子ではどちらの群も「言ったことはない」が、女子は、「言ったことがある」とする者の比率が高い。また、群別に見ると、男女とも一般反復群の方が「言ったことがある」とする者の比率が高くなっている。

表10 性的暴力の被害経験の表出の有無

		性的暴力①(接触)				性的暴力②(性交)			
		言ったことがある	言ったことはない	合計	検定結果	言ったことがある	言ったことはない	合計	検定結果
男子	一般単回群	57 (36.5)	99 (63.5)	156 (100.0)	$\chi^2(1)=1.428$ p=0.232	40 (46.0)	47 (54.0)	87 (100.0)	$\chi^2(1)=0.040$ p=0.842
	一般反復群	86 (42.8)	115 (57.2)	201 (100.0)		30 (47.6)	33 (52.4)	63 (100.0)	
	合計	143 (40.1)	214 (59.9)	357 (100.0)		70 (46.7)	80 (53.3)	150 (100.0)	
女子	一般単回群	32 (66.7)	16 (33.3)	48 (100.0)	$\chi^2(1)=1.084$ p=0.298	46 (79.3)	12 (20.7)	58 (100.0)	$\chi^2(1)=0.011$ p=0.918
	一般反復群	80 (74.8)	27 (25.2)	107 (100.0)		76 (80.0)	19 (20.0)	95 (100.0)	
	合計	112 (72.3)	43 (27.7)	155 (100.0)		122 (79.7)	31 (20.3)	153 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 「言ったことはない」は、「覚えていない」を含む。

(2) 性的暴力を受けた経験を表出した者

性的暴力の被害を受けたことを話した相手（問4のa、重複選択）については、男女ともどちらの群も友達・恋人・先輩の比率が最も高い（資料p110参照）。また、性的暴力①（接触）の母の場合を除き、群間に有意差は見られなかった。

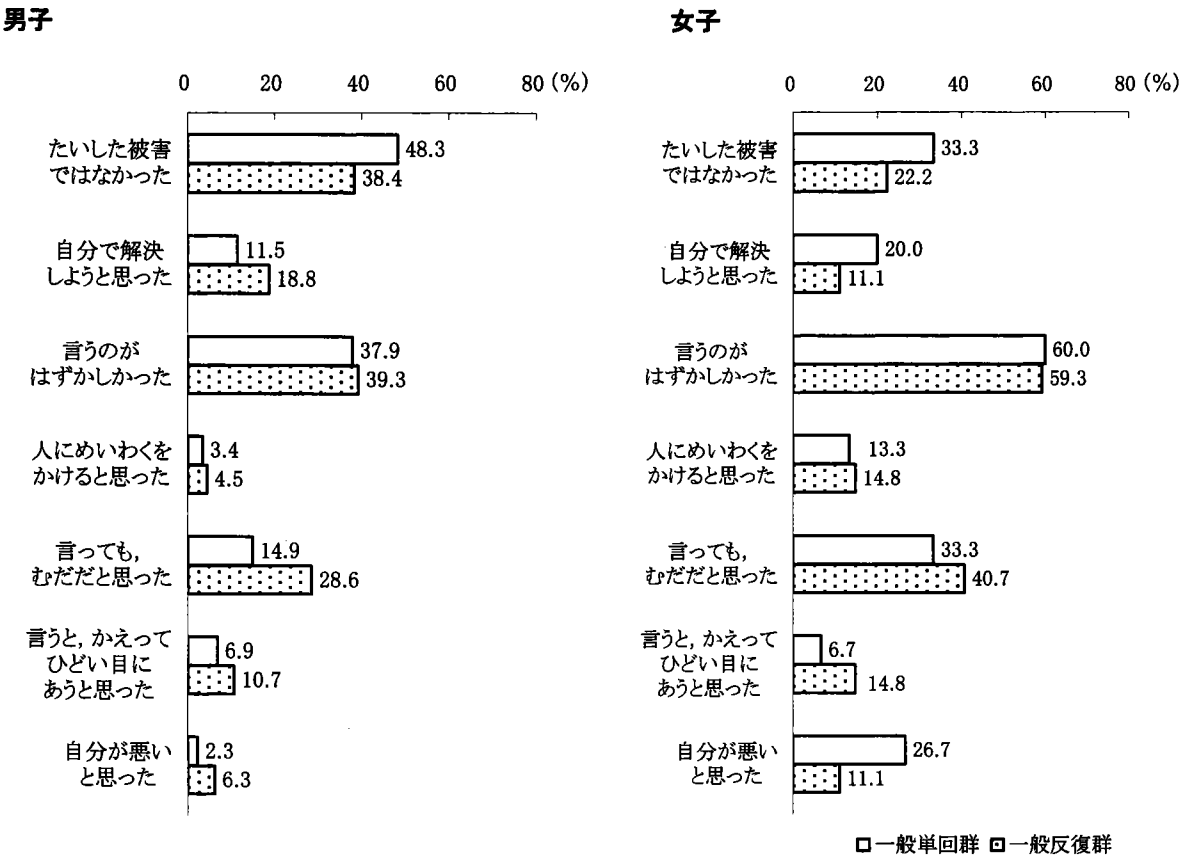
さらに、性的暴力の被害経験を信じてくれた人の有無については、信じてくれた人がいたとする者が、男女とも、性的暴力①、②のいずれについても、80ないし90%になっている（資料p111参照）。

(3) 性的暴力を受けた経験を表出しなかった者

図29は、性的暴力①（接触）及び②（性交）の被害を受けた経験を誰にも話さなかった者に対し、その理由（問4のc、重複選択）を尋ねた結果を、男女について群別に見たものである。男子は、性的暴力①及び②とも、どちらの群も、「たいした被害ではなかった」及び「言うのがはずかしかった」とする者の比率が高くなっている。女子は、性的暴力①で、どちらの群も、「言うのがはずかしかった」が最も高く、次いで、「言ってもむだだと思った」が高くなっているほか、一般単回群では「たいした被害ではなかった」も同率である。また、性的暴力②で、どちらの群も、「言うのがはずかしかった」が最も高く、

図29 性的暴力の被害経験を話さなかった理由

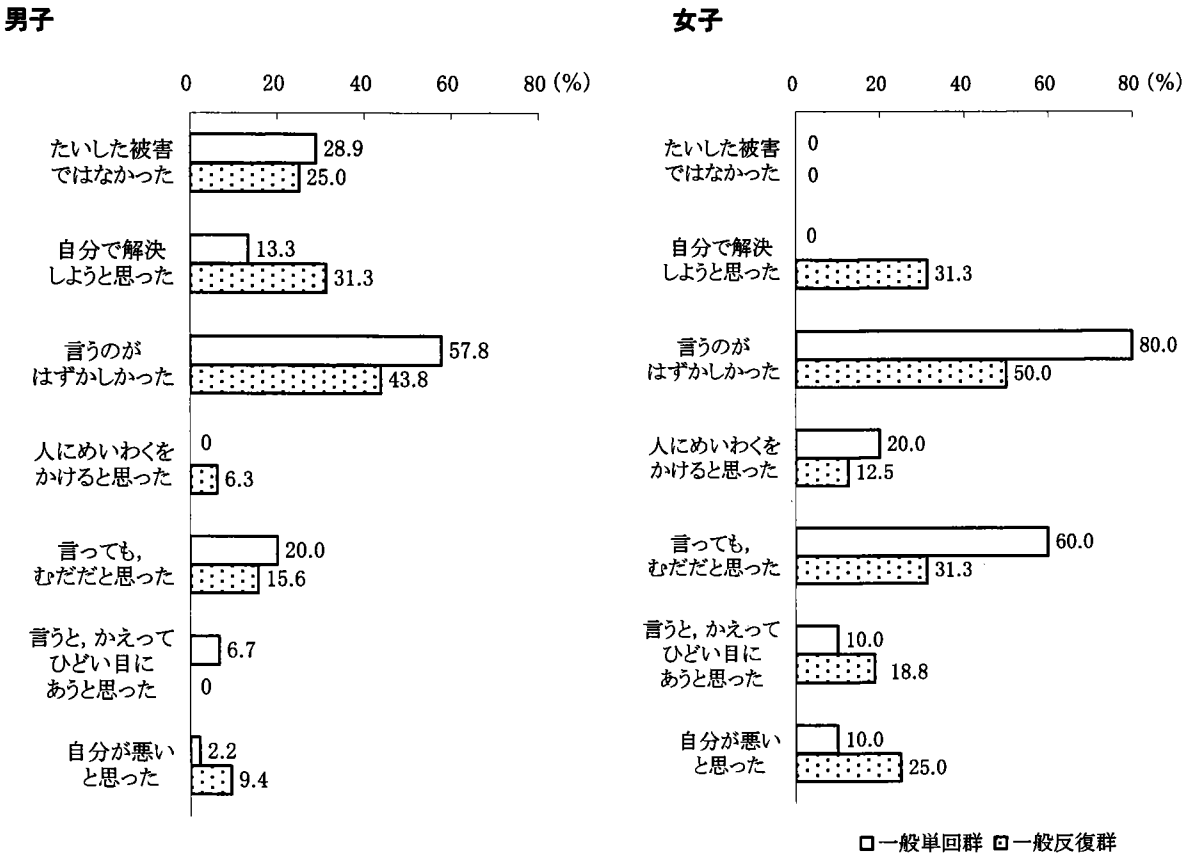
図29-1 性的暴力①（接触）



			たいした被害 ではなかった	自分で解決 しようと思った	言うのがはず かしかった	人にめいわく をかけると思っ た	言っても、む だだと思った	言う、かえっ てひどい目に あうと思った	自分が悪いと 思った	総数
性的暴力 ①(接触)	男子	一般単回群	42 (48.3)	10 (11.5)	33 (37.9)	3 (3.4)	13 (14.9)	6 (6.9)	2 (2.3)	87
		一般反復群	43 (38.4)	21 (18.8)	44 (39.3)	5 (4.5)	32 (28.6)	12 (10.7)	7 (6.3)	112
		合計	85 (42.7)	31 (15.6)	77 (38.7)	8 (4.0)	45 (22.6)	18 (9.0)	9 (4.5)	199
		検定結果	$\chi^2(1)=1.955$ $p=0.162$	$\chi^2(1)=1.960$ $p=0.162$	$\chi^2(1)=0.038$ $p=0.846$	(f) $p=1.000$	$\chi^2(1)=5.197$ $p=0.023^*$	$\chi^2(1)=0.867$ $p=0.352$	(f) $p=0.304$	
	女子	一般単回群	5 (33.3)	3 (20.0)	9 (60.0)	2 (13.3)	5 (33.3)	1 (6.7)	4 (26.7)	15
		一般反復群	6 (22.2)	3 (11.1)	16 (59.3)	4 (14.8)	11 (40.7)	4 (14.8)	3 (11.1)	27
		合計	11 (26.2)	6 (14.3)	25 (59.5)	6 (14.3)	16 (38.1)	5 (11.9)	7 (16.7)	42
		検定結果	(f) $p=0.481$	(f) $p=0.649$	$\chi^2(1)=0.002$ $p=0.963$	(f) $p=1.000$	$\chi^2(1)=0.224$ $p=0.636$	(f) $p=0.639$	(f) $p=0.225$	

次いで、「言ってもむだだと思った」が高くなっているほか、一般単回群では「自分で解決しようと思った」も同率である。

図29-2 性的暴力②（性交）



			たいした被害 ではなかった	自分で解決 しようと思った	言うのがはず かしかった	人にめいわく をかけると思っ た	言っても、む だだと思った	言う、かえっ てひどい目に あうと思った	自分が悪いと 思った	総数
性的暴力 ②(性交)	男子	一般単回群	13 (28.9)	6 (13.3)	26 (57.8)	0 -	9 (20.0)	3 (6.7)	1 (2.2)	45
		一般反復群	8 (25.0)	10 (31.3)	14 (43.8)	2 (6.3)	5 (15.6)	0 -	3 (9.4)	32
		合計	21 (27.3)	16 (20.8)	40 (51.9)	2 (2.6)	14 (18.2)	3 (3.9)	4 (5.2)	77
		検定結果	$\chi^2(1)=0.143$ $p=0.706$	$\chi^2(1)=3.647$ $p=0.056$	$\chi^2(1)=1.474$ $p=0.225$	(f) $p=0.170$	$\chi^2(1)=0.241$ $p=0.624$	(f) $p=0.262$	(f) $p=0.302$	
	女子	一般単回群	0	0	8	2	6	1	1	10
		一般反復群	0 -	5 (31.3)	8 (50.0)	2 (12.5)	5 (31.3)	3 (18.8)	4 (25.0)	16
		合計	0 -	5 (19.2)	16 (61.5)	4 (15.4)	11 (42.3)	4 (15.4)	5 (19.2)	26
		検定結果	-	(f) $p=0.121$	(f) $p=0.218$	(f) $p=0.625$	(f) $p=0.228$	(f) $p=1.000$	(f) $p=0.617$	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 重複選択による。
4 グラフ及び表は、各理由に該当するもののみを挙げている。
5 ()内は、総数に対する比率である。
6 「検定結果」欄の「*」は、有意水準5%以下で有意差が見られることを示す。
7 表1の注6に同じ。
8 図4の注6に同じ。
9 図14の注6に同じ。

4 性的暴力の被害にあった時の行動

図30は、性的暴力①（接触）及び②（性交）の被害を受けた経験のある者に対し、「その被害にあって、あなたはどうしましたか」（問5、重複選択）と尋ねた結果を、男女について群別に見たものである。

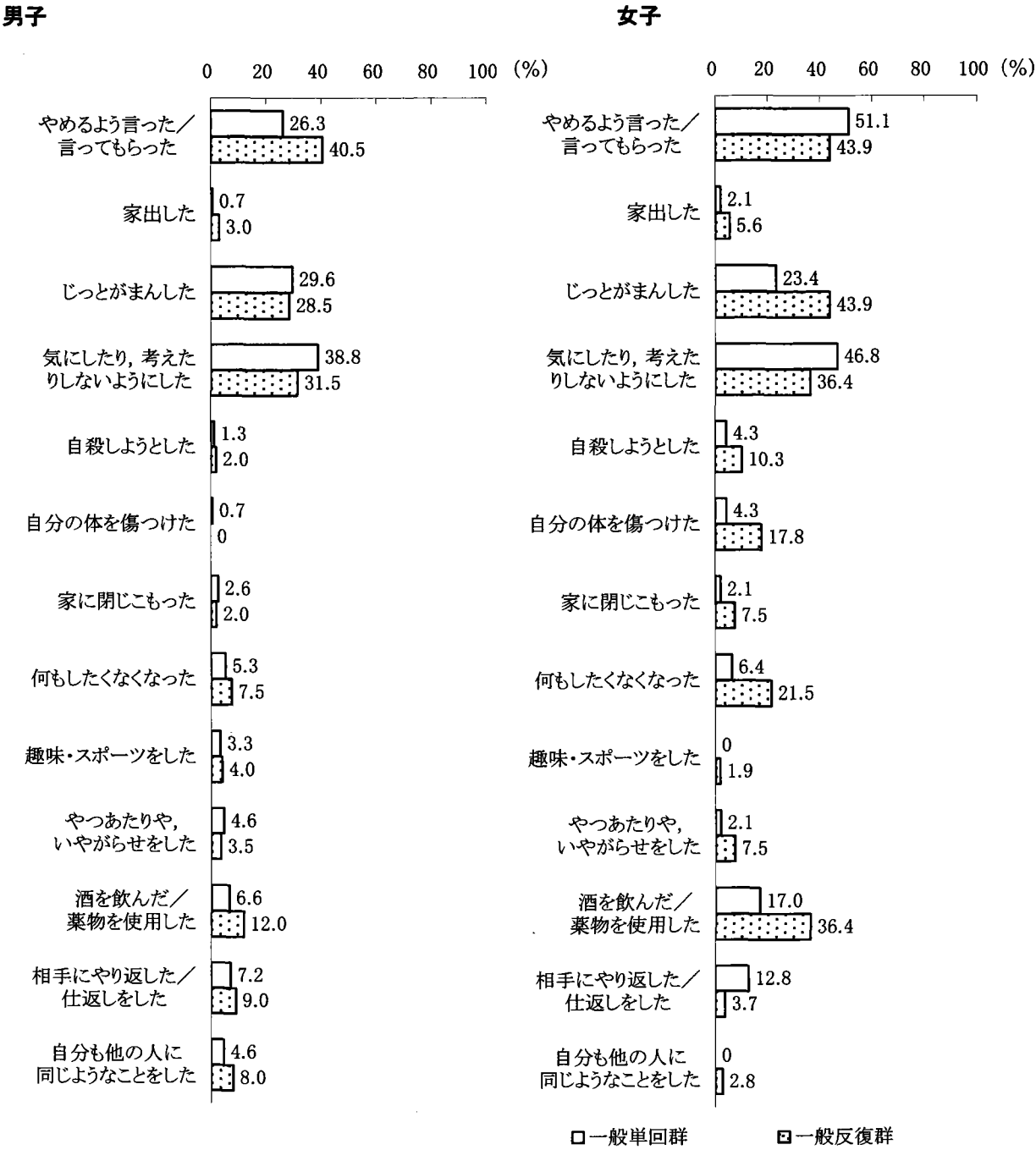
男子は、性的暴力①の場合、一般単回群では「気にしたり、考えたりしないようにした」とする者の比率が最も高く、次いで、「じっとがまんした」、「やめるよう言った／言ってもらった」の順であり、一般反復群では「やめるよう言った／言ってもらった」が最も高く、次いで「気にしたり、考えたりしないようにした」、「じっとがまんした」となっている。性的暴力②の場合、順位はやや異なるが、どちらの群も比率の高い項目は①と同じである。

女子は、性的暴力①の場合、一般単回群では「やめるよう言った／言ってもらった」が最も高く、次いで、「気にしたり、考えたりしないようにした」、「じっとがまんした」の順であり、一般反復群では「やめるよう言った／言ってもらった」と「じっとがまんした」が同率で最も高く、次いで「気にしたり、考えたりしないようにした」と「酒を飲んだ／薬物を使用した」が同率で高くなっている。性的暴力②の場合、一般単回群では「じっとがまんした」が最も高く、次いで「やめるよう言った／言ってもらった」、「じっとがまんした」の順であり、一般反復群では「酒を飲んだ／薬物を使用した」が最も高く、次いで、「やめるよう言った／言ってもらった」、「じっとがまんした」の順となっている。

また、男子は、性的暴力①の「やめるよう言った／言ってもらった」、女子は、「じっとがまんした」(①)、「気にしたり、考えたりしないようにした」(②)、「自殺しようとした」(②)、「自分の体を傷つけた」(①, ②)、「何もしたくなくなった」(①)、「酒を飲んだ／薬物を使用した」(①, ②)において群間に有意差が見られ、女子の「気にしたり、考えたりしないようにした」を除き、一般反復群が有意に多くなっている。

図30 性的暴力の被害にあった時の行動

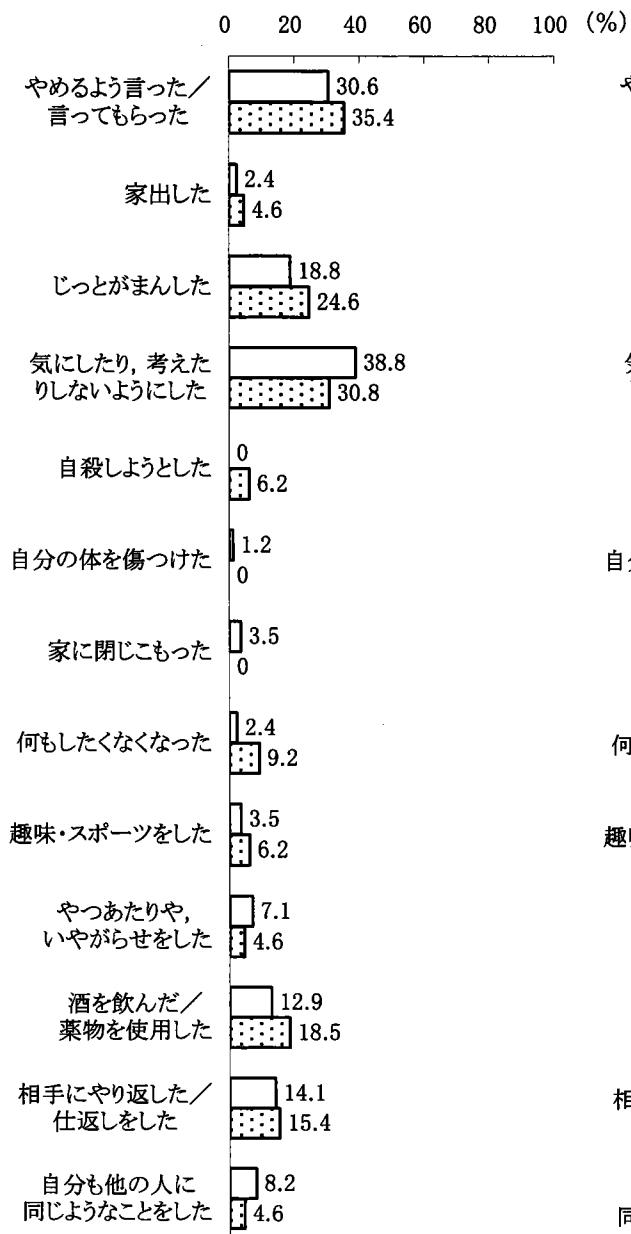
図30-1 性的暴力①（接触）



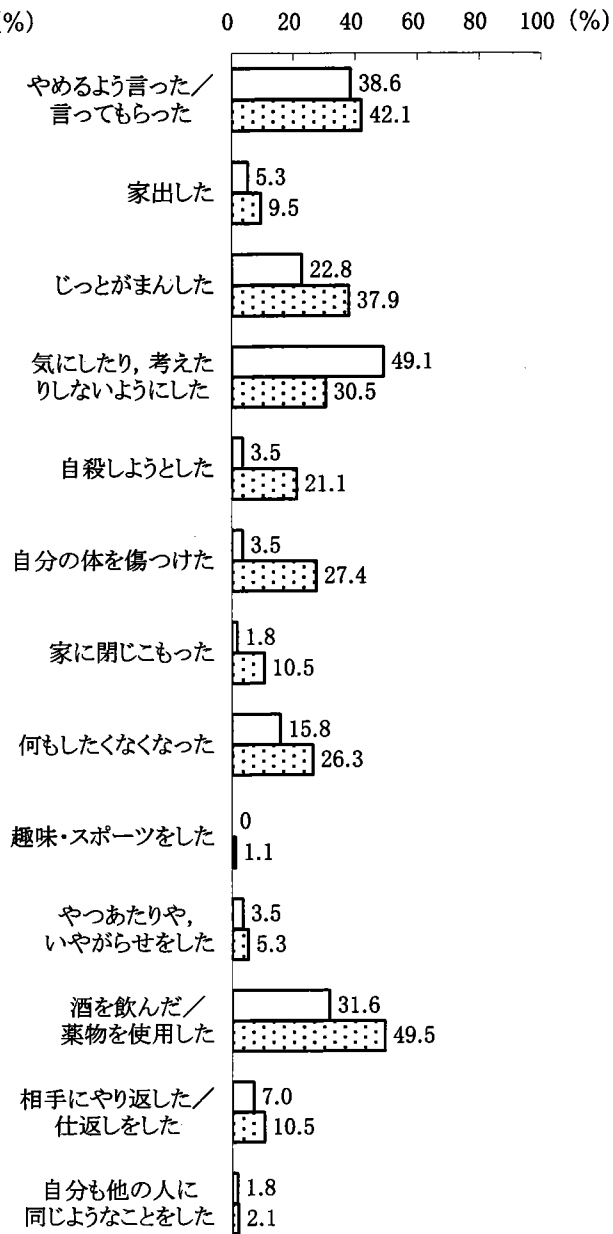
	男子				女子			
	一般単回群	一般反復群	合計	検定結果	一般単回群	一般反復群	合計	検定結果
やめるよう言った／ 言ってもらった	40 (26.3)	81 (40.5)	121 (34.4)	$\chi^2(1)=7.702$ $p=0.006^{**}$	24 (51.1)	47 (43.9)	71 (46.1)	$\chi^2(1)=0.670$ $p=0.413$
家出した	1 (0.7)	6 (3.0)	7 (2.0)	(f) $p=0.146$	1 (2.1)	6 (5.6)	7 (4.5)	(f) $p=0.676$
じつとがまんした	45 (29.6)	57 (28.5)	102 (29.0)	$\chi^2(1)=0.051$ $p=0.821$	11 (23.4)	47 (43.9)	58 (37.7)	$\chi^2(1)=5.857$ $p=0.016^*$
気にしたり、考えたり しないようにした	59 (38.8)	63 (31.5)	122 (34.7)	$\chi^2(1)=2.041$ $p=0.153$	22 (46.8)	39 (36.4)	61 (39.6)	$\chi^2(1)=1.465$ $p=0.226$
自殺しようとした	2 (1.3)	4 (2.0)	6 (1.7)	(f) $p=0.702$	2 (4.3)	11 (10.3)	13 (8.4)	(f) $p=0.346$
自分の体を傷つけた	1 (0.7)	0 -	1 (0.3)	(f) $p=0.432$	2 (4.3)	19 (17.8)	21 (13.6)	$\chi^2(1)=5.055$ $p=0.025^*$
家に閉じこもった	4 (2.6)	4 (2.0)	8 (2.3)	(f) $p=0.730$	1 (2.1)	8 (7.5)	9 (5.8)	(f) $p=0.277$
何もしたくなかった	8 (5.3)	15 (7.5)	23 (6.5)	$\chi^2(1)=0.708$ $p=0.400$	3 (6.4)	23 (21.5)	26 (16.9)	$\chi^2(1)=5.315$ $p=0.021^*$
趣味・スポーツをし た	5 (3.3)	8 (4.0)	13 (3.7)	$\chi^2(1)=0.123$ $p=0.726$	0 -	2 (1.9)	2 (1.3)	(f) $p=1.000$
やつあたりや、 いやがらせをした	7 (4.6)	7 (3.5)	14 (4.0)	$\chi^2(1)=0.276$ $p=0.599$	1 (2.1)	8 (7.5)	9 (5.8)	(f) $p=0.277$
酒を飲んだ／ 薬物を使用した	10 (6.6)	24 (12.0)	34 (9.7)	$\chi^2(1)=2.909$ $p=0.088$	8 (17.0)	37 (34.6)	45 (29.2)	$\chi^2(1)=4.868$ $p=0.027^*$
相手にやり返した／ 仕返しをした	11 (7.2)	18 (9.0)	29 (8.2)	$\chi^2(1)=0.355$ $p=0.551$	6 (12.8)	4 (3.7)	10 (6.5)	(f) $p=0.068$
自分も他の人に同 じようなことをした	7 (4.6)	16 (8.0)	23 (6.5)	$\chi^2(1)=1.630$ $p=0.202$	0 -	3 (2.8)	3 (1.9)	(f) $p=0.553$
総数	152	200	352		47	107	154	

図30-2 性的暴力②（性交）

男子



女子



□ 一般単回群

■ 一般反復群

	男子				女子			
	一般単回群	一般反復群	合計	検定結果	一般単回群	一般反復群	合計	検定結果
やめるよう言った／ 言ってもらった	26 (30.6)	23 (35.4)	49 (32.7)	$\chi^2(1)=0.385$ $p=0.535$	22 (38.6)	40 (42.1)	62 (40.8)	$\chi^2(1)=0.182$ $p=0.670$
家出した	2 (2.4)	3 (4.6)	5 (3.3)	(f) $p=0.653$	3 (5.3)	9 (9.5)	12 (7.9)	(f) $p=0.536$
じつとがまんした	16 (18.8)	16 (24.6)	32 (21.3)	$\chi^2(1)=0.736$ $p=0.391$	13 (22.8)	36 (37.9)	49 (32.2)	$\chi^2(1)=3.712$ $p=0.054$
気にしたり、考えたり しないようにした	33 (38.8)	20 (30.8)	53 (35.3)	$\chi^2(1)=1.046$ $p=0.306$	28 (49.1)	29 (30.5)	57 (37.5)	$\chi^2(1)=5.257$ $p=0.022^*$
自殺しようとした	0 -	4 (6.2)	4 (2.7)	(f) $p=0.033^*$	2 (3.5)	20 (21.1)	22 (14.5)	$\chi^2(1)=8.858$ $p=0.003^{**}$
自分の体を傷つけた	1 (1.2)	0 -	1 (0.7)	(f) $p=1.000$	2 (3.5)	26 (27.4)	28 (18.4)	$\chi^2(1)=13.496$ $p=0.000^{**}$
家に閉じこもった	3 (3.5)	0 -	3 (2.0)	(f) $p=0.258$	1 (1.8)	10 (10.5)	11 (7.2)	(f) $p=0.054$
何もしたくなかった	2 (2.4)	6 (9.2)	8 (5.3)	(f) $p=0.077$	9 (15.8)	25 (26.3)	34 (22.4)	$\chi^2(1)=2.273$ $p=0.132$
趣味・スポーツをし た	3 (3.5)	4 (6.2)	7 (4.7)	(f) $p=0.467$	0 -	1 (1.1)	1 (0.7)	(f) $p=1.000$
やつあたりや、 いやがらせをした	6 (7.1)	3 (4.6)	9 (6.0)	(f) $p=0.732$	2 (3.5)	5 (5.3)	7 (4.6)	(f) $p=0.712$
酒を飲んだ／ 薬物を使用した	11 (12.9)	12 (18.5)	23 (15.3)	$\chi^2(1)=0.865$ $p=0.352$	18 (31.6)	47 (49.5)	65 (42.8)	$\chi^2(1)=4.661$ $p=0.031^*$
相手にやり返した／ 仕返しをした	12 (14.1)	10 (15.4)	22 (14.7)	$\chi^2(1)=0.047$ $p=0.828$	4 (7.0)	10 (10.5)	14 (9.2)	$\chi^2(1)=0.524$ $p=0.469$
自分も他の人に同 じようなことをした	7 (8.2)	3 (4.6)	10 (6.7)	(f) $p=0.515$	1 (1.8)	2 (2.1)	3 (2.0)	(f) $p=1.000$
総数	85	65	150		57	95	152	

注1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 重複選択による。

4 グラフ及び表は、各項目を選択した者のみを挙げている。

5 ()内は、総数に対する比率である。

6 図4の注6に同じ。

7 図5の注7に同じ。

5 性的暴力の終了

(1) 終了の有無

表11は、性的暴力①（接触）及び②（性交）の被害経験のある者に対し、「その被害は、終わったと思いますか」（問6）と尋ねた結果を、男女について群別に見たものである。「終わった」とする者の比率は、性的暴力①、②とも、男子がどちらの群でも70％台、女子が一般単回群で70％台、一般反復群で60％台である。

表11 性的暴力の終了

		性的暴力①(接触)			性的暴力②(性交)		
		終わった	終わっていない	合計	終わった	終わっていない	合計
男子	一般単回群	119 (76.8)	36 (23.2)	155 (100.0)	66 (76.7)	20 (23.3)	86 (100.0)
	一般反復群	147 (71.7)	58 (28.3)	205 (100.0)	47 (74.6)	16 (25.4)	63 (100.0)
	合計	266 (73.9)	94 (26.1)	360 (100.0)	113 (75.8)	36 (24.2)	149 (100.0)
	検定結果	$\chi^2(2)=1.175$ p=0.278			$\chi^2(2)=0.091$ p=0.763		
女子	一般単回群	36 (75.0)	12 (25.0)	48 (100.0)	45 (78.9)	12 (21.1)	57 (100.0)
	一般反復群	71 (67.6)	34 (32.4)	105 (100.0)	58 (61.7)	36 (38.3)	94 (100.0)
	合計	107 (69.9)	46 (30.1)	153 (100.0)	103 (68.2)	48 (31.8)	151 (100.0)
	検定結果	$\chi^2(2)=0.854$ p=0.356			$\chi^2(2)=4.867$ p=0.027*		

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 「終わっていない」は、「わからない」を含む。
4 ()内は、構成比である。
5 図29の注6に同じ。

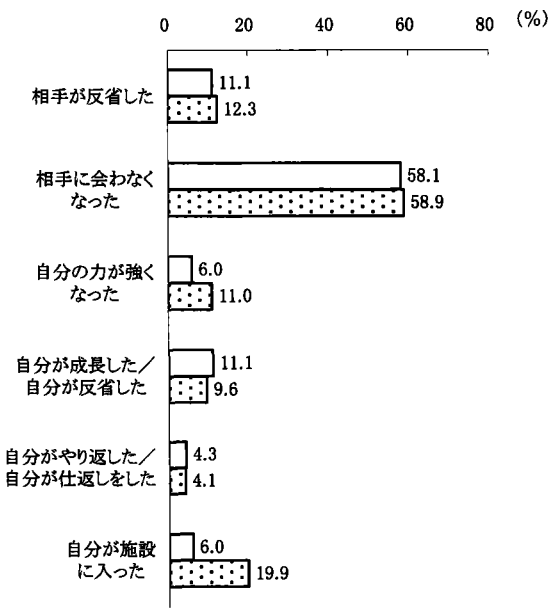
(2) 終了の理由

図31は、性的暴力①（接触）及び②（性交）が「終わった」とする者に対し、「被害はなぜ終わったと思いますか」（問6のa、重複選択）と尋ねた結果を、男女について群別に見たものである。男子は、性的暴力①の場合、一般単回群では「相手に会わなくなった」とする者の比率が最も高く、次いで、「自分が成長した／自分が反省した」と「相手が反省した」が同率で高くなっており、一般反復群では、同様に「相手に会わなくなった」が最も高く、次いで、「自分が施設に入った」、「相手が反省した」となっている。性的暴力②の場合も、ほぼ同様の傾向にある。女子は、性的暴力①の場合、一般単回群では「相手に会わなくなった」とする者の比率が最も高く、次いで、「相手が反省した」、「自分が施設に入った」となっており、一般反復群では、同様に「相手に会わなくなった」が最も高く、次いで、「自分が施設に入った」、「自分が成長した／自分が反省した」の順である。性的暴力②の場合も、一般単回群では「相手に会わなくなった」が最も高く、次いで、「相手が反省した」、「自分が施設に入った」であり、一般反復群では、同様に「相手に会わなくなった」が最も高く、次いで、「自分が施設に入った」、「相手が反省した」の順である。

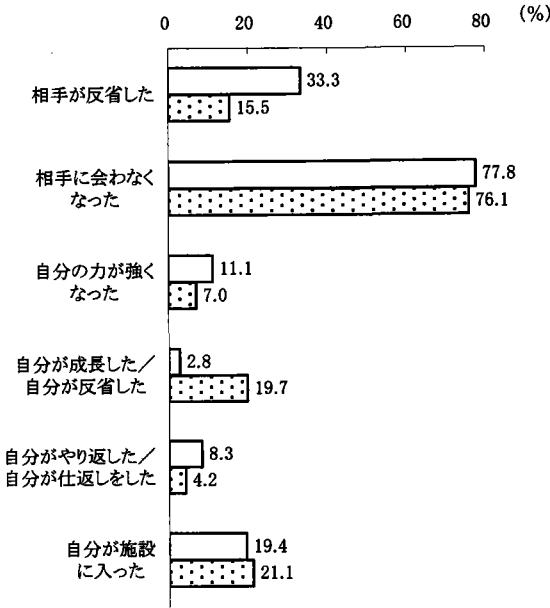
図31 性的暴力の終了の理由

図31-1 性的暴力①（接触）

男子



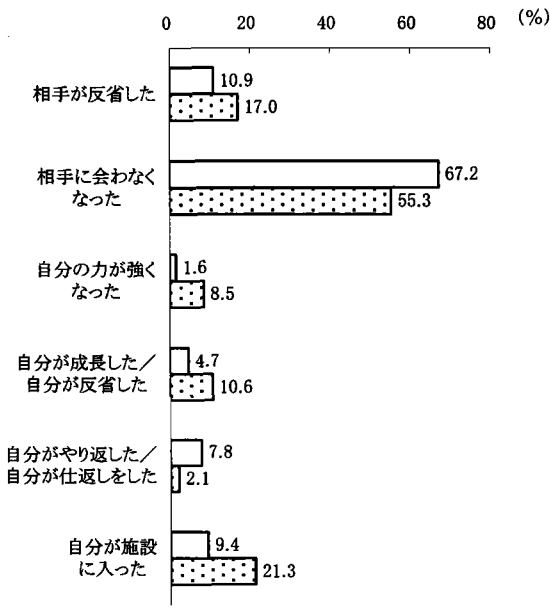
女子



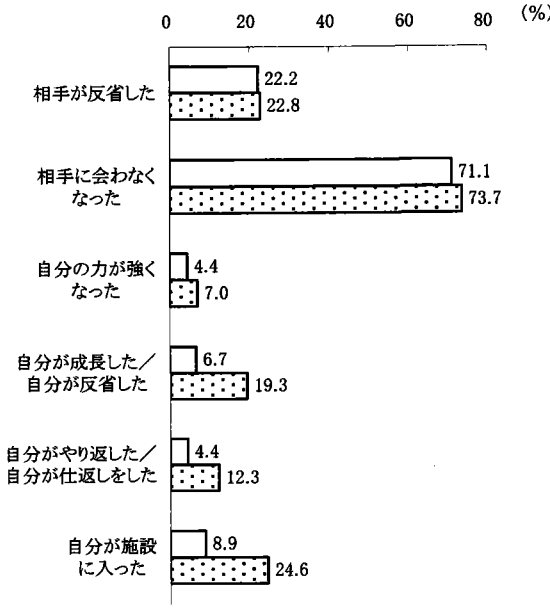
□一般単回群 ■一般反復群

図31-2 性的暴力②（性交）

男子



女子



□一般単回群 ■一般反復群

			相手が反省した	相手に会わなくなった	自分の力が強くなった	自分が成長した／自分が反省した	自分がやり返した／自分が仕返しをした	自分が施設に入った	総数
性的暴力① (接触)	男子	一般単回群	13 (11.1)	68 (58.1)	7 (6.0)	13 (11.1)	5 (4.3)	7 (6.0)	117
		一般反復群	18 (12.3)	86 (58.9)	16 (11.0)	14 (9.6)	6 (4.1)	29 (19.9)	146
		合計	31 (11.8)	154 (58.6)	23 (8.7)	27 (10.3)	11 (4.2)	36 (13.7)	263
		検定結果	$\chi^2(1)=0.093$ $p=0.761$	$\chi^2(1)=0.016$ $p=0.898$	$\chi^2(1)=2.015$ $p=0.156$	$\chi^2(1)=0.163$ $p=0.686$	(f) $p=1.000$	$\chi^2(1)=10.591$ $p=0.001^{**}$	
	女子	一般単回群	12 (33.3)	28 (77.8)	4 (11.1)	1 (2.8)	3 (8.3)	7 (19.4)	36
		一般反復群	11 (15.5)	54 (76.1)	5 (7.0)	14 (19.7)	3 (4.2)	15 (21.1)	71
		合計	23 (21.5)	82 (76.6)	9 (8.4)	15 (14.0)	6 (5.6)	22 (20.6)	107
		検定結果	$\chi^2(1)=4.506$ $p=0.034^*$	$\chi^2(1)=0.040$ $p=0.842$	(f) $p=0.481$	$\chi^2(1)=5.687$ $p=0.017^*$	(f) $p=0.402$	$\chi^2(1)=0.041$ $p=0.839$	
性的暴力② (性交)	男子	一般単回群	7 (10.9)	43 (67.2)	1 (1.6)	3 (4.7)	5 (7.8)	6 (9.4)	64
		一般反復群	8 (17.0)	26 (55.3)	4 (8.5)	5 (10.6)	1 (2.1)	10 (21.3)	47
		合計	15 (13.5)	69 (62.2)	5 (4.5)	8 (7.2)	6 (5.4)	16 (14.4)	111
		検定結果	$\chi^2(1)=0.858$ $p=0.354$	$\chi^2(1)=1.623$ $p=0.203$	(f) $p=0.161$	(f) $p=0.280$	(f) $p=0.239$	$\chi^2(1)=3.111$ $p=0.078$	
	女子	一般単回群	10 (22.2)	32 (71.1)	2 (4.4)	3 (6.7)	2 (4.4)	4 (8.9)	45
		一般反復群	13 (22.8)	42 (73.7)	4 (7.0)	11 (19.3)	7 (12.3)	14 (24.6)	57
		合計	23 (22.5)	74 (72.5)	6 (5.9)	14 (13.7)	9 (8.8)	18 (17.6)	102
		検定結果	$\chi^2(1)=0.005$ $p=0.944$	$\chi^2(1)=0.084$ $p=0.772$	(f) $p=0.692$	$\chi^2(1)=3.388$ $p=0.066$	(f) $p=0.292$	$\chi^2(1)=4.250$ $p=0.039^*$	

注1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 重複選択による。

4 グラフ及び表は、各項目を選択したもののみを挙げている。

5 ()内は、総数に対する比率である。

6 図4の注6に同じ。

7 図29の注6に同じ。

6 非行との関連についての認識

図32は、性的暴力①（接触）及び②（性交）の被害経験者の非行関連認識を、男女について群別に見たものである。男子では性的暴力①及び②とも、「思わない」とする者が一般単回群で90％台、一般反復群で80％台と最も高い比率を占めている。女子でも性的暴力①及び②とも、「思わない」とする者がどちらの群でも最も高い比率を占めているが、「思う」とする者も、10ないし20％台を占めている。なお、女子の性的暴力②（性交）を除き、一般単回群と一般反復群に有意差は見られない。

また、被害期間別に見ると、男子の性的暴力①（モンテカルロ法による。p=0.002）及び女子の性的暴力②（同p=0.015）で有意差が見られ、残差分析の結果、いずれの場合も、「中学生からの被害」について非行との関連はないとする者が有意に多い。また、男子の性的暴力①の「小学校までの被害」及び女子の性的暴力②の「早発・長期間の被害」についても同様に、非行との関連はないとする者が有為に多い。

図32 性的暴力の被害経験と非行の関連認識

図32-1 性的暴力①（接触）

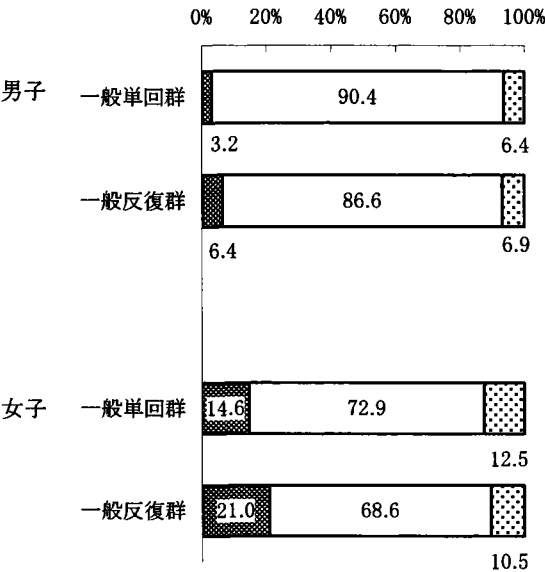
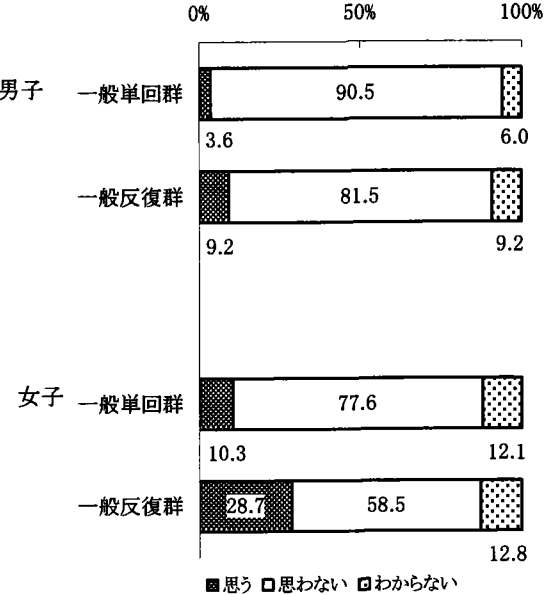


図32-2 性的暴力②（性交）



		性的暴力①(接触)				性的暴力②(性交)				検定結果
		思う	思わない	わからない	合計	思う	思わない	わからない	合計	
男子	一般単回群	5 (3.2)	141 (90.4)	10 (6.4)	156 (100.0)	3 (3.6)	76 (90.5)	5 (6.0)	84 (100.0)	$\chi^2(2)=2.003$ $p=0.367$
	一般反復群	13 (6.4)	175 (86.6)	14 (6.9)	202 (100.0)	6 (9.2)	53 (81.5)	6 (9.2)	65 (100.0)	
	合計	18 (5.0)	316 (88.3)	24 (6.7)	358 (100.0)	9 (6.0)	129 (86.6)	11 (7.4)	149 (100.0)	
女子	一般単回群	7 (14.6)	35 (72.9)	6 (12.5)	48 (100.0)	6 (10.3)	45 (77.6)	7 (12.1)	58 (100.0)	$\chi^2(2)=7.578$ $p=0.023^*$
	一般反復群	22 (21.0)	72 (68.6)	11 (10.5)	105 (100.0)	27 (28.7)	55 (58.5)	12 (12.8)	94 (100.0)	
	合計	29 (19.0)	107 (69.9)	17 (11.1)	153 (100.0)	33 (21.7)	100 (65.8)	19 (12.5)	152 (100.0)	

注1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 図1の注3に同じ。
5 図9の注3に同じ。
6 図29の注6に同じ。

第12 家族以外の者からの加害行為の状況のまとめと考察

1 まとめ

ここでは、家族以外の者からの恐喝、身体的暴力①（軽度）、②（重度）、性的暴力①（接触）及び②（性交）について、それぞれの被害の状況や被害を受けた時に少年がとった行動等を見てみた。なお、分析に際しては、家族以外の者からの加害行為を受けた経験のある者を「一般単回群」（一度だけ被害を受けたとする者及び被害回数について「覚えていない」とする者）と「一般反復群」（繰り返し被害を受けたとする者）に分け、群間の対比を含め、家族以外の者からの身体的暴力等の被害経験の特徴を把握することに努めた。

その結果の概要は、次のとおりである。

- (1) 身体的暴力等及び性的暴力を受けた経験のある者は、身体的暴力①を除き、男女で有意差が見られ、恐喝及び身体的暴力②は男子が、性的暴力①及び②は女子が、それぞれ有意に多い。
- (2) 家族から3種類の身体的暴力等及び2種類の性的暴力のいずれか一つでも受けた経験のある者は、全体の約90%である。また、これら5つの加害行為について少なくとも一つ以上の反復被害経験のある者は全体の約80%で、男女の有意差は見られない。
- (3) 被害類型を見ると、男子では「身体的暴力等の反復被害経験があり、性的暴力の被害経験のない者」が約60%、女子では「身体的暴力等及び性的暴力双方の反復被害経験がある者」が約40%と、それぞれ最も多くなっている。
- (4) 家族以外の者からの身体的暴力等の被害状況については、次のとおりである。
 - ① 身体的暴力等の三つの加害行為のうちいずれか一つでも受けた経験のある者は、男子で約90%、女子で約80%を占め、それら加害行為のうち一つ以上について反復被害経験のある者は、男女とも約70%である。
 - ② 最も多くの者が身体的暴力等を受けた時期は、一般単回群の場合、男女とも、恐喝及び身体的暴力①が中学生の時で、②が中学卒業後であるが、一般反復群の場合、女子の身体的暴力②が中学卒業後であることを除き、いずれも中学生の時である。
 - ③ 一般反復群について、被害期間を見ると、男女とも、いずれの加害行為についても、中学生からの被害が最も多い。
 - ④ 一般反復群について、身体的暴力等の加害者の種類数を見ると、いずれの加害行為についても、男女とも、半数以上の者が複数種類の加害者を挙げている。また、被害期間別に見ると、小学生までの被害の場合、男女とも、いずれの加害行為についても、加害者は1種類とする者が半数以上であるが、早発・長期間の被害の場合、男女とも身体的暴力①及び②について、加害者は3種類とする者がおおむね半数以上である。
 - ⑤ 身体的暴力等の最もひどい加害者について最も多いのは、一般単回群では、恐喝の場合、男女とも全く知らない人、身体的暴力①及び②の場合、男子が先輩で女子が友達・恋人である。一般反復群では、恐喝の場合、男女とも先輩、身体的暴力①及び②の場合、男子が先輩で女子が友達・恋人である。
 - ⑥ 一般反復群について、身体的暴力等（女子の身体的暴力②を除く。）の最もひどい加害者と被害期間の間に有意な関連が見られ、男子の場合、恐喝及び身体的暴力①では、「小学生までの被害」で友達・恋人、「中学生からの被害」で先輩が、身体的暴力②では、「中学生からの被害」で先輩、「早発・

長期間の被害」で友達・恋人及び学校や施設の先生が、それぞれ有意に多い。

(5) 身体的暴力等を受けた時の行動等については、次のとおりである。

- ① 身体的暴力等を受けた経験を誰かに言ったことがあるとする者は、男子で60から70%, 女子で70から90%である。群別に見ると、男子で、いずれの加害行為についても、「言ったことがある」とする者が一般反復群で有意に多い。また、一般反復群について被害期間別に見ると、男女とも、いずれの加害行為についても、「言ったことがある」とする者の比率は、「小学生までの被害」が他の二つに比べて低い。
- ② 身体的暴力等を受けた経験を言った相手は、男女とも、いずれの加害行為についても、友達・恋人・先輩が最も高いが、一般反復群について被害期間別に見ると、「小学生までの被害」の場合は、いずれの加害行為についても、男女とも父、母及びきょうだいの比率が高い。
- ③ 一般反復群で身体的暴力等を受けた経験を言った者について、その話を信じてくれた人の有無を被害期間別に見ると、男子の恐喝及び身体的暴力①で、「小学生までの被害」で「いなかった」とする者が有意に多い。
- ④ 身体的暴力等を受けた経験を言った相手が1人の者について、相手別に話を信じてくれたかどうかを見ると、男子でいずれの加害行為についても有意差が見られ、言った相手が父(身体的暴力②), 母(恐喝及び身体的暴力②), 警察(恐喝), 先生(身体的暴力①)で、信じてくれた人がいたとする者が有意に少ない。
- ⑤ 身体的暴力等を受けた経験を言わなかった理由として、男子では、いずれの加害行為においても、「たいした被害ではなかった」は一般単回群で、「言ってもむだだと思った」、「言うとかえってひどい目にあうと思った」は一般反復群で有意に多くなっている。
- ⑥ 身体的暴力等の被害を受けたときの行動について、男女とも、いずれの加害行為についても、どちらの群も「じっとがまんした」とする者が最も多い。これに次いで、男子では、いずれの加害行為も、一般単回群では「気にしたり、考えたりしないようにした」、「自分も他の人に同じようなことをした」、「相手にやり返した／仕返しをした」が、一般反復群では「自分も他の人に同じようなことをした」、「相手にやり返した／仕返しをした」が高い比率となっている。また、女子でも、一般単回群ではいずれの加害行為も、「気にしたり、考えたりしないようにした」が高くなっている。一般反復群では恐喝で「やめるよう言った／言ってもらった」、「酒を飲んだ／薬物を使用した」、身体的暴力①で「相手にやり返した／仕返しをした」、「やめるよう言った／言ってもらった」、同②で「酒を飲んだ／薬物を使用した」、「相手にやり返した／仕返しをした」がそれぞれ高くなっている。
- ⑦ 身体的暴力等を受けたときの行動には、被害期間によって異なる傾向が見られる。男子では、「家出した」(②), 「自殺しようとした」(②), 「自分の体を傷つけた」(恐喝, ②), 「趣味・スポーツをした」(②), 「やつあたりや、いやがらせをした」(①, ②), 「相手にやり返した／仕返しをした」(恐喝, ①, ②) 及び「自分も他の人に同じようなことをした」(①, ②) が、いずれも中学生からの被害で有意に少なく、早発・長期間の被害で有意に多くなっている。女子でも、「家出した」(②), 「やつあたりや、いやがらせをした」(①, ②), 「相手にやり返した／仕返しをした」(①) 及び「自分も他の人に同じようなことをした」(①, ②) で男子と同じ傾向にあるほか、「やめるよう言った／言ってもらった」(②) が、中学生からの被害で、「酒を飲んだ／薬物を使用した」(①, ②) が早発・長期間の被害で、それぞれ有意に多くなっている。
- ⑧ 身体的暴力等を受けた経験のある者のうち、その加害行為が「終わった」とする者は、女子の恐喝の一般反復群で約60%とやや低くなっている他は、すべて70から80%台である。終了した理由と

して、男女ともいずれの加害行為も、「相手に会わなくなった」とする者の比率が最も高くなっている。また、男子について、いずれの加害行為についても、「自分の力が強くなった」、「自分がやり返した／自分が仕返しをした」、「自分が施設に入った」で、一般反復群が有意に多くなっている。

⑨ 身体的暴力等の被害経験と非行との関連についての認識を尋ねると、「思う」とする者は、女子の恐喝で約28%（一般単回群）ないし約30%（一般反復群）であるほかは、いずれの加害行為も、一般単回群が10%台、一般反復群が20%台である。また、いずれの加害行為についても、男子で群間に有意差が見られ、「思わない」は一般単回群で、「思う」及び「分からない」は一般反復群で、それぞれ有意に多い。

⑩ 一般反復群について、非行関連認識を最もひどい加害者別に見ると、いずれの加害行為についても男子で有意差が見られ、「思う」は、友達・恋人（恐喝，身体的暴力②），先生（身体的暴力①，②）が、「思わない」は、先輩（身体的暴力①），全く知らない人（恐喝，身体的暴力①，②）が、それぞれ有意に多くなっている。

⑪ 男子の一般反復群について、非行関連認識と被害を受けたときの行動の関係を見ると、いずれの加害行為についても、「思わない」とする者は、被害時に「じっとがまんした」、「気にしたり、考えたりしないようにした」、「相手にやり返した／仕返しをした」が多く、「思う」とする者は、「家に閉じこもった」（恐喝，①，②），「やつあたりや、いやがらせをした」（①，②），「酒を飲んだ／薬物を使用した」（①，②），「自分も他の人に同じようなことをした」（①，②）が多く、「わからない」とする者は、「何もしたくなくなった」（恐喝，②），「趣味・スポーツをした」（恐喝，①）が多くなっている。

(6) 家族以外の者からの性的暴力の被害状況は、次のとおりである。

① 性的暴力①及び②のどちらか一つでも受けた経験のある者は、男子で約20%，女子で約80%であり、それら加害行為のうち一つ以上について反復被害経験のある者は、男子で約10%，女子で約60%である。

② 最も多くの者が性的暴力を受けた時期は、性的暴力①で、男子はどちらの群も、中学卒業後、女子は中学生の時（一般単回群）あるいは中学生の時及び中学卒業後（一般反復群）である。②では、男女ともどちらの群も中学卒業後である。

③ 一般反復群について、被害期間を見ると、男女とも、どちらの加害行為についても、中学生からの被害が80%以上を占めている。

④ 一般反復群について、性的暴力の加害者の種類数を見ると、複数種類の加害者を挙げた者の比率は、男子で約50%（性的暴力①）ないし60%（②），女子で約70%である。また、性的暴力①について、男子の加害者が1種類、女子の3種類以上が有意に多い。

⑤ 性的暴力の最もひどい加害者について最も多いのは、一般単回群では、①の場合、男子が友達・恋人、女子が全く知らない人、②の場合、男子が友達・恋人で女子が先輩である。一般反復群では、①の場合、男子が友達・恋人及び先輩、女子が全く知らない人、②の場合、男子が友達・恋人及び先輩で女子が先輩である。また、①，②とも、男女で有意差が見られ、男子は友達・恋人が、女子は全く知らない人が有意に多い。

(7) 性的暴力を受けた時の行動等については、次のとおりである。

① 性的暴力を受けた経験を誰かに言ったことがあるかどうかについては、①，②とも、男子ではどちらの群も「言ったことはない」が、女子は、「言ったことがある」とする者の比率が高い。

② 性的暴力を受けた経験を言った相手は、男女とも、どちらの加害行為についても、友達・恋人・先輩が最も高い。

- ③ 性的暴力を受けた経験を言わなかった理由として、男子では、性的暴力①の一般単回群を除き、いずれの場合も「言うのがはずかしかった」とする比率が最も高く、次いで「たいした被害ではなかった」となっている。女子はいずれの場合も「言うのがはずかしかった」とする比率が最も高く、次いで「言ってもむだだと思った」が高くなっているほか、「たいした被害ではなかった」(①の一般単回群)、「自分で解決しようと思った」(②の一般反復群)も同率である。
- ④ 性的暴力の被害を受けたときの行動について、男子は、①、②ともどちらの群も、「やめるよう言った／言ってもらった」、「じっとがまんした」、「気にしたり、考えたりしないようにした」とする者の比率が、他の項目に比べて高い。女子は、①の一般単回群の場合、男子と同様である。①の一般反復群と②のどちらの群も、先の三つに加えて、「何もしたくなくなった」、「酒を飲んだ／薬物を使用した」が高いほか、②の一般反復群では、「自殺しようとした」、「自分の体を傷つけた」も高い。
- ⑤ 性的暴力を受けた経験のある者のうち、その加害行為が「終わった」とする者は、①、②とも、男子がどちらの群でも70%台、女子が一般単回群で70%台、一般反復群で60%台である。終了した理由として、男女ともどちらの加害行為も、「相手に会わなくなった」とする者の比率が最も高くなっている。
- ⑥ 性的暴力の被害経験と非行との関連についての認識を尋ねると、男子では性的暴①、②とも、「思わない」とする者が一般単回群で90%台、一般反復群で80%台と最も高い比率を占めている。女子でも①、②とも、「思わない」とする者がどちらの群でも最も高い比率を占めているが、「思う」とする者も、10ないし20%台を占めている。

2 考察

家族以外の者からの被害経験については、既に第1報告で「一般被害群」として分析の対象とし、家族からの被害との対比で考察をしているので、ここでは、今回の分析結果を踏まえ、次の3点について若干の考察を述べるにとどめたい。

第1点は、家族以外の者からの被害経験者の比率の高さについてである。

家族以外の者から身体的暴力等(恐喝、身体的暴力①及び②)及び性的暴力のうち、一つでも被害経験のある者は、回答者全体の約94%を占め、ほとんどの者に被害経験があることがわかった。

ただし、これらの数値については、少年の自己申告によるものであることにも留意する必要がある。加えて、それぞれの被害に到った個別の経緯を調べていないので断定的なことは言えないものの、被害経験があるとした回答者の中には、少年から仕掛けられたか、不覚にも自分がけがをしたとか、少年の方も相手に被害を与えたという場合も少なからず含まれていると考えられる。したがって、本調査においては、少年が身体的暴力等や性的暴力を受けるに到った個別の経緯や、責任の所在を考慮しないで、「被害」という言葉が用いられていることをも念頭に置いて結果を見る必要がある。

その上で、被害経験者の比率を詳しく検討してみると、繰り返して被害を受けた者が、家族からの被害の場合(被虐待群)においては、回答者全体の約50%であったが、家族以外の者からの被害の場合(一般反復群)においては約80%と高いこと、及び一般反復群について、加害者が1種類とする者は50%以下で、半数以上の者は2ないし3種類以上の加害者を挙げていることがわかる。

虐待の場合は、その被害の場である家庭が少年にとっては寝食の場でもあり、また被害を受けると分かっていても、家出もしない限り、加害者との接触を避けることはできない。これに対し、家族以外の者からの被害は、むしろ加害者を避けることが比較的容易であることを考えると、少年が繰り返し被害を受けた背景について、更に検討する必要があるものと思われる。また、友達・恋人と職場関係の人、

先輩と全く知らない人といったように、異なる種類の加害者がいるということは、多くの場合、被害の場所が異なることを意味し、少年が、例えば交友関係と職場関係等日常生活のいくつかの対人関係において、被害にあったことを示すものと思われ、同様にその原因について検討する必要がある。

一つの仮説として、一般反復群の少年は、身体的暴力等又は性的暴力に出会いやすい生活、行動をしていた者が多いことが考えられるが、具体的にどのような生活、行動であったか、またその背景には何が考えられるか等については、先にも述べたとおり今回の調査の範囲を超えており、今後別途の方法で検討する必要がある。

第2点は、身体的暴力等の被害経験の少年の受け止めかたについてである。

家族以外の者からの身体的暴力等による被害経験については、家族からの場合に比べて、それが非行の原因であると受け止めている者は、全体としては少ない。その理由の一つとして、その被害経験が、先輩や全く知らない人が加害者となった、おそらくは不良交友の中で生じたものであることが考えられる。このような被害経験に対しては、少年は我慢したり、気にしないようにしたり、あるいは仕返しをすることで対応している。一方、被害経験が非行の原因だとする者については、加害者が友達、先生といった、おそらくは学校生活の範囲内で被害にあっており、気にしないようにすることも、やり返すこともできず、引きこもったり、自傷他害の行為に出たとする者が多い。

また、非行の原因ではないにしても、繰り返し被害を受けながら、それを誰にもいわなかった者の中には、暴力に対する無力感や恐怖を抱いている者が少なくないことが伺われる。また、特に男子で、「自分が強くなる」ことでこうした暴力を終了させた者が多いと思われる。

このように、少年の身体的暴力等による被害経験の受け止め方には、大きく二つのタイプがあるように思われる。すなわち、先輩・後輩といった上下関係のある不良集団に入って生活する中で、先輩等から被害を受けるが、がまんしたり、やり返すことで処理している者と、学校生活やその延長上の人間関係の中で被害に遭い、引きこもったり自傷他害の行為に出る者である。後者の少年が被害経験によって受けた暴力に対する無力感や恐怖はもちろん、前者の少年の暴力に対する認識、とりわけ、不良集団における上下関係を背景とした暴力に対する認識については、十分な指導が必要であると考ええる。

第3点は、男子の性的暴力の被害経験についてである。

性的暴力について、女子は回答者の約78%に被害経験があった。非行少女における性の問題については、従来からさまざまな調査、研究がなされており、今回の結果についてもこれらを裏付ける高い数値といえる。一方、家族以外の者による男子の性的被害について、今回の調査では回答者の約19%に被害経験があるとの結果を得たが、同様の調査がないので、この数値が高いか低いかを判断することはできない。

男子について、性的暴力の被害期間や加害者を見ると、中学生以後の先輩を含めた友人関係の中で被害に遭っている者が多く、全く知らない人からの被害は女子に比べて少ない。また、その被害経験を人に話した者は、男子の他の被害経験に比べるとかなり少なく、被害を受けたとき、飲酒・薬物使用、やつあたり、仕返し、他者への同種の加害行為等に出た者の比率は、女子より低くなっている。被害経験が非行の原因だとするものの比率を見ると、性的暴力の被害男子は、女子と比べても、また他の加害行為の被害男子と比べてもきわめて低くなっている。

これらのことから、男子の性的暴力については、被害にあってもあまり打撃を受けないですまされている印象を受ける。しかし、性的被害が終わったかどうかについては、性的暴力②の一般反復群を除き、男女の比率に大きな開きはない。いずれにしても、従来余り関心の払われなかった部分であり、被害経験者の事例を通して、女子の場合のように重要な問題であるのか、あるいは一つの出来事として触れないうで済ませてよいものなのか、問題性の軽重を検討しておく必要があると考える。

資料 集計表

問1「あなたが、そのような被害にあったのはいつですか」

区 分	総 数			小学校入学前			小学生の時		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	1,349	1,299	50	19 (1.4)	18 (1.4)	1 (2.0)	341 (25.3)	330 (25.4)	11 (22.0)
一般単回群	490	476	14	1 (0.2)	1 (0.2)	-	88 (18.0)	87 (18.3)	1 (7.1)
一般反復群	859	823	36	18 (2.1)	17 (2.1)	1 (2.8)	253 (29.5)	243 (29.5)	10 (27.8)
身体的暴力①(軽度)	1,438	1,304	134	94 (6.5)	88 (6.7)	6 (4.5)	610 (42.4)	565 (43.3)	45 (33.6)
一般単回群	323	297	26	4 (1.2)	4 (1.3)	-	56 (17.3)	52 (17.5)	4 (15.4)
一般反復群	1,115	1,007	108	90 (8.1)	84 (8.3)	6 (5.6)	554 (49.7)	513 (50.9)	41 (38.0)
身体的暴力②(重度)	1,872	1,711	161	34 (1.8)	30 (1.8)	4 (2.5)	357 (19.1)	340 (19.9)	17 (10.6)
一般単回群	511	471	40	1 (0.2)	1 (0.2)	-	16 (3.1)	15 (3.2)	1 (2.5)
一般反復群	1,361	1,240	121	33 (2.4)	29 (2.3)	4 (3.3)	341 (25.1)	325 (26.2)	16 (13.2)
性的暴力①(接触)	516	361	155	11 (2.1)	5 (1.4)	6 (3.9)	55 (10.7)	31 (8.6)	24 (15.5)
一般単回群	205	157	48	2 (1.0)	1 (0.6)	1 (2.1)	8 (3.9)	5 (3.2)	3 (6.3)
一般反復群	311	204	107	9 (2.9)	4 (2.0)	5 (4.7)	47 (15.1)	26 (12.7)	21 (19.6)
性的暴力②(性交)	305	151	154	-	-	-	17 (5.6)	9 (6.0)	8 (5.2)
一般単回群	145	87	58	-	-	-	3 (2.1)	2 (2.3)	1 (1.7)
一般反復群	160	64	96	-	-	-	14 (8.8)	7 (10.9)	7 (7.3)

区 分	中学生の時			中学卒業後			いつだったか 覚えていない		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	931 (69.0)	902 (69.4)	29 (58.0)	700 (51.9)	677 (52.1)	23 (46.0)	35 (2.6)	31 (2.4)	4 (8.0)
一般単回群	251 (51.2)	242 (50.8)	9 (64.3)	135 (27.6)	131 (27.5)	4 (28.6)	15 (3.1)	15 (3.2)	-
一般反復群	680 (79.2)	660 (80.2)	20 (55.6)	565 (65.8)	546 (66.3)	19 (52.8)	20 (2.3)	16 (1.9)	4 (11.1)
身体的暴力①(軽度)	1,039 (72.3)	948 (72.7)	91 (67.9)	775 (53.9)	702 (53.8)	73 (54.5)	41 (2.9)	37 (2.8)	4 (3.0)
一般単回群	133 (41.2)	119 (40.1)	14 (53.8)	106 (32.8)	98 (33.0)	8 (30.8)	24 (7.4)	24 (8.1)	-
一般反復群	906 (81.3)	829 (82.3)	77 (71.3)	669 (60.0)	604 (60.0)	65 (60.2)	17 (1.5)	13 (1.3)	4 (3.7)
身体的暴力②(重度)	1,292 (69.0)	1,195 (69.8)	97 (60.2)	1,289 (68.9)	1,182 (69.1)	107 (66.5)	35 (1.9)	33 (1.9)	2 (1.2)
一般単回群	202 (39.5)	183 (38.9)	19 (47.5)	274 (53.6)	254 (53.9)	20 (50.0)	18 (3.5)	18 (3.8)	-
一般反復群	1,090 (80.1)	1,012 (81.6)	78 (64.5)	1,015 (74.6)	928 (74.8)	87 (71.9)	17 (1.2)	15 (1.2)	2 (1.7)
性的暴力①(接触)	292 (56.6)	195 (54.0)	97 (62.6)	317 (61.4)	222 (61.5)	95 (61.3)	4 (0.8)	3 (0.8)	1 (0.6)
一般単回群	96 (46.8)	73 (46.5)	23 (47.9)	99 (48.3)	78 (49.7)	21 (43.8)	-	-	-
一般反復群	196 (63.0)	122 (59.8)	74 (69.2)	218 (70.1)	144 (70.6)	74 (69.2)	4 (1.3)	3 (75.0)	1 (0.9)
性的暴力②(性交)	149 (48.9)	63 (41.7)	86 (55.8)	206 (67.5)	105 (69.5)	101 (65.6)	5 (1.6)	2 (1.3)	3 (1.9)
一般単回群	54 (37.2)	29 (33.3)	25 (43.1)	88 (60.7)	56 (64.4)	32 (55.2)	-	-	-
一般反復群	95 (59.4)	34 (53.1)	61 (63.5)	118 (73.8)	49 (76.6)	69 (71.9)	5 (3.1)	2 (3.1)	3 (3.1)

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 () 内は、総数に対する比率である。
 3 重複選択による。

問3a「相手は誰ですか」

区 分	総 数			友達・恋人			先輩			学校や施設の先生		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	1,349	1,299	50	209	187	22	851	822	29	57	56	1
一般単回群	490	476	14	(15.5)	(14.4)	(44.0)	(63.1)	(63.3)	(58.0)	(4.2)	(4.3)	(2.0)
一般反復群	859	823	36	(6.1)	(5.3)	(35.7)	(39.4)	(39.5)	(35.7)	(1.4)	(1.5)	-
身体的暴力①(軽度)	1,440	1,307	133	773	706	67	301	276	25	595	515	80
一般単回群	325	299	26	(53.7)	(54.0)	(50.4)	(20.9)	(21.1)	(18.8)	(41.3)	(39.4)	(60.2)
一般反復群	1,115	1,008	107	(26.2)	(24.7)	(42.3)	(58.5)	(60.2)	(38.5)	(16.0)	(16.1)	(15.4)
身体的暴力②(重度)	1,875	1,714	161	592	476	116	1,411	1,344	67	256	242	14
一般単回群	514	474	40	(31.6)	(27.8)	(72.0)	(75.3)	(78.4)	(41.6)	(13.7)	(14.1)	(8.7)
一般反復群	1,361	1,240	121	(17.9)	(15.6)	(45.0)	(63.0)	(65.6)	(32.5)	(5.6)	(5.9)	(2.5)
性的暴力①(接触)	516	361	155	261	198	63	238	176	62	9	6	3
一般単回群	204	156	48	(50.6)	(54.8)	(40.6)	(46.1)	(48.8)	(40.0)	(1.7)	(1.7)	(1.9)
一般反復群	312	205	107	(41.2)	(47.4)	(20.8)	(37.7)	(41.7)	(25.0)	(1.0)	(1.3)	-
性的暴力②(性交)	304	151	153	141	78	63	144	75	69	3	1	2
一般単回群	145	87	58	(46.4)	(51.7)	(41.2)	(47.4)	(49.7)	(45.1)	(1.0)	(0.7)	(1.3)
一般反復群	159	64	95	(35.9)	(43.7)	(24.1)	(39.3)	(41.4)	(36.2)	-	-	-

区 分	仕事関係の人			同居していない親類の人			顔見知り(名前は知らない人)			全く知らない人		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	44	43	1	5	4	1	222	209	13	666	650	16
一般単回群	(3.3)	(3.3)	(2.0)	(0.4)	(0.3)	(2.0)	(16.5)	(16.1)	(26.0)	(49.4)	(50.0)	(32.0)
一般反復群	3	3	-	2	2	-	38	37	1	279	274	5
身体的暴力①(軽度)	(0.6)	(0.6)	-	(0.4)	(0.4)	-	(7.8)	(7.8)	(7.1)	(56.9)	(57.6)	(35.7)
身体的暴力②(重度)	41	40	1	3	2	1	184	172	12	387	376	11
性的暴力①(接触)	(4.8)	(4.9)	(2.8)	(0.3)	(0.2)	(2.8)	(21.4)	(20.9)	(33.3)	(45.1)	(45.7)	(30.6)
性的暴力②(性交)	64	57	7	173	143	30	53	47	6	119	110	9
一般単回群	(4.4)	(4.4)	(5.3)	(12.0)	(10.9)	(22.6)	(3.7)	(3.6)	(4.5)	(8.3)	(8.4)	(6.8)
一般反復群	13	13	-	7	6	1	34	32	2	52	50	2
身体的暴力①(軽度)	(4.0)	(4.3)	-	(2.2)	(2.0)	(3.8)	(10.5)	(10.7)	(7.7)	(16.0)	(16.7)	(7.7)
身体的暴力②(重度)	51	44	7	166	137	29	19	15	4	67	60	7
性的暴力①(接触)	(4.6)	(4.4)	(6.5)	(14.9)	(13.6)	(27.1)	(1.7)	(1.5)	(3.7)	(6.0)	(6.0)	(6.5)
性的暴力②(性交)	123	120	3	23	18	5	434	398	36	580	553	27
一般単回群	(6.6)	(7.0)	(1.9)	(1.2)	(1.1)	(3.1)	(23.1)	(23.2)	(22.4)	(30.9)	(32.3)	(16.8)
一般反復群	19	19	-	5	2	3	80	73	7	120	113	7
身体的暴力①(軽度)	(3.7)	(4.0)	-	(1.0)	(0.4)	(7.5)	(15.6)	(15.4)	(17.5)	(23.0)	(23.8)	(17.5)
身体的暴力②(重度)	104	101	3	18	16	2	354	325	29	460	440	20
性的暴力①(接触)	(7.6)	(8.1)	(2.5)	(1.3)	(1.3)	(1.7)	(26.0)	(26.2)	(24.0)	(33.8)	(35.5)	(16.5)
性的暴力②(性交)	31	15	16	12	3	9	164	118	46	128	50	78
一般単回群	(6.0)	(4.2)	(10.3)	(2.3)	(0.8)	(5.8)	(31.8)	(32.7)	(29.7)	(24.8)	(13.9)	(50.3)
一般反復群	9	6	3	1	-	1	69	59	10	43	23	20
身体的暴力①(軽度)	(4.4)	(3.8)	(6.3)	(0.5)	-	(2.1)	(33.8)	(37.8)	(20.8)	(21.1)	(14.7)	(41.7)
身体的暴力②(重度)	22	9	13	11	3	8	95	59	36	85	27	58
性的暴力①(接触)	(7.1)	(4.4)	(12.1)	(3.5)	(1.5)	(7.5)	(30.4)	(28.8)	(33.6)	(27.2)	(13.2)	(54.2)
性的暴力②(性交)	20	5	15	151	1	1	94	37	57	77	15	62
一般単回群	(6.6)	(3.3)	(9.8)	(49.7)	(0.7)	(0.7)	(30.9)	(24.5)	(37.3)	(25.3)	(9.9)	(40.5)
一般反復群	4	3	1	87	-	-	33	16	17	22	7	15
身体的暴力①(軽度)	(2.8)	(3.4)	(1.7)	(60.0)	-	-	(22.8)	(18.4)	(29.3)	(15.2)	(8.0)	(25.9)
身体的暴力②(重度)	16	2	14	64	1	1	61	21	40	55	8	47
性的暴力①(接触)	(10.1)	(3.1)	(14.7)	(40.3)	(1.6)	(1.1)	(38.4)	(32.8)	(42.1)	(34.6)	(12.5)	(49.5)

区 分	相手を見ていない			その他		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	15 (1.1)	14 (1.1)	1 (2.0)	82 (6.1)	76 (5.9)	6 (12.0)
一般単回群	1 (0.2)	1 (0.2)	-	23 (4.7)	22 (4.6)	1 (7.1)
一般反復群	14 (1.6)	13 (1.6)	1 (2.8)	59 (6.9)	54 (6.6)	5 (13.9)
身体的暴力①（軽度）	63 (4.4)	54 (4.1)	9 (6.8)	100 (6.9)	85 (6.5)	15 (11.3)
一般単回群	6 (1.8)	6 (2.0)	-	11 (3.4)	10 (3.3)	1 (3.8)
一般反復群	57 (5.1)	48 (4.8)	9 (8.4)	89 (8.0)	75 (7.4)	14 (13.1)
身体的暴力②（重度）	49 (2.6)	48 (2.8)	1 (0.6)	149 (7.9)	137 (8.0)	12 (7.5)
一般単回群	8 (1.6)	8 (1.6)	-	25 (4.9)	22 (4.3)	3 (0.6)
一般反復群	41 (3.0)	40 (2.9)	1 (0.1)	124 (9.1)	115 (8.4)	9 (0.7)
性的暴力①（接触）	15 (2.9)	5 (1.4)	10 (6.5)	47 (9.1)	21 (5.8)	26 (16.8)
一般単回群	3 (1.5)	2 (1.3)	1 (2.1)	15 (7.4)	7 (4.5)	8 (16.7)
一般反復群	12 (3.8)	3 (1.5)	9 (8.4)	32 (10.3)	14 (6.8)	18 (16.8)
性的暴力②（性交）	2 (0.7)	-	2 (1.3)	25 (8.2)	11 (7.3)	14 (9.2)
一般単回群	-	-	-	9 (6.2)	6 (6.9)	3 (5.2)
一般反復群	2 (1.3)	- (0.0)	2 (2.1)	16 (10.1)	5 (7.8)	11 (11.6)

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 () 内は、総数に対する比率である。
3 重複選択による。
4 無回答を除く。

問3b「相手が2人以上いる場合は、あなたに最もひどい被害を与えた人を1人だけ選んでください」

区 分	総 数			友達・恋人			先輩			学校や施設の先生		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	1,267 (100.0)	1,222 (100.0)	45 (100.0)	103 (8.1)	91 (7.4)	12 (26.7)	623 (49.2)	608 (49.8)	15 (33.3)	9 (0.7)	9 (0.7)	-
一 般 単 回 群	474 (100.0)	461 (100.0)	13 (100.0)	21 (4.4)	17 (3.7)	4 (30.8)	159 (33.5)	156 (33.8)	3 (23.1)	-	-	-
一 般 反 復 群	793 (100.0)	761 (100.0)	32 (100.0)	82 (10.3)	74 (9.7)	8 (25.0)	464 (58.5)	452 (59.4)	12 (37.5)	9 (1.1)	9 (1.2)	-
身体的暴力①（軽度）	1,290 (100.0)	1,168 (100.0)	122 (100.0)	277 (21.5)	221 (18.9)	56 (45.9)	639 (49.5)	609 (52.1)	30 (24.6)	125 (9.7)	111 (9.5)	14 (11.5)
一 般 単 回 群	304 (100.0)	279 (100.0)	25 (100.0)	57 (18.8)	48 (17.2)	9 (36.0)	149 (49.0)	141 (50.5)	8 (32.0)	30 (9.9)	27 (9.7)	3 (12.0)
一 般 反 復 群	986 (100.0)	889 (100.0)	97 (100.0)	220 (22.3)	173 (19.5)	47 (48.5)	490 (49.7)	468 (52.6)	22 (22.7)	95 (9.6)	84 (9.4)	11 (11.3)
身体的暴力②（重度）	1,677 (100.0)	1,530 (100.0)	147 (100.0)	250 (14.9)	167 (10.9)	83 (56.5)	895 (53.4)	861 (56.3)	34 (23.1)	48 (2.9)	47 (3.1)	1 (0.7)
一 般 単 回 群	471 (100.0)	437 (100.0)	34 (100.0)	61 (13.0)	46 (10.5)	15 (44.1)	253 (53.7)	245 (56.1)	8 (23.5)	9 (1.9)	9 (2.1)	-
一 般 反 復 群	1,206 (100.0)	1,093 (100.0)	113 (100.0)	189 (15.7)	121 (11.1)	68 (60.2)	642 (53.2)	616 (56.4)	26 (23.0)	39 (3.2)	38 (3.5)	1 (0.9)
性的暴力①（接触）	469 (100.0)	331 (100.0)	138 (100.0)	151 (32.2)	124 (37.5)	27 (19.6)	145 (30.9)	119 (36.0)	26 (18.8)	2 (0.4)	2 (0.6)	-
一 般 単 回 群	192 (100.0)	145 (100.0)	47 (100.0)	64 (33.3)	55 (37.9)	9 (19.1)	58 (30.2)	49 (33.8)	9 (19.1)	1 (0.5)	1 (0.7)	-
一 般 反 復 群	277 (100.0)	186 (100.0)	91 (100.0)	87 (31.4)	69 (37.1)	18 (19.8)	87 (31.4)	70 (37.6)	17 (18.7)	1 (0.4)	1 (0.5)	-
性的暴力②（性交）	262 (100.0)	132 (100.0)	130 (100.0)	73 (27.9)	50 (37.9)	23 (17.7)	84 (32.1)	48 (36.4)	36 (27.7)	-	-	-
一 般 単 回 群	131 (100.0)	82 (100.0)	49 (100.0)	39 (29.8)	31 (37.8)	8 (16.3)	45 (34.4)	29 (35.4)	16 (32.7)	-	-	-
一 般 反 復 群	131 (100.0)	50 (100.0)	81 (100.0)	34 (26.0)	19 (38.0)	15 (18.5)	39 (29.8)	19 (38.0)	20 (24.7)	-	-	-

区 分	仕事関係の人			同居していない親類の人			顔見知り（名前は知らない人）			全く知らない人		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	7 (0.6)	7 (0.6)	-	1 (0.1)	1 (0.1)	-	78 (6.2)	71 (5.8)	7 (15.6)	390 (30.8)	381 (31.2)	9 (20.0)
一 般 単 回 群	2 (0.4)	2 (0.4)	-	-	-	-	26 (5.5)	26 (5.6)	-	245 (51.7)	240 (52.1)	5 (38.5)
一 般 反 復 群	5 (0.6)	5 (0.7)	-	1 (0.1)	1 (0.1)	-	52 (6.6)	45 (5.9)	7 (21.9)	145 (18.3)	141 (18.5)	4 (12.5)
身体的暴力①（軽度）	26 (2.0)	26 (2.2)	-	12 (0.9)	10 (0.9)	2 (1.6)	62 (4.8)	56 (4.8)	6 (4.9)	94 (7.3)	89 (7.6)	5 (4.1)
一 般 単 回 群	6 (2.0)	6 (2.2)	-	5 (1.6)	4 (1.4)	1 (4.0)	17 (5.6)	16 (5.7)	1 (4.0)	31 (10.2)	29 (10.4)	2 (8.0)
一 般 反 復 群	20 (2.0)	20 (2.2)	-	7 (0.7)	6 (0.7)	1 (1.0)	45 (4.6)	40 (4.5)	5 (5.2)	63 (6.4)	60 (6.7)	3 (3.1)
身体的暴力②（重度）	32 (1.9)	31 (2.0)	1 (0.7)	10 (0.6)	7 (0.5)	3 (2.0)	125 (7.5)	117 (7.6)	8 (5.4)	214 (12.8)	203 (13.3)	11 (7.5)
一 般 単 回 群	10 (2.1)	10 (2.3)	-	3 (0.6)	1 (0.2)	2 (5.9)	39 (8.3)	38 (8.7)	1 (2.9)	73 (15.5)	68 (15.6)	5 (14.7)
一 般 反 復 群	22 (1.8)	21 (1.9)	1 (0.9)	7 (0.6)	6 (0.5)	1 (0.9)	86 (7.1)	79 (7.2)	7 (6.2)	141 (11.7)	135 (12.4)	6 (5.3)
性的暴力①（接触）	12 (2.6)	7 (2.1)	5 (3.6)	3 (0.6)	1 (0.3)	2 (1.4)	52 (11.1)	34 (10.3)	18 (13.0)	71 (15.1)	28 (8.5)	43 (31.2)
一 般 単 回 群	7 (3.6)	4 (2.8)	3 (6.4)	-	-	-	18 (9.4)	12 (8.3)	6 (12.8)	34 (17.7)	19 (13.1)	15 (31.9)
一 般 反 復 群	5 (1.8)	3 (1.6)	2 (2.2)	3 (1.1)	1 (0.5)	2 (2.2)	34 (12.3)	22 (11.8)	12 (13.2)	37 (13.4)	9 (4.8)	28 (30.8)
性的暴力②（性交）	9 (3.4)	3 (2.3)	6 (4.6)	1 (0.4)	1 (0.8)	-	38 (14.5)	14 (10.6)	24 (18.5)	43 (16.4)	9 (6.8)	34 (26.2)
一 般 単 回 群	4 (3.1)	3 (3.7)	1 (2.0)	-	-	-	19 (14.5)	9 (11.0)	10 (20.4)	18 (13.7)	6 (7.3)	12 (24.5)
一 般 反 復 群	5 (3.8)	-	5 (6.2)	1 (0.8)	1 (2.0)	-	19 (14.5)	5 (10.0)	14 (17.3)	25 (19.1)	3 (6.0)	22 (27.2)

区 分	相手を見ていない			その他		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	2 (0.2)	2 (0.2)	-	54 (4.3)	52 (4.3)	2 (4.4)
一般単回群	1 (0.2)	1 (0.2)	-	20 (4.2)	19 (4.1)	1 (7.7)
一般反復群	1 (0.1)	1 (0.1)	-	34 (4.3)	33 (4.3)	1 (3.1)
身体的暴力①(軽度)	2 (0.2)	2 (0.2)	-	53 (4.1)	44 (3.8)	9 (7.4)
一般単回群	1 (0.3)	1 (0.4)	-	8 (2.6)	7 (2.5)	1 (4.0)
一般反復群	1 (0.1)	1 (0.1)	-	45 (4.6)	37 (4.2)	8 (8.2)
身体的暴力②(重度)	8 (0.5)	8 (0.5)	-	95 (5.7)	89 (5.8)	6 (4.1)
一般単回群	2 (0.4)	2 (0.5)	-	21 (4.5)	18 (4.1)	3 (8.8)
一般反復群	6 (0.5)	6 (0.5)	-	74 (6.1)	71 (6.5)	3 (2.7)
性的暴力①(接触)	4 (0.9)	2 (0.6)	2 (1.4)	29 (6.2)	14 (4.2)	15 (10.9)
一般単回群	1 (0.5)	1 (0.7)	-	9 (4.7)	4 (2.8)	5 (10.6)
一般反復群	3 (1.1)	1 (0.5)	2 (2.2)	20 (7.2)	10 (5.4)	10 (11.0)
性的暴力②(性交)	-	-	-	15 (5.7)	7 (5.3)	8 (6.2)
一般単回群	-	-	-	7 (5.3)	4 (4.9)	3 (6.1)
一般反復群	-	-	-	8 (6.1)	3 (6.0)	5 (6.2)

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 () 内は、構成比である。
3 無回答を除く。

問4「被害について、誰かに言ったことがありますか」

区 分	総 数			言ったことがある			言ったことがない		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	1,340 (100.0)	1,290 (100.0)	50 (100.0)	936 (69.9)	893 (69.2)	43 (86.0)	404 (30.1)	397 (30.8)	7 (14.0)
一 般 単 回 群	488 (100.0)	474 (100.0)	14 (100.0)	318 (65.2)	306 (64.6)	12 (85.7)	170 (34.8)	168 (35.4)	2 (14.3)
一 般 反 復 群	852 (100.0)	816 (100.0)	36 (100.0)	618 (72.5)	587 (71.9)	31 (86.1)	234 (27.5)	229 (28.1)	5 (13.9)
身体的暴力①（軽度）	1,442 (100.0)	1,308 (100.0)	134 (100.0)	856 (59.4)	757 (57.9)	99 (73.9)	586 (40.6)	551 (42.1)	35 (26.1)
一 般 単 回 群	325 (100.0)	299 (100.0)	26 (100.0)	169 (52.0)	150 (50.2)	19 (73.1)	156 (48.0)	149 (49.8)	7 (26.9)
一 般 反 復 群	1,117 (100.0)	1,009 (100.0)	108 (100.0)	687 (61.5)	607 (60.2)	80 (74.1)	430 (38.5)	402 (39.8)	28 (25.9)
身体的暴力②（重度）	1,877 (100.0)	1,716 (100.0)	161 (100.0)	1,328 (70.8)	1,197 (69.8)	131 (81.4)	549 (29.2)	519 (30.2)	30 (18.6)
一 般 単 回 群	514 (100.0)	474 (100.0)	40 (100.0)	336 (65.4)	302 (63.7)	34 (85.0)	178 (34.6)	172 (36.3)	6 (15.0)
一 般 反 復 群	1,363 (100.0)	1,242 (100.0)	121 (100.0)	992 (72.8)	895 (72.1)	97 (80.2)	371 (27.2)	347 (27.9)	24 (19.8)
性的暴力①（接触）	512 (100.0)	357 (100.0)	155 (100.0)	255 (49.8)	143 (40.1)	112 (72.3)	257 (50.2)	214 (59.9)	43 (27.7)
一 般 単 回 群	204 (100.0)	156 (100.0)	48 (100.0)	89 (43.6)	57 (36.5)	32 (66.7)	115 (56.4)	99 (63.5)	16 (33.3)
一 般 反 復 群	308 (100.0)	201 (100.0)	107 (100.0)	166 (53.9)	86 (42.8)	80 (74.8)	142 (46.1)	115 (57.2)	27 (25.2)
性的暴力②（性交）	303 (100.0)	150 (100.0)	153 (100.0)	192 (63.4)	70 (46.7)	122 (79.7)	111 (36.6)	80 (53.3)	31 (20.3)
一 般 単 回 群	145 (100.0)	87 (100.0)	58 (100.0)	86 (59.3)	40 (46.0)	46 (79.3)	59 (40.7)	47 (54.0)	12 (20.7)
一 般 反 復 群	158 (100.0)	63 (100.0)	95 (100.0)	106 (67.1)	30 (47.6)	76 (80.0)	52 (32.9)	33 (52.4)	19 (20.0)

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 () 内は、構成比である。
 3 重複選択による。

問4a「誰に言いましたか」

区 分	総 数			父			母			きょうだい		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	931	888	43	172 (18.5)	164 (18.5)	8 (18.6)	255 (27.4)	238 (26.8)	17 (39.5)	149 (16.0)	139 (15.7)	10 (23.3)
一般単回群	316	304	12	48 (15.2)	48 (15.8)	-	70 (22.2)	67 (22.0)	3 (25.0)	39 (12.3)	37 (12.2)	2 (16.7)
一般反復群	615	584	31	124 (20.2)	116 (19.9)	8 (25.8)	185 (30.1)	171 (29.3)	14 (45.2)	110 (17.9)	102 (17.5)	8 (25.8)
身体的暴力①(軽度)	854	755	99	145 (17.0)	131 (17.4)	14 (14.1)	258 (30.2)	220 (29.1)	38 (38.4)	155 (18.1)	133 (17.6)	22 (22.2)
一般単回群	169	150	19	25 (14.8)	25 (16.7)	-	37 (21.9)	33 (22.0)	4 (21.1)	21 (12.4)	20 (13.3)	1 (5.3)
一般反復群	685	605	80	120 (17.5)	106 (17.5)	14 (17.5)	221 (32.3)	187 (30.9)	34 (42.5)	134 (19.6)	113 (18.7)	21 (26.3)
身体的暴力②(重度)	1,326	1,195	131	259 (19.5)	241 (20.2)	18 (13.7)	393 (29.6)	347 (29.0)	46 (35.1)	244 (18.4)	220 (18.4)	24 (18.3)
一般単回群	334	300	34	58 (17.4)	57 (19.0)	1 (2.9)	89 (26.6)	80 (26.7)	9 (26.5)	60 (18.0)	57 (19.0)	3 (8.8)
一般反復群	992	895	97	201 (20.3)	184 (20.6)	17 (17.5)	304 (30.6)	267 (29.8)	37 (38.1)	184 (18.5)	163 (18.2)	21 (21.6)
性的暴力①(接触)	255	143	112	17 (6.7)	4 (2.8)	13 (11.6)	29 (11.4)	8 (5.6)	21 (18.8)	14 (5.5)	8 (5.6)	6 (5.4)
一般単回群	89	57	32	6 (6.7)	3 (5.3)	3 (9.4)	9 (10.1)	7 (12.3)	2 (6.3)	5 (5.6)	4 (7.0)	1 (3.1)
一般反復群	166	86	80	11 (6.6)	1 (1.2)	10 (12.5)	20 (12.0)	1 (1.2)	19 (23.8)	9 (5.4)	4 (4.7)	5 (6.3)
性的暴力②(性交)	192	70	122	7 (3.6)	-	7 (5.7)	20 (10.4)	1 (1.4)	19 (15.6)	9 (4.7)	3 (4.3)	6 (4.9)
一般単回群	86	40	46	3 (3.5)	-	3 (6.5)	7 (8.1)	-	7 (15.2)	5 (5.8)	2 (5.0)	3 (6.5)
一般反復群	106	30	76	4 (3.8)	-	4 (5.3)	13 (12.3)	1 (3.3)	12 (15.8)	4 (3.8)	1 (3.3)	3 (3.9)

区 分	友達・恋人・先輩			警察			学校や施設の先生			その他		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	755 (81.1)	724 (81.5)	31 (72.1)	151 (16.2)	141 (15.9)	10 (23.3)	86 (9.2)	78 (8.8)	8 (18.6)	39 (4.2)	36 (4.1)	3 (7.0)
一般単回群	256 (81.0)	248 (81.6)	8 (66.7)	34 (10.8)	33 (10.9)	1 (8.3)	20 (6.3)	18 (5.9)	2 (16.7)	10 (3.2)	10 (3.3)	-
一般反復群	499 (81.1)	476 (81.5)	23 (74.2)	117 (19.0)	108 (18.5)	9 (29.0)	66 (10.7)	60 (10.3)	6 (19.4)	29 (4.7)	26 (4.5)	3 (9.7)
身体的暴力①(軽度)	672 (78.7)	598 (79.2)	74 (74.7)	73 (8.5)	64 (8.5)	9 (9.1)	120 (14.1)	103 (13.6)	17 (17.2)	42 (4.9)	29 (3.8)	13 (13.1)
一般単回群	130 (76.9)	119 (79.3)	11 (57.9)	12 (7.1)	12 (8.0)	-	13 (7.7)	9 (6.0)	4 (21.1)	10 (5.9)	8 (5.3)	2 (10.5)
一般反復群	542 (79.1)	479 (79.2)	63 (78.8)	61 (8.9)	52 (8.6)	9 (11.3)	107 (15.6)	94 (15.5)	13 (16.3)	32 (4.7)	21 (3.5)	11 (13.8)
身体的暴力②(重度)	1,131 (85.3)	1,026 (85.9)	105 (80.2)	190 (14.3)	165 (13.8)	25 (19.1)	122 (9.2)	110 (9.2)	12 (9.2)	62 (4.7)	51 (4.3)	11 (8.4)
一般単回群	277 (82.9)	251 (83.7)	26 (76.5)	36 (10.8)	33 (11.0)	3 (8.8)	22 (6.6)	20 (6.7)	2 (5.9)	24 (7.2)	20 (6.7)	4 (11.8)
一般反復群	854 (86.1)	775 (86.6)	79 (81.4)	154 (15.5)	132 (14.7)	22 (22.7)	100 (10.1)	90 (10.1)	10 (10.3)	38 (3.8)	31 (3.5)	7 (7.2)
性的暴力①(接触)	237 (92.9)	133 (93.0)	104 (92.9)	25 (9.8)	7 (4.9)	18 (16.1)	13 (5.1)	4 (2.8)	9 (8.0)	15 (5.9)	4 (2.8)	11 (9.8)
一般単回群	80 (89.9)	51 (89.5)	29 (90.6)	9 (10.1)	4 (7.0)	5 (15.6)	7 (7.9)	2 (3.5)	5 (15.6)	3 (3.4)	1 (1.8)	2 (6.3)
一般反復群	157 (94.6)	82 (95.3)	75 (93.8)	16 (9.6)	3 (3.5)	13 (16.3)	6 (3.6)	2 (2.3)	4 (5.0)	12 (7.2)	3 (3.5)	9 (11.3)
性的暴力②(性交)	175 (91.1)	68 (97.1)	107 (87.7)	22 (11.5)	2 (2.9)	20 (16.4)	6 (3.1)	1 (1.4)	5 (4.1)	9 (4.7)	-	9 (7.4)
一般単回群	78 (90.7)	39 (97.5)	39 (84.8)	8 (9.3)	-	8 (17.4)	3 (3.5)	-	3 (6.5)	1 (1.2)	-	1 (2.2)
一般反復群	97 (91.5)	29 (96.7)	68 (89.5)	14 (13.2)	2 (6.7)	12 (15.8)	3 (2.8)	1 (3.3)	2 (2.6)	8 (7.5)	-	8 (10.5)

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 () 内は、総数に対する比率である。
3 重複選択による。
4 無回答を除く。

問4b「あなたの被害の話を信じてくれた人はいましたか」

区 分	総 数			いた			いなかった		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	817	777	40	746 (91.3)	713 (91.8)	33 (82.5)	71 (8.7)	64 (8.2)	7 (17.5)
一 般 単 回 群	264	254	10	241 (91.3)	231 (90.9)	10 (100.0)	23 (8.7)	23 (9.1)	-
一 般 反 復 群	553	523	30	505 (91.3)	482 (92.2)	23 (76.7)	48 (8.7)	41 (7.8)	7 (23.3)
身体的暴力①（軽度）	855	757	98	649 (75.9)	572 (75.6)	77 (78.6)	206 (24.1)	185 (24.4)	21 (21.4)
一 般 単 回 群	169	150	19	128 (75.7)	113 (75.3)	15 (78.9)	41 (24.3)	37 (24.7)	4 (21.1)
一 般 反 復 群	686	607	79	521 (75.9)	459 (75.6)	62 (78.5)	165 (24.1)	148 (24.4)	17 (21.5)
身体的暴力②（重度）	1,328	1,197	131	944 (71.1)	844 (70.5)	100 (76.3)	384 (28.9)	353 (29.5)	31 (23.7)
一 般 単 回 群	336	302	34	229 (68.2)	207 (68.5)	22 (64.7)	107 (31.8)	95 (31.5)	12 (35.3)
一 般 反 復 群	992	895	97	715 (72.1)	637 (71.2)	78 (80.4)	277 (27.9)	258 (28.8)	19 (19.6)
性的暴力①（接触）	194	104	90	178 (91.8)	98 (94.2)	80 (88.9)	16 (8.2)	6 (5.8)	10 (11.1)
一 般 単 回 群	58	36	22	54 (93.1)	34 (94.4)	20 (90.9)	4 (6.9)	2 (5.6)	2 (9.1)
一 般 反 復 群	136	68	68	124 (91.2)	64 (94.1)	60 (88.2)	12 (8.8)	4 (5.9)	8 (11.8)
性的暴力②（性交）	134	50	84	113 (84.3)	41 (82.0)	72 (85.7)	21 (15.7)	9 (18.0)	12 (14.3)
一 般 単 回 群	62	29	33	52 (83.9)	23 (79.3)	29 (87.9)	10 (16.1)	6 (20.7)	4 (12.1)
一 般 反 復 群	72	21	51	61 (84.7)	18 (85.7)	43 (84.3)	11 (15.3)	3 (14.3)	8 (15.7)

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 () 内は、総数に対する比率である。
 3 重複選択による。
 4 「いなかった」には、「わからない」を含む。

図4c「言わなかったのは、どうしてですか」

区 分	総 数			たいした被害では なかったから			自分で解決しようと 思ったから			言うのがはずかしかったから		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	372	365	7	94 (25.3)	94 (25.8)	-	118 (31.7)	115 (31.5)	3 (42.9)	93 (25.0)	92 (25.2)	1 (14.3)
一 般 単 回 群	153	151	2	65 (42.5)	65 (43.0)	-	38 (24.8)	37 (24.5)	1 (50.0)	33 (21.6)	33 (21.9)	-
一 般 反 復 群	219	214	5	29 (13.2)	29 (13.6)	-	80 (36.5)	78 (36.4)	2 (40.0)	60 (27.4)	59 (27.6)	1 (20.0)
身体的暴力①（軽度）	524	491	33	164 (31.3)	157 (32.0)	7 (21.2)	180 (34.4)	175 (35.6)	5 (15.2)	100 (19.1)	88 (17.9)	12 (36.4)
一 般 単 回 群	132	125	7	56 (42.4)	54 (43.2)	2 (28.6)	41 (31.1)	41 (32.8)	-	15 (11.4)	14 (11.2)	1 (14.3)
一 般 反 復 群	392	366	26	108 (27.6)	103 (28.1)	5 (19.2)	139 (35.5)	134 (36.6)	5 (19.2)	85 (21.7)	74 (20.2)	11 (42.3)
身体的暴力②（重度）	491	466	25	63 (12.8)	58 (12.4)	5 (20.0)	192 (39.1)	187 (40.1)	5 (20.0)	90 (18.3)	84 (18.0)	6 (24.0)
一 般 単 回 群	149	145	4	31 (20.8)	29 (20.0)	2 (50.0)	50 (33.6)	50 (34.5)	-	25 (16.8)	24 (16.6)	1 (25.0)
一 般 反 復 群	342	321	21	32 (9.4)	29 (9.0)	3 (14.3)	142 (41.5)	137 (42.7)	5 (23.8)	65 (19.0)	60 (18.7)	5 (23.8)
性的暴力①（接触）	241	199	42	176 (73.0)	85 (42.7)	91 (216.7)	37 (15.4)	31 (15.6)	6 (14.3)	102 (42.3)	77 (38.7)	25 (59.5)
一 般 単 回 群	102	87	15	127 (124.5)	42 (48.3)	85 (566.7)	13 (12.7)	10 (11.5)	3 (20.0)	42 (41.2)	33 (37.9)	9 (60.0)
一 般 反 復 群	139	112	27	49 (35.3)	43 (38.4)	6 (22.2)	24 (17.3)	21 (18.8)	3 (11.1)	60 (43.2)	44 (39.3)	16 (59.3)
性的暴力②（性交）	103	77	26	21 (20.4)	21 (27.3)	-	21 (20.4)	16 (20.8)	5 (19.2)	56 (54.4)	40 (51.9)	16 (61.5)
一 般 単 回 群	55	45	10	13 (23.6)	13 (28.9)	-	6 (10.9)	6 (13.3)	-	34 (61.8)	26 (57.8)	8 (80.0)
一 般 反 復 群	48	32	16	8 (16.7)	8 (25.0)	-	15 (31.3)	10 (31.3)	5 (31.3)	22 (45.8)	14 (43.8)	8 (50.0)

区 分	人にめいわくをかけると 思ったから			言っても、むだだと 思ったから			言うと、かえって ひどい目にあうと思ったから （仕返しなど）			自分が悪いと思ったから		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	35 (9.4)	31 (8.5)	4 (57.1)	168 (45.2)	164 (44.9)	4 (57.1)	111 (29.8)	106 (29.0)	5 (71.4)	93 (25.0)	92 (25.2)	1 (14.3)
一 般 単 回 群	9 (5.9)	9 (6.0)	-	46 (30.1)	45 (29.8)	1 (50.0)	24 (15.7)	23 (15.2)	1 (50.0)	10 (6.5)	9 (6.0)	1 (50.0)
一 般 反 復 群	26 (11.9)	22 (10.3)	4 (80.0)	122 (55.7)	119 (55.6)	3 (60.0)	87 (39.7)	83 (38.8)	4 (80.0)	83 (37.9)	83 (38.8)	-
身体的暴力①（軽度）	50 (9.5)	47 (9.6)	3 (9.1)	212 (40.5)	194 (39.5)	18 (54.5)	139 (26.5)	121 (24.6)	18 (54.5)	76 (14.5)	71 (14.5)	5 (15.2)
一 般 単 回 群	6 (4.5)	6 (4.8)	-	34 (25.8)	32 (25.6)	2 (28.6)	17 (12.9)	15 (12.0)	2 (28.6)	25 (18.9)	24 (19.2)	1 (14.3)
一 般 反 復 群	44 (11.2)	41 (11.2)	3 (11.5)	178 (45.4)	162 (44.3)	16 (61.5)	122 (31.1)	106 (29.0)	16 (61.5)	51 (13.0)	47 (12.8)	4 (15.4)
身体的暴力②（重度）	63 (12.8)	58 (12.4)	5 (20.0)	191 (38.9)	181 (38.8)	10 (40.0)	122 (24.8)	111 (23.8)	11 (44.0)	72 (14.7)	66 (14.2)	6 (24.0)
一 般 単 回 群	11 (7.4)	11 (7.6)	-	38 (25.5)	37 (25.5)	1 (25.0)	18 (12.1)	18 (12.4)	-	30 (20.1)	29 (20.0)	1 (25.0)
一 般 反 復 群	52 (15.2)	47 (14.6)	5 (23.8)	153 (44.7)	144 (44.9)	9 (42.9)	104 (30.4)	93 (29.0)	11 (52.4)	42 (12.3)	37 (11.5)	5 (23.8)
性的暴力①（接触）	14 (5.8)	8 (4.0)	6 (14.3)	61 (25.3)	45 (22.6)	16 (38.1)	23 (9.5)	18 (9.0)	5 (11.9)	16 (6.6)	9 (4.5)	7 (16.7)
一 般 単 回 群	5 (4.9)	3 (3.4)	2 (13.3)	18 (17.6)	13 (14.9)	5 (33.3)	7 (6.9)	6 (6.9)	1 (6.7)	6 (5.9)	2 (2.3)	4 (26.7)
一 般 反 復 群	9 (6.5)	5 (4.5)	4 (14.8)	43 (30.9)	32 (28.6)	11 (40.7)	16 (11.5)	12 (10.7)	4 (14.8)	10 (7.2)	7 (6.3)	3 (11.1)
性的暴力②（性交）	6 (5.8)	2 (2.6)	4 (15.4)	25 (24.3)	14 (18.2)	11 (42.3)	7 (6.8)	3 (3.9)	4 (15.4)	9 (8.7)	2 (2.6)	7 (26.9)
一 般 単 回 群	2 (3.6)	-	2 (20.0)	15 (27.3)	9 (20.0)	6 (60.0)	4 (7.3)	3 (6.7)	1 (10.0)	4 (7.3)	1 (2.2)	3 (30.0)
一 般 反 復 群	4 (8.3)	2 (6.3)	2 (12.5)	10 (20.8)	5 (15.6)	5 (31.3)	3 (6.3)	-	3 (18.8)	5 (10.4)	1 (3.1)	4 (25.0)

区 分	その他		
	総数	男子	女子
恐 喝	30 (8.1)	30 (8.2)	-
一 般 単 回 群	12 (7.8)	12 (7.9)	-
一 般 反 復 群	18 (8.2)	18 (8.4)	-
身体的暴力①（軽度）	53 (10.1)	49 (10.0)	4 (12.1)
一 般 単 回 群	10 (7.6)	9 (7.2)	1 (14.3)
一 般 反 復 群	43 (11.0)	40 (10.9)	3 (11.5)
身体的暴力②（重度）	69 (14.1)	65 (13.9)	4 (16.0)
一 般 単 回 群	16 (10.7)	16 (11.0)	- (0.0)
一 般 反 復 群	53 (15.5)	49 (15.3)	4 (19.0)
性的暴力①（接触）	33 (13.7)	31 (15.6)	2 (4.8)
一 般 単 回 群	16 (15.7)	16 (18.4)	-
一 般 反 復 群	17 (12.2)	15 (13.4)	2 (7.4)
性的暴力②（性交）	18 (17.5)	17 (22.1)	1 (3.8)
一 般 単 回 群	11 (20.0)	10 (22.2)	1 (10.0)
一 般 反 復 群	7 (14.6)	7 (21.9)	-

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 () 内は、総数に対する比率である。
 3 重複選択による。
 4 無回答を除く。

問4d「もしも、言うとしたら誰に言いたかったですか」

区 分	総 数			父			母			きょうだい		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	349	343	6	42 (12.0)	41 (12.0)	1 (16.7)	45 (12.9)	43 (12.5)	2 (33.3)	36 (10.3)	35 (10.2)	1 (16.7)
一般単回群	141	140	1	17 (12.1)	17 (12.1)	-	16 (11.3)	15 (10.7)	1 (100.0)	17 (12.1)	17 (12.1)	-
一般反復群	208	203	5	25 (12.0)	24 (11.8)	1 (20.0)	29 (13.9)	28 (13.8)	1 (20.0)	19 (9.1)	18 (8.9)	1 (20.0)
身体的暴力①（軽度）	487	456	31	56 (11.5)	53 (11.6)	3 (9.7)	67 (13.8)	61 (13.4)	6 (19.4)	51 (10.5)	47 (10.3)	4 (12.9)
一般単回群	125	119	6	8 (6.4)	8 (6.7)	-	13 (10.4)	11 (9.2)	2 (33.3)	15 (12.0)	13 (10.9)	2 (33.3)
一般反復群	362	337	25	48 (13.3)	45 (13.4)	3 (12.0)	54 (14.9)	50 (14.8)	4 (16.0)	36 (9.9)	34 (10.1)	2 (8.0)
身体的暴力②（重度）	440	417	23	41 (9.3)	40 (9.6)	1 (4.3)	40 (9.1)	37 (8.9)	3 (13.0)	33 (7.5)	32 (7.7)	1 (4.3)
一般単回群	134	130	4	14 (10.4)	14 (10.8)	-	11 (8.2)	10 (7.7)	1 (25.0)	8 (6.0)	7 (5.4)	1 (25.0)
一般反復群	306	287	19	27 (8.8)	26 (9.1)	1 (5.3)	29 (9.5)	27 (9.4)	2 (10.5)	25 (8.2)	25 (8.7)	-
性的暴力①（接触）	224	185	39	7 (3.1)	7 (3.8)	-	12 (5.4)	4 (2.2)	8 (20.5)	12 (5.4)	7 (3.8)	5 (12.8)
一般単回群	95	81	14	2 (2.1)	2 (2.5)	-	5 (5.3)	2 (2.5)	3 (21.4)	6 (6.3)	4 (4.9)	2 (14.3)
一般反復群	129	104	25	5 (3.9)	5 (4.8)	-	7 (5.4)	2 (1.9)	5 (20.0)	6 (4.7)	3 (2.9)	3 (12.0)
性的暴力②（性交）	84	60	24	-	-	-	6 (7.1)	3 (5.0)	3 (12.5)	5 (6.0)	5 (8.3)	-
一般単回群	43	34	9	-	-	-	3 (7.0)	1 (2.9)	2 (22.2)	4 (9.3)	4 (11.8)	-
一般反復群	41	26	15	-	-	-	3 (7.3)	2 (7.7)	1 (6.7)	1 (2.4)	1 (3.8)	-

区 分	友達・恋人・先輩			警察			学校や施設の先生			その他		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	130 (37.2)	127 (37.0)	3 (50.0)	40 (11.5)	40 (11.7)	-	12 (3.4)	12 (3.5)	-	4 (1.1)	4 (1.2)	-
一般単回群	51 (36.2)	50 (35.7)	1 (100.0)	12 (8.5)	12 (8.6)	-	2 (1.4)	2 (1.4)	-	1 (0.7)	1 (0.7)	-
一般反復群	79 (38.0)	77 (37.9)	2 (40.0)	28 (13.5)	28 (13.8)	-	10 (4.8)	10 (4.9)	-	3 (1.4)	3 (1.5)	-
身体的暴力①（軽度）	200 (41.1)	189 (41.4)	11 (35.5)	36 (7.4)	34 (7.5)	2 (6.5)	23 (4.7)	21 (4.6)	2 (6.5)	14 (2.9)	13 (2.9)	1 (3.2)
一般単回群	48 (38.4)	47 (39.5)	1 (16.7)	7 (5.6)	7 (5.9)	-	3 (2.4)	3 (2.5)	-	6 (4.8)	6 (5.0)	-
一般反復群	152 (42.0)	142 (42.1)	10 (40.0)	29 (8.0)	27 (8.0)	2 (8.0)	20 (5.5)	18 (5.3)	2 (8.0)	8 (2.2)	7 (2.1)	1 (4.0)
身体的暴力②（重度）	169 (38.4)	160 (38.4)	9 (39.1)	45 (10.2)	42 (10.1)	3 (13.0)	7 (1.6)	7 (1.7)	-	15 (3.4)	13 (3.1)	2 (8.7)
一般単回群	53 (39.6)	53 (40.8)	-	8 (6.0)	8 (6.2)	-	1 (0.7)	1 (0.8)	-	3 (2.2)	3 (2.3)	-
一般反復群	116 (37.9)	107 (37.3)	9 (47.4)	37 (12.1)	34 (11.8)	3 (15.8)	6 (2.0)	6 (2.1)	-	12 (3.9)	10 (3.5)	2 (10.5)
性的暴力①（接触）	73 (32.6)	63 (34.1)	10 (25.6)	8 (3.6)	7 (3.8)	1 (2.6)	3 (1.3)	3 (1.6)	-	4 (1.8)	4 (2.2)	-
一般単回群	27 (28.4)	23 (28.4)	4 (28.6)	1 (1.1)	1 (1.2)	-	1 (1.1)	1 (1.2)	-	2 (2.1)	2 (2.5)	-
一般反復群	46 (35.7)	40 (38.5)	6 (24.0)	7 (5.4)	6 (5.8)	1 (4.0)	2 (1.6)	2 (1.9)	-	2 (1.6)	2 (1.9)	-
性的暴力②（性交）	29 (34.5)	20 (33.3)	9 (37.5)	1 (1.2)	-	1 (4.2)	1 (1.2)	-	1 (4.2)	2 (2.4)	1 (1.7)	1 (4.2)
一般単回群	13 (30.2)	10 (29.4)	3 (33.3)	-	-	-	1 (2.3)	-	1 (11.1)	1 (2.3)	-	1 (11.1)
一般反復群	16 (39.0)	10 (38.5)	6 (40.0)	1 (2.4)	-	1 (6.7)	-	-	-	1 (2.4)	1 (3.8)	-

区 分	誰にも言いたいと思わなかった		
	総数	男子	女子
恐 喝	145 (41.5)	142 (41.4)	3 (50.0)
一般単回群	58 (41.1)	58 (41.4)	-
一般反復群	87 (41.8)	84 (41.4)	3 (60.0)
身体的暴力①（軽度）	189 (38.8)	179 (39.3)	10 (32.3)
一般単回群	49 (39.2)	47 (39.5)	2 (33.3)
一般反復群	140 (38.7)	132 (39.2)	8 (32.0)
身体的暴力②（重度）	191 (43.4)	183 (43.9)	8 (34.8)
一般単回群	57 (42.5)	55 (42.3)	2 (50.0)
一般反復群	134 (43.8)	128 (44.6)	6 (31.6)
性的暴力①（接触）	121 (54.0)	103 (55.7)	18 (46.2)
一般単回群	56 (58.9)	51 (63.0)	5 (35.7)
一般反復群	65 (50.4)	52 (50.0)	13 (52.0)
性的暴力②（性交）	47 (56.0)	35 (58.3)	12 (50.0)
一般単回群	23 (53.5)	20 (58.8)	3 (33.3)
一般反復群	24 (58.5)	15 (57.7)	9 (60.0)

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 () 内は、総数に対する比率である。
3 重複選択による。
4 無回答を除く。

問5「その被害にあって、あなたは怎么样了か」

区 分	総 数			やめるよう自分で 相手に言った/ ほかの人に言ってもらった			家出した			じっとがまんした		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	1,341	1,292	49	263 (19.6)	248 (19.2)	15 (30.6)	91 (6.8)	84 (6.5)	7 (14.3)	638 (47.6)	609 (47.1)	29 (59.2)
一般単回群	483	469	14	60 (12.4)	58 (12.4)	2 (14.3)	11 (2.3)	10 (2.1)	1 (7.1)	178 (36.9)	169 (36.0)	9 (64.3)
一般反復群	858	823	35	203 (23.7)	190 (23.1)	13 (37.1)	80 (9.3)	74 (9.0)	6 (17.1)	460 (53.6)	440 (53.5)	20 (57.1)
身体的暴力①(軽度)	1,431	1,299	132	287 (20.1)	242 (18.6)	45 (34.1)	98 (6.8)	83 (6.4)	15 (11.4)	740 (51.7)	668 (51.4)	72 (54.5)
一般単回群	319	293	26	42 (13.2)	37 (12.6)	5 (19.2)	8 (2.5)	7 (2.4)	1 (3.8)	142 (44.5)	128 (43.7)	14 (53.8)
一般反復群	1,112	1,006	106	245 (22.0)	205 (20.4)	40 (37.7)	90 (8.1)	76 (7.6)	14 (13.2)	598 (53.8)	540 (53.7)	58 (54.7)
身体的暴力②(重度)	1,853	1,692	161	305 (16.5)	250 (14.8)	55 (34.2)	127 (6.9)	106 (6.3)	21 (13.0)	954 (51.5)	873 (51.6)	81 (50.3)
一般単回群	502	462	40	58 (11.6)	49 (10.6)	9 (22.5)	18 (3.6)	14 (3.0)	4 (10.0)	225 (44.8)	213 (46.1)	12 (30.0)
一般反復群	1,351	1,230	121	247 (18.3)	201 (16.3)	46 (38.0)	109 (8.1)	92 (7.5)	17 (14.0)	729 (54.0)	660 (53.7)	69 (57.0)
性的暴力①(接触)	506	352	154	192 (37.9)	121 (34.4)	71 (46.1)	14 (2.8)	7 (2.0)	7 (4.5)	160 (31.6)	102 (29.0)	58 (37.7)
一般単回群	199	152	47	64 (32.2)	40 (26.3)	24 (51.1)	2 (1.0)	1 (0.7)	1 (2.1)	56 (28.1)	45 (29.6)	11 (23.4)
一般反復群	307	200	107	128 (41.7)	81 (40.5)	47 (43.9)	12 (3.9)	6 (3.0)	6 (5.6)	104 (33.9)	57 (28.5)	47 (43.9)
性的暴力②(性交)	302	150	152	111 (36.8)	49 (32.7)	62 (40.8)	17 (5.6)	5 (3.3)	12 (7.9)	81 (26.8)	32 (21.3)	49 (32.2)
一般単回群	142	85	57	48 (33.8)	26 (30.6)	22 (38.6)	5 (3.5)	2 (2.4)	3 (5.3)	29 (20.4)	16 (18.8)	13 (22.8)
一般反復群	160	65	95	63 (39.4)	23 (35.4)	40 (42.1)	12 (7.5)	3 (4.6)	9 (9.5)	52 (32.5)	16 (24.6)	36 (37.9)

区 分	気にしたり、 考えないようにした			自殺しようとした			自分の体を傷つけた			家に閉じこもった		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	338 (25.2)	325 (25.2)	13 (26.5)	54 (4.0)	44 (3.4)	10 (20.4)	42 (3.1)	31 (2.4)	11 (22.4)	119 (8.9)	112 (8.7)	7 (14.3)
一般単回群	140 (29.0)	137 (29.2)	3 (21.4)	2 (0.4)	1 (0.2)	1 (7.1)	6 (1.2)	4 (0.9)	2 (14.3)	18 (3.7)	17 (3.6)	1 (7.1)
一般反復群	198 (23.1)	188 (22.8)	10 (28.6)	52 (6.1)	43 (5.2)	9 (25.7)	36 (4.2)	27 (3.3)	9 (25.7)	101 (11.8)	95 (11.5)	6 (17.1)
身体的暴力①(軽度)	304 (21.2)	279 (21.5)	25 (18.9)	59 (4.1)	42 (3.2)	17 (12.9)	65 (4.5)	39 (3.0)	26 (19.7)	108 (7.5)	92 (7.1)	16 (12.1)
一般単回群	78 (24.5)	68 (23.2)	10 (38.5)	3 (0.9)	2 (0.7)	1 (3.8)	3 (0.9)	2 (0.7)	1 (3.8)	12 (3.8)	11 (3.8)	1 (3.8)
一般反復群	226 (20.3)	211 (21.0)	15 (14.2)	56 (5.0)	40 (4.0)	16 (15.1)	62 (5.6)	37 (3.7)	25 (23.6)	96 (8.6)	81 (8.1)	15 (14.2)
身体的暴力②(重度)	383 (20.7)	351 (20.7)	32 (19.9)	85 (4.6)	66 (3.9)	19 (11.8)	83 (4.5)	54 (3.2)	29 (18.0)	160 (8.6)	141 (8.3)	19 (11.8)
一般単回群	115 (22.9)	101 (21.9)	14 (35.0)	4 (0.8)	2 (0.4)	2 (5.0)	10 (2.0)	7 (1.5)	3 (7.5)	18 (3.6)	16 (3.5)	2 (5.0)
一般反復群	268 (19.8)	250 (20.3)	18 (14.9)	81 (6.0)	64 (5.2)	17 (14.0)	73 (5.4)	47 (3.8)	26 (21.5)	142 (10.5)	125 (10.2)	17 (14.0)
性的暴力①(接触)	183 (36.2)	122 (34.7)	61 (39.6)	19 (3.8)	6 (1.7)	13 (8.4)	22 (4.3)	1 (0.3)	21 (13.6)	17 (3.4)	8 (2.3)	9 (5.8)
一般単回群	81 (40.7)	59 (38.8)	22 (46.8)	4 (2.0)	2 (1.3)	2 (4.3)	3 (1.5)	1 (0.7)	2 (4.3)	5 (2.5)	4 (2.6)	1 (2.1)
一般反復群	102 (33.2)	63 (31.5)	39 (36.4)	15 (4.9)	4 (2.0)	11 (10.3)	19 (6.2)	-	19 (17.8)	12 (3.9)	4 (2.0)	8 (7.5)
性的暴力②(性交)	110 (36.4)	53 (35.3)	57 (37.5)	26 (8.6)	4 (2.7)	22 (14.5)	29 (9.6)	1 (0.7)	28 (18.4)	14 (4.6)	3 (2.0)	11 (7.2)
一般単回群	61 (43.0)	33 (38.8)	28 (49.1)	2 (1.4)	-	2 (3.5)	3 (2.1)	1 (1.2)	2 (3.5)	4 (2.8)	3 (3.5)	1 (1.8)
一般反復群	49 (30.6)	20 (30.8)	29 (30.5)	24 (15.0)	4 (6.2)	20 (21.1)	26 (16.3)	-	26 (27.4)	10 (6.3)	-	10 (10.5)

区 分	何もしたくなかった			趣味・スポーツをした			やつあたりや、 いやがらせをした			酒を飲んだ/ 薬物を使用した		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	151 (11.3)	140 (10.8)	11 (22.4)	70 (5.2)	70 (5.4)	-	222 (16.6)	217 (16.8)	5 (10.2)	225 (16.8)	210 (16.3)	15 (30.6)
一般単回群	36 (7.5)	33 (7.0)	3 (21.4)	18 (3.7)	18 (3.8)	-	50 (10.4)	49 (10.4)	1 (7.1)	40 (8.3)	38 (8.1)	2 (14.3)
一般反復群	115 (13.4)	107 (13.0)	8 (22.9)	52 (6.1)	52 (6.3)	-	172 (20.0)	168 (20.4)	4 (11.4)	185 (21.6)	172 (20.9)	13 (37.1)
身体的暴力①(軽度)	157 (11.0)	134 (10.3)	23 (17.4)	68 (4.8)	66 (5.1)	2 (1.5)	279 (19.5)	258 (19.9)	21 (15.9)	252 (17.6)	209 (16.1)	43 (32.6)
一般単回群	23 (7.2)	19 (6.5)	4 (15.4)	12 (3.8)	11 (3.8)	1 (3.8)	23 (7.2)	21 (7.2)	2 (7.7)	29 (9.1)	25 (8.5)	4 (15.4)
一般反復群	134 (12.1)	115 (11.4)	19 (17.9)	56 (5.0)	55 (5.5)	1 (0.9)	256 (23.0)	237 (23.6)	19 (17.9)	223 (20.1)	184 (18.3)	39 (36.8)
身体的暴力②(重度)	224 (12.1)	195 (11.5)	29 (18.0)	80 (4.3)	79 (4.7)	1 (0.6)	323 (17.4)	304 (18.0)	19 (11.8)	421 (22.7)	354 (20.9)	67 (41.6)
一般単回群	35 (7.0)	33 (7.1)	2 (5.0)	20 (4.0)	20 (4.3)	-	43 (8.6)	39 (8.4)	4 (10.0)	65 (12.9)	53 (11.5)	12 (30.0)
一般反復群	189 (14.0)	162 (13.2)	27 (22.3)	60 (4.4)	59 (4.8)	1 (0.8)	280 (20.7)	265 (21.5)	15 (12.4)	356 (26.4)	301 (24.5)	55 (45.5)
性的暴力①(接触)	49 (9.7)	23 (6.5)	26 (16.9)	15 (3.0)	13 (3.7)	2 (1.3)	23 (4.5)	14 (4.0)	9 (5.8)	79 (15.6)	34 (9.7)	45 (29.2)
一般単回群	11 (5.5)	8 (5.3)	3 (6.4)	5 (2.5)	5 (3.3)	-	8 (4.0)	7 (4.6)	1 (2.1)	18 (9.0)	10 (6.6)	8 (17.0)
一般反復群	38 (12.4)	15 (7.5)	23 (21.5)	10 (3.3)	8 (4.0)	2 (1.9)	15 (4.9)	7 (3.5)	8 (7.5)	61 (19.9)	24 (12.0)	37 (34.6)
性的暴力②(性交)	42 (13.9)	8 (5.3)	34 (22.4)	8 (2.6)	7 (4.7)	1 (0.7)	16 (5.3)	9 (6.0)	7 (4.6)	88 (29.1)	23 (15.3)	65 (42.8)
一般単回群	11 (7.7)	2 (2.4)	9 (15.8)	3 (2.1)	3 (3.5)	-	8 (5.6)	6 (7.1)	2 (3.5)	29 (20.4)	11 (12.9)	18 (31.6)
一般反復群	31 (19.4)	6 (9.2)	25 (26.3)	5 (3.1)	4 (6.2)	1 (1.1)	8 (5.0)	3 (4.6)	5 (5.3)	59 (36.9)	12 (18.5)	47 (49.5)

区 分	相手にやり返した/ 相手に仕返しをした			自分も他の人に同じようなこ とをした			その他		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	280 (20.9)	275 (21.3)	5 (10.2)	374 (27.9)	368 (28.5)	6 (12.2)	180 (13.4)	175 (13.5)	5 (10.2)
一般単回群	74 (15.3)	74 (15.8)	-	99 (20.5)	99 (21.1)	-	84 (17.4)	82 (17.5)	2 (14.3)
一般反復群	206 (24.0)	201 (24.4)	5 (14.3)	275 (32.1)	269 (32.7)	6 (17.1)	96 (11.2)	93 (11.3)	3 (8.6)
身体的暴力①(軽度)	504 (35.2)	458 (35.3)	46 (34.8)	316 (22.1)	293 (22.6)	23 (17.4)	123 (8.6)	115 (8.9)	8 (6.1)
一般単回群	82 (25.7)	80 (27.3)	2 (7.7)	41 (12.9)	39 (13.3)	2 (7.7)	36 (11.3)	33 (11.3)	3 (11.5)
一般反復群	422 (37.9)	378 (37.6)	44 (41.5)	275 (24.7)	254 (25.2)	21 (19.8)	87 (7.8)	82 (8.2)	5 (4.7)
身体的暴力②(重度)	624 (33.7)	567 (33.5)	57 (35.4)	405 (21.9)	379 (22.4)	26 (16.1)	229 (12.4)	216 (12.8)	13 (8.1)
一般単回群	122 (24.3)	112 (24.2)	10 (25.0)	64 (12.7)	56 (12.1)	8 (20.0)	73 (14.5)	72 (15.6)	1 (2.5)
一般反復群	502 (37.2)	455 (37.0)	47 (38.8)	341 (25.2)	323 (26.3)	18 (14.9)	156 (11.5)	144 (11.7)	12 (9.9)
性的暴力①(接触)	39 (7.7)	29 (8.2)	10 (6.5)	26 (5.1)	23 (6.5)	3 (1.9)	89 (17.6)	69 (19.6)	20 (13.0)
一般単回群	17 (8.5)	11 (7.2)	6 (12.8)	7 (3.5)	7 (4.6)	-	39 (19.6)	31 (20.4)	8 (17.0)
一般反復群	22 (7.2)	18 (9.0)	4 (3.7)	19 (6.2)	16 (8.0)	3 (2.8)	50 (16.3)	38 (19.0)	12 (11.2)
性的暴力②(性交)	36 (11.9)	22 (14.7)	14 (9.2)	13 (4.3)	10 (6.7)	3 (2.0)	59 (19.5)	32 (21.3)	27 (17.8)
一般単回群	16 (11.3)	12 (14.1)	4 (7.0)	8 (5.6)	7 (8.2)	1 (1.8)	27 (19.0)	18 (21.2)	9 (15.8)
一般反復群	20 (12.5)	10 (15.4)	10 (10.5)	5 (3.1)	3 (4.6)	2 (2.1)	32 (20.0)	14 (21.5)	18 (18.9)

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 () 内は、総数に対する比率である。
 3 重複選択による。
 4 無回答を除く。

問6「その被害は、終わったと思いますか」

区 分	総 数			はい			いいえ		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	1,345	1,296	49	1,037 (77.1)	1,004 (77.5)	33 (67.3)	308 (22.9)	292 (22.5)	16 (32.7)
一般単回群	486	473	13	392 (80.7)	382 (80.8)	10 (76.9)	94 (19.3)	91 (19.2)	3 (23.1)
一般反復群	859	823	36	645 (75.1)	622 (75.6)	23 (63.9)	214 (24.9)	201 (24.4)	13 (36.1)
身体的暴力①（軽度）	1,433	1,301	132	1,136 (79.3)	1,030 (79.2)	106 (80.3)	297 (20.7)	271 (20.8)	26 (19.7)
一般単回群	319	293	26	268 (84.0)	245 (83.6)	23 (88.5)	51 (16.0)	48 (16.4)	3 (11.5)
一般反復群	1,114	1,008	106	868 (77.9)	785 (77.9)	83 (78.3)	246 (22.1)	223 (22.1)	23 (21.7)
身体的暴力②（重度）	1,855	1,695	160	1,397 (75.3)	1,276 (75.3)	121 (75.6)	458 (24.7)	419 (24.7)	39 (24.4)
一般単回群	507	468	39	421 (83.0)	389 (83.1)	32 (82.1)	86 (17.0)	79 (16.9)	7 (17.9)
一般反復群	1,348	1,227	121	976 (72.4)	887 (72.3)	89 (73.6)	372 (27.6)	340 (27.7)	32 (26.4)
性的暴力①（接触）	513	360	153	373 (72.7)	266 (73.9)	107 (69.9)	140 (27.3)	94 (26.1)	46 (30.1)
一般単回群	203	155	48	155 (76.4)	119 (76.8)	36 (75.0)	48 (23.6)	36 (23.2)	12 (25.0)
一般反復群	310	205	105	218 (70.3)	147 (71.7)	71 (67.6)	92 (29.7)	58 (28.3)	34 (32.4)
性的暴力②（性交）	300	149	151	216 (72.0)	113 (75.8)	103 (68.2)	84 (28.0)	36 (24.2)	48 (31.8)
一般単回群	143	86	57	111 (77.6)	66 (76.7)	45 (78.9)	32 (22.4)	20 (23.3)	12 (21.1)
一般反復群	157	63	94	105 (66.9)	47 (74.6)	58 (61.7)	52 (33.1)	16 (25.4)	36 (38.3)

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 () 内は、構成比である。
 3 無回答を除く。
 4 「いいえ」には、「わからない」を含む。

問6a「被害は、なぜ終わったと思いますか」

区 分	総 数			相手が反省したから			相手に会わなくなったから			自分の力が 強くなったから		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	1,035	1,002	33	89 (8.6)	83 (8.3)	6 (18.2)	493 (47.6)	471 (47.0)	22 (66.7)	249 (24.1)	245 (24.5)	4 (12.1)
一般単回群	391	381	10	26 (6.6)	24 (6.3)	2 (20.0)	184 (47.1)	177 (46.5)	7 (70.0)	64 (16.4)	64 (16.8)	-
一般反復群	644	621	23	63 (9.8)	59 (9.5)	4 (17.4)	309 (48.0)	294 (47.3)	15 (65.2)	185 (28.7)	181 (29.1)	4 (17.4)
身体的暴力①(軽度)	1,129	1,024	105	148 (13.1)	126 (12.3)	22 (21.0)	473 (41.9)	406 (39.6)	67 (63.8)	299 (26.5)	285 (27.8)	14 (13.3)
一般単回群	265	243	22	29 (10.9)	26 (10.7)	3 (13.6)	107 (40.4)	94 (38.7)	13 (59.1)	47 (17.7)	44 (18.1)	3 (13.6)
一般反復群	864	781	83	119 (13.8)	100 (12.8)	19 (22.9)	366 (42.4)	312 (39.9)	54 (65.1)	252 (29.2)	241 (30.9)	11 (13.3)
身体的暴力②(重度)	1,390	1,269	121	215 (15.5)	186 (14.7)	29 (24.0)	574 (41.3)	499 (39.3)	75 (62.0)	326 (23.5)	314 (24.7)	12 (9.9)
一般単回群	420	388	32	64 (15.2)	60 (15.5)	4 (12.5)	149 (35.5)	133 (34.3)	16 (50.0)	59 (14.0)	57 (14.7)	2 (6.3)
一般反復群	970	881	89	151 (15.6)	126 (14.3)	25 (28.1)	425 (43.8)	366 (41.5)	59 (66.3)	267 (27.5)	257 (29.2)	10 (11.2)
性的暴力①(接触)	370	263	107	54 (14.6)	31 (11.8)	23 (21.5)	236 (63.8)	154 (58.6)	82 (76.6)	32 (8.6)	23 (8.7)	9 (8.4)
一般単回群	153	117	36	25 (16.3)	13 (11.1)	12 (33.3)	96 (62.7)	68 (58.1)	28 (77.8)	11 (7.2)	7 (6.0)	4 (11.1)
一般反復群	217	146	71	29 (13.4)	18 (12.3)	11 (15.5)	140 (64.5)	86 (58.9)	54 (76.1)	21 (9.7)	16 (11.0)	5 (7.0)
性的暴力②(性交)	213	111	102	38 (17.8)	15 (13.5)	23 (22.5)	143 (67.1)	69 (62.2)	74 (72.5)	11 (5.2)	5 (4.5)	6 (5.9)
一般単回群	109	64	45	17 (15.6)	7 (10.9)	10 (22.2)	75 (68.8)	43 (67.2)	32 (71.1)	3 (2.8)	1 (1.6)	2 (4.4)
一般反復群	104	47	57	21 (20.2)	8 (17.0)	13 (22.8)	68 (65.4)	26 (55.3)	42 (73.7)	8 (7.7)	4 (8.5)	4 (7.0)

区 分	自分が成長したから/ 自分が反省したから			自分がやり返したから/ 自分が仕返したから			自分が施設に入ったから			その他		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	132 (12.8)	129 (12.9)	3 (9.1)	183 (17.7)	181 (18.1)	2 (6.1)	135 (13.0)	128 (12.8)	7 (21.2)	185 (17.9)	177 (17.7)	8 (24.2)
一般単回群	39 (10.0)	38 (10.0)	1 (10.0)	53 (13.6)	53 (13.9)	-	30 (7.7)	28 (7.3)	2 (20.0)	72 (18.4)	69 (18.1)	3 (30.0)
一般反復群	93 (14.4)	91 (14.7)	2 (8.7)	130 (20.2)	128 (20.6)	2 (8.7)	105 (16.3)	100 (16.1)	5 (21.7)	113 (17.5)	108 (17.4)	5 (21.7)
身体的暴力①(軽度)	212 (18.8)	188 (18.4)	24 (22.9)	285 (25.2)	266 (26.0)	19 (18.1)	137 (12.1)	117 (11.4)	20 (19.0)	184 (16.3)	166 (16.2)	18 (17.1)
一般単回群	48 (18.1)	43 (17.7)	5 (22.7)	43 (16.2)	42 (17.3)	1 (4.5)	19 (7.2)	16 (6.6)	3 (13.6)	41 (15.5)	38 (15.6)	3 (13.6)
一般反復群	164 (19.0)	145 (18.6)	19 (22.9)	242 (28.0)	224 (28.7)	18 (21.7)	118 (13.7)	101 (12.9)	17 (20.5)	143 (16.6)	128 (16.4)	15 (18.1)
身体的暴力②(重度)	259 (18.6)	234 (18.4)	25 (20.7)	326 (23.5)	304 (24.0)	22 (18.2)	180 (12.9)	157 (12.4)	23 (19.0)	257 (18.5)	233 (18.4)	24 (19.8)
一般単回群	67 (16.0)	57 (14.7)	10 (31.3)	59 (14.0)	54 (13.9)	5 (15.6)	31 (7.4)	28 (7.2)	3 (9.4)	82 (19.5)	76 (19.6)	6 (18.8)
一般反復群	192 (19.8)	177 (20.1)	15 (16.9)	267 (27.5)	250 (28.4)	17 (19.1)	149 (15.4)	129 (14.6)	20 (22.5)	175 (18.0)	157 (17.8)	18 (20.2)
性的暴力①(接触)	42 (11.4)	27 (10.3)	15 (14.0)	17 (4.6)	11 (4.2)	6 (5.6)	58 (15.7)	36 (13.7)	22 (20.6)	43 (11.6)	31 (11.8)	12 (11.2)
一般単回群	14 (9.2)	13 (11.1)	1 (2.8)	8 (5.2)	5 (4.3)	3 (8.3)	14 (9.2)	7 (6.0)	7 (19.4)	19 (12.4)	16 (13.7)	3 (8.3)
一般反復群	28 (12.9)	14 (9.6)	14 (19.7)	9 (4.1)	6 (4.1)	3 (4.2)	44 (20.3)	29 (19.9)	15 (21.1)	24 (11.1)	15 (10.3)	9 (12.7)
性的暴力②(性交)	22 (10.3)	8 (7.2)	14 (13.7)	15 (7.0)	6 (5.4)	9 (8.8)	34 (16.0)	16 (14.4)	18 (17.6)	20 (9.4)	7 (6.3)	13 (12.7)
一般単回群	6 (5.5)	3 (4.7)	3 (6.7)	7 (6.4)	5 (7.8)	2 (4.4)	10 (9.2)	6 (9.4)	4 (8.9)	12 (11.0)	5 (7.8)	7 (15.6)
一般反復群	16 (15.4)	5 (10.6)	11 (19.3)	8 (7.7)	1 (2.1)	7 (12.3)	24 (23.1)	10 (21.3)	14 (24.6)	8 (7.7)	2 (4.3)	6 (10.5)

区 分	わからない		
	総数	男子	女子
恐 喝	107 (10.3)	105 (10.5)	2 (6.1)
一 般 単 回 群	45 (11.5)	45 (11.8)	-
一 般 反 復 群	62 (9.6)	60 (9.7)	2 (8.7)
身体的暴力①（軽度）	94 (8.3)	89 (8.7)	5 (4.8)
一 般 単 回 群	29 (10.9)	29 (11.9)	-
一 般 反 復 群	65 (7.5)	60 (7.7)	5 (6.0)
身体的暴力②（重度）	125 (9.0)	121 (9.5)	4 (3.3)
一 般 単 回 群	49 (11.7)	47 (12.1)	2 (6.3)
一 般 反 復 群	76 (7.8)	74 (8.4)	2 (2.2)
性的暴力①（接触）	34 (9.2)	30 (11.4)	4 (3.7)
一 般 単 回 群	16 (10.5)	14 (12.0)	2 (5.6)
一 般 反 復 群	18 (8.3)	16 (11.0)	2 (2.8)
性的暴力②（性交）	13 (6.1)	11 (9.9)	2 (2.0)
一 般 単 回 群	6 (5.5)	6 (9.4)	-
一 般 反 復 群	7 (6.7)	5 (10.6)	2 (3.5)

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 ()内は、総数に対する比率である。
3 重複選択による。
4 無回答を除く。

問7「あなたは、その被害を受けたために非行に走るようになったと思いますか」

区 分	総 数			そう思う			そう思わない			わからない		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
恐 喝	1,345	1,295	50	289 (21.5)	275 (21.2)	14 (28.0)	882 (65.6)	856 (66.1)	26 (52.0)	174 (12.9)	164 (12.7)	10 (20.0)
一 般 単 回 群	486	472	14	65 (13.4)	62 (13.1)	3 (21.4)	371 (76.3)	364 (77.1)	7 (50.0)	50 (10.3)	46 (9.7)	4 (28.6)
一 般 反 復 群	859	823	36	224 (26.1)	213 (25.9)	11 (30.6)	511 (59.5)	492 (59.8)	19 (52.8)	124 (14.4)	118 (14.3)	6 (16.7)
身体的暴力①（軽度）	1,424	1,292	132	305 (21.4)	276 (21.4)	29 (22.0)	950 (66.7)	863 (66.8)	87 (65.9)	169 (11.9)	153 (11.8)	16 (12.1)
一 般 単 回 群	316	290	26	33 (10.4)	30 (10.3)	3 (11.5)	258 (81.6)	236 (81.4)	22 (84.6)	25 (7.9)	24 (8.3)	1 (3.8)
一 般 反 復 群	1,108	1,002	106	272 (24.5)	246 (24.6)	26 (24.5)	692 (62.5)	627 (62.6)	65 (61.3)	144 (13.0)	129 (12.9)	15 (14.2)
身体的暴力②（重度）	1,841	1,680	161	421 (22.9)	385 (22.9)	36 (22.4)	1,215 (66.0)	1,109 (66.0)	106 (65.8)	205 (11.1)	186 (11.1)	19 (11.8)
一 般 単 回 群	505	465	40	65 (12.9)	59 (12.7)	6 (15.0)	397 (78.6)	367 (78.9)	30 (75.0)	43 (8.5)	39 (8.4)	4 (10.0)
一 般 反 復 群	1,336	1,215	121	356 (26.6)	326 (26.8)	30 (24.8)	818 (61.2)	742 (61.1)	76 (62.8)	162 (12.1)	147 (12.1)	15 (12.4)
性的暴力①（接触）	511	358	153	47 (9.2)	18 (5.0)	29 (19.0)	423 (82.8)	316 (88.3)	107 (69.9)	41 (8.0)	24 (6.7)	17 (11.1)
一 般 単 回 群	204	156	48	12 (5.9)	5 (3.2)	7 (14.6)	176 (86.3)	141 (90.4)	35 (72.9)	16 (7.8)	10 (6.4)	6 (12.5)
一 般 反 復 群	307	202	105	35 (11.4)	13 (6.4)	22 (21.0)	247 (80.5)	175 (86.6)	72 (68.6)	25 (8.1)	14 (6.9)	11 (10.5)
性的暴力②（性交）	301	149	152	42 (14.0)	9 (6.0)	33 (21.7)	229 (76.1)	129 (86.6)	100 (65.8)	30 (10.0)	11 (7.4)	19 (12.5)
一 般 単 回 群	142	84	58	9 (6.3)	3 (3.6)	6 (10.3)	121 (85.2)	76 (90.5)	45 (77.6)	12 (8.5)	5 (6.0)	7 (12.1)
一 般 反 復 群	159	65	94	33 (20.8)	6 (9.2)	27 (28.7)	108 (67.9)	53 (81.5)	55 (58.5)	18 (11.3)	6 (9.2)	12 (12.8)

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 () 内は、構成比である。
3 無回答を除く。

Ⅳ 被害経験から見た少年院在院者の特徴

第13 家族以外の者からの被害と家族からの被害の関係

これまでの項では家族以外の者からの被害についての概要を述べた。本項では、この家族以外の者からの被害と、第1報告で取り上げた家族からの被害経験との関係について分析を行うとともに、これら被害を両方経験している者、家族以外の者からの被害のみ経験している者、家族からの被害のみ経験している者、両方経験していない者、それぞれの群に該当する少年院在院者の特性について全体的に検討する（以下、家族以外の者からの被害を「一般被害」という。）。

1 分析の視点

本項での分析は以下の視点で行う。

- ・一般被害と家族からの被害の間で、被害経験の有無に関連は見られるか。…(1)
- ・それぞれの被害を受け始めた時期と非行の初発時期との間に関連は見られるか。…(2)
- ・それぞれの被害経験の有無と非行性との間に関連は見られるか。…(3)
- ・それぞれの被害経験の有無により、性格特性に差は見られるか。…(4)

2 分析結果

(1) 家族以外の者からの被害の有無と家族からの被害の有無の関連

一般被害5種類のうち少なくとも一つを経験した群を、「一般被害」の「あり群」、一つも経験していない群を「なし群」とし、家族からの被害5種類のうち少なくとも一つを経験した群を、「家族からの被害」の「あり群」、一つも経験していない群を「なし群」とした場合、一般被害あり群は全体の93.8%、なし群は6.2%、家族からの被害あり群は73.6%、なし群は26.4%である。一般被害の有無の割合は統計的に男女差はないが、家族からの被害あり群は、女子における割合が男子よりも有意に高い。

一般被害の有無と家族からの被害の有無の関連を男女別に見たものが表13-1である。

表13-1 一般被害の有無と家族からの被害の有無

			家族からの被害		合計	検定結果
			なし	あり		
男子	一般被害	なし	84 (65.1)	45 (34.9)	129 (100.0)	$\chi^2(1)=100.374$ p=0.000**
		あり	484 (24.6)	1,481 (75.4)	1,965 (100.0)	
	合計		568 (27.1)	1,526 (72.9)	2,094 (100.0)	
女子	一般被害	なし	8 (53.3)	7 (46.7)	15 (100.0)	(f) p=0.003**
		あり	37 (17.3)	177 (82.7)	214 (100.0)	
	合計		45 (19.7)	184 (80.3)	229 (100.0)	

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 「検定結果」欄の「**」は、有意水準1%以下で有意差が見られることを示す。
4 「検定結果」欄の(f)は、フィッシャーの直接確率法によることを示す。
5 () 内は、構成比である。

検定の結果、男女ともに関連が認められた。一方の被害経験がある者は、その被害経験がない者よりも、もう一方の被害を経験している場合が有意に多く、一方の被害経験がない者は、その被害がある者よりも、もう一方の被害を経験していない場合が有意に多い。たとえば、男子では、一般被害の経験がある者のうち、75.4%は家族からの被害も経験しているが、一般被害の経験がない者は、そのうち34.9%しか家族からの被害を経験していないし、一般被害の経験がない者のうち、家族からの被害もない者は65.1%いるが、一般被害の経験がある者で、家族からの被害経験がない者は24.6%しかいない。

次に、被害の種類間の関連を更に細かく見るために、「一般・身体的暴力¹」、「一般・性的暴力²」、「家族・身体的暴力³」、「家族・性的暴力⁴」の有無について、すべての組合せでクロス表を作成し、各被害種類間の関連が有意であったかどうか見た結果が、表13-2である（各クロス表については、資料13-1を参照のこと）。

表13-2 被害種類間の関係

① 男子

	一般・身体的暴力	一般・性的暴力	家族・身体的暴力	家族・性的暴力
一般・身体的暴力		**	**	—
一般・性的暴力			**	**
家族・身体的暴力				*
家族・性的暴力				

② 女子

	一般・身体的暴力	一般・性的暴力	家族・身体的暴力	家族・性的暴力
一般・身体的暴力		**	*	—
一般・性的暴力			*	—
家族・身体的暴力				**
家族・性的暴力				

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 各セル中の記号は、被害種類間の関連の有無を示している。

「**」…1%以下の水準で、有意な関連が見られたことを示す。

「*」…5%以下の水準で、有意な関連が見られたことを示す。

「—」…統計的に有意な関連が見られなかったことを示す。

「家族・性的暴力」と「一般・身体的暴力」の間（女子は加えて「家族・性的暴力」と「一般・性的暴力」の間も）を除き、すべての被害種類間において有意な関連が認められた。関連の仕方は一貫して、一方の被害経験を有している者は、その被害経験がない者よりも、他方の被害を経験している場合が有意に多く、一方の被害経験がない者は、その被害がある者よりも、もう一方の被害を経験していない場合が有意に多いというものである。「家族・身体的暴力」は、男女ともに、すべての被害種類と関連を有している。

1 一般被害の身体的暴力①（軽度）、②（重度）の有無。少なくともどちらか一方を経験していれば「あり群」、両方なければ「なし群」とする。以下、群の作成方法は同じ。

2 一般被害の性的暴力①（接触）、②（性交）の有無。

3 家族からの身体的暴力①②の有無。

4 家族からの性的暴力①②の有無。

一般被害と家族からの被害の関連だけでなく、身体的暴力の被害と性的暴力の被害の関連もあることが明らかになったことから、単独の種類の被害しか経験していない者よりも、複数の種類の被害を受けている者が多いと推測できる。しかし、関連の有無だけでは、全体として、どのような被害をいくつくらい、どのくらいの者が受けたのかという細かい中身は分からない。そこで、前述した4種類の被害において、全く経験のない者の群から、すべての種類の経験がある者の群までの全通りの組合せそれぞれについて、該当する者を計上した結果を、図13-1に示した。

男子と女子では多く受けた被害の組合せのパターンが異なる。男子が、女子と比べて有意に多かったのは、以下の二つである。

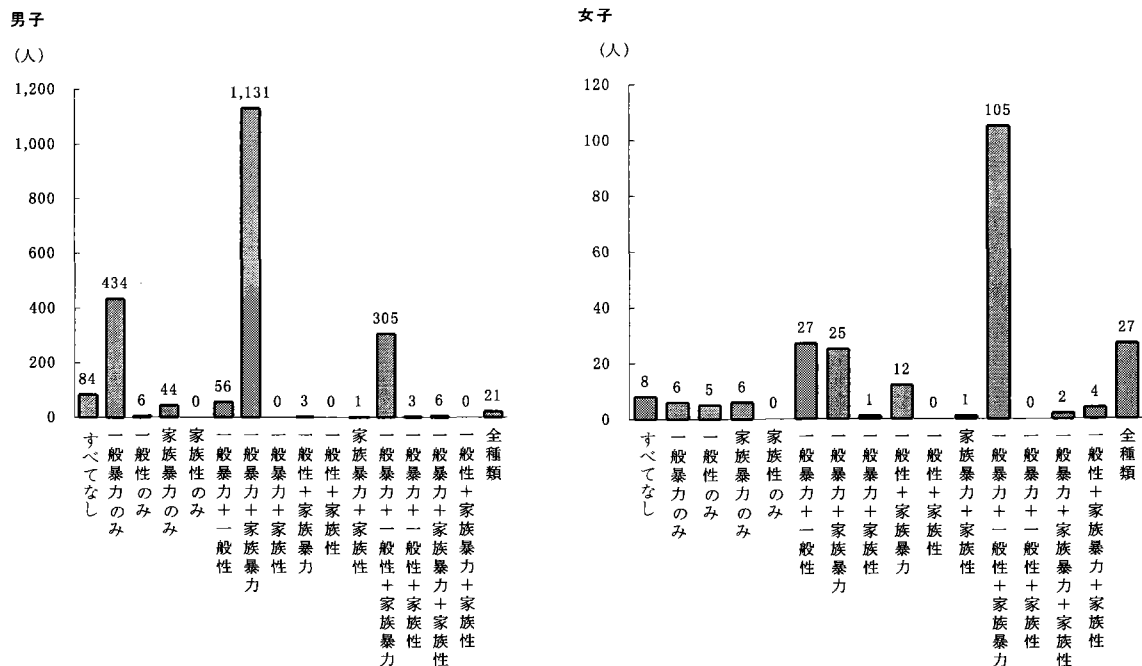
- ・「一般・身体的暴力のみ」(20.7%の男子に該当し、2番目に多い被害パターン)
- ・「一般・身体的暴力+家族・身体的暴力」(54.0%の男子に該当し、最も多い)

女子が、男子と比べて有意に多かったのは以下の七つである。

- ・「一般・性的暴力のみ」
- ・「一般・身体的暴力+一般・性的暴力」(11.8%の女子に該当し、2番目に多い)
- ・「一般・身体的暴力+家族・性的暴力」
- ・「一般・性的暴力+家族・身体的暴力」
- ・「一般・身体的暴力+一般・性的暴力+家族・身体的暴力」(45.9%の女子に該当し、最も多い)
- ・「一般・性的暴力+家族・身体的暴力+家族・性的暴力」
- ・「全種類」(11.8%の女子に該当し、2番目に多い)

男子に有意に多かった組合せは性的暴力を含んでいないが、女子に有意に多かった組合せはすべて性的暴力を含んでおり、性的暴力を含む比較可能な11の組合せのうち七つという結果である。また、「家族・性的暴力のみ」及び「一般・性的暴力+家族・性的暴力」という組合せは、男女とも一人もいなかった。

図13-1 受けた被害の種類の組合せ



	男子			女子			合計	
すべてなし	84	(4.0)	[0.4]	8	(3.5)	[-0.4]	92	(4.0)
一般・身体的暴力のみ	434	(20.7)	△[6.6]	6	(2.6)	▼[-6.6]	440	(18.9)
一般・性的暴力のみ	6	(0.3)	▼[-4.0]	5	(2.2)	△[4.0]	11	(0.5)
家族・身体的暴力のみ	44	(2.1)	[-0.5]	6	(2.6)	[0.5]	50	(2.2)
家族・性的暴力のみ ¹	0	-		0	-		0	-
一般・身体的暴力 +一般・性的暴力	56	(2.7)	▼[-7.1]	27	(11.8)	△[7.1]	83	(3.6)
一般・身体的暴力 +家族・身体的暴力	1,131	(54.0)	△[12.4]	25	(10.9)	▼[-12.4]	1,156	(49.8)
一般・身体的暴力 +家族・性的暴力	0	(0.0)	▼[-3.0]	1	(0.4)	△[3.0]	1	(0.0)
一般・性的暴力 +家族・身体的暴力	3	(0.1)	▼[-9.1]	12	(5.2)	△[9.1]	15	(0.6)
一般・性的暴力 +家族・性的暴力 ¹	0	-		0	-		0	-
家族・身体的暴力 +家族・性的暴力	1	(0.0)	[-1.9]	1	(0.4)	[1.9]	2	(0.1)
一般・身体的暴力 +一般・性的暴力 +家族・身体的暴力	305	(14.6)	▼[-11.8]	105	(45.9)	△[11.8]	410	(17.6)
一般・身体的暴力 +一般・性的暴力 +家族・性的暴力	3	(0.1)	[0.6]	0	-	[-0.6]	3	(0.1)
一般・身体的暴力 +家族・身体的暴力 +家族・性的暴力	6	(0.3)	[-1.4]	2	(0.9)	[1.4]	8	(0.3)
一般・性的暴力 +家族・身体的暴力 +家族・性的暴力	0	-	▼[-6.1]	4	(1.7)	△[6.1]	4	(0.2)
全種類	21	(1.0)	▼[-10.9]	27	(11.8)	△[10.9]	48	(2.1)
合計	2,094	(100.0)		229	(100.0)		2,323	(100.0)
検定結果	(m) p=0.000**							

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 「検定結果」欄の(m)は、モンテカルロ法によるものであることを示す。
3 []内は、調整済み残差であり、△は期待値より有意に多いことを、▼は、期待値より有意に少ないことを示す。
4 「1」のついた群は、男女とも該当者がいなかったため、検定から除外している。
5 文中で使用した被害の種類は、図中のラベルとして長いため省略したものを使用している。
「身体的暴力」は「暴力」に、「性的暴力」は「性」に短縮し、「・」も省略している。
6 表13-1の注2・3・5に同じ。

(2) それぞれの被害を受け始めた時期と初発非行の時期との関連

表13-3は、一般被害を受けたことがある者と家族からの被害を受けたことがある者について、被害を受け始めた時期（被害が「一度きり」の者については、その時期）及び初発非行（真犯も含む。）の時期の関連を男女別に見たものである（参考までに、第1報告には、虐待の開始時期と初発非行の時期との関連を見たものがある。171ページ表45参照）。

一般被害を受け始めた時期と初発非行の時期との関連は、男女ともに認められた。残差分析の結果、男女とも、両者が同時期⁵である場合のいくつかが有意に多かった。男子では、小学校入学前を除く三つの時期、女子では小学校入学前及び中学校卒業後である。一方、男子で、一般被害を受け始めたのが小学生の時、初発非行が中学卒業後に見られた者、一般被害を受け始めたのが中学生の時、初発非行が小学生の時に見られた者、一般被害を受け始めたのが中学卒業後、初発非行が中学生の時に見られた者は有意に少なかった。

家族からの被害との関連は、男子において認められた。残差分析の結果、小学校入学前を除く三つの時期で、両者が同時期である者が有意に多かった。一方、家族からの被害を受け始めたのが中学生の時、初発非行が小学校入学前に見られた者は有意に少なかった。女子については、男子とほぼ同様の傾向が認められたが、統計的には有意ではなかった。

表13-3 被害を受け始めた時期と初発非行時期

① 一般被害			初発非行時期				合計	検定結果
			小学校入学前	小学生の時	中学生の時	中学卒業後		
男子	一般被害を受け始めた時期	小学校入学前	4 (3.6) [0.8]	35 (31.8) [0.6]	56 (50.9) [-0.5]	15 (13.6) [-0.3]	110 (100.0)	$\chi^2(9)=48.460$ $p=0.000^{**}$
		小学生の時	17 (2.4) [-0.2]	242 (34.3) $\Delta[3.6]$	362 (51.3) [-1.3]	84 (11.9) $\nabla[-2.6]$	705 (100.0)	
		中学生の時	22 (2.6) [0.2]	228 (26.6) $\nabla[-2.5]$	494 (57.6) $\Delta[3.3]$	114 (13.3) [-1.6]	858 (100.0)	
		中学卒業後	6 (2.1) [-0.5]	71 (25.0) [-1.8]	132 (46.5) $\nabla[-2.5]$	75 (26.4) $\Delta[6.0]$	284 (100.0)	
	合計		49 (2.5) (2.5)	576 (29.4) (29.4)	1,044 (53.3) (53.3)	288 (14.7) (14.7)	1,957 (100.0)	
女子	一般被害を受け始めた時期	小学校入学前	1 (7.1) $\Delta[2.5]$	5 (35.7) [1.5]	8 (57.1) [-0.2]	0 - [-1.9]	14 (100.0)	(m) $p=0.007^{**}$
		小学生の時	0 - [-0.9]	16 (27.1) [1.6]	31 (52.5) [-1.4]	12 (20.3) [0.4]	59 (100.0)	
		中学生の時	1 (1.0) [0.0]	19 (18.1) [-0.8]	70 (66.7) [1.9]	15 (14.3) [-1.7]	105 (100.0)	
		中学卒業後	0 - [-0.6]	3 (8.6) [-1.9]	19 (54.3) [-0.8]	13 (37.1) $\Delta[3.0]$	35 (100.0)	
	合計		2 (0.9) (0.9)	43 (20.2) (20.2)	128 (60.1) (60.1)	40 (18.8) (18.8)	213 (100.0)	

5 同時期とはいっても、「小学生の時」とか「中学生の時」といったように、ここでいう時期自体にはかなり幅がある。その時期の中で被害と初発非行どちらが先であったかは不明である。

② 家族からの被害

			初発非行時期				合計	検定結果
			小学校入学前	小学生の時	中学生の時	中学卒業後		
男子	家族からの被害を受け始めた時期	小学校入学前	16 (4.0) [1.6]	123 (31.0) [-0.3]	203 (51.1) [-0.1]	55 (13.9) [-0.2]	397 (100.0)	$\chi^2(9)=29.432$ $p=0.001^{**}$
		小学生の時	24 (3.0) [0.2]	273 (33.9) $\Delta[2.0]$	401 (49.8) [-1.3]	108 (13.4) [-1.0]	806 (100.0)	
		中学生の時	2 (0.8) $\nabla[-2.1]$	63 (26.3) [-1.9]	142 (59.2) $\Delta[2.7]$	33 (13.8) [-0.2]	240 (100.0)	
		中学卒業後	1 (2.4) [-0.2]	10 (24.4) [-1.0]	15 (36.6) [-1.9]	15 (36.6) $\Delta[4.2]$	41 (100.0)	
	合計		43 (2.9)	469 (31.6)	761 (51.3)	211 (14.2)	1,484 (100.0)	
女子	家族からの被害を受け始めた時期	小学校入学前	1 (1.8)	13 (22.8)	33 (57.9)	10 (17.5)	57 (100.0)	(m) $p=0.115$
		小学生の時	0 -	21 (26.3)	46 (57.5)	13 (16.3)	80 (100.0)	
		中学生の時	0 -	4 (11.4)	27 (77.1)	4 (11.4)	35 (100.0)	
		中学卒業後	0 -	0 -	4 (50.0)	4 (50.0)	8 (100.0)	
	合計		1 (0.6)	38 (21.1)	110 (61.1)	31 (17.2)	180 (100.0)	

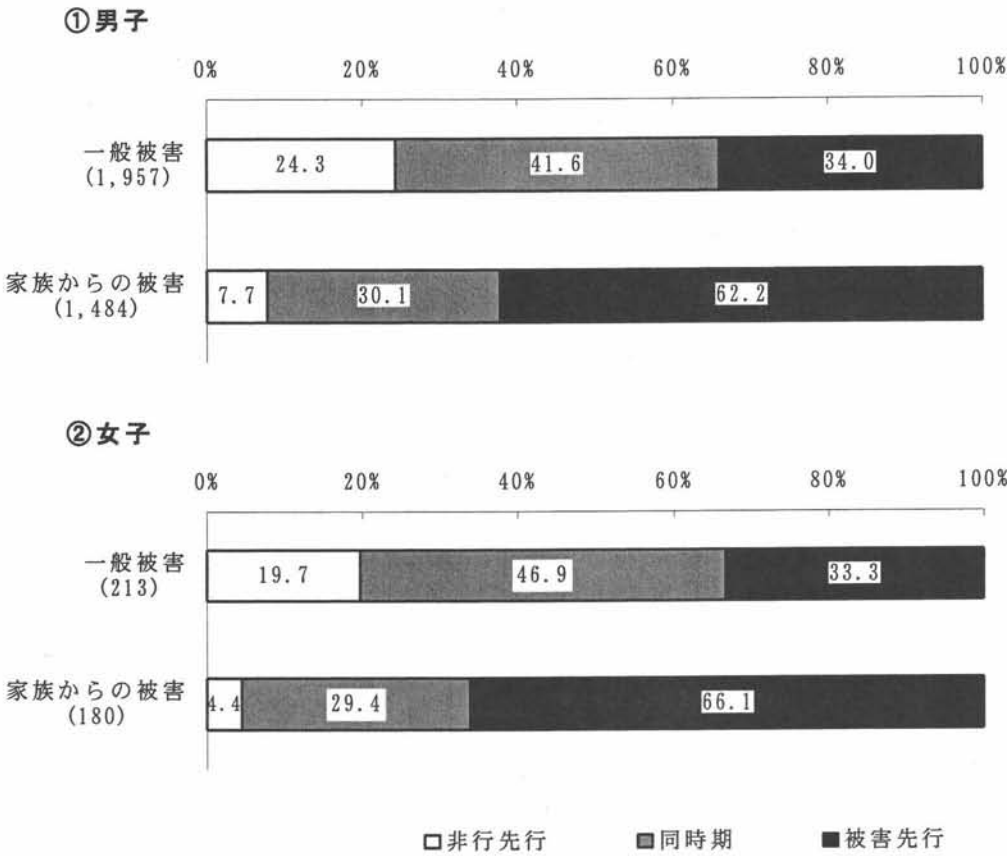
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答及び「いつだったか覚えていない」を除く。
3 表13-1の注3・5に同じ。
4 図13-1の注2・3に同じ。

また、一般被害及び家族からの被害を受けた者についてそれぞれ、被害を受け始めた時期と初発非行の時期を比較して、初発非行の方が被害より早い「非行先行群」、同時期である「同時期群」、被害の方が初発非行より早い「被害先行群」に分け、男女別に見たものが図13-2である。

一般被害と家族からの被害とを比べた場合、男子においても女子においても、家族からの被害の方が、被害先行群が多く、非行先行群が少ないのが特徴である。男女とも家族からの被害においては、被害先行群が60%以上を占めて最も多いが、非行先行群は、10%に満たない。一般被害においては、同時期群が40%以上と最も多く、被害先行群は30%強である。

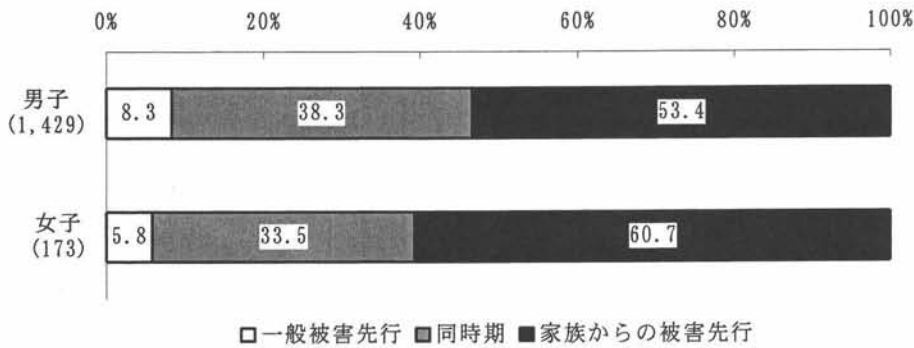
図13-3は、一般被害と家族からの被害を両方受けた経験のある者について、被害を受け始めた時期を比較したものである。男女とも家族からの被害が先行している者が最も多く、次に同時期である者が続く。

図13-2 被害の開始時期と初発非行の時期との関係



注 1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答及び「いつだったか覚えていない」を除く。
3 ()内は、実数である。

図13-3 一般被害と家族からの被害の時期の比較



注 1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答及び「いつだったか覚えていない」を除く。
3 ()内は、実数である。

(3) それぞれの被害の有無と非行性との関連

非行性とは、本人の性格や犯罪行為に対する態度、実際の反社会的な行動歴等から見た、非行に走りやすい傾向全体を表す用語であり、非行性の程度を判断するにあたっては多くの指標が考えられるが、ここでは処遇区分の「長期」、「短期」及び入院回数の「1回」、「2回以上」を使用して分析を行った。

表13-4は、一般被害の有無及び家族からの被害の有無と処遇区分との関係を、それぞれ男女別に見たものである。

全体に占める長期処遇の者が多いため、当然、性別や被害の種類にかかわらず長期処遇が多いが、統計的には、男子において、家族からの被害の有無と処遇区分との間に有意な関連が見られた。家族からの被害がない者における短期処遇の者、家族からの被害がある者における長期処遇の者がそれぞれ有意に多い。

表13-4 被害の有無と処遇区分

① 一般被害

			処遇区分		合計	検定結果
			長期	短期		
男子	一般被害	なし	112 (86.8)	17 (13.2)	129 (100.0)	$\chi^2(1)=1.058$ $p=0.304$
		あり	1,653 (83.4)	330 (16.6)	1,983 (100.0)	
	合計		1,765 (83.6)	347 (16.4)	2,112 (100.0)	
女子	一般被害	なし	12 (80.0)	3 (20.0)	15 (100.0)	(f) $p=0.720$
		あり	179 (83.6)	35 (16.4)	214 (100.0)	
	合計		191 (83.4)	38 (16.6)	229 (100.0)	

② 家族からの被害

			処遇区分		合計	検定結果
			長期	短期		
男子	家族からの被害	なし	456 (80.3)	112 (19.7)	568 (100.0)	$\chi^2(1)=6.602$ $p=0.010^*$
		あり	1,298 (84.9)	230 (15.1)	1,528 (100.0)	
	合計		1,754 (83.7)	342 (16.3)	2,096 (100.0)	
女子	家族からの被害	なし	37 (82.2)	8 (17.8)	45 (100.0)	$\chi^2(1)=0.057$ $p=0.812$
		あり	154 (83.7)	30 (16.3)	184 (100.0)	
	合計		191 (83.4)	38 (16.6)	229 (100.0)	

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 「検定結果」欄の「*」は、有意水準5%以下で有意差が見られることを示す。

3 表13-1の注2・4・5に同じ。

表13-5は、一般被害の有無及び家族からの被害の有無と入院回数との関係を、それぞれ男女別に見たものである。

全体に占める入院回数1回の者が多いため、当然、性別や被害の種類にかかわらず入院回数1回が多いが、統計的には、男子において、家族からの被害の有無と入院回数との間に有意な関連が見られた。家族からの被害がない者における入院回数1回の者、家族からの被害がある者における入院回数2回以上の者がそれぞれ有意に多い。女子も、5%という基準での有意差は見られなかったが、10%水準では男子と同様の結果が得られた。

表13-5 被害の有無と入院回数

① 一般被害						
			入院回数		合計	検定結果
			1回	2回以上		
男子	一般被害	なし	104 (80.6)	25 (19.4)	129 (100.0)	$\chi^2(1)=0.853$ $p=0.356$
		あり	1,529 (77.1)	454 (22.9)	1,983 (100.0)	
	合計		1,633 (77.3)	479 (22.7)	2,112 (100.0)	
女子	一般被害	なし	15 (100.0)	0 -	15 (100.0)	(f) $p=0.378$
		あり	190 (88.8)	24 (11.2)	214 (100.0)	
	合計		205 (89.5)	24 (10.5)	229 (100.0)	

② 家族からの被害						
			入院回数		合計	検定結果
			1回	2回以上		
男子	家族からの被害	なし	464 (81.7)	104 (18.3)	568 (100.0)	$\chi^2(1)=8.250$ $p=0.004^{**}$
		あり	1,158 (75.8)	370 (24.2)	1,528 (100.0)	
	合計		1,622 (77.4)	474 (22.6)	2,096 (100.0)	
女子	家族からの被害	なし	44 (97.8)	1 (2.2)	45 (100.0)	(f) $p=0.055^{\dagger}$
		あり	161 (87.5)	23 (12.5)	184 (100.0)	
	合計		205 (89.5)	24 (10.5)	229 (100.0)	

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 「†」は、有意水準10%以下での、有意傾向があることを示す。
3 表13-1の注2～6に同じ。

(4) それぞれの被害の有無と性格特性との関連

ここでは、本調査の第1報告と同様に、性格特性の指標として、MJPI(法務省式人格目録)のT得点を使用した。MJPIについては、第1報告を参照されたい(130ページ)。なお、第1報告で述べたように、MJPIの結果を男女別に考察することは困難であるため(第1報告133ページ参照)、ここでは、男女を合わせた全体の結果について述べる。なお、尺度の示す性格特性については、第1報告130ページに紹介したとおりであるが、読者の便宜のために今一度紹介する。

尺度名	尺度の示す性格特性
(妥当性尺度)	
虚構尺度	テストの結果を過度に良く見せようとし、そのために実行不可能なことでも行うと反応する傾向
偏向尺度	テストを受ける構え、またはものの考え方や感じ方が著しく偏っている傾向
自我防衛尺度 (臨床尺度)	自分を守るために自分の弱点を隠し、良く見せようとする傾向
心気症傾向	自分の心身の変化に敏感であったり、些細なことにこだわり元気をなくするというような神経質、無気力、心気症的な傾向
自信欠如傾向	他人の評価を気にし、自分の能力や行動に自信を持ってない傾向
抑うつ傾向	些細なことに気が沈み、消極的、悲観的、絶望的になり、暗い気分が続く傾向
不安定傾向	周囲の状況に関係なく気分が変化したり、些細な刺激で行動が変わりやすい傾向
爆発傾向	短気で怒りや不満を抱きやすく、また攻撃的に振舞いやすい傾向
自己顕示傾向	自己中心的で支配欲が強かったり、他人から嫌われまいとして自分を良く見せようとする傾向
過活動傾向	刺激をすぐ行動に移したり、気軽で即効的に振舞ったりする傾向
軽躁傾向	おおむねほがらかで人付き合いを好むというような楽天的な傾向
従属傾向	他からの働きかけに動かされやすく、自主性を欠く弱い依存的な傾向
偏狭傾向	自己中心的で社会に対する不平不満を持ち、被害感、不信任感などが強い傾向

表13-6 は、一般被害の「あり群」と「なし群」の MJPI の平均値の差及び家族からの被害の「あり群」と「なし群」の MJPI の平均値の差を T 検定により見たものである。

表13-6 被害の有無による MJPI の T 得点の差

	一般被害; 「なし」=142, 「あり」=2,193			家族からの被害; 「なし」=611, 「あり」=1,708		
		平均値	検定結果		平均値	検定結果
虚構	なし	52.55	p=0.003**	なし	51.61	p=0.000**
	あり	50.08		あり	49.74	
偏向	なし	50.28	p=0.000**	なし	47.38	p=0.772
	あり	47.25		あり	47.49	
自我防衛	なし	50.24	p=0.529	なし	51.50	p=0.000**
	あり	49.73		あり	49.14	
心気症	なし	52.95	p=0.609	なし	52.22	p=0.001**
	あり	53.39		あり	53.81	
自信欠如	なし	49.64	p=0.995	なし	48.78	p=0.011*
	あり	49.65		あり	49.95	
抑うつ	なし	50.61	p=0.408	なし	49.03	p=0.004**
	あり	49.89		あり	50.29	
不安定	なし	49.61	p=0.813	なし	48.34	p=0.002**
	あり	49.40		あり	49.84	
爆発	なし	50.67	p=0.678	なし	49.26	p=0.001**
	あり	50.32		あり	50.75	
自己顕示	なし	49.34	p=0.004*	なし	50.12	p=0.000**
	あり	51.78		あり	52.16	
過活動	なし	53.07	p=0.312	なし	53.39	p=0.186
	あり	53.86		あり	53.95	
軽躁	なし	50.32	p=0.014*	なし	51.68	p=0.139
	あり	52.24		あり	52.31	
従属	なし	49.49	p=0.224	なし	49.97	p=0.150
	あり	50.50		あり	50.62	
偏狭	なし	51.30	p=0.955	なし	49.82	p=0.000**
	あり	51.25		あり	51.76	

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 検査を実施出来なかった者及び無回答の者を除く。

3 「検定結果」欄の「**」は、有意水準1%以下で、「*」は有意水準5%以下で、それぞれ有意差が見られることを示す。

一般被害においても、家族からの被害においても、被害の有無によって、MJPI の平均値に有意差が見られた。一般被害においては、あり群がなし群と比べ、妥当性尺度で、「虚構」及び「偏向」が低く、臨床尺度では、「自己顕示」及び「軽躁」が有意に高い。家族からの被害においては、あり群がなし群と比べ、妥当性尺度で、「虚構」及び「自我防衛」が低く、臨床尺度では、「心気症」、「自信欠如」、「抑うつ」、「不安定」、「爆発」、「自己顕示」、「偏狭」が高い。

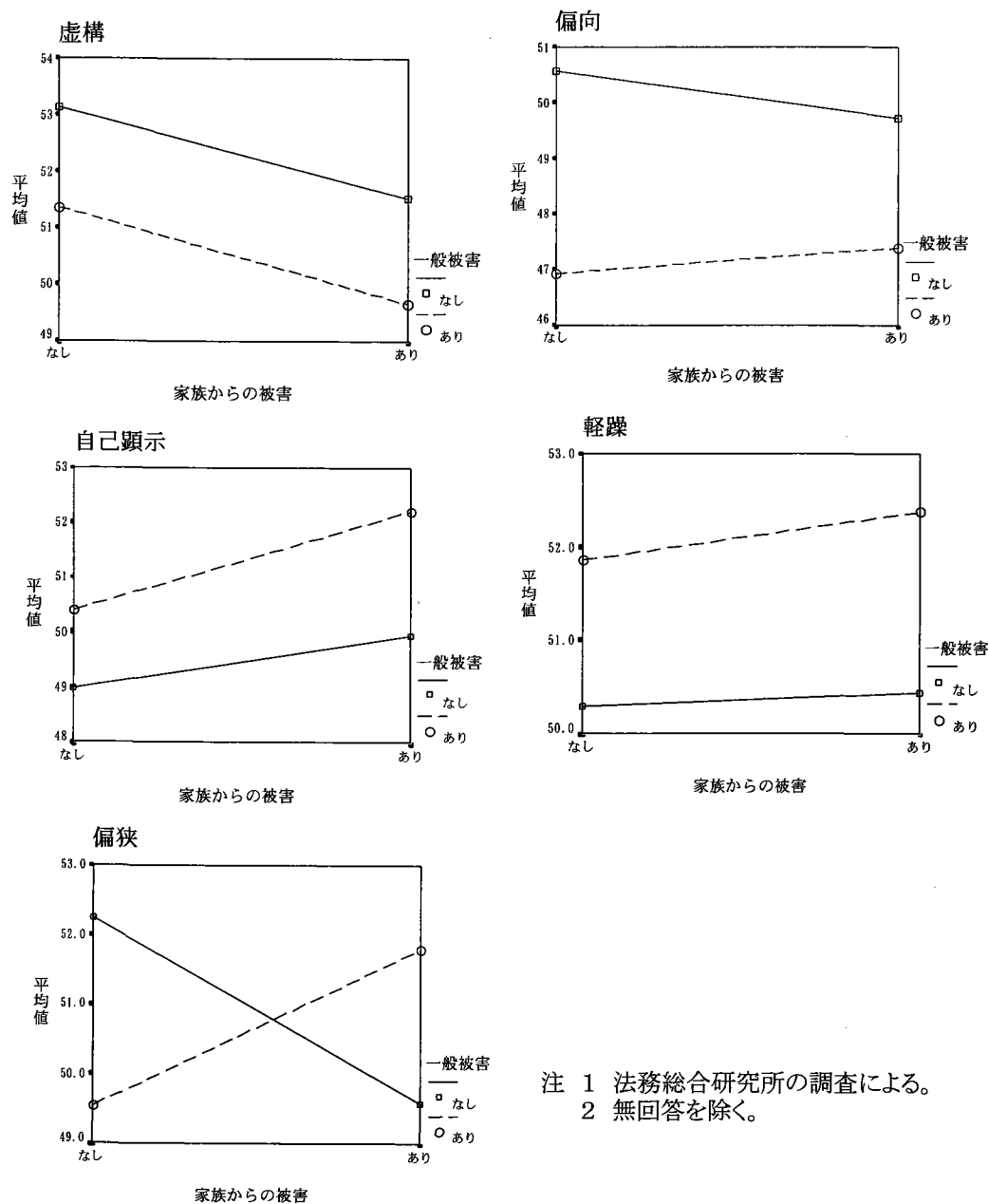
表13-6 の結果から、一般被害の有無と家族からの被害の有無は、それぞれ性格特性との関連が同じパターンでないということが分かった。このことから、一般被害と家族からの被害では、その効果が異なる可能性が考えられる。そこで、一般被害と家族からの被害を別々の要因とした二元配置の分散分析により、それぞれの主効果と交互作用⁶について検証した。なお、MJPI の得点は第1報告に述べたとおり性差が大きいので(132ページ)、性別を共変量としている。

その結果、妥当尺度においては、「虚構」において5%以下の水準で、「偏向」において1%以下の水準で、臨床尺度では、「自己顕示」と「軽躁」において、それぞれ5%以下の水準で一般被害の主効果が認められた(統計量の詳細については、資料13-2を参照のこと)。また、「偏狭」においては、1%以下の水準で、一般被害と家族からの被害の交互作用が認められた。図13-4は、要因の効果が認められた尺度の、MJPI の T 得点の平均値を示したものである。

「虚構」及び「偏向」は、家族からの被害の有無にかかわらず、一般被害なし群が、一般被害あり群よりも平均値が高い。グラフは平行である。「自己顕示」及び「軽躁」は、家族からの被害の有無にかかわらず、一般被害あり群は、一般被害なし群よりも平均値が高い。グラフは平行である。しかし、「偏狭」を見ると、一般被害あり群は、家族からの被害がある場合、一般被害なし群よりも平均値が高いが、家族からの被害がない場合は、一般被害のあり群の平均値はなし群よりも低く、グラフが交差する形となっている。このグラフでは、一般被害も家族からの被害も両方経験している群の方が、家族からの被害のみ経験している群より平均値が高く、被害経験が両方ない群の方が、一般被害のみ経験している群より平均値が高いということになる。

6 要因の主効果があるというのは、その要因により、従属変数が有意に変動することである。たとえば、ここで一般被害の主効果がある、というのは、家族からの被害の有無にかかわらず、一般被害があれば、従属変数である MJPI の得点が高く、一般被害がなければ、得点が低いというようなことを指す。交互作用というのは、要因が組み合わさることにより、単独の要因とは異なる結果が見られることをいう。ここでいえば、一般被害の要因が「あり」でも、家族からの被害の要因が「なし」の場合、MJPI の得点が下がるというようなことである。

図13-4 一般被害と家族からの被害の2要因で見る MJPI の平均値（要因の効果が認められたもの）



注 1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。

そこで、「一般被害なし・家族からの被害なし」, 「一般被害なし・家族からの被害あり」, 「一般被害あり・家族からの被害なし」, 「一般被害あり・家族からの被害あり」の4群に、群間に差が見られるかどうかを調べるために、一元配置の分散分析を行った（以下、順に「両方なし群」, 「家族からの被害のみあり群」, 「一般被害のみあり群」, 「両方あり群」という。）。分散分析で有意差が見られた尺度において、平均値の差の検定を多重比較（ボンフェローニ法）で行った結果を示したものが表13-7である。

表13-7 多重比較により T 得点の平均の差が有意となった群間及び平均値の大小

	N; 「両方なし」=90 「家族からの被害のみあり」=52 「一般被害のみあり」=521 「両方あり」=1,654
虚構	両方なし・一般被害のみあり>両方あり
偏向	両方なし>一般被害のみあり・両方あり
自我防衛	一般被害のみあり>両方あり
心気症	一般被害のみあり<両方あり
自信欠如	
抑うつ	一般被害のみあり<両方あり
不安定	一般被害のみあり<両方あり
爆発	一般被害のみあり<両方あり
自己顕示	両方なし・一般被害のみあり<両方あり
過活動	
軽躁	
従属	
偏狭	一般被害のみあり<両方あり

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 5%水準で有意差が認められた群の差の大小を不等号で示している。「・」で結群の間には有意差がないが、不等号ではさまれた群とはそれぞれが有意差を持つ。たとえば、「両方なし・一般被害のみあり<両方あり」は、「両方なし群は両方あり群と有意差があり、一般被害のみあり群も両方あり群と有意差があるが、両方なし群と一般被害のみあり群の間には有意差がない。」と読む。

4 統計量の詳細については資料13-3を参照のこと。

すべての妥当性尺度と、「心気症」、「抑うつ」、「不安定」、「爆発」、「自己顕示」、「偏狭」の臨床尺度で群間の差が認められた。その多くは、「一般被害のみあり群」と「両方あり群」との間の差である。臨床尺度においては一貫して、「両方あり」群が「一般被害のみあり群」より高い。図13-4で交互作用の見られた「偏狭」のグラフを、表13-7で用いた4群で記述すると、「両方あり群は、家族からの被害のみあり群より平均値が高く、両方なし群は、一般被害のみあり群より平均値が高い」となる。ここで平均値が高いのは、両方あり群と両方なし群であり、平均値が低いのは、家族からの被害のみあり群と一般被害のみあり群である。この状態で、表13-7において両方あり群と一般被害のみあり群との間に群間の差が見られたのは、両群に該当する人数が偏って多いためだと考えられる。有意な交互作用は認められないものの、「一般被害のみあり群」と「両方あり群」との間の差が認められた他の尺度も、グラフは交差しているものが多く（資料13-2参照）、群間の差はこれを反映したものと考えられる。

そして、家族からの被害の主効果が認められなかったことを考慮すると（主効果があれば、それにより差が説明できる）、表13-6で見られた、家族からの被害の有無によるMJPIの平均値の差は、家族からの被害あり群の約97%が「両方あり群」で、家族からの被害なし群の約85%が「一般被害のみあり群」であるため、生じた可能性が高い。

一方、表13-6で見られた、一般被害の有無による MJPI の平均値の差は、二元配置分散分析の結果認められた、一般被害の主効果を反映しているといえる。表13-7で、一部両方なし群と両方あり群等との間に群間の差が認められるのも一般被害の主効果であり、両方なし群対両方あり群の中に存在する、一般被害なし群対一般被害あり群の関係を反映したものであろう。

以上のように、各分析で見られる差は説明できるものの、表13-7で、「一般被害のみあり群」と「両方あり群」との間に有意差が最も多く認められた点については、その背景を探る必要があり、更に分析を進める。

3 「両方なし群」、「家族からの被害のみあり群」、「一般被害のみあり群」、「両方あり群」、各群の特徴

(1) 4群の比較結果

2の(4)の分析結果から、対象者を、一般被害の有無のみの、あるいは家族からの被害の有無のみの視点で検討することは適当でないことがうかがえる。つまり、一般被害がある者の特徴はこうである、家族からの被害がある者の特徴はこうである、とは一概にいえず、一般被害と家族からの被害の組合せにより特徴が変わりうるということである(特に主効果の認められなかった家族からの被害に関しては)。一般被害と家族からの被害の交互作用を考察するためには、「両方なし群」、「家族からの被害のみあり群」、「一般被害のみあり群」、「両方あり群」の4群それぞれの特徴を明らかにすることが必要である。そのため、この4群(以下「一般・家族有無4群」という。)と対象者の属性にかかわる変数とで多くのクロス表を作成し、 χ^2 検定を行った。表13-8は、一般・家族有無4群の内訳を男女別に示したものである。男女差は5%以下の有意水準では有意と認められなかったが、有意な傾向は見られた。一般被害のみあり群は男子が多くて女子が少なく、両方あり群は男子が少なくて女子が多い傾向がある。この表から分かるように、女子は両方なし群と家族からの被害のみあり群がそれぞれ10人に満たず、多くのカテゴリを持つ変数における分析が難しいため、以下の分析は男女合わせた全体で行う。ただし、解釈にあ

表13-8 一般・家族有無4群の内訳

	男子	女子	合計	検定結果
両方なし	84 (4.0) [0.4]	8 (3.5) [-0.4]	92 (4.0)	$\chi^2(3)=$ 6.601 $p=0.086^{\dagger}$
家族からの被害のみあり	45 (2.1) [-0.9]	7 (3.1) [0.9]	52 (2.2)	
一般被害のみあり	484 (23.1) $\Delta[2.4]$	37 (16.2) $\nabla[-2.4]$	521 (22.4)	
両方あり	1,481 (70.7) $\nabla[-2.1]$	177 (77.3) $\Delta[2.1]$	1,658 (71.4)	
合計	2,094 (100.0)	229 (100.0)	2,323 (100.0)	

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 表13-1の注5に同じ。
4 図13-1の注3に同じ。
5 表13-5の注2に同じ。

たっては、データが女子を含んだ全体のデータであると同時に、全体に占める男子の比率が高いため、主に男子の傾向を反映しているであろうことに留意する必要がある。

一般・家族有無4群とのクロス表を作成し、 χ^2 検定を実施した変数は表13-9のとおりである。

表13-9 一般・家族有無4群とのクロス表を作成した変数

1 本人の属性にかかわる変数
・ IQ<以下に分類>(70未満, 70台, 80台, 90台, 100以上)
・ 教育歴(中学在学, 中学卒業, 高校在学, 高校中退, 高校卒業, 専修・専門学校在学, 専修・専門学校中退, 専修・専門学校卒業, その他)
・ 入院時の学職別(生徒・学生, 無職, 就職中)
2 家族にかかわる変数
・ 家族構成(実父母, 実父, 実母, 実父義母, 義父実母, 養父母, その他)
・ きょうだい数<以下に分類>(0人, 1人, 2人, 3人以上)
・ きょうだい順位<以下に分類>(一人っ子, きょうだいありの第1子, きょうだいありの第2子以降)
・ 保護者の養育態度<重複回答。父母それぞれに回答>(普通, 放任, 拒否, 厳格, 過干渉, 期待過剰, 溺愛)
・ 家庭の経済状況(生活保護受給, 貧困, 普通, 富裕)
・ 家族の負因<あり, なしで重複回答。実父, 義父, 実母, 義母, きょうだいそれぞれに回答>(犯罪・非行, 酒乱・アル中, 薬物使用)
・ 実父母離婚歴(あり, なし)
3 問題行動歴にかかわる変数
・ 初発非行時期(小学校入学前, 小学生時, 中学生時, 中卒以後)
・ 薬物使用歴<あり, なしで重複回答>(シンナー, 覚せい剤)
・ 反社会集団加入歴<あり, なしで重複回答>(暴走族, 暴力団)
・ 児童相談所係属, 施設入所歴<あり, なしで重複回答>(児童相談所, 養護施設, 児童自立支援施設)
・ 自殺企図歴(あり, なし)
・ 自傷痕(あり, なし)
・ 検挙歴<あり, なしで重複回答>(殺人・強盗, 傷害・暴行, 窃盗, 恐喝, 強姦・強制わいせつ, 毒物及び劇物取締法違反, 覚せい剤取締法違反, 道路交通法違反)
4 今回入院にかかわる変数
・ 本件非行名<以下に分類。重複あり>(殺人, 強盗, 傷害, 窃盗, 恐喝, 覚せい剤取締法違反, 毒物及び劇物取締法違反, 道路交通法違反, 強姦・強制わいせつ・準強姦, 虞犯)
・ 本件非行種類<以下に分類。重複あり>(凶悪犯, 粗暴犯, 財産犯, 薬物事犯, 性事犯, 交通事犯)
・ 少年院種別(初等, 中等, 特別, 医療)
・ 処遇課程分類級<以下に分類>(E, V, S, O, G1, G2, G3, H1, H2, M)
・ 処遇区分(短期, 長期)
・ 入院度数(今回初回, 2回以上)

注 1 ()内は、変数のカテゴリを示す。ただし、「重複回答」、「重複あり」と記述している場合は、カテゴリが「あり, なし」で、()内が変数である。

2 処遇課程分類級は、多くの分類記号を併記している場合(H1E1など)、基本的には左にある記号ほど重要性が高いとみなして分類したが、P級(身体疾患, 身体障害)については、他の記号を優先している。また、H1(G3)及びH2(G3)ではG3を、E1G1, E1H2では、それぞれG1, H2を採用している。

3 E;義務教育及び高校教育を必要とする者, V;職業訓練を必要とする者及び職業上の意識, 知識, 技能等を高めるための職業指導を必要とする者, S;一般短期処遇(収容期間おおむね6か月以内)に該当する者, O;特修短期処遇(収容期間おおむね4か月以内)に該当する者, G1;著しい性格の偏りがあり, 反社会的な行動傾向が顕著であるため, 治療的な指導及び心身の訓練を特に必要とする者, G2;外国人で, 日本人と異なる処遇を必要とする者, G3;非行の重大性等により, 少年の持つ問題性が極めて複雑・深刻であるため, その矯正と社会復帰を図る上で特別の処遇を必要とする者, H1;知的障害者(IQおおむね69以下の者)であって専門的医療措置を必要とする心身に著しい故障のない者及び知的障害者に対する処遇に準じた処遇を必要とする者, H2;情緒的未成熟等により非社会的な形の社会的不適応が著しいため専門的な治療教育を必要とする者, M;精神病者及び精神病質者及びこれらの疑いのある者

これらの変数について、 χ^2 検定とその後の残差分析により、各群について、他の群に比べて有意に多い又は有意に少ないとされた変数について列挙した結果が表13-10である（詳細な統計量等については、資料13-4 参照）。表13-10には、表13-7 で示した性格特性の分析結果も加えておく。ここに列挙された内容が、各群の特徴といえる。

表13-10 残差分析の結果から見る、各群の特徴

① 両方なし群(92人)

1 本人の属性にかかわる変数

- ・ IQ70未満の者が多く, IQ100以上の者が少ない
- ・ MJPIの「虚構」が両方あり群より高く,「偏向」が両方あり群と一般被害のみあり群より高く,「自己顕示」が両方あり群より低い
- ・ 中学在学中の者が多い傾向があり, 専修学校等在学中の者が多い傾向がある

2 家族にかかわる変数

- ・ きょうだいが3人以上いる者が多い

3 問題行動歴にかかわる変数

4 今回入院にかかわる変数

- ・ 本件が傷害である者が少ない傾向があり, 窃盗である者が多い
- ・ 本件が粗暴犯である者が少ない
- ・ 初等少年院在院者が多い傾向があり, 中等少年院在院者が少ない傾向がある
- ・ 処遇課程の分類級がE, G3, H1, H2である者が多く, Vである者が少ない

② 家族からの被害のみあり群(52人)

1 本人の属性にかかわる変数

- ・ IQ70未満の者が多く, IQ100以上の者が少ない
- ・ MJPIの「偏向」が一般被害のみあり群より高い傾向がある

2 家族にかかわる変数

- ・ 親の負因がある者が多い
- ・ 実父に犯罪・非行歴のある者が多い
- ・ きょうだいに薬物使用歴がある者が多い

3 問題行動歴にかかわる変数

- ・ 初発非行の時期が中卒以後である者が多い
- ・ 児童相談所係属歴を持つ者が多い

4 今回入院にかかわる変数

- ・ 本件が粗暴犯である者が少ない
- ・ 医療少年院在院者である者が多い傾向がある
- ・ 処遇課程の分類級がH1, H2である者が多い

③ 一般被害のみあり群(521人)

1 本人の属性にかかわる変数

- ・ IQ70台の者が多い
- ・ MJPIの「虚構」と「自我防衛」が両方あり群より高く、「偏向」が両方なし群より低く、家族からの被害のみあり群より低い傾向があり、「心気症」、「抑うつ」、「不安定」、「爆発」、「自己顕示」、「偏狭」が両方あり群より低く、「自信欠如」が両方あり群より低い傾向がある
- ・ 高校在学中の者と高卒者が多い傾向がある

2 家族にかかわる変数

- ・ 父親の態度が「普通」である者が多い傾向があり、「溺愛」である者が多く、「拒否」である者が少なく、「厳格」である者が少ない
- ・ 母親の態度が「拒否」である者が少ない傾向があり、「放任」である者が少ない傾向があり、「溺愛」である者が多い傾向がある
- ・ きょうだいが3人以上いる者が少ない
- ・ きょうだいに犯罪・非行歴のある者が少ない

3 問題行動歴にかかわる変数

- ・ 初発非行の時期が、中学生の時である者が多く、小学校入学以前の者や小学生時の者が少ない
- ・ シンナー使用歴を持つ者が少ない
- ・ 児童相談所係属歴、養護施設入所歴、児童自立支援施設入所歴を持つ者が少ない
- ・ 自殺企図歴を持つ者が少ない傾向がある
- ・ 窃盗での検挙歴を持つ者が少なく、毒物及び劇物取締法違反での検挙歴を持つ者が少ない傾向がある

4 今回入院にかかわる変数

- ・ 本件非行名が窃盗である者が少なく、虞犯が少ない傾向がある
- ・ 本件が財産犯である者が少ない
- ・ 初等少年院在院者が少ない傾向があり、中等少年院在院者が多い傾向がある
- ・ 処遇課程の分類級がS・O・G2である者が多く、E・G1である者が少ない
- ・ 短期処遇課程の者が多く、長期処遇課程の者が少ない
- ・ 入院回数は、今回入院が初回の者が多く、2回目以上の者が少ない

④ 両方あり群(1,658人)

1 本人の属性にかかわる変数

- ・ IQ70台の者が少ない
- ・ MJPIの「虚構」が両方なし群と一般被害のみあり群より低く、「自我防衛」が一般被害のみあり群より低く、「偏向」が両方なし群より低く、「心気症」、「抑うつ」、「不安定」、「爆発」、「自己顕示」、「偏狭」が一般被害のみあり群より高く、「自信欠如」が一般被害のみあり群より高い傾向がある
- ・ 高卒者が少ない傾向がある

2 家族にかかわる変数

- ・ 父親の態度が「拒否」である者が多く、「厳格」である者が多く、「普通」である者が少ない傾向があり、「溺愛」である者が少ない
- ・ 母親の態度が「拒否」である者が多い傾向がある

3 問題行動歴にかかわる変数

- ・ 初発非行の時期が、小学校入学以前の者や小学生時の者が多く、中卒以後の者が少ない
- ・ シンナー使用歴を持つ者が多い
- ・ 児童相談所係属歴、養護施設入所歴、児童自立支援施設入所歴を持つ者が多い
- ・ 自殺企図歴を持つ者が多い傾向がある
- ・ 窃盗での検挙歴を持つ者が多く、毒物及び劇物取締法違反での検挙歴を持つ者が多い

4 今回入院にかかわる変数

- ・ 本件非行名が虞犯である者が多い傾向がある
- ・ 本件が財産犯である者が多い
- ・ 処遇課程の分類級がG1である者が多く、O・G2・G3・H1である者が少ない
- ・ 長期処遇課程の者が多く、短期処遇課程の者が少ない
- ・ 入院回数は、今回入院が初回の者が少なく、2回目以上の者が多い

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 表中「多い」「少ない」と表現しているものは、5%以下の水準で有意であったものであり、「傾向がある」と表現しているのは、10%以下の水準での有意傾向が認められたものである。

表13-10を見ると、一般被害のみあり群と両方あり群がかなり対照的な2群であることが分かる。すなわち、本人の属性にかかわる変数から今回入院にかかわる変数までのほとんどすべてにおいて、一般被害のみあり群で多いとされたものは両方あり群で少なく、両方あり群で多いとされたものは一般被害のみあり群で少ない。たとえば、一般被害のみあり群では、父親の態度で「拒否」、「厳格」は少ないが、両方あり群では多いし、母親の態度の「拒否」も同様である。一般被害のみあり群では、初発非行時期が小学校入学以前や小学生時の者は少ないが、両方あり群では多い。一般被害のみあり群は、児童相談所係属歴や施設入所歴を持つ者は少ないが、両方あり群は多い。また、一般被害のみあり群は短期処遇課程の者が多く、長期処遇課程の者が少ないが、両方あり群は逆である。

この2群と比べると、両方なし群と家族からの被害のみあり群は、能力が低いという点や非社会性の問題がある（分類級 H₂が多いことからうかがえる。）という資質面での共通点はあるが、家庭の状況に違いがある。

この各群の特徴が、性格特性の分析で見られた、一般被害と家族からの被害の交互作用（一般被害の効果は、家族からの被害を伴うか伴わないかで異なる。あるいは、家族からの被害の効果は、一般被害

を伴うか伴わないかで異なる。)の背景にあると考えられる。

(2) 各群のイメージ

表13-10に示された各群の特徴から、その全体的なイメージを以下のようにまとめてみた。もちろん、各群に該当する者全員がこうした特徴を持っているわけではないが、各群の違いをおおまかにとらえる上で参考とされたい。

ア 両方なし群

知的能力が平均よりかなり低い。年齢が低くて学校に通っていた者が多い。ものの見方が偏っている傾向がある。粗暴な行動歴は少なく、本件が窃盗である者が多い。能力的な面や非社会性など、本人の資質的な問題が大きく、特別な処遇を必要とする。家族の問題は目立たないが、資質の問題が大きいタイプといえる。

イ 家族からの被害のみあり群

知的能力が平均よりかなり低い。親やきょうだいに犯罪歴や薬物使用歴などの負因があり、児童相談所に係属した経歴を持つが、本人の問題行動が見られるようになったのは中卒以後と遅い。少年院では、知的障害者や情緒障害のある者として処遇されることが多い。家庭の問題が大きく、本人の問題も大きい。中学校に行っている間は非行としての問題はあまり目立たなかったタイプである。

ウ 一般被害のみあり群

知的能力は平均と比べてやや低いが、高校在学中の者や高卒者が他と比べて多い。両方あり群と比べると神経質さはあまりない。両親の態度はあまり問題がないか、やや甘い傾向がある。非行は中学生時から見られ始める。本件や検挙歴において窃盗が少ない。非行性の程度は比較的軽く、短期処遇を選択される者が多い。少年院への入出院を繰り返す者も少年院在院者全体の割合に比して少ない。思春期以降に問題を起こし始めて、短期間に問題行動を頻発するが、一過性とみなされることの多いタイプである。

エ 両方あり群

知的能力が低い者は多くないが、高卒者は少ない。一般被害のみあり群と比べると神経質な傾向がある。両親の態度に拒否的傾向が認められる。早期から問題行動を繰り返して各機関がかかわっているが、非行が進んできており、少年院では長期処遇が選択される。少年院への入出院を繰り返す者も少年院在院者全体の割合に比して多い。いわば早発型で非行の進んだタイプである。

(3) 被虐待経験との関係

ア 被虐待経験と一般・家族有無4群との関係

第1報告においては、家族から被害の実態と、経験なし群⁷、家族被害経験のみ群⁸、被虐待経験あり群⁹の特徴の差を中心に分析した（一部、被虐待経験あり群と被虐待経験なし群¹⁰との比較）。ここでは、少年院在院者の被害経験全体の中の被虐待経験の位置付けを試みる。なお、「家族被害経験のみ群」は、この項で述べてきた「家族からの被害のみあり群」と混同しやすい群名であるため、便宜上ここでは、「非虐待家族被害群」という。

一般・家族有無4群の中における被虐待経験あり群及び非虐待家族被害群の位置を図13-5に示す。

図13-5 一般・被害有無4群の中の被虐待群・非虐待群の位置

両方なし	
一般被害のみあり	
家族からの被害のみあり	
非虐待家族被害群	被虐待経験あり群
両方あり	
非虐待家族被害群	被虐待経験あり群

非虐待家族被害群と被虐待経験あり群は、一般・家族有無4群の家族からの被害のみあり群と両方あり群のどちらにも含まれる。表13-11は、被虐待経験あり群・非虐待家族被害群と、家族からの被害のみあり群・両方あり群との関係を見たものである（両方なし群と一般被害のみあり群は、当然ながら該当者がいないため分析には含まれない）。

全体として、家族からの被害を受けた経験のある者の約70%が被虐待経験あり群であり、残りが非虐待家族被害群であった。逆から見ると、男女とも、被虐待経験あり群の95%以上が両方あり群で、残りが家族からの被害のみあり群であった。非虐待家族被害群の内訳もほぼ同じである。

χ^2 検定で有意な関連は認められなかったため、家族から被害を受けている者のうちの、被虐待経験者の割合は、一般被害の経験の有無とは関係ないことが分かった。家族からの被害を受けている者のほとんどが両方あり群で、家族からの被害を受けていない者のほとんどが一般被害のみあり群である(85.0%)ことを考えると、第1報告で得られた、家族からの被害なし群と被虐待経験あり群の差は、表13-10で挙げた一般被害のみあり群と両方あり群の特徴を反映していると考えられる。

7 家族からの被害をまったく受けたことのない者。一般・家族有無4群では、両方なし群と一般被害のみあり群の合計に当たる。

8 家族からの被害を受けたことはあるが、1回きりであったり、加害者が親と祖父母以外だけであったりする者。一般・家族有無4群では、家族からの被害のみあり群と両方あり群それぞれの一部である。

9 親や祖父母から繰り返し被害を受けた経験のある者。一般・家族有無4群では、家族からの被害のみあり群と両方あり群それぞれの一部である。

10 親や祖父母から繰り返し被害を受けた経験のない者全体。一般・家族有無4群では、両方なし群・一般被害のみあり群全部と、家族からの被害のみあり群・両方あり群中、それぞれの家族被害経験のみあり群の合計に当たる。

表13-11 一般・家族有無4群と虐待等の関係

		非虐待 家族被害群	被虐待経験 あり群	合計	検定結果
男子	家族からの被害のみあり群	15 (34.9) <3.3>	28 (65.1) <2.8>	43 (100.0) <2.9>	$\chi^2(1)=0.299$ $p=0.584$
	両方あり群	440 (31.0) <96.7>	981 (69.0) <97.2>	1,421 (100.0) <97.1>	
	合計	455 (31.1) <100.0>	1,009 (68.9) <100.0>	1,464 (100.0) <100.0>	
女子	家族からの被害のみあり群	1 (14.3) <2.0>	6 (85.7) <4.8>	7 (100.0) <4.0>	(f) $p=0.675$
	両方あり群	48 (28.7) <98.0>	119 (71.3) <95.2>	167 (100.0) <96.0>	
	合計	49 (28.2) <100.0>	125 (71.8) <100.0>	174 (100.0) <100.0>	

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 () 内は、「家族からの被害のみあり群」及び「両方あり群」の構成比であり、
< > 内は、「非虐待家族被害群」及び「被虐待経験あり群」の構成比である。
3 表13-1の注2・4に同じ。

イ 被虐待経験と初発非行及び一般被害・家族からの被害の時期的前後関係

図13-6 は、非虐待家族被害群及び被虐待経験あり群における、家族からの被害(被虐待経験あり群においては虐待)の開始時期と、初発非行の時期との前後関係を、それぞれ男女別に見たものである。

男子は、非虐待家族被害群・被虐待経験あり群ともに、被害が先行している者が最も多く、同時期、初発非行先行の順であるが、被虐待経験あり群で被害が先行している者が70%近くであるのに対し、非虐待家族被害群では50%に満たない。女子は、非虐待家族被害群で、同時期である者が最も多く、被虐待経験あり群では、被害が先行している者が最も多かった。

χ^2 検定の結果、男女ともに有意な関連が認められた。残差分析の結果、男子の被虐待経験あり群は、非虐待家族被害群と比べ、虐待を初発非行より先に受け始めた者が有意に多く、同時期や初発非行が先であった者が有意に少なかった。また、女子の被虐待経験あり群は、虐待を初発非行より先に受け始めた者が有意に多く、同時期であった者が有意に少なかった。

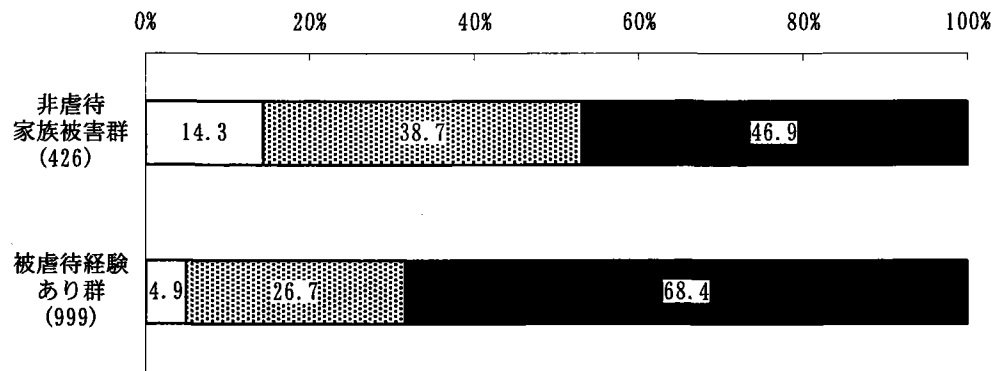
図13-7 は、非虐待家族被害群及び被虐待経験あり群のうち、一般被害と家族からの被害の両方を受けている者について、一般被害と家族からの被害の前後関係を、それぞれ男女別に見たものである。

被虐待経験あり群においては、男女とも、家族からの被害を一般被害より先に受け始めている者が60%前後と最も多く、その逆は5%程度と最も少ない。非虐待家族被害群は、被虐待経験あり群よりも、一般被害を先に受け始めている者や同時期である者の割合が多くなっている。

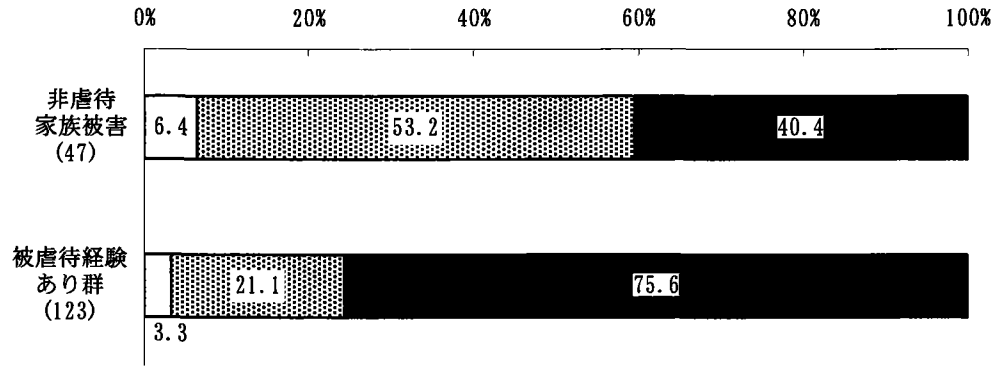
χ^2 検定の結果、男子において有意差が認められ、残差分析の結果、被虐待経験あり群は、家族からの被害を一般被害より先に受け始めている者が有意に多く、同時期である者と一般被害が家族からの被害より先である者が有意に少なかった。

図13-6 初発非行と被虐待経験等の前後関係

①男子



②女子



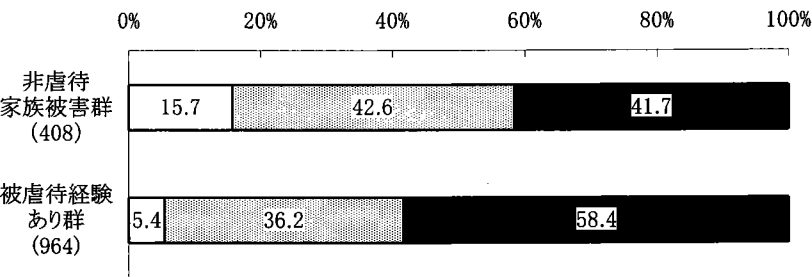
□ 非行先行 ▨ 同時期 ■ 家族からの被害先行

		初発非行と家族からの被害の 前後関係			合計	検定結果
		初発非行 先行	同時期	家族からの 被害先行		
男子	非虐待 家族被害群	61 (14.3) △[6.1]	165 (38.7) △[4.5]	200 (46.9) ▼[-7.6]	426 (100.0)	$\chi^2(2)=70.602$ $p=0.000^{**}$
	被虐待経験 あり群	49 (4.9) ▼[-6.1]	267 (26.7) ▼[-4.5]	683 (68.4) △[7.6]	999 (100.0)	
	合計	110 (7.7)	432 (30.3)	883 (62.0)	1,425 (100.0)	
女子	非虐待 家族被害群	3 (6.4) [0.9]	25 (53.2) △[4.1]	19 (40.4) ▼[-4.3]	47 (100.0)	$\chi^2(2)=18.845$ $p=0.000^{**}$
	被虐待経験 あり群	4 (3.3) [-0.9]	26 (21.1) ▼[-4.1]	93 (75.6) △[4.3]	123 (100.0)	
	合計	7 (4.1)	51 (30.0)	112 (65.9)	170 (100.0)	

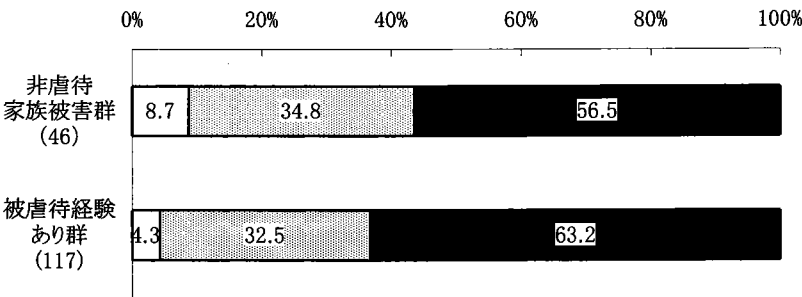
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答及び「いつだったか覚えていない」を除く。
3 表13-1の注3・5に同じ。
4 図13-1の注3に同じ。

図13-7 一般被害・家族からの被害の前後関係と被虐待経験等

① 男子



② 女子



□一般被害先行 □同時期 ■家族からの被害先行

		一般被害と家族からの被害の 前後関係			合計	検定結果
		一般被害 先行	同時期	家族からの 被害先行		
男子	非虐待 家族被害群	64 (15.7) △[6.3]	174 (42.6) △[2.2]	170 (41.7) ▼[-5.7]	408 (100.0)	$\chi^2(2)=54.067$ $p=0.000^{**}$
	被虐待経験 あり群	52 (5.4) ▼[-6.3]	349 (36.2) ▼[-2.2]	563 (58.4) △[5.7]	964 (100.0)	
	合計	116 (8.5)	523 (38.1)	733 (53.4)	1,372 (100.0)	
女子	非虐待 家族被害群	4 (8.7)	16 (34.8)	26 (56.5)	46 (100.0)	$\chi^2(2)=1.466$ $p=0.481$
	被虐待経験 あり群	5 (4.3)	38 (32.5)	74 (63.2)	117 (100.0)	
	合計	9 (5.5)	54 (33.1)	100 (61.3)	163 (100.0)	

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答及び「いつだったか覚えていない」を除く。
3 表13-1の注3・5に同じ。
4 図13-1の注3に同じ。

被害と初発非行時期について示した図13-2 から図13-7 までの結果から、家族からの被害を受け始めるのは、一般被害や初発非行より先である場合が多く、特に虐待の開始が初発非行より早い時期に見ら

れる場合が多いことが明らかになった。表13-12-1は、家族からの被害・一般被害・初発非行三者の前

表13-12-1 被虐待等と一般被害・家族からの被害・初発非行の時期的前後関係

男子

	被害	被虐待	合計
初発→家族→一般	11 (2.7) [1.9]	12 (1.2) [-1.9]	23 (1.7)
初発→一般→家族	4 (1.0) △[2.0]	2 (0.2) ▼[-2.0]	6 (0.4)
家族→初発→一般	17 (4.2) ▼[-2.2]	71 (7.4) △[2.2]	88 (6.4)
家族→一般→初発	22 (5.4) ▼[-4.4]	132 (13.7) △[4.4]	154 (11.2)
一般→初発→家族	2 (0.5) [1.4]	1 (0.1) [-1.4]	3 (0.2)
一般→家族→初発	10 (2.5) [0.8]	17 (1.8) [-0.8]	27 (2.0)
家族・初発→一般	39 (9.6) [-1.0]	111 (11.5) [1.0]	150 (10.9)
初発・一般→家族	16 (3.9) △[3.6]	10 (1.0) ▼[-3.6]	26 (1.9)
家族・一般→初発	63 (15.5) ▼[-2.3]	201 (20.9) △[2.3]	264 (19.3)
初発→家族・一般	26 (6.4) △[3.8]	22 (2.3) ▼[-3.8]	48 (3.5)
家族→初発・一般	81 (19.9) [-1.9]	237 (24.6) [1.9]	318 (23.2)
一般→家族・初発	32 (7.9) △[4.9]	22 (2.3) ▼[-4.9]	54 (3.9)
家族・一般・初発	84 (20.6) △[3.6]	126 (13.1) ▼[-3.6]	210 (15.3)
合計	407 (100.0)	964 (100.0)	1371 (100.0)
検定結果	$\chi^2(12)=99.967$ p=0.000**		

女子

	被害	被虐待	合計
初発→家族→一般	0 - -	0 - -	0 -
初発→一般→家族	0 - -	0 - -	0 -
家族→初発→一般	3 (6.5) [-0.3]	9 (7.7) [0.3]	12 (7.4)
家族→一般→初発	3 (6.5) ▼[-2.0]	22 (18.8) △[2.0]	25 (15.3)
一般→初発→家族	0 - [-0.6]	1 (0.9) [0.6]	1 (0.6)
一般→家族→初発	0 - [-0.6]	1 (0.9) [0.6]	1 (0.6)
家族・初発→一般	10 (21.7) △[3.2]	6 (5.1) ▼[-3.2]	16 (9.8)
初発・一般→家族	1 (2.2) [1.6]	0 - [-1.6]	1 (0.6)
家族・一般→初発	3 (6.5) [-1.7]	20 (17.1) [1.7]	23 (14.1)
初発→家族・一般	2 (4.3) [1.0]	2 (1.7) [-1.0]	4 (2.5)
家族→初発・一般	10 (21.7) [-1.3]	37 (31.6) [1.3]	47 (28.8)
一般→家族・初発	3 (6.5) [1.2]	3 (2.6) [-1.2]	6 (3.7)
家族・一般・初発	11 (23.9) [1.6]	16 (13.7) [-1.6]	27 (16.6)
合計	46 (100.0)	117 (100.0)	163 (100.0)
検定結果	(m) p=0.004**		

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答及び「いつだったか覚えていない」を除く。

3 「」のついた群は、該当者がいなかったため、検定から除外している。

4 文中で使用したラベルは、表中のラベルとしては長いので、省略したものを使用している。

「一般被害」は「一般」に、「家族からの被害」は「家族」に、「初発非行」は「初発」に短縮している。

5 「→」は、記号の左側のものが時期的に右側のものに先行することを、「・」は、同時期であることを示す。

6 表13-1の注3・5に同じ。

7 図13-1の注2・3に同じ。

表13-12-2 家族のみあり群における虐待等と被害・初発非行の時期の関係

		家族被害 経験のみ群	被虐待経験 あり群	合計	検定結果
男子	初発→家族	1 (7.1) [0.5]	1 (3.6) [-0.5]	2 (4.8)	(m) p=0.004**
	家族→初発	4 (28.6) ▼[-3.1]	22 (78.6) △[3.1]	26 (61.9)	
	家族・初発	9 (64.3) △[3.0]	5 (17.9) ▼[-3.0]	14 (33.3)	
	合計	14 (100.0)	28 (100.0)	42 (100.0)	
女子	初発→家族	0 -	1 (16.7)	1 (14.3)	(m) p=0.435
	家族→初発	0 -	4 (66.7)	4 (57.1)	
	家族・初発	1 (100.0)	1 (16.7)	2 (28.6)	
	合計	1 (100.0)	6 (100.0)	7 (100.0)	

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答及び「いつだったか覚えていない」を除く。
3 表13-1の注3・5に同じ。
4 図13-1の注2・3に同じ。
5 表13-11-1の注4・5に同じ。

後関係をまとめて見るために、すべてのパターンを挙げて、男女別に示したものである。また、表13-12-2は、数は少ないが、家族からの被害のみを受けている者について、家族からの被害を受け始めた時期と初発非行の時期との前後関係を、男女別に見たものである。

表13-12-1を見ると、被虐待経験あり群で最も多かったのは、男子においては、「家族→初発・一般」(24.6%)のパターンであり、順に「家族・一般→初発」(20.9%)、「家族→一般→初発」(13.7%)と続く。女子において最も多く見られたのも、「家族→初発・一般」(31.6%)のパターンであり、「家族→一般→初発」(18.8%)、「家族・一般→初発」(17.1%)と続く。つまり、上位三つに含まれるパターンは男女とも同じである。非虐待家族被害群で最も多かったのは、男女ともに、「家族・一般・初発」であった。

χ^2 検定の結果、男女ともに有意差が認められた。男子の被虐待経験あり群は、非虐待家族被害群と比べ、「家族→初発→一般」,「家族→一般→初発」,「家族・一般→初発」のパターンが有意に多く、「初発→一般→家族」,「初発・一般→家族」,「初発→家族・一般」,「一般→家族・初発」,「家族・一般・初発」のパターンが少なかった。女子の被虐待経験あり群は、非虐待家族被害群と比べ、「家族→一般→初発」のパターンが有意に多く、「家族・初発→一般」のパターンが有意に少なかった。

表13-12-2を見ると、男子の被虐待経験あり群では、「家族→初発」が80%近くで最も多いのに対し、非虐待家族被害あり群の、「家族→初発」は30%未満である。

χ^2 検定の結果、男子に有意差が認められた。被虐待経験あり群は、「家族→初発」が有意に多く、「家

族・初発」が有意に少ない。

表13-12-1及び表13-12-2から、実際に虐待は、虐待以外の家族からの被害と比べ、一般被害や初発非行に先行している場合が多いことが分かった（参考資料として、一般被害のみあり群の、被害と初発非行時期との前後関係については、資料13-5参照）。

ウ 家族からの被害のみあり群・両方あり群と虐待の有無を組み合わせで作った4群の特徴

ここまで、被虐待経験あり群全体を見て、初発非行や被害の時期との関係を探ったが、表13-11に示したように、家族からの被害を受けた経験のある群は、「家族からの被害のみあり群で、かつ非虐待家族被害群」、「家族からの被害のみあり群で、かつ被虐待経験あり群」、「両方あり群で、かつ非虐待家族被害群」、「両方あり群で、かつ被虐待経験あり群」の四つに分けることができる（以下、群の名前を順に「家族のみ・非虐待群」、「家族のみ・虐待群」、「両方あり・非虐待群」、「両方あり・虐待群」とする。）。そこで、被害全体の中の被虐待経験あり群の位置付けをより明確にするために、上記4群について、表13-10と同様に、各群の特徴を挙げることを試みた。ただし、女子については、数が1人となる群が存在し、統計的分析が不可能であるため、男女合わせた分析を行った。その結果を示したのが、表13-13である（統計の詳細については、資料13-6参照）。

家族からの被害のみあり群でも被虐待経験の有無により、特徴が異なり、同様に、両方あり群でも被虐待経験の有無により、特徴が異なることが分かる。両方あり・虐待群は、非虐待群と比べ、きょうだいの中で本人だけ非行が見られるのが特徴であり、MJPIや初発非行時期と虐待開始時期との関係の結果は、虐待を受けたことが本人の人格や問題行動に影響を及ぼしていることをうかがわせる。家族のみ・虐待群と非虐待群は、知的能力の面で似ているが、虐待群は家族の負因があったり少年の情緒面に問題が見られたりする点に差が見られる。

各群の特徴からそのイメージをまとめると、以下のようになる。

- ・ 家族のみ・非虐待群；知的にかなり劣り、知的障害として処遇される者が多い。粗暴性は目立たず、非行が見られるようになるのは遅い。非行が見られたところに、親に1回たたかれるなどしている。
- ・ 家族のみ・虐待群；知的にかなり劣っている。家族の負因、つまり父親の犯罪・非行歴やきょうだいの薬物使用歴などがある者が多い。非社会性が目立ち、情緒障害として処遇される者が多いが、非行が見られるようになったのは遅い。
- ・ 両方あり・非虐待群；知的には平均より低い者が多い。兄や姉がおり、きょうだいの犯罪・非行歴などの負因がある者が多い。本件は強盗など重大なものが他の群に比べて多いが、少年院は今回が初めてである者が多い。父親が厳しい者や母親が拒否的な者が少ない。非行が見られるようになってから、あるいは非行が見られるようになったところに、親に1回たたかれるなどしている。
- ・ 両方あり・虐待群；知的には他の3群よりかなり高い者が多い。父親が厳しい者が多く、虐待は非行より前に受け始めている。きょうだいの長子で、弟や妹に非行がある者は少ない。非虐待群よりも、精神的な不安定さや、落ち着きのなさ、自己顕示性が目立つ。本件は強盗などの重大なものが他の群に比べて多くないが、非行を繰り返しているのか、少年が2回目以降という者が他の群よりも多い。

表13-13 残差分析の結果から見る、各群の特徴

① 家族のみ・非虐待群(16人, 家族からの被害経験がある者全体の1%)

1 本人の属性にかかわる変数

- ・ IQ70未満の者が多い
- ・ MJPIの「自己顕示」の得点が、両方あり・非虐待群より低い傾向があり、両方・虐待群より低い

2 家族にかかわる変数

- ・ きょうだいのいる第1子である者が少なく、第2子以降である者が多い
- ・ 義父にアルコール中毒歴がある者が多い<ただし、実数は1>

3 問題行動歴にかかわる変数

- ・ 初発非行の時期が中卒以後である者が多い傾向があり、中学生時である者が少ない傾向がある
- ・ 初発非行よりも被害を先に受けた者が少なく、同時期である者が多い
- ・ 傷害・暴行による検挙歴を持つ者が少ない

4 今回入院にかかわる変数

- ・ 処遇課程の分類級がH1である者が多い

② 家族のみ・虐待群(34人, 同2.1%)

1 本人の属性にかかわる変数

- ・ IQ70未満の者が多く、IQ70台の者が多く、IQ100以上の者が少ない

2 家族にかかわる変数

- ・ 親の負因がある者が多い
- ・ 実父に犯罪・非行歴がある者が多い
- ・ きょうだいに薬物使用歴のある者が多い

3 問題行動歴にかかわる変数

- ・ 初発非行の時期が中卒以後である者が多い傾向がある

4 今回入院にかかわる変数

- ・ 処遇課程の分類級がH2である者が多い

③ 両方あり・非虐待群(488人, 同29.8%)

1 本人の属性にかかわる変数

- ・ IQ70台の者が多い
- ・ MJPI の「虚構」が両方あり・虐待群より高く, 「不安定」, 「自己顕示」, 「過活動」が両方あり・虐待群よりも低く, 「自己顕示」が家族のみ・非虐待群よりも高い傾向がある

2 家族にかかわる変数

- ・ 父親の態度が「厳格」である者が少ない
- ・ 母親の態度が「拒否」である者が少ない傾向がある
- ・ きょうだいに犯罪・非行歴のある者が多い
- ・ きょうだいのいる第1子である者が少なく, 第2子以降である者が多い

3 問題行動歴にかかわる変数

- ・ 初発非行が家族からの被害より先に見られた者が多く, 同時期である者が多く, 初発非行よりからの被害を先に受けた者が少ない

4 今回入院にかかわる変数

- ・ 本件非行名が強盗である者が多い傾向がある
- ・ 本件非行種類が凶悪犯である者が多い
- ・ 処遇課程の分類級がE・Oである者が多い
- ・ 入院回数は, 今回入院が初回の者が多く, 2回目以上の者が少ない

④ 両方あり・虐待群(1,100人, 同67.2%)

1 本人の属性にかかわる変数

- ・ IQ70未満の者が少なく, IQ70台の者が少なく, IQ100以上の者が多い
- ・ MJPI の「虚構」が両方あり・非虐待群よりも低く, 「不安定」, 「自己顕示」, 「過活動」が両方あり・非虐待群よりも高く, 「自己顕示」が家族のみ・非虐待群よりも高い

2 家族にかかわる変数

- ・ 父親の態度が「厳格」である者が多い
- ・ きょうだいに犯罪・非行歴, 薬物使用歴がある者が少ない
- ・ きょうだいのいる第1子である者が多く, 第2子以降である者が少ない

3 問題行動歴にかかわる変数

- ・ 初発非行が虐待よりも先に見られる者が少なく, 同時期である者が少なく, 初発非行よりも虐待を先に受けている者が多い

4 今回入院にかかわる変数

- ・ 本件非行名が強盗である者が少ない傾向があり, 恐喝である者が多い傾向がある
- ・ 本件非行種類が凶悪犯である者が少ない
- ・ 処遇課程の分類級がOである者が少ない
- ・ 入院回数は, 今回入院が初回の者が少なく, 2回目以上の者が多い

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 表中「多い」「少ない」と表現しているものは, 5%以下の水準で有意であったものであり, 「傾向がある」と表現しているのは, 10%以下の水準での有意傾向が認められたものである。

4 まとめ

この項では、一般被害の有無と家族からの被害の有無の関連について分析するとともに、一般被害の有無と家族からの被害の有無を組み合わせることができる4群の特徴を検討した。その上で、少年院在院者の被害経験全体の中での被虐待経験の位置付けを試みた。

その結果の概要は以下のとおりである。

- ① 一般被害の有無と家族からの被害の有無について、一方を経験している者は、経験していない者と比べ、他方を経験している場合が有意に多く、一方を経験していない者は、他方も経験していない場合が有意に多いという関連が認められた。
- ② 加害者（家族以外から・家族から）と被害の態様（身体的暴力・性的暴力）を組み合わせる4種類の被害群を作り、相互の関連を見たところ、身体的暴力と性的暴力の間でも、ほとんど①と同様の関連が認められた。ただし、家族からの性的暴力と家族以外からの身体的暴力との間の関連は、男女とも認められなかった。
- ③ 調査対象少年が受けた被害のパターンを②の4種類の被害で見ると、1種類の被害にとどまらず、複数の種類の被害を受けている者が多いことが分かった。特に女子は、性的暴力の被害を含んだ被害を受けている者が多い。男女とも、受ける被害の組合せのパターンは、いくつかに偏っている。
- ④ 男子において、一般被害及び家族からの被害を受け始めた時期と初発非行時期は関連が認められ、同じ時期である者が有意に多かった。
- ⑤ 一般被害と家族からの被害とでそれぞれ初発非行時期との前後関係を見てみると、一般被害を受け始めたのは初発非行の時期と同じである者が最も多く、家族からの被害を受け始めたのは、初発非行の時期より前である者が最も多かった。また、一般被害と家族からの被害を両方受けた経験のある者について、それぞれの被害を受け始めた時期を比べると、家族からの被害を一般被害より先に受け始めている者が多い。
- ⑥ 一般被害の有無、家族からの被害の有無と非行性との関連をそれぞれ検討した場合、男子において、家族からの被害の有無と非行性の指標（処遇区分・入院回数）との関連が認められた。家族からの被害を受けた経験がある者は、ない者と比べ、非行性が進んでいる。
- ⑦ 法務省式人格目録の得点を指標に、一般被害の有無、家族からの被害の有無と性格特性との関係を、それぞれ検討した場合、一般被害の有無で差が見られた性格特性と、家族からの被害の有無で差が見られた性格特性とが異なり、一般被害の経験がある者は、ない者よりも、「虚構」及び「偏向」の得点が低く、「自己顕示」及び「軽躁」の得点が高い。家族からの被害経験がある者は、ない者よりも、「虚構」及び「自我防衛」の得点が低く、「心気症」、「自信欠如」、「抑うつ」、「不安定」、「爆発」、「自己顕示」及び「偏狭」の得点が高い。
- ⑧ 一般被害と家族からの被害をそれぞれ要因として、各要因の主効果及び要因間の交互作用の有無を見たところ、「虚構」、「偏向」、「自己顕示」及び「軽躁」で一般被害の主効果が、「偏狭」で一般被害と家族からの被害の交互作用が認められた。つまり、家族からの被害経験の有無にかかわらず、「虚構」、「偏向」の得点は、一般被害の経験がない者の方が、ある者よりも高く、「自己顕示」、「軽躁」の得点は、一般被害の経験がある者の方が、ない者よりも高い。そして、「偏狭」の得点は、一般被害の経験がなくて、家族からの被害経験もない者では高いが、一般被害の経験がなくて、家族からの被害がある場合は低く、一般被害の経験があって、家族からの被害経験がない場合は低い、一般被害の経験があって、家族からの被害経験もある場合は高い。
- ⑨ 一般被害の有無と家族からの被害の有無とを組み合わせる4群を作り、性格特性の指標を比較した

ところ、最も多く差が見られたのは、一般被害も家族からの被害も経験している群と一般被害のみ経験している群との間であった。両方の被害を経験している者は、一般被害のみ経験している者よりも、「虚構」及び「自我防衛」の得点が低く、「心気症」、「抑うつ」、「不安定」、「爆発」、「自己顕示」及び「偏狭」の得点が高い。

- ⑩ 一般被害と家族からの被害の交互作用の背景を探るために、一般被害の有無と家族からの被害の有無とを組み合わせで作った4群と、対象者の属性にかかわる多くの変数の中から、検定の結果、各群で有意に多かった変数または少なかった変数を特徴として列挙した。その結果を端的にまとめると以下になる。
- ・両方なし群は、家族の負因や親との関係などの家庭の問題は目立たないが、知的能力の低さや非社会性など、本人の資質の問題が大きい。
 - ・家族からの被害のみあり群は、家族の問題も本人の問題も大きい、中学校を卒業するまでは非行が目立たなかった。
 - ・一般被害のみあり群は、家庭の問題は目立たず、思春期以降に問題を起こし始めたが、非行性の程度は、少年院在院者の中では比較的軽い。
 - ・両方あり群は、親の態度に拒否的傾向がうかがえ、問題行動が小学生時など早い時期に見られ始めていて非行が進んでいる。
- ⑪ 家族からの被害のみを受けている者も、家族からの被害と一般被害の両方を受けている者も、それぞれ70%程度が被虐待経験者であり、30%程度が家族から虐待に当たらない被害のみ受けた者である。
- ⑫ 被虐待経験者の95%以上が一般被害も受けており、家族からの被害のみを受けている者は5%に満たなかった。家族から虐待に当たらない被害を受けた者の、一般被害の経験率もほぼ同率である。
- ⑬ 被虐待経験者においては、男女とも、虐待開始時期が初発非行時期や一般被害の開始時期に先行している場合が60～70%程度と最も多く、その逆は5%以下と少ない。
- ⑭ 一般被害・家族からの被害・初発非行の時期的前後関係を見てみると、被虐待経験者において最も多かったのは、虐待開始後に初発非行と一般被害が同時期に見られるパターンであった。虐待でない家族からの被害を受けた者と比べると、被虐待経験者は、家族からの被害が先行しているパターンが多く、初発非行や一般被害が先行しているパターンが少ない傾向が見られる。
- ⑮ 家族からの被害を受けた経験のある者を、被虐待経験者であるかどうかと、一般被害も受けているかどうかによって4群に分けて、群の特徴を探った。その結果、被虐待経験者の方が、家族から虐待に当たらない被害を受けた者よりも、性格形成や問題行動の開始に家族からの被害の影響がうかがわれた。

5 考察

本項は、第1報告で分析の中心とした家族からの被害と、本報告書で分析の中心とした家族以外の者からの被害をまとめ、少年院在院者の被害体験の全体像を明らかにすることを試みた。ここでは、分析の結果から以下の点について若干の考察を行う。

1点目は、少年院在院者の被害経験の広がりについてである。

第1報告においては、調査で定義した被害を、少なくとも一つ、家族から受けた経験のある者が、調査対象者の約70%、被虐待経験を有する者が約半数いることを明らかにし(22ページ)、少年院在院者における、家族からの被害の広がりを示した。第1報告においても、家族からの被害と家族以外からの被害の両方を受けている者が約70%いることを述べており(10ページ)、家庭の外での被害経験の広がりや

家族からの被害との重なりが推測されたが、本項の分析の結果、家族からの被害を受けている者は、家族以外からの被害も受けている者が多く、家族からの被害を受けていない者は、家族以外からの被害も受けていない者が多い、という傾向が統計的に明らかになった。さらに、被害を身体的暴力被害と性的暴力被害に分け、加害者（家族・家族以外）の別も設けて各被害群間の分析を行ったところ、多くの被害群間に関連が見られ、やや乱暴な言い方をすれば、「被害を受ける者はより多く受ける」という結果となった。

ここで注目すべきは、身体的暴力と性的暴力の関連及び特に女子対象者に見られる、身体的暴力と組み合わさった性的被害経験の多さである。女子の約半数は、「家の中でも外でも身体的暴力を受け、外では性的暴力も受けた」者たちである。「家の中でも外でも身体的暴力を受け、家の中でも外でも性的暴力を受けた」者も10%以上いる。性的暴力のみを受けた者は非常に少ない。男子においても、性的暴力だけを受けた者よりは、身体的暴力も受けた者の方が多い。このことの背景には、性的暴力が文字どおり「暴力」であり、加害者が物事を思いどおりにするために力を乱用するという身体的暴力との共通点があると思われる。それだけ、少年院の在院者たちが、そうした性向を持つ者の多い生活環境に生活してきており、被害に遭う危険性が高かったといえるのかもしれないし、生活環境の影響で暴力を当然のことととらえる認知が形成され、そのことが暴力に身をさらす機会を多くしているのかもしれない（男子に比して腕力の弱い女子の場合は特に、暴力に対する無力感を強めていることも考えられる。）。いずれにしろ、加害者として少年院に入院してきた少年たちは、ほとんどが、暴力被害を受けたことがあるのであり、暴力を受けたことによる嫌な思いを体験しているはずである。そうした少年たちが、なぜ「自分がされて嫌な事は他人にもしない」という方向に向かわなかったのか、個々の少年の生活歴に即して理解していく必要があるし、本人にも理解させることが処遇上必要と思われる。

2点目は、家族以外からの被害の有無と家族からの被害の有無の組合せという視点から行った少年院在院者のタイプ分けについてである。

家族以外の者からの被害の有無という視点から、あるいは家族からの被害の有無という視点からそれぞれ非行性や性格特性について検討した場合、それぞれの効果は一樣ではなく、両者の組合せにより異なった結果が生じる可能性が認められたため、両方の被害がない者、どちらか片方の被害のみある者、両方の被害がある者に分けて、それぞれの群の特徴を見た。

対象者の約70%を占める「両方あり群」は、いわば典型的に非行の進んだ少年であり、家の中でも外でも被害を受けるような生活環境にいた、ということが問題の大きさに反映されているように思える。一方、「一般被害のみあり群」が比較的問題の小さいグループとして、「両方あり群」と対の関係にある点が興味深い。「家族以外からの被害を受けた方が受けていないより良い」という論理は不自然であるが、「少年院に送致されるほどの少年なら、およそ不良交遊があったことが考えられ、その中でのけんかや先輩からの暴力は十分予想される。家族との関係の問題や家族自体の負因が大きくなり、思春期以降に始まった逸脱であることを考えると、少年院在院者の中では、比較的問題の小さい方である」と考えると、さほど無理はないように思える。そして、「両方なし群」は、加害経験しかない少年であるが、家族からの被害はともかく一般被害もないということは、少年院に送致されるほどの非行がありながら、不良交遊がなかったことを表しているのかもしれない。それは、この群の特徴として示唆された非社会性や考え方の偏り等を反映している可能性もある。ほかにも、本調査で扱わなかった心理的な被害等の大きなストレス経験や、被害など受けたことはないとする否認の機制等、被害がないと回答した理由はいくつか考えられるが、いずれにしろ非行が展開したパターンが他の多くの少年と異なってやや複雑であることが考えられ、そうしたことが「一般被害のみあり群」との質的差に反映されていると思われる。「家族

のみあり群」は、家族からの被害を受けた経験のある者の中では非常に少ない存在であり、親の負因などは「両方あり群」に劣らぬ家庭環境の厳しさをうかがわせるが、周囲の援助があったのか、非社会的傾向などの本人の特性が影響していたのか、何らかの早期の行動化を抑える要因があったと思われる。

このように考えると、被害の有無は、単純に少年の特性の原因と考えるよりも、少年の生活歴全体のありようを反映していると考えられる。そのため、少年のこれまでを理解する上で、対象少年の被害経験を把握することは重要な視点といえる。

3点目は、第1報告で分析の中心とした被虐待経験と、本報告で扱った家族以外の者からの被害を含めた被害全体との関係についてである。

家族からの被害を経験している者の95%以上が家族以外からの被害も経験している「両方あり群」であり、上述したとおりの非行の進んだタイプの少年院在院者である。このこと自体も、家族からの被害と非行性の進捗との関連をうかがわせるが、その中でも、虐待は非行に先立って見られる場合が多いし、虐待と家族以外の者からの被害を比べると、虐待の開始時期の方が早いことが多い。この項では、ここまで虐待を含めて被害と非行との因果関係については述べてこなかったが、この時間的順序まで考えると、本研究で定義した虐待に対し、「非行に対するやむにやまれぬ愛のむちだ。」と考えられるケースは少ないのではないと思われる。考察2点目のところで述べたように、被害の有無それ自体が非行の要因なのではないが、虐待のある環境は、自己評価の低下等健全な自意識の発達や自分を助けてくれない大人や社会に対する不信等社会性の発達の阻害につながったり、理由さえつけば暴力は容認されるとする認識のゆがみにつながったりするなど、少年に大きな影響を及ぼすと考えてよい。そして、被害を受けた後取る行動の傾向は、家族からの被害と家族以外の者からの被害とは異なる。身体的暴力を受けたとき、家族以外の者からの被害の場合は、相手にやり返すことが多く、家族からの被害の場合は、家出や飲酒・薬物使用が多い（第1報告94ページ）。虐待においては、加害者が同時に保護者であることにより、被害により生じる怒りを直接親に向けることがなかなかできないということを示している。上述した被害と非行の時期の前後関係やこの被害後の行動等を考えて、少年院在院者の中の被虐待経験者の一つのタイプを最も単純にイメージすると、虐待を受けて家出をし、不良交遊を深め、嫌なことがあると、覚えた飲酒・薬物に走ったり、仲間の中や他のグループとの間で、「やった・やられた」を繰り返したりしてきた者、といえようか。被虐待経験のある少年院在院者にとって、ある非行のきっかけとして意識されるのは、家族以外の他者から受けた被害かもしれないが、その元をたどると虐待への対処として学んだ逃避であったり、虐待に根ざした無力感の補償であったり、本来虐待者に向けるべき怒りのすり替えであったりすることがありうる。その複雑さゆえに少年がそこまで内省を進めることは難しいかもしれないが、被虐待少年にとって被害と加害は裏表の切り離せない関係であると推測されるだけに、自身の加害体験と被害体験の両方を処遇の中で取り上げ、被害経験時の感情を少年の非行による被害者への共感に結び付けていくことは、重要な視点であると考えられる。

資料13-1 被害種類間の関係

① 一般・身体的暴力の有無と一般・性的暴力の有無

			一般・性的暴力		合計	検定結果
			なし	あり		
男子	一般・身体的暴力	なし	129 (93.5)	9 (6.5)	138 (100.0)	$\chi^2(1)=14.408$ $p=0.000^{**}$
		あり	1,588 (80.4)	386 (19.6)	1,974 (100.0)	
	合計		1,717 (81.3)	395 (18.7)	2,112 (100.0)	
女子	一般・身体的暴力	なし	15 (41.7)	21 (58.3)	36 (100.0)	$\chi^2(1)=10.434$ $p=0.001^{**}$
		あり	34 (17.6)	159 (82.4)	193 (100.0)	
	合計		49 (21.4)	180 (78.6)	229 (100.0)	

② 一般・身体的暴力の有無と家族・身体的暴力の有無

			家族・身体的暴力		合計	検定結果
			なし	あり		
男子	一般・身体的暴力	なし	90 (65.2)	48 (34.8)	138 (100.0)	$\chi^2(1)=102.729$ $p=0.000^{**}$
		あり	493 (25.2)	1,463 (74.8)	1,956 (100.0)	
	合計		583 (27.8)	1,511 (72.2)	2,094 (100.0)	
女子	一般・身体的暴力	なし	13 (36.1)	23 (63.9)	36 (100.0)	$\chi^2(1)=6.362$ $p=0.012^*$
		あり	34 (12.6)	159 (87.4)	193 (100.0)	
	合計		47 (20.5)	182 (79.5)	229 (100.0)	

③ 一般・身体的暴力の有無と家族・性的暴力の有無

			家族・性的暴力		合計	検定結果
			なし	あり		
男子	一般・身体的暴力	なし	137 (99.3)	1 (0.7)	138 (100.0)	(f) $p=0.718$
		あり	1,926 (98.5)	30 (1.5)	1,956 (100.0)	
	合計		2,063 (98.5)	31 (1.5)	2,094 (100.0)	
女子	一般・身体的暴力	なし	31 (86.1)	5 (13.9)	36 (100.0)	$\chi^2(1)=0.064$ $p=0.800$
		あり	163 (84.5)	30 (15.5)	193 (100.0)	
	合計		194 (84.7)	35 (15.3)	229 (100.0)	

④ 一般・性的暴力の有無と家族・身体的暴力の有無

			家族・身体的暴力		合計	検定結果
			なし	あり		
男子	一般・性的暴力	なし	518 (30.5)	1,182 (69.5)	1,700 (100.0)	$\chi^2(1)=31.087$ p=0.000**
		あり	65 (16.5)	329 (83.5)	394 (100.0)	
	合計		583 (27.8)	1,511 (72.2)	2,094 (100.0)	
女子	一般・性的暴力	なし	15 (30.6)	34 (69.4)	49 (100.0)	$\chi^2(1)=3.889$ p=0.049*
		あり	32 (17.8)	148 (82.2)	180 (100.0)	
	合計		47 (20.5)	182 (79.5)	229 (100.0)	

⑤ 一般・性的暴力の有無と家族・性的暴力の有無

			家族・性的暴力		合計	検定結果
			なし	あり		
男子	一般・性的暴力	なし	1,693 (99.6)	7 (0.4)	1,700 (100.0)	$\chi^2(1)=70.745$ p=0.000**
		あり	370 (93.9)	24 (6.1)	394 (100.0)	
	合計		2,063 (98.5)	31 (1.5)	2,094 (100.0)	
女子	一般・性的暴力	なし	45 (91.8)	4 (8.2)	49 (100.0)	$\chi^2(1)=2.441$ p=0.118
		あり	149 (82.8)	31 (17.2)	180 (100.0)	
	合計		194 (84.7)	35 (15.3)	229 (100.0)	

⑥ 家族・身体的暴力の有無と家族・性的暴力の有無

			家族・性的暴力		合計	検定結果
			なし	あり		
男子	家族・身体的暴力	なし	580 (99.5)	3 (0.5)	583 (100.0)	$\chi^2(1)=5.155$ p=0.023*
		あり	1,485 (98.1)	28 (1.9)	1,513 (100.0)	
	合計		2,065 (98.5)	31 (1.5)	2,096 (100.0)	
女子	家族・身体的暴力	なし	46 (97.9)	1 (2.1)	47 (100.0)	$\chi^2(1)=7.905$ p=0.005**
		あり	148 (81.3)	34 (18.7)	182 (100.0)	
	合計		194 (84.7)	35 (15.3)	229 (100.0)	

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 「検定結果」欄の「**」は、有意水準1%以下で有意差が見られることを示す。

4 「検定結果」欄の(f)は、フィッシャーの直接確率法によることを示す。

5 () 内は、構成比である。

資料13-2 一般被害及び家族からの被害を要因とした二元配置分散分析

① 虚構

要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
一般被害×家族からの被害	0.43	1	0.43	0.00	0.946
家族からの被害	330.93	1	330.93	3.50	0.061
一般被害*	403.07	1	403.07	4.26	0.039
性別	66.34	1	66.34	0.70	0.402
誤差	218,504.62	2,312	94.51		
修正総和	220,602.62	2,316			

② 偏向

要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
一般被害×家族からの被害	52.06	1	52.06	0.75	0.387
家族からの被害	4.35	1	4.35	0.06	0.803
一般被害**	1,082.94	1	1,082.94	15.55	0.000
性別**	2,395.63	1	2,395.63	34.40	0.000
誤差	160,990.94	2,312	69.63		
修正総和	164,738.52	2,316			

③ 自我防衛

要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
一般被害×家族からの被害	191.47	1	191.47	2.24	0.134
家族からの被害	198.23	1	198.23	2.32	0.128
一般被害	2.53	1	2.53	0.03	0.863
性別**	663.64	1	663.64	7.77	0.005
誤差	197,440.59	2,312	85.40		
修正総和	200,808.28	2,316			

④ 心気症

要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
一般被害×家族からの被害	45.49	1	45.49	0.46	0.497
家族からの被害	109.56	1	109.56	1.11	0.292
一般被害	0.14	1	0.14	0.00	0.970
性別**	2,669.13	1	2,669.13	27.02	0.000
誤差	228,399.48	2,312	98.79		
修正総和	232,236.97	2,316			

⑤ 自信欠如

要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
一般被害×家族からの被害	9.04	1	9.04	0.10	0.758
家族からの被害	238.34	1	238.34	2.51	0.114
一般被害	30.82	1	30.82	0.32	0.569
性別*	589.36	1	589.36	6.20	0.013
誤差	219,870.18	2,312	95.10		
修正総和	221,120.11	2,316			

⑥ 抑うつ

要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
一般被害×家族からの被害	167.96	1	167.96	2.02	0.155
家族からの被害	9.40	1	9.40	0.11	0.737
一般被害	104.57	1	104.57	1.26	0.262
性別**	2,322.30	1	2,322.30	27.94	0.000
誤差	192,171.65	2,312	83.12		
修正総和	195,557.33	2,316			

⑦ 不安定

要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
一般被害×家族からの被害	23.21	1	23.21	0.23	0.634
家族からの被害	143.91	1	143.91	1.41	0.236
一般被害	48.66	1	48.66	0.48	0.491
性別**	2,921.22	1	2,921.22	28.53	0.000
誤差	236,749.17	2,312	102.40		
修正総和	240,788.98	2,316			

⑧ 爆発

要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
一般被害×家族からの被害	175.08	1	175.08	1.86	0.173
家族からの被害	30.71	1	30.71	0.33	0.568
一般被害	54.47	1	54.47	0.58	0.447
性別**	914.86	1	914.86	9.72	0.002
誤差	217,586.74	2,312	94.11		
修正総和	219,780.67	2,316			

⑨ 自己顕示

要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
一般被害×家族からの被害	22.00	1	22.00	0.23	0.630
家族からの被害	234.64	1	234.64	2.48	0.116
一般被害*	417.42	1	417.42	4.41	0.036
性別**	1,207.63	1	1,207.63	12.75	0.000
誤差	219,005.65	2,312	94.73		
修正総和	222,475.08	2,316			

⑩ 過活動

要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
一般被害×家族からの被害	0.19	1	0.19	0.00	0.961
家族からの被害	34.40	1	34.40	0.42	0.515
一般被害*	38.69	1	38.69	0.48	0.489
性別	22.34	1	22.34	0.28	0.599
誤差	187,189.57	2,312	80.96		
修正総和	187,392.80	2,316			

⑪ 軽躁

要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
一般被害×家族からの被害	4.50	1	4.50	0.06	0.813
家族からの被害	13.20	1	13.20	0.16	0.686
一般被害*	375.46	1	375.46	4.66	0.031
性別**	1,027.96	1	1,027.96	12.75	0.000
誤差	186,402.92	2,312	80.62		
修正総和	188,003.06	2,316			

⑫ 従属

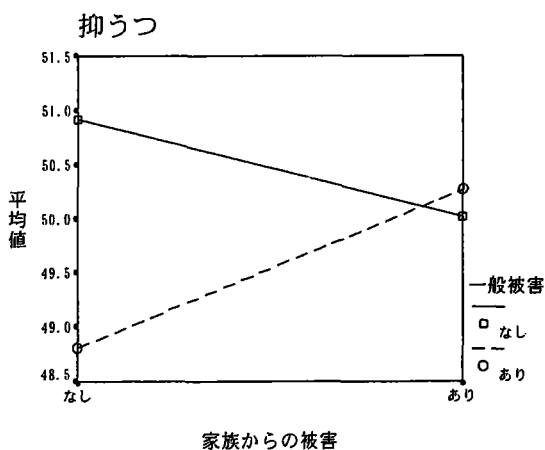
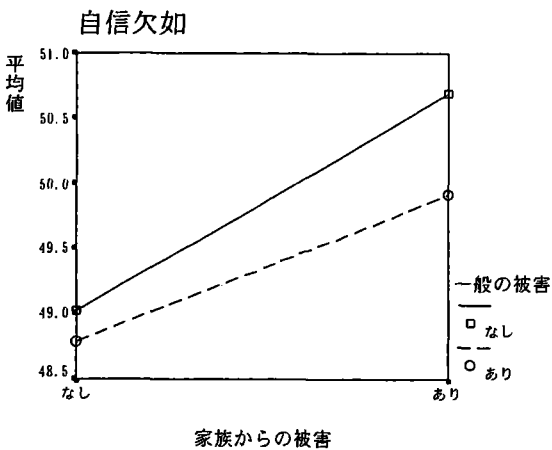
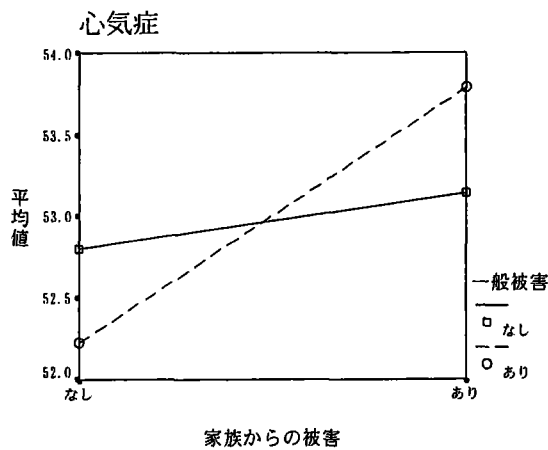
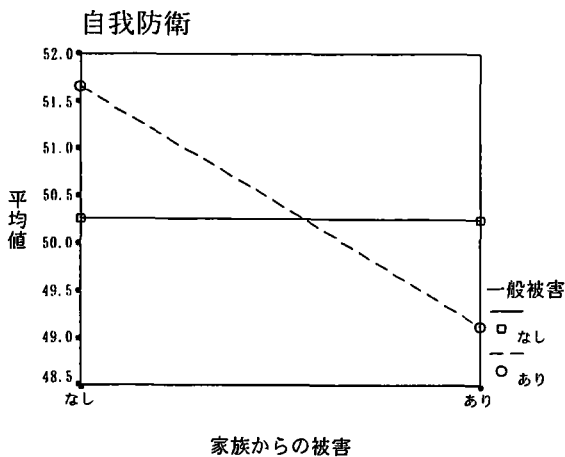
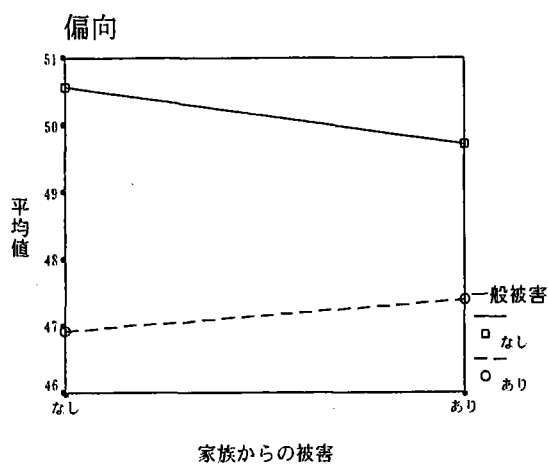
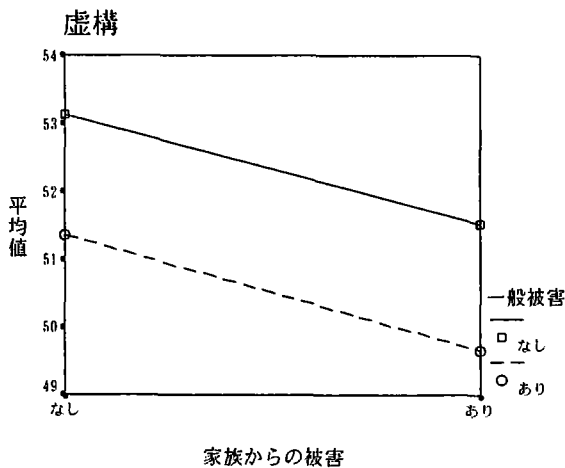
要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
一般被害×家族からの被害	0.00	1	0.00	0.00	0.995
家族からの被害	39.53	1	39.53	0.43	0.511
一般被害*	75.56	1	75.56	0.82	0.364
性別	34.94	1	34.94	0.38	0.537
誤差	211,942.32	2,312	91.67		
修正総和	212,244.45	2,316			

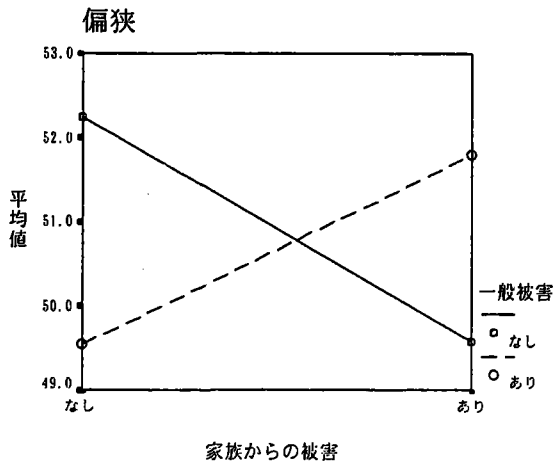
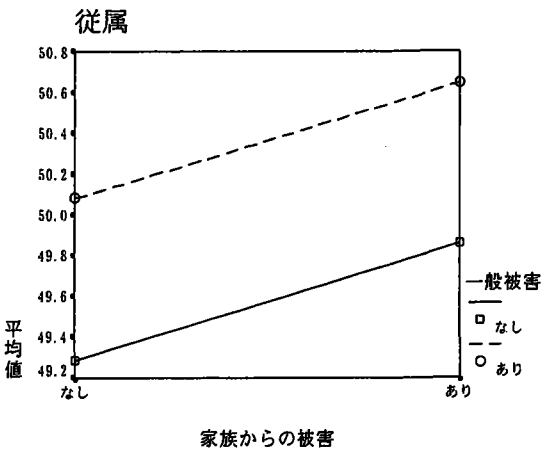
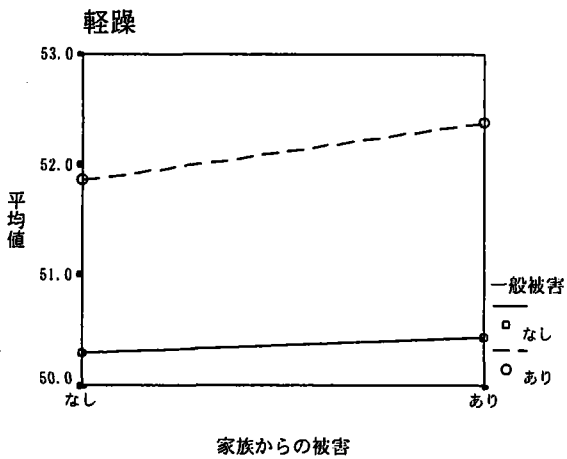
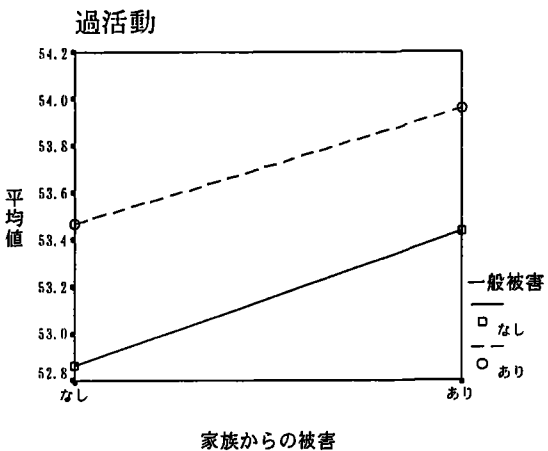
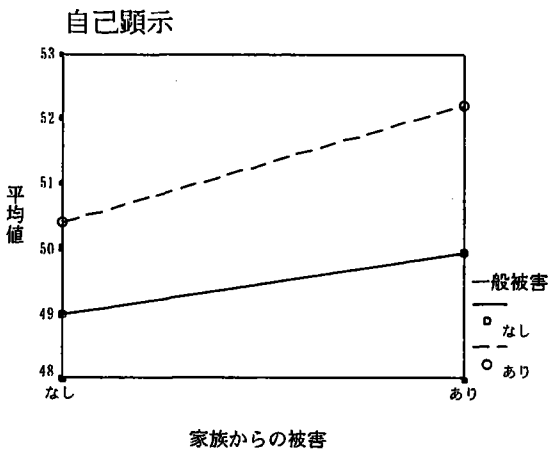
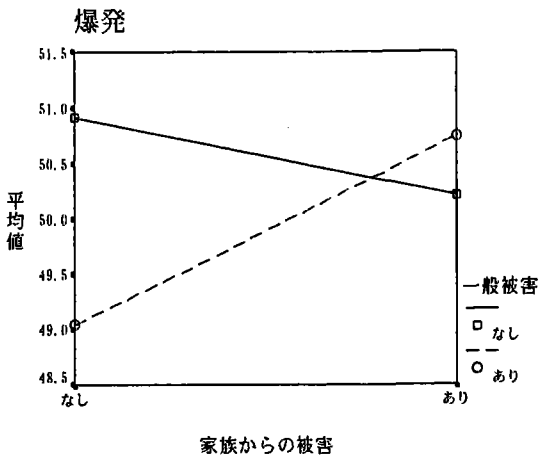
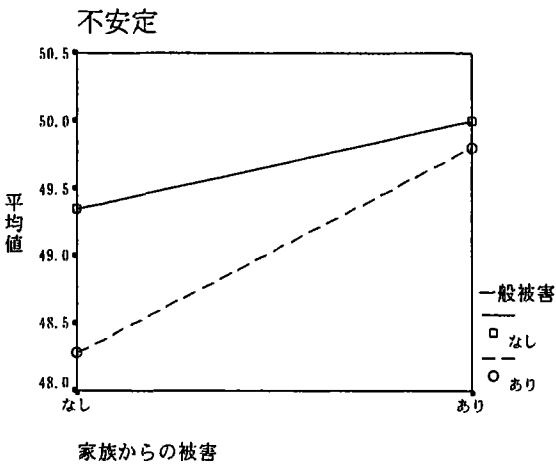
⑬ 偏狭

要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
一般被害×家族からの被害**	733.35	1	733.35	7.89	0.005
家族からの被害	5.45	1	5.45	0.06	0.809
一般被害	7.49	1	7.49	0.08	0.777
性別**	4,606.79	1	4,606.79	49.58	0.000
誤差	214,728.80	2,311	92.92		
修正総和	221,841.75	2,315			

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 無回答及び調査をしていないものを除く。
 3 「*」及び「**」は、それぞれ有意水準5%, 1%で要因が有意であることを示す。
 4 「偏狭」の値が不明な者が1名いるため、「偏狭」のみ誤差の自由度は、表中の数値から1を減じた値になる。

平均値のプロット





資料13-3 一般・家族有無4群のMJPIのT得点・4群間の分散分析及び多重比較

尺度名 虚構**	分散分析		多重比較				
	F値 (3, 2, 313)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
	7.17	0.000	両方なし	53.12	家族からの被害のみあり	1.56	1.000
					一般被害のみあり	1.77	0.664
					両方あり**	3.46	0.006
			家族からの被害のみあり	51.56	一般被害のみあり	0.21	1.000
					両方あり	1.90	0.999
	6.38	0.000	一般被害のみあり	51.35	両方あり**	1.69	0.003
			両方あり	49.66			
偏向**	6.38	0.000	両方なし	50.53	家族からの被害のみあり	0.69	1.000
					一般被害のみあり**	3.70	0.001
					両方あり**	3.11	0.004
			家族からの被害のみあり	49.85	一般被害のみあり†	3.01	0.083
					両方あり	2.42	0.244
	10.52	0.000	一般被害のみあり	46.83	両方あり	-0.59	0.985
			両方あり	47.42			
自我防衛**	10.52	0.000	両方なし	50.28	家族からの被害のみあり	0.10	1.000
					一般被害のみあり	-1.43	1.000
					両方あり	1.17	1.000
			家族からの被害のみあり	50.17	一般被害のみあり	-1.54	1.000
					両方あり	1.06	1.000
	3.90	0.009	一般被害のみあり	51.71	両方あり**	2.60	0.000
			両方あり	49.11			
心気症**	3.90	0.009	両方なし	52.77	家族からの被害のみあり	-0.50	1.000
					一般被害のみあり	0.64	1.000
					両方あり	-1.05	1.000
			家族からの被害のみあり	53.27	一般被害のみあり	1.14	1.000
					両方あり	-0.55	1.000
	2.31	0.074	一般被害のみあり	52.12	両方あり**	-1.69	0.005
			両方あり	53.81			
自信欠如†	2.31	0.074	両方なし	49.00	家族からの被害のみあり	-1.75	1.000
					一般被害のみあり	0.26	1.000
					両方あり	-0.93	1.000
			家族からの被害のみあり	50.75	一般被害のみあり	2.01	0.941
					両方あり	0.82	1.000
	4.22	0.006	一般被害のみあり	48.74	両方あり†	-1.19	0.093
			両方あり	49.93			
抑うつ**	4.22	0.006	両方なし	50.88	家族からの被害のみあり	0.74	1.000
					一般被害のみあり	2.16	0.234
					両方あり	0.59	1.000
			家族からの被害のみあり	50.13	一般被害のみあり	1.42	1.000
					両方あり	-0.15	1.000
	3.60	0.013	一般被害のみあり	48.72	両方あり**	-1.57	0.004
			両方あり	50.29			
不安定*	3.60	0.013	両方なし	49.31	家族からの被害のみあり	-0.82	1.000
					一般被害のみあり	1.14	1.000
					両方あり	-0.52	1.000
			家族からの被害のみあり	50.13	一般被害のみあり	1.96	1.000
					両方あり	0.30	1.000
	4.51	0.004	一般被害のみあり	48.17	両方あり**	-1.66	0.007
			両方あり	49.83			
爆発**	4.51	0.004	両方なし	50.89	家族からの被害のみあり	0.60	1.000
					一般被害のみあり	1.91	0.516
					両方あり	0.13	1.000
			家族からの被害のみあり	50.29	一般被害のみあり	1.31	1.000
					両方あり	-0.47	1.000
			一般被害のみあり	48.98	両方あり**	-1.78	0.002
			両方あり	50.76			

自己顕示**	7.92	0.000	両方なし	48.94	家族からの被害のみあり	-1.07	1.000
					一般被害のみあり	-1.38	1.000
					両方あり *	-3.29	0.011
			家族からの被害のみあり	50.02	一般被害のみあり	-0.31	1.000
					両方あり	-2.21	0.647
					両方あり **	-1.90	0.001
過活動	0.75	0.525	両方なし	52.87	家族からの被害のみあり	-0.56	1.000
					一般被害のみあり	-0.61	1.000
					両方あり	-1.09	1.000
			家族からの被害のみあり	53.42	一般被害のみあり	-0.05	1.000
					両方あり	-0.53	1.000
					両方あり	-0.48	1.000
軽躁	2.35	0.070	両方なし	50.31	家族からの被害のみあり	-0.04	1.000
					一般被害のみあり	-1.60	0.711
					両方あり	-2.05	0.215
			家族からの被害のみあり	50.35	一般被害のみあり	-1.57	1.000
					両方あり	-2.01	0.677
					両方あり	-0.44	1.000
従属	0.97	0.405	両方なし	49.29	家族からの被害のみあり	-0.56	1.000
					一般被害のみあり	-0.80	1.000
					両方あり	-1.35	1.000
			家族からの被害のみあり	49.85	一般被害のみあり	-0.24	1.000
					両方あり	-0.79	1.000
					両方あり	-0.55	1.000
偏狭**	8.81	0.000	両方なし	52.20	家族からの被害のみあり	2.45	0.893
					一般被害のみあり †	2.79	0.073
					両方あり	0.37	1.000
			家族からの被害のみあり	49.75	一般被害のみあり	0.34	1.000
					両方あり	-2.08	0.782
					両方あり **	-2.41	0.000

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 「*」及び「**」は、それぞれ有意水準5%，1%で有意差が認められることを示す。
「†」は、有意水準10%での有意傾向を示す。
各尺度名についている場合は、分散分析において4群間に有意差又は有意傾向が認められることを、比較群についている場合は、多重比較において対となる群間に有意差又は有意傾向が認められることを示す。
3 「偏狭」の値が不明な者が1名いるため、「偏狭」のみ誤差の自由度は、表中の数値から1を減じた値になる。

資料13-4 一般・家族有無4群と対象者にかかわる変数とのクロス表

1 本人の属性にかかわる変数

① 知能指数(IQ)

	70未満	70～79	80～89	90～99	100以上	合計	検定結果
両方なし	20 (21.7) △[3.7]	21 (22.8) [0.2]	19 (20.7) [-0.5]	19 (20.7) [-0.2]	13 (14.1) ▼[-2.2]	92 (100.0)	$\chi^2(12)=$ 39.725 $p=0.000^{**}$
家族からの被害のみあり	12 (23.1) △[3.1]	15 (28.8) [1.2]	11 (21.2) [-0.3]	9 (17.3) [-0.7]	5 (9.6) ▼[-2.4]	52 (100.0)	
一般被害のみあり	47 (9.0) [-1.0]	134 (25.7) △[2.3]	111 (21.3) [-0.9]	98 (18.8) [-1.7]	131 (25.1) [1.0]	521 (100.0)	
両方あり	159 (9.6) [-1.6]	343 (20.7) ▼[-2.6]	387 (23.3) [1.1]	373 (22.5) [1.9]	396 (23.9) [0.8]	1,658 (100.0)	
合計	238 (10.2)	513 (22.1)	528 (22.7)	499 (21.5)	545 (23.5)	2,323 (100.0)	

② 教育歴

	中学在学	中学卒業	高校在学	高校中退	高校卒業	専修学校 等在学	専修学校 等中退	専修学校 等卒業	その他	合計	検定結果
両方なし	12 (13.0) △[2.2]	43 (46.7) [-0.1]	2 (2.2) [-1.7]	28 (30.4) [-0.5]	3 (3.3) [0.5]	2 (2.2) △[2.0]	2 (2.2) [-0.3]	0 - [-0.5]	0 - [-0.6]	92 (100.0)	(m) $p=0.074^{\dagger}$
家族からの被害のみあり	4 (7.7) [0.1]	25 (48.1) [0.2]	2 (3.8) [-0.8]	14 (26.9) [-0.9]	3 (5.8) [1.5]	0 - [-0.6]	3 (5.8) [1.3]	0 (0.0) [-0.3]	1 (1.9) △[2.0]	52 (100.0)	
一般被害のみあり	31 (6.0) [-1.4]	230 (44.1) [-1.5]	44 (8.4) △[2.1]	175 (33.6) [0.4]	21 (4.0) △[2.5]	4 (0.8) [0.6]	12 (2.3) [-0.7]	2 (0.4) [0.9]	2 (0.4) [0.2]	521 (100.0)	
両方あり	123 (7.4) [0.3]	794 (47.9) [1.3]	102 (6.2) [-0.9]	545 (32.9) [0.1]	31 (1.9) ▼[-3.1]	8 (0.5) [-1.2]	47 (2.8) [0.4]	3 (0.2) [-0.6]	5 (0.3) [-0.6]	1,658 (100.0)	
合計	170 (7.3)	1,092 (47.0)	150 (6.5)	762 (32.8)	58 (2.5)	14 (0.6)	64 (2.8)	5 (0.2)	8 (0.3)	2,323 (100.0)	

③ 入院時の学職別

	生徒・学生	無職	就業中	合計	検定結果
両方なし	26 (28.3)	42 (45.7)	24 (26.1)	92 (100.0)	$\chi^2(6)=$ 9.500 $p=0.147$
家族からの被害のみあり	9 (17.3)	31 (59.6)	12 (23.1)	52 (100.0)	
一般被害のみあり	97 (18.6)	260 (49.9)	164 (31.5)	521 (100.0)	
両方あり	299 (18.0)	888 (53.6)	471 (28.4)	1,658 (100.0)	
合計	431 (18.6)	1,221 (52.6)	671 (28.9)	2,323 (100.0)	

2 家族にかかわる変数

① 保護者

	実父母	実父	実母	実父義母	義父実母	養父母	その他	合計	検定結果
両方なし	44 (47.8)	9 (9.8)	24 (26.1)	7 (7.6)	4 (4.3)	0 -	4 (4.3)	92 (100.0)	(m) p=0.265
家族からの被害のみあり	24 (46.2)	8 (15.4)	12 (23.1)	2 (3.8)	4 (7.7)	1 (1.9)	1 (1.9)	52 (100.0)	
一般被害のみあり	279 (53.6)	47 (9.0)	130 (25.0)	8 (1.5)	35 (6.7)	4 (0.8)	18 (3.5)	521 (100.0)	
両方あり	809 (48.8)	201 (12.1)	412 (24.8)	58 (3.5)	120 (7.2)	11 (0.7)	47 (2.8)	1,658 (100.0)	
合計	1,156 (49.8)	265 (11.4)	578 (24.9)	75 (3.2)	163 (7.0)	16 (0.7)	70 (3.0)	2,323 (100.0)	

② きょうだい数

	0人	1人	2人	3人以上	合計	検定結果
両方なし	15 (16.3) [1.1]	27 (29.3) [-1.8]	25 (27.2) [-0.9]	25 (27.2) △[2.4]	92 (100.0)	$\chi^2(9)=$ 18.685 p=0.028*
家族からの被害のみあり	5 (9.6) [-0.7]	14 (26.9) [-1.7]	20 (38.5) [1.1]	13 (25.0) [1.4]	52 (100.0)	
一般被害のみあり	57 (10.9) [-1.3]	216 (41.5) [1.7]	172 (33.0) [0.8]	76 (14.6) ▼[-2.1]	521 (100.0)	
両方あり	215 (13.0) [0.9]	631 (38.1) [-0.3]	516 (31.1) [-0.7]	296 (17.9) [0.4]	1,658 (100.0)	
合計	292 (12.6)	888 (38.2)	733 (31.6)	410 (17.6)	2,323 (100.0)	

③ きょうだい順位

	一人っ子	きょうだいあり 第1子	きょうだいあり 第2子以降	合計	検定結果
両方なし	15 (16.3)	21 (22.8)	56 (60.9)	92 (100.0)	$\chi^2(6)=$ 4.274 p=0.640
家族からの被害のみあり	5 (9.6)	14 (26.9)	33 (63.5)	52 (100.0)	
一般被害のみあり	57 (10.9)	154 (29.6)	310 (59.5)	521 (100.0)	
両方あり	215 (13.0)	471 (28.4)	972 (58.6)	1,658 (100.0)	
合計	292 (12.6)	660 (28.4)	1,371 (59.0)	2,323 (100.0)	

③ 父親の態度

	普通	放任	拒否	厳格	過干渉	期待過剰	溺愛	総数
両方なし	19 (29.7) [-0.5]	32 (50.0)	1 (1.6) [-1.3]	12 (18.8) [-0.8]	1 (1.6)	2 (3.1)	5 (7.8) [1.1]	64
家族からの被害のみあり	12 (30.8) [-0.3]	14 (35.9)	3 (7.7) [0.8]	12 (30.8) [1.2]	1 (2.6)	1 (2.6)	1 (2.6) [-0.7]	39
一般被害のみあり	144 (39.0) △[2.9]	134 (36.3)	5 (1.4) ▼[-3.7]	65 (17.6) ▼[-2.6]	10 (2.7)	11 (3.0)	30 (8.1) △[3.0]	369
両方あり	370 (31.1) ▼[-2.3]	446 (37.5)	75 (6.3) △[3.7]	288 (24.2) △[2.4]	35 (2.9)	32 (2.7)	46 (3.9) ▼[-3.0]	1,188
合計	545 (32.8)	626 (37.7)	84 (5.1)	377 (22.7)	47 (2.8)	46 (2.8)	82 (4.9)	1,660
検定結果	$\chi^2(3)$ =8.312 p=0.040*	$\chi^2(3)$ =4.490 p=0.213	(m) p=0.003**	$\chi^2(3)$ =9.061 p=0.028*	(m) p=0.929	(m) p=0.986	(m) p=0.015*	

*父親の態度が「非該当」(父親がいない)である者を除く。

④ 母親の態度

	普通	放任	拒否	厳格	過干渉	期待過剰	溺愛	総数
両方なし	29 (36.7)	31 (39.2) [1.6]	2 (2.5) [-1.1]	6 (7.6)	4 (5.1)	2 (2.5)	10 (12.7) [-0.4]	79
家族からの被害のみあり	19 (44.2)	14 (32.6) [0.1]	3 (7.0) [0.5]	4 (9.3)	5 (11.6)	1 (2.3)	3 (7.0) [-1.4]	43
一般被害のみあり	189 (41.8)	118 (26.1) ▼[-2.5]	13 (2.9) ▼[-2.5]	21 (4.6)	56 (12.4)	30 (6.6)	78 (17.3) △[2.2]	452
両方あり	543 (38.6)	449 (31.9) [1.5]	85 (6.0) △[2.6]	84 (6.0)	142 (10.1)	62 (4.4)	188 (13.4) [-1.4]	1,406
合計	781 (39.4)	612 (30.9)	103 (5.2)	115 (5.8)	207 (10.5)	95 (4.8)	279 (14.1)	1,980
検定結果	$\chi^2(3)$ =2.114 p=0.549	$\chi^2(3)$ =8.197 p=0.042*	(m) p=0.038*	(m) p=0.463	$\chi^2(3)$ =4.513 p=0.211	(m) p=0.139	$\chi^2(3)$ =6.275 p=0.099†	

*母親の態度が「非該当」(母親がいない)である者を除く。

⑤ 経済状況

	生活保護 受給	貧困	普通	富裕	合計	検定結果
両方なし	6 (6.7)	22 (24.4)	62 (68.9)	0 -	90 (100.0)	(m) p=0.264
家族からの被害のみあり	4 (7.8)	12 (23.5)	34 (66.7)	1 (2.0)	51 (100.0)	
一般被害のみあり	30 (5.8)	99 (19.2)	365 (70.9)	21 (4.1)	515 (100.0)	
両方あり	78 (4.8)	385 (23.6)	1,126 (68.9)	45 (2.8)	1,634 (100.0)	
合計	118 (5.2)	518 (22.6)	1,587 (69.3)	67 (2.9)	2,290 (100.0)	

⑥ 親の負因

	なし	あり	合計	検定結果
両方なし	79 (85.9) [0.6]	13 (14.1) [-0.6]	92 (100.0)	$\chi^2(3)=$ 8.820 p=0.032*
家族からの被害のみあり	36 (69.2) ▼[-2.9]	16 (30.8) △[2.9]	52 (100.0)	
一般被害のみあり	442 (84.8) [0.7]	79 (15.2) [-0.7]	521 (100.0)	
両方あり	1,389 (83.8) [0.0]	269 (16.2) [0.0]	1,658 (100.0)	
合計	1,946 (83.8)	377 (16.2)	2,323 (100.0)	

⑦ 実父の負因

	犯罪・ 非行	酒乱・ アル中	薬物使用	総数
両方なし	9 (9.8) [0.8]	4 (4.3)	2 (2.2)	92
家族からの被害のみあり	9 (17.3) △[2.6]	5 (9.6)	3 (5.8)	52
一般被害のみあり	36 (6.9) [-0.7]	26 (5.0)	10 (1.9)	521
両方あり	124 (7.5) [-0.5]	101 (6.1)	36 (2.2)	1,658
合計	178 (7.7)	136 (5.9)	51 (2.2)	2,323
検定結果	$\chi^2(3)$ =7.918 p=0.048*	$\chi^2(3)$ =2.588 p=0.460	(m) p=0.335	

⑧ 養父の負因

	犯罪・ 非行	酒乱・ アル中	薬物使用	総数
両方なし	0 -	0 -	0 -	92
家族からの被害のみあり	0 -	1 (1.9)	0 -	52
一般被害のみあり	4 (0.8)	0 -	2 (0.4)	521
両方あり	13 (0.8)	8 (0.5)	6 (0.4)	1,658
合計	17 (0.7)	9 (0.4)	8 (0.3)	2,323
検定結果	(m) p=0.853	(m) p=0.108	(m) p=1.000	

⑨ 実母の負因

	犯罪・ 非行	酒乱・ アル中	薬物使用	総数
両方なし	2 (2.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	92
家族から の被害の みあり	1 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	52
一般被害 のみあり	12 (2.3)	4 (0.8)	7 (1.3)	521
両方あり	36 (2.2)	23 (1.4)	23 (1.4)	1,658
合計	51 (2.2)	27 (1.2)	30 (1.3)	2,323
検定結果	(m) p=0.986	(m) p=0.357	(m) p=0.584	

⑩ 養母の負因

	犯罪・ 非行	酒乱・ アル中	薬物使用	総数
両方なし	0 (0.0)	0 (0.0)	0	92
家族から の被害の みあり	0 (0.0)	0 (0.0)	0	52
一般被害 のみあり	1 (0.2)	1 (0.2)	0	521
両方あり	1 (0.1)	0 (0.0)	0	1,658
合計	2 (0.1)	1 (0.0)	0	2,323
検定結果	(m) p=0.492	(m) p=0.288	検定不能	

⑪ きょうだいの負因

	犯罪・ 非行	酒乱・ アル中	薬物使用	総数
両方なし	17 (22.1) [1.3]	0 -	2 (2.6) [0.3]	77
家族から の被害の みあり	11 (23.4) [1.3]	0 -	5 (10.6) △[3.0]	47
一般被害 のみあり	60 (12.9) ▼[-2.4]	0 -	11 (2.4) [-1.0]	464
両方あり	249 (17.3) [1.3]	3 (0.2)	45 (3.1) [0.1]	1,443
合計	337 (16.6)	3 (0.1)	63 (3.1)	2,031
検定結果	$\chi^2(3)$ =8.203 p=0.042*	(m) p=0.658	(m) p=0.029*	

(一人っ子を除く。)

⑫ 実父母離婚歴

	なし	あり	合計	検定結果
両方なし	50 (54.3)	42 (45.7)	92 (100.0)	$\chi^2(3)=$ 5.006 p=0.171
家族からの被害のみあり	28 (53.8)	24 (46.2)	52 (100.0)	
一般被害のみあり	317 (60.8)	204 (39.2)	521 (100.0)	
両方あり	920 (55.5)	738 (44.5)	1,658 (100.0)	
合計	1,315 (56.6)	1,008 (43.4)	2,323 (100.0)	

3 問題行動歴にかかわる変数

① 初発非行時期

	小学校 以前	小学生	中学生	中卒以後	合計	検定結果
両方なし	2 (2.2) [-0.1]	31 (33.7) [1.0]	42 (45.7) [-1.5]	17 (18.5) [0.8]	92 (100.0)	$\chi^2(9)=$ 32.080 $p=0.000^{**}$
家族からの被害のみあり	0 (0.0) [-1.1]	15 (28.8) [0.0]	22 (42.3) [-1.6]	15 (28.8) $\Delta[2.7]$	52 (100.0)	
一般被害のみあり	4 (0.8) $\nabla[-2.6]$	120 (23.0) $\nabla[-3.4]$	304 (58.3) $\Delta[2.7]$	93 (17.9) [1.6]	521 (100.0)	
両方あり	47 (2.8) $\Delta[2.8]$	506 (30.5) $\Delta[2.7]$	868 (52.4) [-1.3]	236 (14.2) $\nabla[-2.7]$	1,657 (100.0)	
合計	53 (2.3)	672 (28.9)	1,236 (53.2)	361 (15.5)	2,322 (100.0)	

② 薬物使用歴

	シンナー	覚せい剤	総数
両方なし	36 (39.1) [-1.6]	12 (13.0)	92
家族からの被害のみあり	20 (38.5) [-1.3]	7 (13.5)	52
一般被害のみあり	221 (42.4) $\nabla[-2.6]$	81 (15.5)	521
両方あり	826 (49.8) $\Delta[3.6]$	289 (17.4)	1,658
合計	1,103 (47.5)	389 (16.7)	2,323
検定結果	$\chi^2(3)$ =13.258 $p=0.004^{**}$	$\chi^2(3)$ =2.402 $p=0.493$	

③ 反社会集団加入歴

	暴走族	暴力団	総数
両方なし	29 (31.5)	4 (4.3)	92
家族からの被害のみあり	16 (30.8)	2 (3.8)	52
一般被害のみあり	204 (39.2)	25 (4.8)	521
両方あり	679 (41.0)	89 (5.4)	1,658
合計	928 (39.9)	120 (5.2)	2,323
検定結果	$\chi^2(3)$ =5.384 $p=0.146$	(m) $p=0.898$	

④ 児童相談所係属歴・施設入所歴

	児童相談 所係属	養護施設 入所	児童自立 支援施設 入所	総数
両方なし	22 (23.9) [0.3]	7 (7.6) [0.5]	14 (15.2) [0.5]	92
家族から の被害の みあり	19 (36.5) △[2.4]	5 (9.6) [1.0]	8 (15.4) [0.4]	52
一般被害 のみあり	74 (14.2) ▼[-5.2]	17 (3.3) ▼[-3.3]	39 (7.5) ▼[-4.5]	521
両方あり	412 (24.8) △[3.9]	119 (7.2) △[2.5]	251 (15.1) △[3.8]	1,658
合計	527 (22.7)	148 (6.4)	312 (13.4)	2,323
検定結果	$\chi^2(3)$ =31.565 p=0.000**	$\chi^2(3)$ =11.398 p=0.0098**	$\chi^2(3)$ =20.421 p=0.000**	

⑤ 自殺企図歴・自傷痕

	自殺企図	自傷痕	総数
両方なし	2 (2.2) [-1.1]	29 (31.5)	92
家族から の被害の みあり	2 (3.8) [-0.2]	15 (28.8)	52
一般被害 のみあり	14 (2.7) ▼[-2.2]	138 (26.5)	521
両方あり	85 (5.1) △[2.6]	468 (28.2)	1,658
合計	103 (4.4)	650 (28.0)	2,323
検定結果	(m) p=0.078 [†]	$\chi^2(3)$ =1.218 p=0.749	

⑥ 検挙歴

	殺人・ 強盗	傷害・ 暴行	窃盗	恐喝	強姦・ 強制 わいせつ	毒劇法	覚せい剤 取締法	道交法	総数
両方なし	6 (6.5)	28 (30.4)	64 (69.6) [-0.5]	19 (20.7)	9 (9.8)	21 (22.8) [-0.3]	10 (10.9)	55 (59.8)	92
家族から の被害の みあり	4 (7.7)	17 (32.7)	41 (78.8) [1.1]	12 (23.1)	2 (3.8)	16 (30.8) [1.1]	4 (7.7)	28 (53.8)	52
一般被害 のみあり	57 (10.9)	186 (35.7)	345 (66.2) ▼[-3.3]	159 (30.5)	37 (7.1)	104 (20.0) ▼[-2.6]	56 (10.7)	292 (56.0)	521
両方あり	142 (8.6)	613 (37.0)	1,222 (73.7) △[2.9]	501 (30.2)	104 (6.3)	421 (25.4) △[2.1]	139 (8.4)	932 (56.2)	1,658
合計	209 (9.0)	844 (36.3)	1,672 (72.0)	691 (29.7)	152 (6.5)	562 (24.2)	209 (9.0)	1,307 (56.3)	2,323
検定結果	$\chi^2(3)$ =3.579 p=0.311	$\chi^2(3)$ =2.065 p=0.559	$\chi^2(3)$ =12.496 p=0.006**	$\chi^2(3)$ =5.072 p=0.167	$\chi^2(3)$ =2.662 p=0.447	$\chi^2(3)$ =7.736 p=0.052 [†]	$\chi^2(3)$ =3.216 p=0.359	$\chi^2(3)$ =0.598 p=0.897	

* 「毒劇法」の「両方あり」群の総数は、1,657人であり(1人欠損値)、合計の総数も1人減の2,322人である。

4 今回入院にかかわる変数

① 本件非行名

	殺人	強盗	傷害	窃盗	恐喝	覚せい剤 取締法	毒劇法	道交法	強姦・強 制わいせ つ・準強 姦	真犯	総数
両方なし	1 (1.1)	5 (5.4)	12 (13.0) ▼[-2.1]	47 (51.1) △[2.9]	9 (9.8)	10 (10.9)	3 (3.3)	16 (17.4)	10 (10.9)	6 (6.5) [0.0]	92
家族から の被害の みあり	1 (1.9)	3 (5.8)	8 (15.4) [-1.2]	22 (42.3) [0.9]	3 (5.8)	4 (7.7)	2 (3.8)	8 (15.4)	3 (5.8)	3 (5.8) [-0.2]	52
一般被害 のみあり	6 (1.2)	56 (10.7)	114 (21.9) [-0.1]	167 (32.1) ▼[-2.5]	76 (14.6)	64 (12.3)	23 (4.4)	112 (21.5)	43 (8.3)	20 (3.8) ▼[-2.7]	521
両方あり	14 (0.8)	159 (9.6)	379 (22.9) [1.4]	616 (37.2) [0.8]	233 (14.1)	155 (9.3)	92 (5.5)	331 (20.0)	101 (6.1)	120 (7.2) △[2.6]	1,658
合計	22 (0.9)	223 (9.6)	513 (22.1)	852 (36.7)	321 (13.8)	233 (10.0)	120 (5.2)	467 (20.1)	157 (6.8)	149 (6.4)	2,323
検定結果	(m) p=0.825	$\chi^2(3)$ =3.511 p=0.319	$\chi^2(3)$ =6.317 p=0.097†	$\chi^2(3)$ =13.892 p=0.003**	$\chi^2(3)$ =4.423 p=0.219	$\chi^2(3)$ =4.173 p=0.243	(m) p=0.591	$\chi^2(3)$ =1.792 p=0.617	$\chi^2(3)$ =5.566 p=0.135	$\chi^2(3)$ =7.668 p=0.053†	

② 本件非行種類

	凶悪犯	粗暴犯	財産犯	薬物事犯	性事犯	交通事犯	総数
両方なし	7 (7.6)	22 (23.9) ▼[-2.1]	50 (54.3) [3.2]	13 (14.1)	10 (10.9)	16 (17.4)	92
家族から の被害の みあり	6 (11.5)	11 (21.2) ▼[-2.0]	22 (42.3) [0.5]	6 (11.5)	3 (5.8)	8 (15.4)	52
一般被害 のみあり	70 (13.4)	179 (34.4) [0.3]	173 (33.2) ▼[-2.9]	85 (16.3)	43 (8.3)	112 (21.5)	521
両方あり	185 (11.2)	575 (34.7) [1.3]	653 (39.4) △[1.1]	242 (14.6)	101 (6.1)	331 (20.0)	1,658
合計	268 (11.5)	787 (33.9)	898 (38.7)	346 (14.9)	157 (6.8)	467 (20.1)	2,323
検定結果	$\chi^2(3)$ =3.465 p=0.325	$\chi^2(3)$ =8.366 p=0.039*	$\chi^2(3)$ =16.744 p=0.001**	$\chi^2(3)$ =1.450 p=0.694	$\chi^2(3)$ =5.566 p=0.135	$\chi^2(3)$ =1.792 p=0.617	

③ 少年院種別

	初等	中等	特別	医療	合計	検定結果
両方なし	21 (22.8) △[2.4]	65 (70.7) ▼[-2.8]	5 (5.4) [1.3]	1 (1.1) [0.1]	92 (100.0)	(m) p=0.053†
家族から の被害の みあり	6 (11.5) [-0.6]	42 (80.8) [-0.2]	2 (3.8) [0.3]	2 (3.8) △[2.1]	52 (100.0)	
一般被害 のみあり	60 (11.5) ▼[-2.0]	444 (85.2) △[2.4]	14 (2.7) [-0.7]	3 (0.6) [-1.1]	521 (100.0)	
両方あり	244 (14.7) [1.0]	1,344 (81.1) [-1.0]	53 (3.2) [0.0]	17 (1.0) [0.3]	1,658 (100.0)	
合計	331 (14.2)	1,895 (81.6)	74 (3.2)	23 (1.0)	2,323 (100.0)	

④ 処遇課程分類級

	E	V	S	O	G1	G2	G3	H1	H2	M	合計	検定結果
両方なし	12 (13.0) △[2.0]	30 (32.6) ▼[-4.0]	14 (15.2) [-0.1]	0 - [-0.8]	16 (17.4) [0.5]	0 - [-0.4]	2 (2.2) △[3.1]	11 (12.0) △[4.6]	7 (7.6) △[2.7]	0 - [-0.8]	92 (100.0)	(m) p=0.000**
家族からの被害のみあり	2 (3.8) [-1.1]	23 (44.2) [-1.3]	6 (11.5) [-0.8]	0 - [-0.6]	9 (17.3) [0.4]	0 - [-0.3]	0 - [-0.4]	5 (9.6) △[2.5]	6 (11.5) △[3.5]	1 (1.9) [1.2]	52 (100.0)	
一般被害のみあり	29 (5.6) ▼[-2.1]	293 (56.2) [1.7]	97 (18.6) △[2.1]	9 (1.7) △[3.5]	59 (11.3) ▼[-3.0]	3 (0.6) △[3.2]	4 (0.8) [1.9]	15 (2.9) [-0.8]	11 (2.1) [-1.3]	1 (0.2) [-1.5]	521 (100.0)	
両方あり	136 (8.2) [1.4]	883 (53.3) [0.5]	248 (15.0) [-1.6]	6 (0.4) ▼[-2.7]	277 (16.7) △[2.5]	0 - ▼[-2.7]	2 (0.1) ▼[-2.9]	49 (3.0) ▼[-2.0]	44 (2.7) [-1.2]	13 (0.8) [1.3]	1,658 (100.0)	
合計	179 (7.7)	1,229 (52.9)	365 (15.7)	15 (0.6)	361 (15.5)	3 (0.1)	8 (0.3)	80 (3.4)	68 (2.9)	15 (0.6)	2,323 (100.0)	

⑤ 処遇区分

	長期	短期	合計	検定結果
両方なし	78 (84.8) [0.3]	14 (15.2) [-0.3]	92 (100.0)	$\chi^2(3)=8.331$ p=0.040*
家族からの被害のみあり	46 (88.5) [1.0]	6 (11.5) [-1.0]	52 (100.0)	
一般被害のみあり	415 (79.7) ▼[-2.8]	106 (20.3) △[2.8]	521 (100.0)	
両方あり	1,404 (84.7) △[2.1]	254 (15.3) ▼[-2.1]	1,658 (100.0)	
合計	1,943 (83.6)	380 (16.4)	2,323 (100.0)	

⑥ 入院度数

	今回初回	2回目以上	合計	検定結果
両方なし	74 (80.4) [0.4]	18 (19.6) [-0.4]	92 (100.0)	$\chi^2(3)=12.248$ p=0.007**
家族からの被害のみあり	45 (86.5) [1.4]	7 (13.5) [-1.4]	52 (100.0)	
一般被害のみあり	434 (83.3) △[3.0]	87 (16.7) ▼[-3.0]	521 (100.0)	
両方あり	1,273 (76.8) ▼[-3.4]	385 (23.2) △[3.4]	1,658 (100.0)	
合計	1,826 (78.6)	497 (21.4)	2,323 (100.0)	

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 「(重複回答)」とある表の各列は、該当したもののみを挙げている。
4 「検定結果」欄の(m)は、モンテカルロ法によるものであることを示す。
5 「検定結果」欄の**は、有意水準1%以下で、*は有意水準5%以下で、それぞれ有意差が見られることを示す。
「†」は、有意水準10%以下での、有意傾向があることを示す。
6 []内は、調整済み残差であり、△は期待値より有意に多いことを、
▼は、期待値より有意に少ないことを示す。
7 ()内は、構成比である。ただし、重複回答の表においては、総数に対する比率である。

資料13- 5 一般被害のみあり群における被害開始時期と
初発非行時期との関係

	男子	女子	合計
初発非行→一般被害	130 (27.2)	9 (24.3)	139 (27.0)
一般被害→初発非行	124 (25.9)	11 (29.7)	135 (26.2)
一般被害・初発非行	224 (46.9)	17 (45.9)	241 (46.8)
合計	478 (100.0)	37 (100.0)	515 (100.0)

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答及び「いつだったか覚えていない」を除く。
3 ()内は、構成比である。
4 「→」は、記号の左側が時期的に右側に先行することを、「・」は同時期であることを示す。

資料13-6 家族からの被害経験を一般被害の有無と被虐待経験の有無により分けた
4群と対象者にかかわる変数とのクロス表等

1 本人の属性にかかわる変数

① 知能指数(IQ)

	70未満	70～79	80～89	90～99	100以上	合計	検定結果
家族のみ・ 非虐待	4 (25.0) △[2.1]	3 (18.8) [-0.2]	6 (37.5) [1.3]	2 (12.5) [-0.9]	1 (6.3) [-1.6]	16 (100.0)	(m) p=0.001**
家族のみ・ 虐待	7 (20.6) △[2.2]	12 (35.3) △[2.0]	5 (14.7) [-1.2]	7 (20.6) [-0.2]	3 (8.8) ▼[-2.0]	34 (100.0)	
両方・ 非虐待	55 (11.3) [1.5]	122 (25.0) △[2.4]	110 (22.5) [-0.6]	102 (20.9) [-0.9]	99 (20.3) [-1.9]	488 (100.0)	
両方・ 虐待	92 (8.4) ▼[-2.5]	211 (19.2) ▼[-2.9]	264 (24.0) [0.7]	255 (23.2) [1.2]	278 (25.3) △[2.8]	1,100 (100.0)	
合計	158 (9.6)	348 (21.2)	385 (23.5)	366 (22.3)	381 (23.3)	1,638 (100.0)	

② 教育歴

	中学在学	中学卒業	高校在学	高校中退	高校卒業	専修学校 等在学	専修学校 等中退	専修学校 等卒業	その他	合計	検定結果
家族のみ・ 非虐待	2 (12.5)	6 (37.5)	0 -	6 (37.5)	1 (6.3)	0 -	1 (6.3)	0 -	0 -	16 (100.0)	(m) p=0.163
家族のみ・ 虐待	2 (5.9)	18 (52.9)	2 (5.9)	7 (20.6)	2 (5.9)	0 -	2 (5.9)	0 -	1 (2.9)	34 (100.0)	
両方・ 非虐待	41 (8.4)	255 (52.3)	24 (4.9)	139 (28.5)	11 (2.3)	4 (0.8)	13 (2.7)	1 (0.2)	0 -	488 (100.0)	
両方・ 虐待	77 (7.0)	502 (45.6)	76 (6.9)	385 (35.0)	16 (1.5)	4 (0.4)	34 (3.1)	2 (0.2)	4 (0.4)	1,100 (100.0)	
合計	122 (7.4)	781 (47.7)	102 (6.2)	537 (32.8)	30 (1.8)	8 (0.5)	50 (3.1)	3 (0.2)	5 (0.3)	1,638 (100.0)	

③ 入院時の学職別

	生徒・学生	無職	就業中	合計	検定結果
家族のみ・ 非虐待	3 (18.8)	10 (62.5)	3 (18.8)	16 (100.0)	$\chi^2(6)=$ 4.084 p=0.665
家族のみ・ 虐待	6 (17.6)	19 (55.9)	9 (26.5)	34 (100.0)	
両方・ 非虐待	90 (18.4)	246 (50.4)	152 (31.1)	488 (100.0)	
両方・ 虐待	201 (18.3)	602 (54.7)	297 (27.0)	1,100 (100.0)	
合計	300 (18.3)	877 (53.5)	461 (28.1)	1,638 (100.0)	

④ MJPI

尺度名 虚構*	分散分析		多重比較				
	F値 (3, 1, 631)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構*	2.89	0.035	家族のみ・非虐待	52.13	家族のみ・虐待	1.21	1.000
					両方・非虐待	1.56	1.000
					両方・虐待	2.94	1.000
			家族のみ・虐待	50.91	両方・非虐待	0.35	1.000
					両方・虐待	1.73	1.000
					両方・虐待 *	1.38	0.050
偏向	1.61	0.186	家族のみ・非虐待	51.06	家族のみ・虐待	1.94	1.000
					両方・非虐待	3.87	0.409
					両方・虐待	3.58	0.529
			家族のみ・虐待	49.12	両方・非虐待	1.92	1.000
					両方・虐待	1.64	1.000
					両方・虐待	-0.28	1.000
自我防衛	0.50	0.684	家族のみ・非虐待	51.25	家族のみ・虐待	1.40	1.000
					両方・非虐待	1.99	1.000
					両方・虐待	2.28	1.000
			家族のみ・虐待	49.85	両方・非虐待	0.59	1.000
					両方・虐待	0.88	1.000
					両方・虐待	0.29	1.000
心気症	0.80	0.494	家族のみ・非虐待	55.94	家族のみ・虐待	3.61	1.000
					両方・非虐待	2.53	1.000
					両方・虐待	2.00	1.000
			家族のみ・虐待	52.32	両方・非虐待	-1.08	1.000
					両方・虐待	-1.62	1.000
					両方・虐待	-0.53	1.000
自信欠如	0.32	0.814	家族のみ・非虐待	52.25	家族のみ・虐待	2.51	1.000
					両方・非虐待	2.37	1.000
					両方・虐待	2.34	1.000
			家族のみ・虐待	49.74	両方・非虐待	-0.15	1.000
					両方・虐待	-0.18	1.000
					両方・虐待	-0.03	1.000
抑うつ	0.08	0.973	家族のみ・非虐待	50.13	家族のみ・虐待	-0.08	1.000
					両方・非虐待	-0.06	1.000
					両方・虐待	-0.28	1.000
			家族のみ・虐待	50.21	両方・非虐待	0.02	1.000
					両方・虐待	-0.20	1.000
					両方・虐待	-0.23	1.000
不安定*	3.68	0.012	家族のみ・非虐待	46.25	家族のみ・虐待	-5.96	0.313
					両方・非虐待	-2.63	1.000
					両方・虐待	-4.11	0.641
			家族のみ・虐待	52.21	両方・非虐待	3.32	0.384
					両方・虐待	1.85	1.000
					両方・虐待 *	-1.48	0.044
爆発	0.71	0.549	家族のみ・非虐待	48.13	家族のみ・虐待	-3.73	1.000
					両方・非虐待	-2.41	1.000
					両方・虐待	-2.81	1.000
			家族のみ・虐待	51.85	両方・非虐待	1.31	1.000
					両方・虐待	0.92	1.000
					両方・虐待	-0.40	1.000

自己顕示**	5.95	0.000	家族のみ・非虐待	45.06	家族のみ・虐待	-6.88	0.121
					両方・非虐待 †	-6.09	0.084
			家族のみ・虐待	51.94	両方・虐待 *	-7.70	0.010
					両方・非虐待	0.79	1.000
					両方・虐待	-0.82	1.000
過活動*	3.27	0.021	一般被害のみあり	51.16	両方・虐待 *	-1.61	0.015
			両方あり	52.77			
軽躁 †	2.50	0.058	家族のみ・虐待	51.25	家族のみ・虐待	-3.37	1.000
					両方・非虐待	-1.80	1.000
			家族のみ・非虐待	54.62	両方・虐待	-3.17	0.937
					両方・非虐待	1.57	1.000
					両方・虐待	0.20	1.000
従属	0.42	0.742	両方・非虐待	53.05	両方・虐待 *	-1.37	0.027
			両方・虐待	54.42			
偏狭 †	2.48	0.060	家族のみ・虐待	48.50	家族のみ・虐待	-2.50	1.000
					両方・非虐待	-3.21	0.948
			家族のみ・非虐待	51.00	両方・虐待	-4.16	0.389
					両方・非虐待	-0.71	1.000
					両方・虐待	-1.66	1.000
従属	0.42	0.742	両方・非虐待	51.71	両方・虐待	-0.95	0.306
			両方・虐待	52.66			
偏狭 †	2.48	0.060	家族のみ・虐待	48.31	家族のみ・虐待	-2.13	1.000
					両方・非虐待	-2.12	1.000
			家族のみ・非虐待	50.44	両方・虐待	-2.41	1.000
					両方・非虐待	0.01	1.000
					両方・虐待	-0.28	1.000
偏狭 †	2.48	0.060	両方・非虐待	50.43	両方・虐待	-0.29	1.000
			両方・虐待	50.73			
偏狭 †	2.48	0.060	家族のみ・虐待	49.69	家族のみ・虐待	-0.46	1.000
					両方・非虐待	-1.31	1.000
			家族のみ・非虐待	50.15	両方・虐待	-2.56	1.000
					両方・非虐待	-0.85	1.000
					両方・虐待	-2.10	1.000
偏狭 †	2.48	0.060	両方・非虐待	51.00	両方・虐待	-1.25	0.108
			両方・虐待	52.25			

- * 「*」及び「**」は、それぞれ有意水準5%, 1%で有意差が認められることを示す。
 「†」は、有意水準10%での有意傾向を示す。
 各尺度名についている場合は、分散分析において4群間に有意差又は有意傾向が認められることを、
 比較群についている場合は、多重比較において対となる群間に有意差又は有意傾向が認められる
 ことを示す。
 * 「偏狭」の値が不明な者が1名いるため、「偏狭」のみ誤差の自由度は、表中の数値から
 1を減じた値になる。

2 家族にかかわる変数

① 保護者

	実父母	実父	実母	実父義母	義父実母	養父母	その他	合計	検定結果
家族のみ・ 非虐待	6 (37.5)	5 (31.3)	4 (25.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	0 -	0 -	16 (100.0)	(m) p=0.142
家族のみ・ 虐待	16 (47.1)	3 (8.8)	8 (23.5)	2 (5.9)	3 (8.8)	1 (2.9)	1 (2.9)	34 (100.0)	
両方・ 非虐待	234 (48.0)	59 (12.1)	144 (29.5)	10 (2.0)	24 (4.9)	3 (0.6)	14 (2.9)	488 (100.0)	
両方・ 虐待	535 (48.6)	138 (12.5)	251 (22.8)	45 (4.1)	90 (8.2)	8 (0.7)	33 (3.0)	1,100 (100.0)	
合計	791 (48.3)	205 (12.5)	407 (24.8)	57 (3.5)	118 (7.2)	12 (0.7)	48 (2.9)	1,638 (100.0)	

② きょうだい数

	0人	1人	2人	3人以上	合計	検定結果
家族のみ・ 非虐待	1 (6.3)	4 (25.0)	7 (43.8)	4 (25.0)	16 (100.0)	$\chi^2(9)=$ 12.088 p=0.208
家族のみ・ 虐待	4 (11.8)	10 (29.4)	11 (32.4)	9 (26.5)	34 (100.0)	
両方・ 非虐待	58 (11.9)	177 (36.3)	151 (30.9)	102 (20.9)	488 (100.0)	
両方・ 虐待	151 (13.7)	433 (39.4)	344 (31.3)	172 (15.6)	1,100 (100.0)	
合計	214 (13.1)	624 (38.1)	513 (31.3)	287 (17.5)	1,638 (100.0)	

③ きょうだい順位

	一人っ子	きょうだい あり 第1子	きょうだい あり 第2子以降	合計	検定結果
家族のみ・ 非虐待	1 (6.3) [-0.8]	1 (6.3) ▼[-2.0]	14 (87.5) △[2.4]	16 (100.0)	(m) p=0.000**
家族のみ・ 虐待	4 (11.8) [-0.2]	12 (35.3) [0.8]	18 (52.9) [-0.6]	34 (100.0)	
両方・ 非虐待	58 (11.9) [0.9]	92 (18.9) ▼[-5.9]	338 (69.3) △[6.0]	488 (100.0)	
両方・ 虐待	151 (13.7) [1.1]	369 (33.5) △[5.9]	580 (52.7) ▼[-6.2]	1,100 (100.0)	
合計	214 (13.1)	474 (28.9)	950 (58.0)	1,638 (100.0)	

③ 父親の態度

	普通	放任	拒否	厳格	過干渉	期待過剰	溺愛	総数
家族のみ・ 非虐待	2 (16.7)	7 (58.3)	1 (8.3)	3 (25.0) [0.0]	0 -	0 -	1 (8.3)	12
家族のみ・ 虐待	10 (40.0)	6 (24.0)	1 (4.0)	9 (36.0) [1.3]	1 (4.0)	1 (4.0)	0 -	25
両方・ 非虐待	107 (32.6)	131 (39.9)	22 (6.7)	58 (17.7) ▼[-3.5]	9 (2.7)	6 (1.8)	14 (4.3)	328
両方・ 虐待	245 (30.4)	293 (36.3)	49 (6.1)	220 (27.3) △[3.0]	25 (3.1)	26 (3.2)	28 (3.5)	807
合計	364 (31.1)	437 (37.3)	73 (6.2)	290 (24.7)	35 (3.0)	33 (2.8)	43 (3.7)	1,172
検定結果	$\chi^2(3)$ =2.653 p=0.448	$\chi^2(3)$ =5.478 p=0.140	(m) p=0.932	$\chi^2(3)$ =13.230 p=0.004**	(m) p=0.965	(m) p=0.477	(m) p=0.507	

*父親の態度が「非該当」(父親がいない)である者を除く。

④ 母親の態度

	普通	放任	拒否	厳格	過干渉	期待過剰	溺愛	総数
家族のみ・ 非虐待	3 (27.3)	5 (45.5)	2 (18.2) [1.7]	2 (18.2)	2 (18.2)	0 -	2 (18.2)	11
家族のみ・ 虐待	16 (53.3)	8 (26.7)	1 (3.3) [-0.6]	2 (6.7)	3 (10.0)	1 (3.3)	1 (3.3)	30
両方・ 非虐待	167 (40.3)	146 (35.3)	16 (3.9) ▼[-2.1]	20 (4.8)	37 (8.9)	16 (3.9)	60 (14.5)	414
両方・ 虐待	349 (37.7)	280 (30.2)	63 (6.8) [1.9]	63 (6.8)	103 (11.1)	45 (4.9)	119 (12.9)	926
合計	535 (38.7)	439 (31.8)	82 (5.9)	87 (6.3)	145 (10.5)	62 (4.5)	182 (13.2)	1,381
検定結果	$\chi^2(3)$ =4.178 p=0.243	$\chi^2(3)$ =4.646 p=0.200	(m) p=0.056†	(m) p=0.180	(m) p=0.530	(m) p=0.713	(m) p=0.292	

*母親の態度が「非該当」(母親がいない)である者を除く。

⑤ 経済状況

	生活保護 受給	貧困	普通	富裕	合計	検定結果
家族のみ・ 非虐待	1 (6.3)	5 (31.3)	10 (62.5)	0 -	16 (100.0)	(m) p=0.869
家族のみ・ 虐待	2 (6.1)	7 (21.2)	23 (69.7)	1 (3.0)	33 (100.0)	
両方・ 非虐待	25 (5.2)	123 (25.6)	324 (67.4)	9 (1.9)	481 (100.0)	
両方・ 虐待	49 (4.5)	243 (22.4)	760 (70.2)	31 (2.9)	1,083 (100.0)	
合計	77 (4.8)	378 (23.4)	1,117 (69.2)	41 (2.5)	1,613 (100.0)	

⑥ 親の負因

	なし	あり	合計	検定結果
家族のみ・ 非虐待	12 (75.0) [-0.9]	4 (25.0) [0.9]	16 (100.0)	$\chi^2(3)=$ 7.601 $p=0.055^\dagger$
家族のみ・ 虐待	23 (67.6) ▼[-2.5]	11 (32.4) △[2.5]	34 (100.0)	
両方・ 非虐待	414 (84.8) [1.1]	74 (15.2) [-1.1]	488 (100.0)	
両方・ 虐待	914 (83.1) [-0.2]	186 (16.9) [0.2]	1,100 (100.0)	
合計	1,363 (83.2)	275 (16.8)	1,638 (100.0)	

⑦ 実父の負因

	犯罪・ 非行	酒乱・ アル中	薬物使用	総数
家族のみ・ 非虐待	1 (6.3) [-0.2]	1 (6.3)	0 -	16
家族のみ・ 虐待	7 (20.6) △[2.8]	4 (11.8)	2 (5.9)	34
両方・ 非虐待	36 (7.4) [-0.4]	23 (4.7)	12 (2.5)	488
両方・ 虐待	84 (7.6) [-0.4]	74 (6.7)	24 (2.2)	1,100
合計	128 (7.8)	102 (6.2)	38 (2.3)	1,638
検定結果	(m) $p=0.048^*$	(m) $p=0.220$	(m) $p=0.414$	

⑧ 義父の負因

	犯罪・ 非行	酒乱・ アル中	薬物使用	総数
家族のみ・ 非虐待	0 -	1 (6.3) △[3.1]	0 -	16
家族のみ・ 虐待	0 -	0 - [-1.4]	0 -	34
両方・ 非虐待	4 (0.8)	0 - ▼[-2.0]	2 (0.4)	488
両方・ 虐待	9 (0.8)	8 (0.7) [1.4]	4 (0.4)	1,100
合計	13 (0.8)	9 (0.5)	6 (0.4)	1,638
検定結果	(m) $p=1.000$	(m) $p=0.037^*$	(m) $p=1.000$	

⑨ 実母の負因

	犯罪・ 非行	酒乱・ アル中	薬物使用	総数
家族のみ・ 非虐待	1 (6.3)	0 -	0 -	16
家族のみ・ 虐待	0 -	0 -	0 -	34
両方・ 非虐待	13 (2.7)	9 (1.8)	9 (1.8)	488
両方・ 虐待	23 (2.1)	13 (1.2)	14 (1.3)	1,100
合計	37 (2.3)	22 (1.3)	23 (1.4)	1,638
検定結果	(m) p=0.437	(m) p=0.514	(m) p=0.592	

⑩ 義母の負因

	犯罪・ 非行	酒乱・ アル中	薬物使用	総数
家族のみ・ 非虐待	0 -	0	0	16
家族のみ・ 虐待	0 -	0	0	34
両方・ 非虐待	0 -	0	0	488
両方・ 虐待	1 (0.1)	0	0	1,100
合計	1 (0.1)	0	0	1,638
検定結果	(m) p=1.000	検定不能	検定不能	

⑪ きょうだいの負因

	犯罪・ 非行	酒乱・ アル中	薬物使用	総数
家族のみ・ 非虐待	3 (20.0) [0.3]	0 -	0 - [-0.7]	15
家族のみ・ 虐待	8 (26.7) [1.3]	0 -	5 (16.7) △[4.1]	30
両方・ 非虐待	99 (23.0) △[3.6]	1 (0.2)	20 (4.7) [1.9]	430
両方・ 虐待	139 (14.6) ▼[-4.0]	2 (0.2)	22 (2.3) ▼[-2.9]	949
合計	249 (17.5)	3 (0.2)	47 (3.3)	1,424
検定結果	$\chi^2(3)$ =16.257 p=0.001**	(m) p=1.000	(m) p=0.001**	

(一人っ子を除く。)

⑫ 実父母離婚歴

	なし	あり	合計	検定結果
家族のみ・ 非虐待	8 (50.0)	8 (50.0)	16 (100.0)	$\chi^2(3)=$ 0.831 p=0.842
家族のみ・ 虐待	19 (55.9)	15 (44.1)	34 (100.0)	
両方・ 非虐待	276 (56.6)	212 (43.4)	488 (100.0)	
両方・ 被虐待	598 (54.4)	502 (45.6)	1,100 (100.0)	
合計	901 (55.0)	737 (45.0)	1,638 (100.0)	

3 問題行動歴にかかわる変数

① 初発非行時期

	小学校 以前	小学生	中学生	中卒以後	合計	検定結果
家族のみ・ 非虐待	0 - [-0.7]	6 (37.5) [0.6]	4 (25.0) ▼[-2.2]	6 (37.5) △[2.6]	16 (100.0)	(m) p=0.067 [†]
家族のみ・ 虐待	0 - [-1.0]	9 (26.5) [-0.5]	16 (47.1) [-0.6]	9 (26.5) △[2.0]	34 (100.0)	
両方・ 非虐待	9 (1.8) [-1.5]	152 (31.2) [0.4]	259 (53.2) [0.6]	67 (13.8) [-0.7]	487 (100.0)	
両方・ 虐待	36 (3.3) [1.9]	333 (30.3) [-0.3]	573 (52.1) [0.1]	158 (14.4) [-0.5]	1,100 (100.0)	
合計	45 (2.7)	500 (30.5)	852 (52.0)	240 (14.7)	1,637 (100.0)	

② 初発非行時期と家族からの被害あるいは虐待を受け始めた時期との関係

	非行 先行	同時期	被害/ 虐待先行	合計	検定結果
家族のみ・ 非虐待	1 (6.7) [-0.1]	10 (66.7) △[3.1]	4 (26.7) ▼[-2.9]	15 (100.0)	$\chi^2(9) = 90.133$ p=0.000**
家族のみ・ 虐待	2 (5.9) [-0.3]	6 (17.6) [-1.6]	26 (76.5) [1.7]	34 (100.0)	
両方・ 非虐待	62 (13.6) △[6.1]	180 (39.4) △[5.0]	215 (47.0) ▼[-8.0]	457 (100.0)	
両方・ 虐待	51 (4.7) ▼[-5.8]	287 (26.4) ▼[-5.0]	750 (68.9) △[7.9]	1,088 (100.0)	
合計	116 (7.3)	483 (30.3)	995 (62.4)	1,594 (100.0)	

③ 薬物使用歴

	シンナー	覚せい剤	総数
家族のみ・ 非虐待	4 (25.0)	2 (12.5)	16
家族のみ・ 虐待	15 (44.1)	5 (14.7)	34
両方・ 非虐待	251 (51.4)	74 (15.2)	488
両方・ 虐待	546 (49.6)	203 (18.5)	1,100
合計	816 (49.8)	284 (17.3)	1,638
検定結果	$\chi^2(3) = 4.908$ p=0.179	$\chi^2(3) = 2.992$ p=0.393	

④ 反社会集団加入歴

	暴走族	暴力団	総数
家族のみ・ 非虐待	6 (37.5)	0 - [-1.0]	16
家族のみ・ 虐待	10 (29.4)	2 (5.9) [0.1]	34
両方・ 非虐待	200 (41.0)	16 (3.3) ▼[-2.4]	488
両方・ 虐待	447 (40.6)	70 (6.4) △[2.5]	1,100
合計	663 (40.5)	88 (5.4)	1,638
検定結果	$\chi^2(3) = 1.850$ p=0.604	(m) p=0.069 [†]	

⑤ 児童相談所係属歴・施設入所歴

	児童相談 所係属	養護施設 入所	児童自立 支援施設 入所	総数
家族のみ・ 非虐待	6 (37.5)	1 (6.3)	2 (12.5)	16
家族のみ・ 虐待	11 (32.4)	3 (8.8)	6 (17.6)	34
両方・ 非虐待	116 (23.8)	38 (7.8)	68 (13.9)	488
両方・ 虐待	281 (25.5)	76 (6.9)	178 (16.2)	1,100
合計	414 (25.3)	118 (7.2)	254 (15.5)	1,638
検定結果	$\chi^2(3)$ =2.795 p=0.424	(m) p=0.922	$\chi^2(3)$ =1.533 p=0.675	

⑥ 自殺企図歴・自傷痕

	自殺企図	自傷痕	総数
家族のみ・ 非虐待	1 (6.3)	5 (31.3)	16
家族のみ・ 虐待	1 (2.9)	10 (29.4)	34
両方・ 非虐待	17 (3.5)	128 (26.2)	488
両方・ 虐待	62 (5.6)	316 (28.7)	1,100
合計	81 (4.9)	459 (28.0)	1,638
検定結果	(m) p=0.276	$\chi^2(3)$ =1.164 p=0.762	

⑦ 検挙歴

	殺人・ 強盗	傷害・ 暴行	窃盗	恐喝	強姦・ 強制 わいせつ	毒劇法	覚せい剤 取締法	道交法	総数
家族のみ・ 非虐待	1 (6.3)	1 (6.3) ▼[-2.5]	12 (75.0)	2 (12.5)	1 (6.3)	2 (12.5)	2 (12.5)	11 (68.8)	16
家族のみ・ 虐待	3 (8.8)	16 (47.1) [1.3]	27 (79.4)	10 (29.4)	1 (2.9)	13 (38.2)	2 (5.9)	16 (47.1)	34
両方・ 非虐待	49 (10.0)	185 (37.9) [0.7]	357 (73.2)	138 (28.3)	30 (6.1)	127 (26.0)	32 (6.6)	282 (57.8)	488
両方・ 虐待	88 (8.0)	399 (36.3) [-0.5]	817 (74.3)	334 (30.4)	69 (6.3)	275 (25.0)	102 (9.3)	613 (55.7)	1,100
合計	141 (8.6)	601 (36.7)	1,213 (74.1)	484 (29.5)	101 (6.2)	417 (25.5)	138 (8.4)	922 (56.3)	1,638
検定結果	(m) p=0.625	$\chi^2(3)$ =8.351 p=0.039*	$\chi^2(3)$ =0.748 p=0.862	$\chi^2(3)$ =2.963 p=0.397	(m) p=0.914	$\chi^2(3)$ =4.531 p=0.210	(m) p=0.257	$\chi^2(3)$ =2.773 p=0.428	

* 「毒劇法」の「両方・虐待」群の総数は、1,099人であり(1人欠損値)、合計の総数も1人減の1,637人である。

4 今回入院にかかわる変数

① 本件非行名

	殺人	強盗	傷害	窃盗	恐喝	覚せい剤 取締法	毒劇法	道交法	強姦・強 制わいせ つ・準強 姦	虞犯	総数
家族のみ・ 非虐待	0 -	0 - [-1.3]	2 (12.5)	8 (50.0)	0 - [-1.6]	2 (12.5)	0 -	5 (31.3)	1 (6.3)	0 -	16
家族のみ・ 虐待	1 (2.9)	3 (8.8) [-0.2]	6 (17.6)	13 (38.2)	2 (5.9) [-1.3]	2 (5.9)	2 (5.9)	3 (8.8)	2 (5.9)	3 (8.8)	34
両方・ 非虐待	3 (0.6)	61 (12.5) △[2.5]	122 (25.0)	175 (35.9)	57 (11.7) [-1.5]	46 (9.4)	25 (5.1)	101 (20.7)	28 (5.7)	29 (5.9)	488
両方・ 虐待	10 (0.9)	95 (8.6) ▼[-2.1]	238 (21.6)	416 (37.8)	164 (14.9) △[2.2]	103 (9.4)	63 (5.7)	218 (19.8)	68 (6.2)	86 (7.8)	1,100
合計	14 (0.9)	159 (9.7)	368 (22.5)	612 (37.4)	223 (13.6)	153 (9.3)	90 (5.5)	327 (20.0)	99 (6.0)	118 (7.2)	1,638
検定結果	(m) p=0.468	(m) p=0.056†	$\chi^2(3)$ =3.599 p=0.308	$\chi^2(3)$ =1.671 p=0.643	(m) p=0.062†	(m) p=0.880	(m) p=0.779	$\chi^2(3)$ =4.095 p=0.251	(m) p=0.970	(m) p=0.355	

② 本件非行種類

	凶悪犯	粗暴犯	財産犯	薬物事犯	性事犯	交通事犯	総数
家族のみ・ 非虐待	0 - [-1.4]	2 (12.5)	8 (50.0)	2 (12.5)	1 (6.3)	5 (31.3)	16
家族のみ・ 虐待	5 (14.7) [-0.6]	8 (23.5)	13 (38.2)	4 (11.8)	2 (5.9)	3 (8.8)	34
両方・ 非虐待	70 (14.3) △[2.5]	175 (35.9)	188 (38.5)	71 (14.5)	28 (5.7)	101 (20.7)	488
両方・ 虐待	110 (10.0) ▼[-2.4]	375 (34.1)	438 (39.8)	161 (14.6)	68 (6.2)	218 (19.8)	1,100
合計	185 (11.3)	560 (34.2)	647 (39.5)	238 (14.5)	99 (6.0)	327 (20.0)	1,638
検定結果	(m) p=0.035*	$\chi^2(3)$ =5.673 p=0.129	$\chi^2(3)$ =1.002 p=0.801	$\chi^2(3)$ =0.273 p=0.965	(m) p=0.970	$\chi^2(3)$ =4.095 p=0.251	

③ 少年院種別

	初等	中等	特別	医療	合計	検定結果
家族のみ・ 非虐待	2 (12.5)	14 (87.5)	0 -	0 -	16 (100.0)	(m) p=0.930
家族のみ・ 虐待	4 (11.8)	27 (79.4)	2 (5.9)	1 (2.9)	34 (100.0)	
両方・ 非虐待	77 (15.8)	392 (80.3)	14 (2.9)	5 (1.0)	488 (100.0)	
両方・ 虐待	157 (14.3)	897 (81.5)	34 (3.1)	12 (1.1)	1,100 (100.0)	
合計	240 (14.7)	1,330 (81.2)	50 (3.1)	18 (1.1)	1,638 (100.0)	

④ 処遇課程分類級

	E	V	S	O	G1	G3	H1	H2	M	合計	検定結果
家族のみ・ 非虐待	0 (18.8) [-1.2]	7 (43.8) [-0.8]	3 (18.8) [0.4]	0 (18.8) [-0.2]	3 (18.8) [0.2]	0 (18.8) [-0.1]	3 (18.8) △[3.8]	0 (18.8) [0.7]	0 (18.8) [-0.4]	16 (100.0)	(m) p=0.015*
家族のみ・ 虐待	2 (5.9) [-0.5]	16 (47.1) [-0.7]	2 (5.9) [-1.5]	0 (17.6) [-0.4]	6 (17.6) [0.2]	0 (17.6) [-0.2]	1 (2.9) [0.0]	6 (17.6) △[5.2]	1 (2.9) [1.3]	34 (100.0)	
両方・ 非虐待	51 (10.5) △[2.2]	250 (51.2) [-1.1]	80 (16.4) [1.1]	5 (1.0) △[2.9]	71 (14.5) [-1.4]	1 (0.2) [0.6]	18 (3.7) [1.2]	10 (2.0) [-1.3]	2 (0.4) [-1.3]	488 (100.0)	
両方・ 虐待	81 (7.4) [-1.7]	599 (54.5) [1.4]	159 (14.5) [-0.7]	1 (0.1) ▼[-2.6]	191 (17.4) [1.3]	1 (0.1) [-0.5]	26 (2.4) [-1.9]	31 (2.8) [-0.2]	11 (1.0) [0.9]	1,100 (100.0)	
合計	134 (8.2)	872 (53.2)	244 (14.9)	6 (0.4)	271 (16.5)	2 (0.1)	48 (2.9)	47 (2.9)	14 (0.9)	1,638 (100.0)	

⑤ 処遇区分

	長期	短期	合計	検定結果
家族のみ・ 非虐待	13 (81.3)	3 (18.8)	16 (100.0)	$\chi^2(3)=$ 4.654 p=0.199
家族のみ・ 虐待	32 (94.1)	2 (5.9)	34 (100.0)	
両方・ 非虐待	403 (82.6)	85 (17.4)	488 (100.0)	
両方・ 虐待	940 (85.5)	160 (14.5)	1,100 (100.0)	
合計	1,388 (84.7)	250 (15.3)	1,638 (100.0)	

⑥ 入院回数

	今回初回	2回目以上	合計	検定結果
家族のみ・ 非虐待	15 (93.8) [1.6]	1 (6.3) [-1.6]	16 (100.0)	$\chi^2(3)=$ 8.960 p=0.030*
家族のみ・ 虐待	29 (85.3) [1.1]	5 (14.7) [-1.1]	34 (100.0)	
両方・ 非虐待	393 (80.5) △[2.0]	95 (19.5) ▼[-2.0]	488 (100.0)	
両方・ 虐待	829 (75.4) ▼[-2.7]	271 (24.6) △[2.7]	1,100 (100.0)	
合計	1,266 (77.3)	372 (22.7)	1,638 (100.0)	

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 無回答を除く。
3 「(重複回答)」とある表の各列は、該当したもののみを挙げている。
4 「検定結果」欄の(m)は、モンテカルロ法によるものであることを示す。
5 「検定結果」欄の「*」は、有意水準1%以下で、「*」は有意水準5%以下で、それぞれ有意差が見られることを示す。
「†」は、有意水準10%以下での、有意傾向があることを示す。
6 []内は、調整済み残差であり、△は期待値より有意に多いことを、
▼は、期待値より有意に少ないことを示す。
7 ()内は、構成比である。ただし、重複回答の表においては、総数に対する比率である。

平成 14 年 3 月 印 刷

平成 14 年 3 月 発 行

東京都千代田区霞が関 1-1-1

編集兼
発行人 法 務 総 合 研 究 所

印刷所 ヨシダ印刷両国工場
